



## Cisco Nexus 3000 シリーズ NX-OS リリース 9.2(x) システム管理 コンフィギュレーションガイド

初版：2018年7月18日

最終更新：2019年3月8日

### シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>





## 目次

---

はじめに :

**はじめに** xix

対象読者 xix

表記法 xix

通信、サービス、およびその他の情報 xx

マニュアルに関するフィードバック xxi

Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチの関連資料 xxi

---

第 1 章

**新機能および変更された機能に関する情報** 1

新機能および変更された機能に関する情報 1

---

第 2 章

**概要** 3

システム管理機能 3

---

第 3 章

**スイッチ プロファイルの設定** 7

スイッチ プロファイルに関する情報 7

スイッチ プロファイル : コンフィギュレーション モード 8

コンフィギュレーションの検証 9

スイッチ プロファイルを使用したソフトウェアのアップグレードとダウングレード 10

スイッチ プロファイルの前提条件 11

スイッチ プロファイルの注意事項および制約事項 11

スイッチ プロファイルの設定 12

スイッチ プロファイルへのスイッチの追加 14

スイッチ プロファイルのコマンドの追加または変更 15

スイッチ プロファイルのインポート 18

スイッチ プロファイルのコマンドの確認	20
ピア スイッチの分離	21
スイッチ プロファイルの削除	22
スイッチ プロファイルからのスイッチの削除	23
スイッチ プロファイル バッファの表示	24
スイッチのリブート後のコンフィギュレーションの同期化	25
スイッチ プロファイル設定の show コマンド	25
サポートされているスイッチ プロファイル コマンド	26
スイッチ プロファイルの設定例	27
ローカルおよびピア スイッチでのスイッチ プロファイルの作成例	27
同期ステータスの確認例	29
実行コンフィギュレーションの表示	29
ローカル スイッチとピア スイッチ間のスイッチ プロファイルの同期の表示	29
ローカル スイッチとピア スイッチでの確認とコミットの表示	30
同期の成功と失敗の例	31
スイッチ プロファイル バッファの設定、バッファ移動、およびバッファの削除	32

## 第 4 章

**CFS の使用 35**

CFS について	35
CFS 配信	36
CFS の配信モード	36
非協調型配信	36
協調型配信	36
無制限の非協調型配信	37
CFS 配信ステータスの確認	37
アプリケーションの CFS サポート	37
CFS のアプリケーション要件	37
アプリケーションの CFS のイネーブル化	38
アプリケーション登録ステータスの確認	38
ネットワークのロック	39
CFS ロック ステータスの確認	39

変更のコミット	39
変更の廃棄	40
設定の保存	40
ロック済みセッションのクリア	40
CFS リージョン	40
CFS リージョンの概要	40
シナリオ例	41
CFS リージョンの管理	41
CFS リージョンの作成	41
CFS リージョンへのアプリケーションの割り当て	42
別の CFS リージョンへのアプリケーションの移動	42
リージョンからのアプリケーションの削除	43
CFS リージョンの削除	43
IP を介した CFS の設定	44
IPv4 を介した CFS のイネーブル化	44
IP を介した CFS 設定の確認	44
IP を介した CFS の IP マルチキャストアドレスの設定	45
CFS の IPv4 マルチキャストアドレスの設定	45
IP を介した CFS の IP マルチキャストアドレス設定の確認	45
CFS のデフォルト設定	45
<b>第 5 章</b>	
<b>PTP の設定</b>	<b>47</b>
PTP に関する情報	47
PTP デバイス タイプ	48
PTP プロセス	49
PTP のハイ アベイラビリティ	49
PTP のライセンス要件	49
PTP の注意事項および制約事項	50
PTP のデフォルト設定	50
PTP の設定	51
PTP のグローバルな設定	51

インターフェイスでの PTP の設定	53
複数の PTP ドメインの設定	55
クロック ID の設定	59
インターフェイスでの PTP コストの設定	59
平均パス遅延のしきい値の設定	60
PTP インターフェイスがマスター ステートを維持する設定	62
PTP 設定の確認	63

## 第 6 章

**NTP の設定 65**

NTP の概要	65
タイム サーバとしての NTP	66
CFS を使用した NTP の配信	66
クロック マネージャ	66
ハイ アベイラビリティ	67
仮想化のサポート	67
ライセンス要件	67
NTP の前提条件	67
NTP の注意事項と制約事項	67
デフォルト設定	69
NTP の設定	70
インターフェイスでの NTP のイネーブル化またはディセーブル化	70
正規の NTP サーバとしてのデバイスの設定	70
NTP サーバおよびピアの設定	71
NTP 認証の設定	73
NTP アクセス制限の設定	75
NTP ソース IP アドレスの設定	78
NTP ソース インターフェイスの設定	78
NTP ブロードキャスト サーバの設定	79
NTP マルチキャスト サーバの設定	80
NTP マルチキャスト クライアントの設定	81
NTP ログギングの設定	82

NTP 用の CFS 配信のイネーブル化	83
NTP 設定変更のコミット	83
NTP 設定変更の廃棄	84
CFS セッション ロックの解放	84
NTP の設定確認	85
NTP の設定例	86

---

**第 7 章**

<b>ユーザアカウントおよび RBAC の設定</b>	<b>89</b>
ユーザアカウントおよび RBAC の概要	89
ユーザ ロール	89
ルール	90
ユーザ ロール ポリシー	91
ユーザアカウントの設定の制限事項	91
ユーザパスワードの要件	92
ユーザアカウントの注意事項および制約事項	93
ユーザアカウントの設定	93
SAN 管理者ユーザの設定	95
RBAC の設定	96
ユーザ ロールおよびルールの作成	96
機能グループの作成	98
ユーザ ロール インターフェイス ポリシーの変更	98
ユーザ ロール VLAN ポリシーの変更	100
ユーザ ロール VSAN ポリシーの変更	100
ユーザアカウントと RBAC の設定の確認	101
ユーザアカウントおよび RBAC のユーザアカウント デフォルト設定	102

---

**第 8 章**

<b>システム メッセージ ログिंगの設定</b>	<b>103</b>
システム メッセージ ログिंगの概要	103
Syslog サーバ	104
セキュアな Syslog サーバ	104
システム メッセージ ログिंगのライセンス要件	105

システム メッセージ ログिंगの注意事項および制約事項	105
システム メッセージ ログिंगのデフォルト設定	105
システム メッセージ ログिंगの設定	106
ターミナルセッションへのシステム メッセージ ログिंगの設定	106
ファイルへのシステム メッセージ ログिंगの設定	108
モジュールおよびファシリティ メッセージのログिंगの設定	110
ログिंग タイムスタンプの設定	113
ACL ログング キャッシュの設定	113
インターフェイスへの ACL ログングの適用	114
Source-Interface ログングの設定	115
ACL ログの一致レベルの設定	116
syslog サーバの設定	117
UNIX または Linux システムでの syslog の設定	119
セキュアな Syslog サーバの設定	120
CA 証明書の設定	121
CA 証明書の登録	122
syslog サーバ設定の配布の設定	123
ログ ファイルの表示およびクリア	124
システム メッセージ ログングの設定確認	125

---

**第 9 章**

<b>Smart Call Home の設定</b>	<b>127</b>
Smart Call Home に関する情報	127
Smart Call Home の概要	128
Smart Call Home 宛先プロファイル	128
Smart Call Home アラート グループ	129
Smart Call Home のメッセージ レベル	131
Call Home のメッセージ形式	132
Smart Call Home の注意事項および制約事項	137
Smart Call Home の前提条件	137
Call Home のデフォルト設定	137
Smart Call Home の設定	138



Smart Call Home の登録	138
連絡先情報の設定	139
宛先プロファイルの作成	141
宛先プロファイルの変更	142
アラートグループと宛先プロファイルのアソシエート	143
アラートグループへの show コマンドの追加	144
電子メールサーバの詳細の設定	145
定期的なインベントリ通知の設定	146
重複メッセージ抑制のディセーブル化	147
Smart Call Home のイネーブル化またはディセーブル化	148
Smart Call Home 設定のテスト	149
Smart Call Home 設定の確認	150
フルテキスト形式での syslog アラート通知の例	151
XML 形式での syslog アラート通知の例	151

---

**第 10 章**

<b>Session Manager の設定</b>	<b>155</b>
Session Manager の概要	155
Session Manager の注意事項および制約事項	155
Session Manager の設定	156
セッションの作成	156
セッションでの ACL の設定	156
セッションの確認	157
セッションのコミット	157
セッションの保存	157
セッションの廃棄	157
Session Manager のコンフィギュレーション例	158
Session Manager 設定の確認	158

---

**第 11 章**

<b>スケジューラの設定</b>	<b>159</b>
スケジューラの概要	159
リモートユーザ認証	160

スケジューラ ログ ファイル	160
スケジューラのライセンス要件	160
スケジューラの注意事項および制約事項	160
スケジューラのデフォルト設定	161
スケジューラの設定	161
スケジューラのイネーブル化	161
スケジューラ ログ ファイル サイズの定義	162
リモート ユーザ認証の設定	163
ジョブの定義	164
ジョブの削除	165
タイムテーブルの定義	165
スケジューラ ログ ファイルの消去	167
スケジューラのディセーブル化	168
スケジューラの設定確認	168
スケジューラの設定例	169
スケジューラ ジョブの作成	169
スケジューラ ジョブのスケジューリング	169
ジョブ スケジュールの表示	169
スケジューラ ジョブの実行結果の表示	170
スケジューラの標準	170

## 第 12 章

**SNMP の設定** 171

SNMP に関する情報	171
SNMP 機能の概要	171
SNMP 通知	172
SNMPv3	172
SNMPv1、SNMPv2、SNMPv3 のセキュリティ モデルおよびセキュリティ レベル	173
ユーザベースのセキュリティ モデル	174
CLI および SNMP ユーザの同期	175
グループベースの SNMP アクセス	176
SNMP のライセンス要件	176

Smart Call Home の注意事項および制約事項	176
SNMP のデフォルト設定	176
SNMP の設定	177
SNMP 送信元インターフェイスの設定	177
SNMP ユーザの設定	178
SNMP メッセージ暗号化の適用	179
SNMPv3 ユーザに対する複数のロールの割り当て	179
SNMP コミュニティの作成	180
SNMP 要求のフィルタリング	180
SNMP 通知レシーバの設定	181
VRF を使用する SNMP 通知レシーバの設定	182
VRF に基づく SNMP 通知のフィルタリング	183
インバンドアクセスのための SNMP の設定	183
SNMP 通知のイネーブル化	185
リンクの通知の設定	187
インターフェイスでのリンク通知のディセーブル化	188
TCP での SNMP に対するワнтаム認証のイネーブル化	188
SNMP スイッチの連絡先および場所の情報の割り当て	188
コンテキストとネットワーク エンティティ間のマッピング設定	189
SNMP ローカル エンジン ID の設定	190
SNMP のディセーブル化	191
SNMP 設定の確認	191

---

**第 13 章**

<b>PCAP SNMP パーサーの使用</b>	<b>193</b>
PCAP SNMP パーサーの使用	193

---

**第 14 章**

<b>RMON の設定</b>	<b>195</b>
RMON について	195
RMON アラーム	195
RMON イベント	196
RMON の設定時の注意事項および制約事項	197

RMON 設定の確認	197
デフォルトの RMON 設定	197
RMON アラームの設定	197
RMON イベントの設定	199

---

**第 15 章**

<b>オンライン診断の設定</b>	<b>201</b>
オンライン診断について	201
ブートアップ診断	201
ヘルス モニタリング診断	202
拡張モジュール診断	203
オンライン診断の注意事項と制約事項	204
オンライン診断の設定	204
オンライン診断設定の確認	205
オンライン診断のデフォルト設定	205
パリティ エラーの診断	206
パリティ エラーのクリア	206
ソフト エラー リカバリ	207
メモリ テーブルの状態の確認	208

---

**第 16 章**

<b>Embedded Event Manager の設定</b>	<b>209</b>
Embedded Event Manager について	209
Embedded Event Manager ポリシー	210
イベント文	211
アクション文	211
VSH スクリプト ポリシー	212
Embedded Event Manager のライセンス要件	212
Embedded Event Manager の前提条件	212
Embedded Event Manager の注意事項および制約事項	213
Embedded Event Manager のデフォルト設定	214
Embedded Event Manager の設定	214
環境変数の定義	214

CLIによるユーザ ポリシーの定義	215
イベント文の設定	216
アクション文の設定	219
VSH スクリプトによるポリシーの定義	222
VSH スクリプト ポリシーの登録およびアクティブ化	222
システム ポリシーの上書き	223
EEM パブリッシャとしての syslog の設定	225
Embedded Event Manager の設定確認	226
Embedded Event Manager の設定例	226
その他の参考資料	227
EEM の機能の履歴	227

---

**第 17 章**

<b>SPAN の設定</b>	<b>229</b>
SPAN について	229
SPAN 送信元	230
送信元ポートの特性	230
SPAN 宛先	231
宛先ポートの特性	231
SPAN の注意事項および制約事項	231
SPAN セッションの作成または削除	233
イーサネット宛先ポートの設定	234
SPAN トラフィックのレート制限の設定	235
送信元ポートの設定	236
送信元ポート チャンネルまたは VLAN の設定	237
SPAN セッションの説明の設定	238
SPAN セッションのアクティブ化	238
SPAN セッションの一時停止	239
SPAN 情報の表示	239
SPAN のコンフィギュレーション例	240
SPAN セッションのコンフィギュレーション例	240
単一方向 SPAN セッションの設定例	241

SPAN ACL の設定例	241
UDF ベース SPAN の設定例	242

---

**第 18 章**

<b>ローカル SPAN および ERSPAN の設定</b>	<b>245</b>
ERSPAN に関する情報	245
ERSPAN 送信元	245
マルチ ERSPAN セッション	246
ハイ アベイラビリティ	246
ERSPAN のライセンス要件	246
ERSPAN の前提条件	247
ERSPAN の注意事項および制約事項	247
ERSPAN のデフォルト設定	251
ERSPAN の設定	252
ERSPAN 送信元セッションの設定	252
ERSPAN 送信元セッションの SPAN 転送ドロップ トラフィックの設定	255
ERSPAN ACL の設定	257
ユーザ定義フィールド (UDF) ベースの ACL サポートの設定	259
ERSPAN での IPv6 ユーザ定義フィールド (UDF) の設定	261
ERSPAN セッションのシャットダウンまたはアクティブ化	264
ERSPAN 設定の確認	267
ERSPAN の設定例	267
ERSPAN 送信元セッションの設定例	267
ERSPAN ACL の設定例	267
UDF ベース ERSPAN の設定例	268
その他の参考資料	269
関連資料	269

---

**第 19 章**

<b>DNS の設定</b>	<b>271</b>
DNS クライアントに関する情報	271
ネーム サーバ	271
DNS の動作	272

ハイアベイラビリティ	272
DNS クライアントの前提条件	272
DNS クライアントのライセンス要件	272
DNS クライアントのデフォルト設定	273
DNS 送信元インターフェイスの設定	273
DNS クライアントの設定	274

---

**第 20 章****sFlow の設定 277**

sFlow について	277
sFlow エージェント	277
ライセンス要件	278
前提条件	278
sFlow の注意事項および制約事項	278
sFlow のデフォルト設定	279
sFlow の設定	279
sFlow 機能のイネーブル化	279
サンプリング レートの設定	280
最大サンプリング サイズの設定	280
カウンタのポーリング間隔の設定	281
最大データグラム サイズの設定	282
sFlow アナライザのアドレスの設定	283
sFlow アナライザ ポートの設定	284
sFlow エージェント アドレスの設定	285
sFlow サンプリング データ ソースの設定	285
sFlow 設定の確認	287
sFlow の設定例	287
sFlow に関する追加情報	287
sFlow の機能の履歴	288

---

**第 21 章****タップアグリゲーションおよび MPLS ストリッピングの設定 289**

タップアグリゲーションに関する情報	289
-------------------	-----

ネットワーク タップ	289
タップ アグリゲーション	290
タップ アグリゲーションの注意事項と制約事項	291
MPLS ストリッピングに関する情報	292
MPLS の概要	292
MPLS ヘッダー ストリッピング	292
MPLS ストリッピングに関する注意事項と制限事項	292
タップ アグリゲーションの設定	293
タップ アグリゲーションの有効化	293
タップ アグリゲーション ポリシーの設定	294
タップ アグリゲーション ポリシーのインターフェイスへのアタッチ	296
タップ アグリゲーションの設定の確認	297
MPLS ストリッピングの設定	298
MPLS ストリッピングの有効化	298
MPLS ラベルの追加と削除	298
ラベル エントリのクリア	299
MPLS ストリッピング カウンタのクリア	300
MPLS ラベル エージングの設定	300
宛先 MAC アドレスの設定	301
MPLS ラベルの設定の確認	302
<hr/>	
第 22 章	一時キャプチャ バッファの設定 305
	一時キャプチャ バッファについて 305
	注意事項と制約事項 307
	一時キャプチャ バッファ範囲およびエンティティ情報の設定 308
	一時キャプチャ バッファ範囲およびエンティティの設定方法 308
	一時キャプチャ バッファ ユニキャスト範囲の設定 308
	一時キャプチャ バッファ入力範囲の設定 309
	一時キャプチャ バッファ出力範囲の設定 309
	一時キャプチャ バッファ範囲の設定サンプル 309
	一時キャプチャ バッファ プロファイルの設定 310



一時キャプチャバッファのグローバルパラメータ	311
一時キャプチャバッファトリガーイベントの設定	312
一時キャプチャバッファサンプリングレートの設定	312
一時キャプチャバッファタイマーの設定	313
一時キャプチャバッファキャプチャ数の設定	313
一時キャプチャバッファ設定の確認	314
一時キャプチャバッファ情報のクリア	316

---

**第 23 章**
**グレースフル挿入と削除の設定 319**

グレースフル挿入と削除について	319
プロファイル	320
スナップショット	321
GIR のライセンス要件	322
メンテナンスモード (GIR) のワークフロー	322
プロファイル	322
メンテナンスモードプロファイルの設定	324
通常モードプロファイルの設定	325
スナップショットの作成	326
スナップショットへの show コマンドの追加	328
グレースフル削除のトリガー	330
グレースフル挿入のトリガー	333
メンテナンスモードの強化	334
GIR 設定の確認	335

---

**第 24 章**
**ソフトウェアメンテナンスアップグレード (SMU) の実行 337**

SMU について	337
パッケージ管理	338
SMU の前提条件	338
SMU の注意事項と制約事項	339
Cisco NX-OS のソフトウェアメンテナンスアップグレードの実行	339
パッケージインストールの準備	339

ローカルストレージデバイスまたはネットワーク サーバへのパッケージファイルのコピー	341
パッケージの追加とアクティブ化	341
アクティブなパッケージセットのコミット	343
パッケージの非アクティブ化と削除	343
機能 RPM のダウングレード	345
インストール ログ情報の表示	347

---

**第 25 章****コンフィギュレーションの置換の実行 349**

コンフィギュレーションの置換とコミットタイムアウトについて	349
概要	350
コンフィギュレーションの置換の利点	351
コンフィギュレーションの置換に関する注意事項と制限事項	352
コンフィギュレーションの置換の推奨ワークフロー	353
コンフィギュレーションの置換の実行	354
コンフィギュレーションの置換の確認	355
コンフィギュレーションの置換の例	356

---

**第 26 章****ロールバックの設定 361**

ロールバックについて	361
ロールバックの注意事項と制約事項	361
チェックポイントの作成	362
ロールバックの実装	363
ロールバック コンフィギュレーションの確認	364



## はじめに

この前書きは、次の項で構成されています。

- [対象読者](#) (xix ページ)
- [表記法](#) (xix ページ)
- [通信、サービス、およびその他の情報](#) (xx ページ)
- [マニュアルに関するフィードバック](#) (xxi ページ)
- [Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチの関連資料](#) (xxi ページ)

## 対象読者

このマニュアルは、Cisco Nexus スイッチの設置、設定、および維持に携わるネットワーク管理者を対象としています。

## 表記法

コマンドの説明には、次のような表記法が使用されます。

表記法	説明
<b>bold</b>	太字の文字は、表示どおりにユーザが入力するコマンドおよびキーワードです。
<i>italic</i>	イタリック体の文字は、ユーザが値を入力する引数です。
[x]	省略可能な要素（キーワードまたは引数）は、角かっこで囲んで示しています。
[x   y]	いずれか1つを選択できる省略可能なキーワードや引数は、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
{x   y}	必ずいずれか1つを選択しなければならない必須キーワードや引数は、波かっこで囲み、縦棒で区切って示しています。

表記法	説明
[x {y   z}]	角かっこまたは波かっこが入れ子になっている箇所は、任意または必須の要素内の任意または必須の選択肢であることを表します。角かっこ内の波かっこと縦棒は、省略可能な要素内で選択すべき必須の要素を示しています。
variable	ユーザが値を入力する変数であることを表します。イタリック体が使用できない場合に使用されます。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。

例では、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
screen フォント	スイッチが表示する端末セッションおよび情報は、スクリーンフォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体のスクリーンフォントで示しています。
<>	パスワードのように出力されない文字は、山カッコ (<>) で囲んで示しています。
[]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符 (!) またはポンド記号 (#) がある場合には、コメント行であることを示します。

## 通信、サービス、およびその他の情報

- シスコからタイムリーな関連情報を受け取るには、[Cisco Profile Manager](#) でサインアップしてください。
- 重要な技術によりビジネスに必要な影響を与えるには、[シスコサービス](#) にアクセスしてください。
- サービス リクエストを送信するには、[シスコ サポート](#) にアクセスしてください。
- 安全で検証済みのエンタープライズクラスのアプリケーション、製品、ソリューション、およびサービスを探して参照するには、[Cisco Marketplace](#) にアクセスしてください。

- 一般的なネットワーク、トレーニング、認定関連の出版物を入手するには、[Cisco Press](#) にアクセスしてください。
- 特定の製品または製品ファミリの保証情報を探すには、[Cisco Warranty Finder](#) にアクセスしてください。

#### Cisco バグ検索ツール

[Cisco バグ検索ツール](#) (BST) は、追跡システム不具合とシスコ製品とソフトウェアの脆弱性の包括的なリストを維持する Cisco bug をゲートウェイとして動作する web ベースのツールです。BST は、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

## マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、HTML ドキュメント内のフィードバック フォームよりご連絡ください。ご協力をよろしくお願いいたします。

## Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチの関連資料

Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチ全体のマニュアルセットは、次の URL にあります。  
<https://www.cisco.com/c/en/us/support/switches/nexus-3000-series-switches/tsd-products-support-series-home.html>





# 第 1 章

## 新機能および変更された機能に関する情報

この章では、『Cisco Nexus 3000 シリーズ NX-OS リリース 9.2(x) システム管理コンフィギュレーションガイド』に記載されている新機能および変更された機能に関するリリース固有の情報について説明します。

- [新機能および変更された機能に関する情報 \(1 ページ\)](#)

## 新機能および変更された機能に関する情報

次の表は、『Cisco Nexus 3000 シリーズ NX-OS リリース 9.2(x) システム管理コンフィギュレーションガイド』に記載されている新機能および変更機能をまとめたものです。それぞれの説明が記載されている箇所も併記されています。

表 1: NX-OS リリース 9.2(x) の新機能および変更された機能

機能	説明	変更されたリリース	参照先
PTP インターフェイスがマスター ステートを維持する設定のサポート。	この機能が導入されました。	9.2(1)	<a href="#">PTP インターフェイスがマスター ステートを維持する設定 (62 ページ)</a>
PTP 平均パス遅延しきい値の設定のサポート。	この機能が導入されました。	9.2(1)	<a href="#">平均パス遅延のしきい値の設定 (60 ページ)</a>
システム メッセージロギング	セキュリティで保護された TLS トランスポート接続を介してリモート ロギング サーバに Syslog メッセージを送信する機能のサポートが追加されました。	9.2(1)	<a href="#">システム メッセージロギングの設定 (103 ページ)</a>

機能	説明	変更されたリリース	参照先
MPLS タグに基づく TAP アグリゲーションフィルタ	この機能が導入されました。	9.2(1)	<a href="#">タップ アグリゲーションの注意事項と制約事項 (291 ページ)</a>





## 第 2 章

### 概要

この章の内容は、次のとおりです。

- [システム管理機能](#) (3 ページ)

### システム管理機能

このマニュアルに記載されているシステム管理機能について説明します。

機能	説明
スイッチ プロファイル	設定の同期を使用すると、管理者は、設定変更を 1 台のスイッチで行い、ピア スイッチに自動的に設定を同期させることができます。この機能により、設定ミスがなくなり、管理上のオーバーヘッドが軽減されます。  設定同期モード (config-sync) を使用すると、ローカルおよびピア スイッチを同期するためにスイッチ プロファイルを作成できます。
Cisco Fabric Services	Cisco MDS NX-OS ソフトウェアは、データベースを効率的に分散し、デバイスの柔軟性を高めるため、Cisco Fabric Services (CFS) インフラストラクチャを使用します。CFS により、ファブリック内のすべてのスイッチに設定情報を自動的に配信できるため、SAN のプロビジョニングが簡単になります。
高精度時間プロトコル	高精度時間プロトコル (PTP) はネットワークに分散したノードの時刻同期プロトコルです。そのハードウェアのタイムスタンプ機能は、ネットワーク タイムプロトコル (NTP) などの他の時刻同期プロトコルより高い精度を実現します。

機能	説明
ユーザ アカウントおよび RBAC	ユーザアカウントおよびロールベースアクセスコントロール (RBAC) では、割り当てられたロールのルールを定義できます。ロールは、ユーザが管理操作にアクセスするための許可を制限します。各ユーザ ロールに複数のルールを含めることができ、各ユーザが複数のロールを持つことができます。
Session Manager	Session Manager を使用すると、コンフィギュレーションを作成し、すべて正しく設定されていることを確認および検証したあとでバッチ モードで適用できます。
オンライン診断	Cisco Generic Online Diagnostics (GOLD) では、複数のシスコプラットフォームにまたがる診断操作の共通フレームワークを定義しています。オンライン診断フレームワークでは、中央集中システムおよび分散システムに対応する、プラットフォームに依存しない障害検出アーキテクチャを規定しています。これには共通の診断 CLI とともに、起動時および実行時に診断するための、プラットフォームに依存しない障害検出手順が含まれます。  プラットフォーム固有の診断機能は、ハードウェア固有の障害検出テストを行い、診断テストの結果に応じて適切な対策を実行できます。
システム メッセージ ロギング	システムメッセージロギングを使用して宛先を制御し、システム プロセスが生成するメッセージの重大度をフィルタリングできます。端末セッション、ログファイル、およびリモートシステム上の syslog サーバへのロギングを設定できます。  システムメッセージロギングは RFC 3164 に準拠しています。システムメッセージのフォーマットおよびデバイスが生成するメッセージの詳細については、『Cisco NX-OS System Messages Reference』を参照してください。

機能	説明
Smart Call Home	Call Home は重要なシステム ポリシーを電子メールで通知します。Cisco NX-OS では、ポケットベル サービス、標準的な電子メール、またはXMLベースの自動化された解析アプリケーションとの最適な互換性のために、広範なメッセージ形式が提供されています。この機能を使用して、ネットワーク サポート エンジニアやネットワーク オペレーション センターを呼び出せます。また、Cisco Smart Call Home サービスを使用して、TAC でケースを自動的に生成することもできます。
設定のロールバック	設定のロールバック機能を使用すると、Cisco NX-OS のコンフィギュレーションのスナップショットまたはユーザ チェックポイントを使用して、スイッチをリロードしなくても、いつでもそのコンフィギュレーションをスイッチに再適用できます。権限のある管理者であれば、チェックポイントで設定されている機能について専門的な知識がなくても、ロールバック機能を使用して、そのチェックポイント コンフィギュレーションを適用できます。
SNMP	簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) は、SNMP マネージャとエージェント間の通信用メッセージフォーマットを提供する、アプリケーションレイヤプロトコルです。SNMP では、ネットワーク内のデバイスのモニタリングと管理に使用する標準フレームワークと共通言語が提供されます。
RMON	RMON は、各種のネットワーク エージェントおよびコンソールシステムがネットワーク モニタリング データを交換できるようにするための、Internet Engineering Task Force (IETF) 標準モニタリング仕様です。Cisco NX-OS では、Cisco NX-OS デバイスをモニタするための、RMON アラーム、イベント、およびログをサポートします。

機能	説明
SPAN	<p>スイッチドポートアナライザ（SPAN）機能（ポートミラーリングまたはポートモニタリングとも呼ばれる）は、ネットワークアナライザによる分析のためにネットワークトラフィックを選択します。ネットワークアナライザは、Cisco SwitchProbe、ファイバチャネルアナライザ、またはその他のリモートモニタリング（RMON）プローブです。</p>
ERSPAN	<p><b>Encapsulated Remote Switched Port Analyzer（ERSPAN）</b>は、IP ネットワークでミラーリングされたトラフィックを転送するために使用します。ERSPAN は異なるスイッチ上の送信元ポート、送信元 VLAN、および宛先をサポートし、ネットワーク上にある複数のスイッチのリモートモニタリングを可能にします。ERSPAN は、スイッチ間でトラフィックを伝送するために、Generic Routing Encapsulation（GRE）を使用します。</p> <p>ERSPANは、ERSPAN送信元セッション、ルーティング可能なERSPAN GREカプセル化トラフィック、およびERSPAN宛先セッションで構成されています。異なるスイッチでERSPAN送信元セッションおよび宛先セッションを個別に設定します。</p> <p>ERSPAN送信元セッションを1台のスイッチ上で設定するには、送信元ポートまたはVLANのセットを、宛先IPアドレス、ERSPANID番号、および仮想ルーティングおよび転送（VRF）名に対応付けます。ERSPAN宛先セッションを別のスイッチ上で設定するには、宛先を送信元IPアドレス、ERSPANID番号、およびVRF名に対応付けます。</p> <p>ERSPAN送信元セッションは、送信元ポートまたは送信元VLANからのトラフィックをコピーし、このトラフィックを、ルーティング可能なGREカプセル化パケットを使用してERSPAN宛先セッションに転送します。ERSPAN宛先セッションはトラフィックを宛先へスイッチングします。</p>



## 第 3 章

# スイッチ プロファイルの設定

この章は、次の項で構成されています。

- [スイッチ プロファイルに関する情報 \(7 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイル：コンフィギュレーション モード \(8 ページ\)](#)
- [コンフィギュレーションの検証 \(9 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイルを使用したソフトウェアのアップグレードとダウングレード \(10 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイルの前提条件 \(11 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイルの注意事項および制約事項 \(11 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイルの設定 \(12 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイルへのスイッチの追加 \(14 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイルのコマンドの追加または変更 \(15 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイルのインポート \(18 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイルのコマンドの確認 \(20 ページ\)](#)
- [ピア スイッチの分離 \(21 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイルの削除 \(22 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイルからのスイッチの削除 \(23 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイル バッファの表示 \(24 ページ\)](#)
- [スイッチのリブート後のコンフィギュレーションの同期化 \(25 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイル設定の show コマンド \(25 ページ\)](#)
- [サポートされているスイッチ プロファイル コマンド \(26 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイルの設定例 \(27 ページ\)](#)

## スイッチ プロファイルに関する情報

Cisco NX-OS リリース 6.0(2)U4(1) には、スイッチ プロファイルが導入されています。複数のアプリケーションは、ネットワーク内の Cisco Nexus シリーズ スイッチ間で整合性のある設定が必要です。コンフィギュレーションが一致しない場合、エラーやコンフィギュレーションエラーが生じる可能性があります。その結果、サービスが中断することがあります。

設定の同期 (config-sync) 機能では、1つのスイッチ プロファイルを設定し、設定を自動的にピアスイッチに同期させることができます。スイッチプロファイルには次の利点があります。

- スイッチ間でコンフィギュレーションを同期化できます。
- 2つのスイッチ間で接続が確立されると、コンフィギュレーションがマージされます。
- どのコンフィギュレーションを同期化するかを完全に制御できます。
- マージチェックおよび相互排除チェックを使用して、ピア全体でコンフィギュレーションの一貫性を確保します。
- verify 構文および commit 構文を提供します。

## スイッチプロファイル：コンフィギュレーションモード

スイッチプロファイル機能には、次のコンフィギュレーションモードがあります。

- コンフィギュレーション同期化モード
- スイッチプロファイルモード
- スイッチプロファイルインポートモード

### コンフィギュレーション同期モード

コンフィギュレーション同期モード (config-sync) では、マスターとして使用するローカルスイッチ上で **config sync** コマンドを使用して、スイッチプロファイルを作成できます。プロファイルの作成後、同期するピアスイッチで **config sync** コマンドを入力できます。

### スイッチプロファイルモード

スイッチプロファイルモードでは、後でピアスイッチと同期化されるスイッチプロファイルに、サポートされているコンフィギュレーションコマンドを追加できます。スイッチプロファイルモードで入力したコマンドは、**commit** コマンドを入力するまでバッファに格納されます。

### スイッチプロファイルインポートモード

以前のリリースからアップグレードする場合、**import** コマンドを入力して、サポートされている実行コンフィギュレーションコマンドをスイッチプロファイルにコピーすることができます。**import** コマンドを入力すると、スイッチプロファイルモード (config-sync-sp) は、スイッチプロファイルインポートモード (config-sync-sp-import) に変わります。スイッチプロファイルインポートモードでは、既存のスイッチ設定を実行コンフィギュレーションからインポートし、どのコマンドをスイッチプロファイルに含めるかを指定できます。

スイッチプロファイルに含まれるコマンドはトポロジによって異なるため、**import** コマンドモードでは、インポートされたコマンドセットを特定のトポロジに合わせて変更できます。

インポートプロセスを完了し、スイッチ プロファイルにコンフィギュレーションを移動するには、**commit** コマンドを入力する必要があります。インポートプロセス中のコンフィギュレーション変更はサポートされていません。そのため、**commit** コマンドを入力する前に新しいコマンドを追加した場合、スイッチ プロファイルは保存されていない状態であり、スイッチはスイッチ プロファイル インポート モードのままになります。追加したコマンドを削除するか、またはインポートを中断します。プロセスを中断すると、保存されていないコンフィギュレーションは失われます。インポートを完了したら、新しいコマンドをスイッチ プロファイルに追加できます。

## コンフィギュレーションの検証

次の2種類のコンフィギュレーション検証チェックを使用して、2種類のスイッチ プロファイル エラーを識別できます。

- 相互排除チェック
- マージチェック

### 相互排除チェック

スイッチ プロファイルに含まれるコンフィギュレーションが上書きされる可能性を減らすためには、相互排除 (**mutex**) でスイッチ プロファイル コマンドをローカル スイッチに存在するコマンドとピア スイッチのコマンドに照合してチェックします。スイッチ プロファイルに含まれるコマンドは、そのスイッチ プロファイルの外部またはピア スイッチでは設定できません。この要件により、既存のコマンドが意図せずに上書きされる可能性が減少します。

ピア スイッチに到達可能である場合、**mutex** チェックは、共通プロセスの一環として両方のスイッチで行われます。それ以外の場合は、**mutex** チェックはローカルで実行されます。設定端末から行われるコンフィギュレーション変更は、ローカル スイッチのみに反映されます。

**mutex** チェックがエラーを識別すると、**mutex** の障害として報告され、手動で修正する必要があります。

相互排除ポリシーには、次の例外が適用されます。

- インターフェイス設定：ポート チャネル インターフェイスは、スイッチ プロファイル モードまたはグローバル コンフィギュレーション モードで設定が済んでいる必要があります。



(注) 一部のポート チャネル サブコマンドは、スイッチ プロファイル モードで設定できません。ただしこれらのコマンドは、ポート チャネルがスイッチ プロファイル モードで作成、設定されている場合でも、グローバル コンフィギュレーション モードからであれば設定することができます。

たとえば、次のコマンドはグローバル コンフィギュレーション モードでのみ設定可能です。

```
switchport private-vlan association trunk primary-vlan secondary-vlan
```

- shutdown/no shutdown
- System QoS

### マージチェック

マージチェックは、コンフィギュレーションを受信する側のピア スイッチで実行されます。マージチェックは、受信したコンフィギュレーションが、受信側のスイッチにすでに存在するスイッチ プロファイル コンフィギュレーションと競合しないようにします。マージチェックは、マージプロセスまたはコミット プロセス中に実行されます。エラーはマージエラーとして報告され、手動で修正する必要があります。

1つまたは両方のスイッチがリロードされ、コンフィギュレーションが初めて同期化される際には、マージチェックによって、両方のスイッチのスイッチ プロファイル コンフィギュレーションが同じであることが検証されます。スイッチ プロファイルの相違はマージエラーとして報告され、手動で修正する必要があります。

## スイッチ プロファイルを使用したソフトウェアのアップグレードとダウングレード

以前のリリースにダウングレードすると、以前のリリースではサポートされていない既存のスイッチ プロファイルを削除するように要求されます。

以前のリリースからアップグレードする場合、スイッチ プロファイルに一部の実行コンフィギュレーション コマンドを移動することを選択できます。**import** コマンドでは、関連するスイッチ プロファイル コマンドをインポートできます。バッファされた（コミットされていない）コンフィギュレーションが存在する場合でもアップグレードを実行できますが、コミットされていないコンフィギュレーションは失われます。

スイッチ プロファイルに含まれるスイッチの1つで In Service Software Upgrade (ISSU) を実行しても、コンフィギュレーションを同期化することはできません。これは、ピアに到達できないためです。



## スイッチ プロファイルの前提条件

スイッチ プロファイルには次の前提条件があります。

- **cfs ipv4 distribute** コマンドを入力して、両方のスイッチで **mgmt0** 上の Cisco Fabric Series over IP (CFSoIP) 配信を有効にする必要があります。
- **config sync** および **switch-profile** コマンドを入力して、両方のピア スイッチで同じ名前のスイッチ プロファイルを設定する必要があります。
- **sync-peers destination** コマンドを入力して、各スイッチをピア スイッチとして設定します。

## スイッチ プロファイルの注意事項および制約事項

スイッチ プロファイルを設定する場合は、次の注意事項および制約事項を考慮してください。

- **mgmt0** インターフェイスを使用してのみ設定同期化をイネーブルにできます。
- 設定の同期は、**mgmt 0** インターフェイスを使用して実行され、管理 **SVI** を使用して実行できません。
- 同じスイッチ プロファイル名で同期されたピアを設定する必要があります。
- スイッチ プロファイル設定で使用可能なコマンドを、設定スイッチ プロファイル (**config-sync-sp**) モードで設定できます。
- 1つのスイッチ プロファイルセッションを一度に進行できます。別のセッションの開始を試みると失敗します。
- スイッチ プロファイルセッションの進行中は、コンフィギュレーション端末モードから実行されたサポートされているコマンドの変更はブロックされます。スイッチ プロファイルセッションが進行しているときは、コンフィギュレーション端末モードからサポートされていないコマンドの変更を行わないでください。
- **commit** コマンドを入力し、ピア スイッチに到達可能である場合、設定は、両方のピア スイッチに適用されるか、いずれのスイッチにも適用されません。コミットの障害が発生した場合、コマンドは、スイッチ プロファイルバッファに残ります。その場合、必要な修正をし、コミットを再実行します。
- いったんスイッチ プロファイル モードで設定したポート チャネルを、グローバル コンフィギュレーション (**config terminal**) モードで設定することはできません。



(注) ポート チャネルに関する一部のサブコマンドは、スイッチ プロファイル モードでは設定できません。ただしこれらのコマンドは、ポート チャネルがスイッチ プロファイル モードで作成、設定されている場合でも、グローバル コンフィギュレーション モードからであれば設定することができます。

たとえば、次のコマンドはグローバル コンフィギュレーション モードでのみ設定可能です。

```
switchport private-vlan association trunk primary-vlan secondary-vlan
```

- **shutdown** および **no shutdown** は、グローバル コンフィギュレーション モードとスイッチ プロファイル モードのどちらでも設定できます。
- ポートチャネルをグローバルコンフィギュレーションモードで作成した場合は、メンバー インターフェイスを含むチャネル グループも、グローバル コンフィギュレーション モードを使用して作成する必要があります。
- スイッチ プロファイル モードで設定されたポート チャネルには、スイッチ プロファイル の内部と外部どちらからもメンバーにすることができます。
- メンバー インターフェイスをスイッチ プロファイルにインポートする場合は、メンバー インターフェイスを含むポート チャネルがスイッチ プロファイル内にも存在する必要があります。

#### 接続の切断後の同期化の注意事項

- **mgmt0** インターフェイスの接続が失われた後の設定の同期化：**mgmt0** インターフェイスの接続が失われ、設定変更が必要な場合は、スイッチ プロファイルを使用して、両方のスイッチの設定変更を適用します。**mgmt0** インターフェイスへの接続が復元されると、両方のスイッチが自動的に同期されます。

設定変更を1台のスイッチだけで実行する場合、マージは、**mgmt0** インターフェイスが起動し、設定が他のスイッチに適用されると実行されます。

## スイッチ プロファイルの設定

スイッチ プロファイルは作成および設定できます。コンフィギュレーション同期モード (**config-sync**) で、**switch-profile name** コマンドを入力します。

#### 始める前に

スイッチ プロファイルは、各スイッチで同じ名前を使用して作成する必要があります。また、スイッチは互いにピアとして設定する必要があります。同じアクティブなスイッチ プロファイルが設定されたスイッチ間で接続が確立されると、スイッチ プロファイルが同期化されます。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>cfs ipv4 distribute</b> 例： switch(config)# cfs ipv4 distribute switch(config)#	ピア スイッチ間の CFS 配信をイネーブルにします。
ステップ 3	<b>config sync</b> 例： switch# config sync switch(config-sync)#	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 4	<b>switch-profile name</b> 例： switch(config-sync)# switch-profile abc switch(config-sync-sp)#	スイッチプロファイルを設定し、スイッチプロファイルの名前を設定し、スイッチプロファイル同期コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 5	<b>sync-peers destination IP-address</b> 例： switch(config-sync-sp)# sync-peers destination 10.1.1.1 switch(config-sync-sp)#	ピア スイッチを設定します。
ステップ 6	(任意) <b>show switch-profile name status</b> 例： switch(config-sync-sp)# show switch-profile abc status switch(config-sync-sp)#	ローカル スイッチのスイッチ プロファイルおよびピア スイッチ情報を表示します。
ステップ 7	<b>exit</b> 例： switch(config-sync-sp)# exit switch#	スイッチ プロファイル コンフィギュレーションモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
ステップ 8	(任意) <b>copy running-config startup-config</b> 例： switch(config)# copy running-config startup-config	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

## 例

次に、スイッチプロファイルを設定し、スイッチプロファイルのステータスを表示する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# cfs ipv4 distribute
switch(config-sync)# switch-profile abc
switch(config-sync-sp)# sync-peers destination 10.1.1.1
switch(config-sync-sp)# show switch-profile abc status
Start-time: 15801 usecs after Mon Aug 23 06:21:08 2010
End-time: 6480 usecs after Mon Aug 23 06:21:13 2010

Profile-Revision: 1
Session-type: Initial-Exchange
Peer-triggered: Yes
Profile-status: Sync Success

Local information:
-----
Status: Commit Success
Error(s):

Peer information:
-----
IP-address: 10.1.1.1
Sync-status: In Sync.
Status: Commit Success
Error(s):
switch(config-sync-sp)# exit
switch#
```

## スイッチ プロファイルへのスイッチの追加

スイッチ プロファイル コンフィギュレーション モードで **sync-peers destination destination IP** コマンドを入力し、スイッチ プロファイルにスイッチを追加します。

スイッチを追加する場合は、次の注意事項に従ってください。

- スイッチは IP アドレスで識別されます。
- 宛先 IP は同期するスイッチの IP アドレスです。
- コミットされたスイッチ プロファイルは、ピア スイッチでも設定の同期が設定されている場合に、新しく追加されたピアと（オンラインの場合）同期されます。

メンバー インターフェイスをスイッチ プロファイルにインポートする場合は、メンバー インターフェイスを含むポート チャネルがスイッチ プロファイル内にも存在する必要があります。

### 始める前に

ローカル スイッチでスイッチ プロファイルを作成した後、同期に含まれる 2 番目のスイッチを追加する必要があります。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>config sync</b> 例： switch# config sync switch(config-sync)#	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 2	<b>switch-profile name</b> 例： switch(config-sync)# switch-profile abc switch(config-sync-sp)#	スイッチプロファイルを設定し、スイッチプロファイルの名前を設定し、スイッチプロファイル同期コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	<b>sync-peers destination destination IP</b> 例： switch(config-sync-sp)# sync-peers destination 10.1.1.1 switch(config-sync-sp)#	スイッチプロファイルにスイッチを追加します。
ステップ 4	<b>exit</b> 例： switch(config-sync-sp)# exit switch#	スイッチプロファイル コンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 5	(任意) <b>show switch-profile peer</b> 例： switch# show switch-profile peer	スイッチプロファイルのピアの設定を表示します。
ステップ 6	(任意) <b>copy running-config startup-config</b> 例： switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

## スイッチ プロファイルのコマンドの追加または変更

スイッチ プロファイルのコマンドを変更するには、変更されたコマンドをスイッチ プロファイルに追加し、**commit** コマンドを入力してコマンドを適用し、ピアスイッチが到達可能な場合にスイッチ プロファイルを同期します。

スイッチ プロファイル コマンドを追加または変更するときは、次の注意事項に従ってください。

- 追加または変更されたコマンドは、**commit** コマンドを入力するまでバッファに格納されます。

- コマンドは、バッファリングされた順序で実行されます。特定のコマンドに順序の依存関係がある場合（たとえば、QoSポリシーは適用前に定義する必要がある）、その順序を維持する必要があります。そうしないとコミットに失敗する可能性があります。**show switch-profile name buffer** コマンド、**buffer-delete** コマンド、**buffer-move** コマンドなどのユーティリティコマンドを使用して、バッファを変更し、入力済みのコマンドの順序を修正できます。

### 始める前に

ローカルおよびピア スイッチでスイッチ プロファイルを設定したら、スイッチ プロファイルにサポートされているコマンドを追加し、コミットする必要があります。コマンドは、**commit** コマンドを入力するまでスイッチ プロファイルバッファに追加されます。**commit** コマンドは次を行います。

- **mutex** チェックとマージチェックを起動し、同期を確認します。
- ロールバック インフラストラクチャでチェックポイントを作成します。
- ローカル スイッチおよびピア スイッチのコンフィギュレーションを適用します。
- スイッチ プロファイル内の任意のスイッチでアプリケーション障害がある場合は、すべてのスイッチでロールバックを実行します。
- チェックポイントを削除します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>config sync</b> 例： switch# config sync switch(config-sync)#	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 2	<b>switch-profile name</b> 例： switch(config-sync)# switch-profile abc switch(config-sync-sp)#	スイッチ プロファイルを設定し、スイッチ プロファイルの名前を設定し、スイッチ プロファイル同期コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>Command argument</b> 例： switch(config-sync-sp)# interface Port-channel100 switch(config-sync-sp-if)# speed 1000 switch(config-sync-sp-if)# interface Ethernet1/1 switch(config-sync-sp-if)# speed 1000 switch(config-sync-sp-if)# channel-group 100	スイッチ プロファイルにコマンドを追加します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	(任意) <b>show switch-profile name buffer</b> 例： switch(config-sync-sp) # show switch-profile abc buffer switch(config-sync-sp) #	スイッチ プロファイルバッファ内のコンフィギュレーション コマンドを表示します。
ステップ 5	<b>verify</b> 例： switch(config-sync-sp) # verify	スイッチ プロファイルバッファ内のコマンドを確認します。
ステップ 6	<b>commit</b> 例： switch(config-sync-sp) # commit	スイッチ プロファイルにコマンドを保存し、ピア スイッチと設定を同期します。
ステップ 7	(任意) <b>show switch-profile name status</b> 例： switch(config-sync-sp) # show switch-profile abc status switch(config-sync-sp) #	ローカル スイッチのスイッチ プロファイルのステータスとピア スイッチのステータスを表示します。
ステップ 8	<b>exit</b> 例： switch(config-sync-sp) # exit switch#	スイッチ プロファイル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 9	(任意) <b>copy running-config startup-config</b> 例： switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

## 例

次に、スイッチ プロファイルを作成し、ピア スイッチを設定し、スイッチ プロファイルにコマンドを追加する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# cfs ipv4 distribute
switch(config-sync)# switch-profile abc
switch(config-sync-sp)# sync-peers destination 10.1.1.1
switch(config-sync-sp)# interface port-channel100
switch(config-sync-sp-if)# speed 1000
switch(config-sync-sp-if)# interface Ethernet1/1
switch(config-sync-sp-if)# speed 1000
switch(config-sync-sp-if)# channel-group 100
switch(config-sync-sp)# verify
switch(config-sync-sp)# commit
```

```
switch(config-sync-sp)# exit
switch#
```

次に、定義されたスイッチプロファイルがある既存のコンフィギュレーションの例を示します。2番目の例は、スイッチプロファイルに変更されたコマンドを追加することによって、スイッチプロファイル コマンドを変更する方法を示します。

```
switch# show running-config
switch-profile abc
  interface Ethernet1/1
    switchport mode trunk
    switchport trunk allowed vlan 1-10

switch# config sync
switch(config-sync)# switch-profile abc
switch(config-sync-sp)# interface Ethernet1/1
switch(config-sync-sp-if)# switchport trunk allowed vlan 5-10
switch(config-sync-sp-if)# commit

switch# show running-config
switch-profile abc
  interface Ethernet1/1
    switchport mode trunk
    switchport trunk allowed vlan 5-10
```

## スイッチ プロファイルのインポート

インポートするコマンドのセットに基づいてスイッチプロファイルをインポートできます。コンフィギュレーション ターミナル モードを使用して、次のことを実行できます。

- 選択したコマンドをスイッチプロファイルに追加する。
- インターフェイスに指定された、サポートされているコマンドを追加する。
- サポートされているシステムレベル コマンドを追加する。
- サポートされているシステムレベル コマンドを追加する（物理インターフェイス コマンドを除く）。

スイッチプロファイルにコマンドをインポートする場合、スイッチプロファイルバッファが空である必要があります。

新しいコマンドがインポート中に追加されると、スイッチプロファイルが保存されていないままになり、スイッチはスイッチプロファイルインポート モードのままになります。**abort** コマンドを入力してインポートを停止します。スイッチプロファイルのインポートの詳細については、「スイッチプロファイルインポートモード」の項を参照してください。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>config sync</b> 例 :	コンフィギュレーション同期モードを開始します。



	コマンドまたはアクション	目的
	switch# config sync switch(config-sync)#	
ステップ 2	<b>switch-profile name</b> 例： switch(config-sync)# switch-profile abc switch(config-sync-sp)#	スイッチプロファイルを設定し、スイッチプロファイルの名前を設定し、スイッチプロファイル同期コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	<b>import {interface port/slot   running-config [exclude interface ethernet]}</b> 例： switch(config-sync-sp)# import ethernet 1/2 switch(config-sync-sp-import)#	インポートするコマンドを識別し、スイッチプロファイルインポートモードを開始します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt;CR&gt; : 選択したコマンドを追加します。</li> <li>• <b>interface</b> : 指定したインターフェイスのサポートされるコマンドを追加します。</li> <li>• <b>running-config</b> : サポートされるシステムレベル コマンドを追加します。</li> <li>• <b>running-config exclude interface ethernet</b> : サポートされるシステムレベル コマンドを追加します (物理インターフェイス コマンドを除く)。</li> </ul>
ステップ 4	<b>commit</b> 例： switch(config-sync-sp-import)# commit	コマンドをインポートし、スイッチプロファイルにコマンドを保存します。
ステップ 5	(任意) <b>abort</b> 例： switch(config-sync-sp-import)# abort	インポートプロセスを中止します。
ステップ 6	<b>exit</b> 例： switch(config-sync-sp)# exit switch#	スイッチプロファイルインポートモードを終了します。
ステップ 7	(任意) <b>show switch-profile</b> 例： switch# show switch-profile	スイッチプロファイル コンフィギュレーションを表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	(任意) <b>copy running-config startup-config</b> 例 : <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

### 例

次に、sp というスイッチ プロファイルに、イーサネット インターフェイス コマンドを除く、サポートされるシステムレベル コマンドをインポートする例を示します。

```
switch(config-vlan)# conf sync
switch(config-sync)# switch-profile sp
Switch-Profile started, Profile ID is 1
switch(config-sync-sp)# show switch-profile buffer

switch-profile : sp
-----
Seq-no  Command
-----

switch(config-sync-sp)# import running-config exclude interface ethernet
switch(config-sync-sp-import)#
switch(config-sync-sp-import)# show switch-profile buffer

switch-profile : sp
-----
Seq-no  Command
-----
3      vlan 100-299
4      vlan 300
4.1    state suspend
5      vlan 301-345
6      interface port-channel100
6.1    spanning-tree port type network
7      interface port-channel105

switch(config-sync-sp-import)#
```

## スイッチ プロファイルのコマンドの確認

スイッチ プロファイル モードで **verify** コマンドを入力し、スイッチ プロファイルに含まれるコマンドを確認できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>config sync</b> 例 :	コンフィギュレーション同期モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
	switch# config sync switch(config-sync)#	
ステップ 2	<b>switch-profile name</b> 例： switch(config-sync)# switch-profile abc switch(config-sync-sp)#	スイッチプロファイルを設定し、スイッチプロファイルの名前を設定し、スイッチプロファイル同期コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	<b>verify</b> 例： switch(config-sync-sp)# verify	スイッチプロファイルバッファ内のコマンドを確認します。
ステップ 4	<b>exit</b> 例： switch(config-sync-sp)# exit switch#	スイッチプロファイル コンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 5	(任意) <b>copy running-config startup-config</b> 例： switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

## ピア スイッチの分離

スイッチプロファイルを変更するためにピア スイッチを分離できます。このプロセスは、設定の同期をブロックする場合、または設定をデバッグするときに使用できます。

ピア スイッチを分離するには、スイッチプロファイルからスイッチを削除し、スイッチプロファイルにピア スイッチを追加する必要があります。

一時的にピア スイッチを分離するには、次の手順を実行します。

1. スイッチプロファイルからピア スイッチを削除します。
2. スイッチプロファイルを変更して、変更をコミットします。
3. debug コマンドを入力します。
4. 手順 2 でスイッチプロファイルに対して行った変更を元に戻し、コミットします。
5. スイッチプロファイルにピア スイッチを追加します。

## スイッチ プロファイルの削除

**all-config** または **local-config** オプションを選択してスイッチ プロファイルを削除できます。

- **all-config** : 両方のピア スイッチでスイッチ プロファイルを削除します (両方が到達可能な場合)。このオプションを選択し、ピアの1つが到達不能である場合、ローカルスイッチ プロファイルだけが削除されます。**all-config** オプションは両方のピア スイッチでスイッチ プロファイルを完全に削除します。
- **local-config** : ローカル スイッチのみのスイッチ プロファイルを削除します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>config sync</b> 例 : <pre>switch# config sync switch(config-sync)#</pre>	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 2	<b>no switch-profile name {all-config   local-config}</b> 例 : <pre>switch(config-sync)# no switch-profile abc local-config switch(config-sync-sp)#</pre>	次の手順に従って、スイッチ プロファイルを削除します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>all-config</b> : ローカル スイッチおよびピア スイッチのスイッチ プロファイルを削除します。ピア スイッチが到達可能でない場合は、ローカル スイッチ プロファイルだけが削除されます。</li> <li>• <b>local-config</b> : スイッチ プロファイルおよびローカルコンフィギュレーションを削除します。</li> </ul>
ステップ 3	<b>exit</b> 例 : <pre>switch(config-sync-sp)# exit switch#</pre>	コンフィギュレーション同期モードを終了します。
ステップ 4	(任意) <b>copy running-config startup-config</b> 例 : <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

## スイッチ プロファイルからのスイッチの削除

スイッチ プロファイルからスイッチを削除できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>config sync</b> 例： switch# config sync switch(config-sync)#	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 2	<b>switch-profile name</b> 例： switch(config-sync)# switch-profile abc switch(config-sync-sp)#	スイッチプロファイルを設定し、スイッチプロファイルの名前を設定し、スイッチプロファイル同期コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	<b>no sync-peers destination destination IP</b> 例： switch(config-sync-sp)# no sync-peers destination 10.1.1.1 switch(config-sync-sp)#	スイッチプロファイルから指定のスイッチを削除します。
ステップ 4	<b>exit</b> 例： switch(config-sync-sp)# exit switch#	スイッチプロファイル コンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 5	(任意) <b>show switch-profile</b> 例： switch# show switch-profile	スイッチプロファイル コンフィギュレーションを表示します。
ステップ 6	(任意) <b>copy running-config startup-config</b> 例： switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

## スイッチ プロファイル バッファの表示

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure sync</b>	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 2	switch(config-sync) # <b>switch-profile profile-name</b>	指定されたスイッチ プロファイルに対するスイッチ プロファイル同期コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	switch(config-sync-sp) # <b>show switch-profile profile-name buffer</b>	指定されたインターフェイスに対するインターフェイス スイッチ プロファイル同期コンフィギュレーションモードを開始します。

### 例

次に、**sp** という名前のサービス プロファイルのスイッチ プロファイル バッファの表示例を示します。

```
switch# configure sync
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config-sync) # switch-profile sp
Switch-Profile started, Profile ID is 1
switch(config-sync-sp) # show switch-profile sp buffer
-----
Seq-no  Command
-----
1      vlan 101
1.1    ip igmp snooping querier 10.101.1.1
2      mac address-table static 0000.0000.0001 vlan 101 drop
3      interface Ethernet1/2
3.1    switchport mode trunk
3.2    switchport trunk allowed vlan 101

switch(config-sync-sp) # buffer-move 3 1
switch(config-sync-sp) # show switch-profile sp buffer
-----
Seq-no  Command
-----
1      interface Ethernet1/2
1.1    switchport mode trunk
1.2    switchport trunk allowed vlan 101
2      vlan 101
2.1    ip igmp snooping querier 10.101.1.1
3      mac address-table static 0000.0000.0001 vlan 101 drop
switch(config-sync-sp) #
```

# スイッチのリブート後のコンフィギュレーションの同期化

スイッチ プロファイルを使用してピア スイッチで新しい設定をコミット中に Cisco Nexus シリーズ スイッチがリブートする場合、リロード後にピア スイッチを同期するには、次の手順を実行します。

## 手順

- ステップ1 リブート中にピア スイッチ上で変更された設定を再適用します。
- ステップ2 **commit** コマンドを入力します。
- ステップ3 設定が正しく適用されており、両方のピアが同期されていることを確認します。

## 例

# スイッチ プロファイル設定の show コマンド

次の **show** コマンドは、スイッチ プロファイルに関する情報を表示します。

コマンド	目的
<b>show switch-profile name</b>	スイッチ プロファイル中のコマンドを表示します。
<b>show switch-profile name buffer</b>	スイッチ プロファイル中のコミットされていないコマンド、移動されたコマンド、削除されたコマンドを表示します。
<b>show switch-profile name peer IP-address</b>	ピア スイッチの同期ステータスが表示されます。
<b>show switch-profile name session-history</b>	最後の 20 のスイッチ プロファイルセッションのステータスを表示します。
<b>show switch-profile name status</b>	ピア スイッチのコンフィギュレーション同期ステータスを表示します。
<b>show running-config exclude-provision</b>	オフラインで事前プロビジョニングされた非表示のインターフェイスの設定を表示します。
<b>show running-config switch-profile</b>	ローカル スイッチのスイッチ プロファイルの実行コンフィギュレーションを表示します。

コマンド	目的
<b>show startup-config switch-profile</b>	ローカル スイッチのスイッチ プロファイルのスタートアップ コンフィギュレーションを表示します。

これらのコマンドの出力フィールドの詳細については、ご使用のプラットフォームの、システム管理コマンドのリファレンスを参照してください。

## サポートされているスイッチ プロファイル コマンド

以下のスイッチ プロファイル コマンドがサポートされています。

- **logging event link-status default**
- **[no] vlan *vlan-range***
- **ip access-list *acl-name***
- **policy-map type network-qos jumbo-frames**
  - **class type network-qos class-default**
  - **mtu *mtu value***
- **system qos**
  - **service-policy type network-qos jumbo-frames**
- **vlan configuration *vlan id***
  - **ip igmp snooping querier *ip***
- **spanning-tree port type edge default**
- **spanning-tree port type edge bpduguard default**
- **spanning-tree loopguard default**
- **no spanning-tree vlan *vlan id***
- **port-channel load-balance ethernet source-dest-port**
- **interface port-channel *number***
  - **description *text***
  - **switchport mode trunk**
  - **switchport trunk allowed vlan *vlan list***
  - **spanning-tree port type network**
  - **no negotiate auto**
  - **vpc peer-link**



- **interface port-channel *number***
  - **switchport access vlan *vlan id***
  - **spanning-tree port type edge**
  - **speed 10000**
  - **vpc *number***
- **interface ethernet*x/y***
  - **switchport access vlan *vlanid***
  - **spanning-tree port type edge**
  - **channel-group *number* mode active**
- **service dhcp**
- **ip dhcp relay**
- **ipv6 dhcp relay**
- **storm-control unicast level**

## スイッチ プロファイルの設定例

### ローカルおよびピア スイッチでのスイッチ プロファイルの作成例

次に、ローカルおよびピア スイッチで正常にスイッチ プロファイル設定を作成する例を示します。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ローカルおよびピア スイッチで CFSoIP 配信をイネーブルにします。  例： switch# <b>configuration terminal</b> switch(config)# <b>cfs ipv4 distribute</b>	
ステップ 2	ローカルおよびピア スイッチでスイッチ プロファイルを作成します。  例： switch(config-sync)# <b>switch-profile abc</b> switch(config-sync-sp)# <b>sync-peers destination 10.1.1.1</b>	

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<p>スイッチ プロファイルが、ローカルおよびピア スイッチで同じであることを確認します。</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-sync-sp)# show switch-profile abc status  Start-time: 15801 usecs after Mon Aug 23 06:21:08 2010 End-time: 6480 usecs after Mon Aug 23 06:21:13 2010  Profile-Revision: 1 Session-type: Initial-Exchange Peer-triggered: Yes Profile-status: Sync Success  Local information: ----- Status: Commit Success Error(s):  Peer information: ----- IP-address: 10.1.1.1 Sync-status: In Sync. Status: Commit Success Error(s):</pre>	
ステップ 4	<p>ローカル スイッチでスイッチ プロファイルにコンフィギュレーション コマンドを追加します。コマンドがコミットされたときに、コマンドがピア スイッチに適用されます。</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-sync-sp)# class-map type qos c1</pre>	
ステップ 5	<p>スイッチ プロファイルのコマンドを検証します。</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-sync-sp-if)# verify Verification Successful</pre>	
ステップ 6	<p>スイッチ プロファイルにコマンドを適用し、ローカルとピア スイッチ間の設定を同期させます。</p> <p>例 :</p>	

	コマンドまたはアクション	目的
	switch(config-sync-sp) # <b>commit</b> Commit Successful switch(config-sync)#	

## 同期ステータスの確認例

次に、ローカルとピア スイッチ間の同期ステータスを確認する例を示します。

```
switch(config-sync)# show switch-profile switch-profile status
Start-time: 804935 usecs after Mon Aug 23 06:41:10 2010
End-time: 956631 usecs after Mon Aug 23 06:41:20 2010

Profile-Revision: 2
Session-type: Commit
Peer-triggered: No
Profile-status: Sync Success

Local information:
-----
Status: Commit Success
Error(s):

Peer information:
-----
IP-address: 10.1.1.1
Sync-status: In Sync.
Status: Commit Success
Error(s):

switch(config-sync)#
```

## 実行コンフィギュレーションの表示

次に、ローカル スイッチでスイッチ プロファイルの実行コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
switch# configure sync
switch(config-sync)# show running-config switch-profile

switch(config-sync)#
```

## ローカル スイッチとピア スイッチ間のスイッチ プロファイルの同期の表示

次に、2 台のピア スイッチの同期ステータスを表示する例を示します。

```
switch1# show switch-profile sp status

Start-time: 491815 usecs after Thu Aug 12 11:54:51 2010
End-time: 449475 usecs after Thu Aug 12 11:54:58 2010

Profile-Revision: 1
Session-type: Initial-Exchange
Peer-triggered: No
```

```

Profile-status: Sync Success

Local information:
-----
Status: Commit Success
Error(s):

Peer information:
-----
IP-address: 10.193.194.52
Sync-status: In Sync.
Status: Commit Success
Error(s):

switch1#

switch2# show switch-profile sp status

Start-time: 503194 usecs after Thu Aug 12 11:54:51 2010
End-time: 532989 usecs after Thu Aug 12 11:54:58 2010

Profile-Revision: 1
Session-type: Initial-Exchange
Peer-triggered: Yes
Profile-status: Sync Success

Local information:
-----
Status: Commit Success
Error(s):

Peer information:
-----
IP-address: 10.193.194.51
Sync-status: In Sync.
Status: Commit Success
Error(s):

switch2#

```

## ローカルスイッチとピアスイッチでの確認とコミットの表示

次に、ローカルスイッチおよびピアスイッチで正常に確認とコミットを設定する例を示します。

```

switch1# configure sync
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch1(config-sync)# switch-profile sp
Switch-Profile started, Profile ID is 1
switch1(config-sync-sp)# interface ethernet1/1
switch1(config-sync-sp-if)# description foo
switch1(config-sync-sp-if)# verify
Verification Successful
switch1(config-sync-sp)# commit
Commit Successful
switch1(config-sync)# show running-config switch-profile
switch-profile sp
  sync-peers destination 10.193.194.52
  interface Ethernet1/1
    description foo
switch1(config-sync)# show switch-profile sp status

```

```
Start-time: 171513 usecs after Wed Aug 11 17:51:28 2010
End-time: 676451 usecs after Wed Aug 11 17:51:43 2010

Profile-Revision: 3
Session-type: Commit
Peer-triggered: No
Profile-status: Sync Success

Local information:
-----
Status: Commit Success
Error(s):

Peer information:
-----
IP-address: 10.193.194.52
Sync-status: In Sync.
Status: Commit Success
Error(s):

switch1(config-sync)#

switch2# show running-config switch-profile
switch-profile sp
  sync-peers destination 10.193.194.51
  interface Ethernet1/1
    description foo
switch2# show switch-profile sp status

Start-time: 265716 usecs after Wed Aug 11 16:51:28 2010
End-time: 734702 usecs after Wed Aug 11 16:51:43 2010

Profile-Revision: 3
Session-type: Commit
Peer-triggered: Yes
Profile-status: Sync Success

Local information:
-----
Status: Commit Success
Error(s):

Peer information:
-----
IP-address: 10.193.194.51
Sync-status: In Sync.
Status: Commit Success
Error(s):

switch2#
```

## 同期の成功と失敗の例

次に、ピア スイッチにおけるスイッチ プロファイルの同期の成功例を示します。

```
switch# show switch-profile abc peer

switch# show switch-profile sp peer 10.193.194.52
Peer-sync-status      : In Sync.
Peer-status           : Commit Success
```

```
Peer-error(s)          :
switch1#
```

次に、到達不能ステータスのピアを使用した、ピアスイッチでのスイッチプロファイルの同期の失敗例を示します。

```
switch# show switch-profile sp peer 10.193.194.52
Peer-sync-status      : Not yet merged. pending-merge:1 received_merge:0
Peer-status           : Peer not reachable
Peer-error(s)        :
switch#
```

## スイッチ プロファイルバッファの設定、バッファ移動、およびバッファの削除

次に、スイッチプロファイルバッファの設定、バッファ移動、バッファ削除を設定する例を示します。

```
switch# configure sync
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
switch(config-sync)# switch-profile sp
Switch-Profile started, Profile ID is 1
switch(config-sync-sp)# vlan 101
switch(config-sync-sp-vlan)# ip igmp snooping querier 10.101.1.1
switch(config-sync-sp-vlan)# exit
switch(config-sync-sp)# mac address-table static 0000.0000.0001 vlan 101 drop
switch(config-sync-sp)# interface ethernet1/2
switch(config-sync-sp-if)# switchport mode trunk
switch(config-sync-sp-if)# switchport trunk allowed vlan 101
switch(config-sync-sp-if)# exit
switch(config-sync-sp)# show switch-profile sp buffer
-----
Seq-no  Command
-----
1       vlan 101
1.1     ip igmp snooping querier 10.101.1.1
2       mac address-table static 0000.0000.0001 vlan 101 drop
3       interface Ethernet1/2
3.1     switchport mode trunk
3.2     switchport trunk allowed vlan 101

switch(config-sync-sp)# buffer-move 3 1
switch(config-sync-sp)# show switch-profile sp buffer
-----
Seq-no  Command
-----
1       interface Ethernet1/2
1.1     switchport mode trunk
1.2     switchport trunk allowed vlan 101
2       vlan 101
2.1     ip igmp snooping querier 10.101.1.1
3       mac address-table static 0000.0000.0001 vlan 101 drop

switch(config-sync-sp)# buffer-delete 1
switch(config-sync-sp)# show switch-profile sp buffer
-----
Seq-no  Command
-----
2       vlan 101
2.1     ip igmp snooping querier 10.101.1.1
```

```
3      mac address-table static 0000.0000.0001 vlan 101 drop

switch(config-sync-sp)# buffer-delete all
switch(config-sync-sp)# show switch-profile sp buffer
switch(config-sync-sp)#
```







## 第 4 章

# CFS の使用

この章は、次の項で構成されています。

- [CFS について \(35 ページ\)](#)
- [CFS 配信 \(36 ページ\)](#)
- [アプリケーションの CFS サポート \(37 ページ\)](#)
- [CFS リージョン \(40 ページ\)](#)
- [IP を介した CFS の設定 \(44 ページ\)](#)
- [CFS のデフォルト設定 \(45 ページ\)](#)

## CFS について

Cisco Nexus シリーズ スイッチの一部の機能は、正常に動作するため、ネットワーク内の他のスイッチとの設定の同期化を必要とします。ネットワーク内のスイッチごとに手動設定によって同期化を行うことは、面倒で、エラーが発生しやすくなります。

CFS はネットワーク内の自動設定同期化に対して共通のインフラストラクチャを提供します。また、トランスポート機能、および機能に対する共通サービスのセットを提供します。CFS にはネットワーク内の CFS 対応スイッチを検出し、すべての CFS 対応スイッチの機能能力を検出する機能が備わっています。

Cisco Nexus シリーズ スイッチは、IPv4 または IPv6 ネットワークを介した CFS メッセージ配信をサポートします。

CFS には次の機能があります。

- CFS レイヤでクライアント/サーバ関係を持たないピアツーピア プロトコル。
- IPv4 ネットワークを介した CFS メッセージ配信。
- 3 つの配信モード。
  - 協調型配信：ネットワーク内で同時に 1 つの配信だけが許可されます。
  - 非協調型配信：協調型配信が進行中である場合を除いて、ネットワーク内で複数の同時配信を実行できます。

- 無制限の非協調型配信：既存の協調型配信がある場合でも、ネットワーク内で複数の同時配信が許可されます。無制限の非協調型配信は、他のすべての配信タイプの配信と同時に実行できます。

IP を介した CFS 配信では、次の機能がサポートされます。

- IP ネットワークを介した配信の 1 つの範囲：
  - 物理範囲：IP ネットワーク全体に配信されます。

## CFS 配信

CFS 配信機能は、下位層の転送とは無関係です。Cisco Nexus シリーズスイッチは IP を介した CFS 配信をサポートします。CFS を使用する機能は、下位層の転送を認識しません。

## CFS の配信モード

CFS では異なる機能要件をサポートするために、3 つの配信モードをサポートします。

- 非協調型配信
- 協調型配信
- 無制限の非協調型配信

常に 1 つのモードだけを適用できます。

## 非協調型配信

非協調型配信は、ピアからの情報と競合させたくない情報を配信する場合に使用されます。1 つの機能に対して非協調的な並列配信を適用できます。

## 協調型配信

協調型配信は、いかなる時も 1 つの機能配信だけ適用できます。CFS は、ロックを使用してこの機能を強制します。ネットワーク内のいずれかの機能でロックが取得されていると、協調型配信は開始できません。協調型配信は、次の 3 段階で構成されています。

- ネットワーク ロックが取得されます。
- 設定が配信され、コミットされます。
- ネットワーク ロックが解除されます。

協調型配信には、次の 2 種類があります。

- CFS によるもの：機能が介在することなく、機能要求に応じて CFS が各段階を実行します。

- 機能によるもの：各段階は機能によって完全に管理されます。

協調型配信は、複数のスイッチから操作および配信が可能な情報を配信するのに使用されます。たとえば、ポートセキュリティの設定です。

## 無制限の非協調型配信

無制限の非協調型配信では、既存の協調型配信がある場合にネットワーク内で複数の同時配信が許可されます。無制限の非協調型配信は、他のすべての配信タイプの配信と同時に実行できます。

## CFS 配信ステータスの確認

**show cfs status** コマンドを実行すると、スイッチの CFS 配信ステータスが表示されます。

```
switch# show cfs status
Distribution : Enabled
Distribution over IP : Enabled - mode IPv4
IPv4 multicast address : 239.255.70.83

Distribution over Ethernet : Enabled
```

## アプリケーションの CFS サポート

### CFS のアプリケーション要件

ネットワーク内のすべてのスイッチが CFS に対応している必要があります。CFS に対応していないスイッチは配信を受信できないため、ネットワークの一部が意図された配信を受信できなくなります。CFS には、次の要件があります。

- CFS の暗黙的な使用：CFS 対応アプリケーションの CFS 作業を初めて行う場合、設定変更プロセスが開始され、アプリケーションがネットワークをロックします。
- 保留データベース：保留データベースはコミットされていない情報を保持する一時的なバッファです。データベースが、ネットワーク内の他のスイッチのデータベースと確実に同期するために、コミットされていない変更はすぐには適用されません。変更をコミットすると、保留データベースはコンフィギュレーションデータベース（別名、アクティブデータベースまたは有効データベース）を上書きします。
- アプリケーション単位でイネーブル化またはディセーブル化される CFS 配信：CFS 配信ステータスのデフォルト（イネーブルまたはディセーブル）は、アプリケーション間で異なります。アプリケーションで CFS の配信がディセーブルにされている場合、そのアプリケーションは設定を配信せず、またネットワーク内のその他のスイッチからの配信も受け入れません。
- 明示的な CFS コミット：大半のアプリケーションでは、新しいデータベースをネットワークに配信したりネットワークロックを解除したりするために、一時的なバッファ内の変更

をアプリケーションデータベースにコピーする明示的なコミット操作が必要です。コミット操作を実行しないと、一時的バッファ内の変更は適用されません。

## アプリケーションの CFS のイネーブル化

すべての CFS ベースのアプリケーションでは、配信機能をイネーブルまたはディセーブルにできます。

アプリケーションでは、配信はデフォルトでイネーブルにされています。

アプリケーションで配信が明示的にイネーブルにされていない場合は、CFS はそのアプリケーションの設定を配信しません。

## アプリケーション登録ステータスの確認

**show cfs application** コマンドは、CFS に現在登録されているアプリケーションを表示します。最初のカラムには、アプリケーション名が表示されます。2 番目のカラムは、アプリケーションの配信がイネーブルであるかディセーブルであるかを示します (enabled または disabled)。最後のカラムは、アプリケーションの配信範囲を示します (論理、物理、またはその両方)。



(注) **show cfs application** コマンドは、CFS に登録されているアプリケーションを表示するだけです。CFS を使用するコンディショナル サービスは、これらのサービスが稼働していなければ出力には示されません。

```
switch# show cfs application
```

```
-----
Application      Enabled   Scope
-----
ntp               No       Physical-all
fscm              Yes      Physical-fc
rscn              No       Logical
fctimer           No       Physical-fc
syslogd           No       Physical-all
callhome          No       Physical-all
fcdomain          Yes      Logical
device-alias     Yes      Physical-fc
```

```
Total number of entries = 8
```

**show cfs application name** コマンドは、特定のアプリケーションの詳細を表示します。表示されるのは、イネーブル/ディセーブルステート、CFS に登録されているタイムアウト、結合可能であるか (結合のサポートに対して CFS に登録されているか)、および配信範囲です。

```
switch# show cfs application name fscm
```

```
Enabled          : Yes
Timeout          : 100s
Merge Capable   : No
Scope           : Physical-fc
```

## ネットワークのロック

CFS インフラストラクチャを使用する機能（アプリケーション）を初めて設定する場合、この機能は CFS セッションを開始して、ネットワークをロックします。ネットワークがロックされた場合、スイッチソフトウェアでは、ロックを保持しているスイッチからのみこの機能への設定変更を行うことができます。別のスイッチから機能への設定変更を行う場合、ロックされているステータスを知らせるメッセージが、スイッチから発行されます。設定変更は、該当アプリケーションによって保留データベースに保持されます。

ネットワーク ロックを要求する CFS セッションを開始し、セッションを終了するのを忘れた場合は、管理者がそのセッションをクリアできます。いつでもネットワークをロックした場合、ユーザ名は再起動およびスイッチオーバーを行っても保持されます。（同じマシン上で）別のユーザが設定タスクを実行しようとしても、拒否されます。

### CFS ロック ステータスの確認

**show cfs lock** コマンドを実行すると、アプリケーションによって現在取得されているすべてのロックが表示されます。このコマンドにより、アプリケーションごとにアプリケーション名とロックの取得範囲が表示されます。

**show cfs lock name** コマンドは、指定したアプリケーションで使用されているロックの詳細情報を表示します。

## 変更のコミット

コミット操作により、すべてのアプリケーションピアの保留データベースを保存し、すべてのスイッチのロックを解除します。

コミット機能はセッションを開始しません。セッションを開始するのは、ロック機能だけです。ただし、設定変更がこれまでに行われていなければ、空のコミットが可能です。この場合、コミット操作の結果として、ロックを取得し、現在のデータベースを配信するセッションが行われます。

CFS インフラストラクチャを使用して機能への設定変更をコミットすると、次のいずれかの応答に関する通知が届きます。

- 1 つまたは複数の外部スイッチが正常なステータスを報告する場合：アプリケーションは変更をローカルに適用し、ネットワーク ロックを解除します。

- どの外部スイッチも成功ステータスを報告しない場合：アプリケーションはこのステータスを失敗として認識し、ネットワーク内のどのスイッチにも変更を適用しません。ネットワークロックは解除されません。

**commit** コマンドを入力すると、指定した機能の変更をコミットできます。

## 変更の廃棄

設定変更を廃棄すると、アプリケーションは保留中のデータベースを消去し、ネットワーク内のロックを解除します。中断およびコミット機能の両方を使用できるのは、ネットワークロックが取得されたスイッチだけです。

指定した機能に対して **abort** コマンドを使用すると、その機能の変更を廃棄できます。

## 設定の保存

まだ適用されていない変更内容（保留データベースにまだ存在する）は実行コンフィギュレーションには表示されません。変更をコミットすると、保留データベース内の設定変更が有効データベース内の設定を上書きします。



---

**注意** 変更内容は、コミットしなければ、実行コンフィギュレーションに保存されません。

---

## ロック済みセッションのクリア

ネットワーク内の任意のスイッチからアプリケーションが保持しているロックをクリアすると、ロックが取得されているにもかかわらず解除されていない状態から回復できます。この機能には、Admin 権限が必要になります。



---

**注意** この機能を使用してネットワーク内のロックを解除する場合は、注意が必要です。ネットワーク内の任意のスイッチの保留中設定がフラッシュされ、内容が失われます。

---

## CFS リージョン

### CFS リージョンの概要

CFS リージョンは、物理配信範囲の所定の機能またはアプリケーションに対するスイッチのユーザ定義のサブセットです。ネットワークが広い範囲に及ぶ場合、場合によっては、物理的なプロキシミティに基づき、スイッチセット間での特定のプロファイルの配信を局所化または制限する必要があります。CFS リージョンを使用すると、ネットワーク内で特定の CFS 機能

またはアプリケーションに、配信の複数アイランドができます。CFS リージョンは、機能設定の配信をネットワーク内のスイッチの特定のセットまたはグループに制限するよう設計されています。



(注) CFS リージョンの設定は、物理スイッチだけで行えます。CFS リージョンの設定は、VSAN では行えません。

## シナリオ例

Smart Call Home アプリケーションは、困難な状況、あるいは異常が発生した時にネットワーク管理者にアラートを送信します。ネットワークが広い地域に及び、複数のネットワーク管理者がネットワーク内のスイッチの各サブセットを担当している場合は、Smart Call Home アプリケーションは、場所に関係なく、すべてのネットワーク管理者にアラートを送信します。Smart Call Home アプリケーションで、選択したネットワーク管理者にメッセージアラートを送信するには、アプリケーションの物理範囲を微調整するか、絞り込む必要があります。CFS リージョンの実装によって、このシナリオを実現できます。

CFS リージョンは、0 ~ 200 の数字で識別されます。リージョン 0 はデフォルト リージョンとして予約されており、ネットワーク内のすべてのスイッチを含みます。1 ~ 200 のリージョンを設定できます。デフォルト リージョンでは下位互換性を維持しています。

機能が移動される、つまり、機能が新しいリージョンに割り当てられると、機能の範囲はそのリージョンに制限されます。他のすべてのリージョンは、配信やマージの対象から外されます。機能へのリージョンの割り当ては、配信において初期の物理範囲よりも優先されます。

複数の機能の設定を配信するように CFS リージョンを設定できます。ただし、特定のスイッチでは、一度に特定の機能設定を配信するように設定できる CFS リージョンは 1 つだけです。機能を CFS リージョンに割り当てた場合、この設定を別の CFS リージョン内に配信できません。

## CFS リージョンの管理

### CFS リージョンの作成

CFS リージョンを作成できます。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config)# cfs region region-id</code>	リージョンを作成します。

## CFS リージョンへのアプリケーションの割り当て

スイッチでリージョンにアプリケーションを割り当てることができます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>cfs region region-id</b>	リージョンを作成します。
ステップ 3	switch(config-cfs-region)# <i>application</i>	リージョンにアプリケーションを追加します。  (注) リージョンにスイッチ上の任意の数のアプリケーションを追加できます。同じリージョンにアプリケーションを複数回追加しようとする、 「Application already present in the same region」というエラーメッセージが表示されます。

### 例

次に、リージョンにアプリケーションを割り当てる例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# cfs region 1
switch(config-cfs-region)# ntp
switch(config-cfs-region)# callhome
```

## 別の CFS リージョンへのアプリケーションの移動

あるリージョンから別のリージョンにアプリケーションを移動できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>cfs region region-id</b>	CFS リージョン サブモードを開始します。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<code>switch(config-cfs-region)# application</code>	あるリージョンから別のリージョンに移動するアプリケーションを示します。  (注) 同じリージョンにアプリケーションを複数回移動しようとすると、「Application already present in the same region」というエラーメッセージが表示されます。

### 例

次に、リージョン 1 に割り当てられていたアプリケーションをリージョン 2 に移動する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# cfs region 2
switch(config-cfs-region)# ntp
```

## リージョンからのアプリケーションの削除

リージョンからのアプリケーションの削除は、アプリケーションをデフォルトリージョン（リージョン 0）に戻す場合と同じです。これによって、ネットワーク全体がアプリケーションの配信の範囲になります。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config)# cfs region region-id</code>	CFS リージョン サブモードを開始します。
ステップ 3	<code>switch(config-cfs-region)# no application</code>	リージョンに属しているアプリケーションを削除します。

## CFS リージョンの削除

リージョンの削除とは、リージョン定義を無効にすることです。リージョンを削除すると、リージョンによってバインドされているすべてのアプリケーションがデフォルトリージョンに戻ります。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>no cfs region region-id</b>	リージョンを削除します。  (注) 「All the applications in the region will be moved to the default region」という警告が表示されます。

## IP を介した CFS の設定

### IPv4 を介した CFS のイネーブル化

IPv4 を介した CFS をイネーブルまたはディセーブルにできます。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>cfs ipv4 distribute</b>	スイッチのすべてのアプリケーションに対して IPv4 を介した CFS をグローバルでイネーブルにします。
ステップ 3	(任意) switch(config)# <b>no cfs ipv4 distribute</b>	スイッチの IPv4 を介した CFS をディセーブルにします (デフォルト)。

### IP を介した CFS 設定の確認

次に、IP を介した CFS 設定を確認する例を示します。

```
switch# show cfs status
Distribution : Enabled
Distribution over IP : Enabled - mode IPv4
IPv4 multicast address : 239.255.70.83
```

## IP を介した CFS の IP マルチキャスト アドレスの設定

類似のマルチキャストアドレスを持つ IP を介した CFS 対応スイッチのすべては、IP ネットワークを介した 1 つの CFS を形成します。ネットワーク トポロジ変更を検出するためのキープレイズメカニズムのような CFS プロトコル特有の配信は、IP マルチキャストアドレスを使用して情報を送受信します。



(注) アプリケーションデータの CFS 配信はダイレクトユニキャストを使用します。

### CFS の IPv4 マルチキャスト アドレスの設定

IP を介した CFS の IPv4 のマルチキャストアドレス値を設定できます。デフォルトの IPv4 マルチキャストアドレスは 239.255.70.83 です。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>cfs ipv4 mcast-address</b> <i>ipv4-address</i>	IPv4 を介した CFS 配信の IPv4 マルチキャストアドレスを設定します。有効な IPv4 アドレスの範囲は 239.255.0.0 ~ 239.255.255.255 および 239.192/16 ~ 239.251/16 です。
ステップ 3	(任意) switch(config)# <b>no cfs ipv4 mcast-address</b> <i>ipv4-address</i>	IPv4 を介した CFS 配信のデフォルトの IPv4 マルチキャストアドレスに戻します。CFS のデフォルトの IPv4 マルチキャストアドレスは 239.255.70.83 です。

### IP を介した CFS の IP マルチキャスト アドレス設定の確認

次に、CFS over IP の IP マルチキャストアドレス設定を確認する例を示します。

```
switch# show cfs status
Fabric distribution Enabled
IP distribution Enabled mode ipv4
IPv4 multicast address : 10.1.10.100
```

## CFS のデフォルト設定

次の表に、CFS のデフォルト設定を示します。

表 2: デフォルトの CFS パラメータ

パラメータ (Parameters)	デフォルト
スイッチでの CFS 配信	イネーブル
データベース変更	最初の設定変更によって暗黙的にイネーブル化
アプリケーションの配信	アプリケーションごとに異なる
コミット	明示的な設定が必要
IP を介した CFS	ディセーブル
IPv4 マルチキャストアドレス	239.255.70.83

CISCO-CFS-MIB には CFS 関連機能の SNMP 設定情報が含まれます。ご使用のプラットフォームの MIB リファレンスを参照してください。



## 第 5 章

# PTP の設定

この章は、次の項で構成されています。

- [PTP に関する情報 \(47 ページ\)](#)
- [PTP デバイス タイプ \(48 ページ\)](#)
- [PTP プロセス \(49 ページ\)](#)
- [PTP のハイアベイラビリティ \(49 ページ\)](#)
- [PTP のライセンス要件 \(49 ページ\)](#)
- [PTP の注意事項および制約事項 \(50 ページ\)](#)
- [PTP のデフォルト設定 \(50 ページ\)](#)
- [PTP の設定 \(51 ページ\)](#)

## PTP に関する情報

PTP はネットワークに分散したノードの時刻同期プロトコルです。そのハードウェアのタイムスタンプ機能は、ネットワーク タイム プロトコル (NTP) などの他の時刻同期プロトコルよりも高い精度を実現します。

PTP システムは、PTP および非 PTP デバイスの組み合わせで構成できます。PTP デバイスには、オーディナリ クロック、境界クロック、およびトランスペアレント クロックが含まれます。非 PTP デバイスには、通常のネットワーク スイッチやルータなどのインフラストラクチャ デバイスが含まれます。

PTP は、システムのリアルタイム PTP クロックが相互に同期する方法を指定する分散プロトコルです。これらのクロックは、グランドマスタークロック (階層の最上部にあるクロック) を持つマスター/スレーブ同期階層に編成され、システム全体の時間基準を決定します。同期は、タイミング情報を使用して階層のマスターの時刻にクロックを調整するメンバーと、PTP タイミングメッセージを交換することによって実現されます。PTP は、PTP ドメインと呼ばれる論理範囲内で動作します。

PTP は Cisco Nexus 3100 スイッチのリリース 6.0(2)U3(1) から 7.0(3)I2(4) でサポートされていません。ただし、PTP は Cisco Nexus 3100 スイッチのリリース 7.0(3)I4(1) 以上ではサポートされています。

# PTP デバイス タイプ

次のクロックは、一般的な PTP デバイスです。

## オーディナリ クロック

エンドホストと同様に、単一の物理ポートに基づいてネットワークと通信します。オーディナリ クロックはグランドマスター クロックとして動作できます。

## 境界クロック

通常、複数の物理ポートがあり、各ポートはオーディナリクロックのポートのように動作します。ただし、各ポートはローカルクロックを共有し、クロックのデータセットはすべてのポートに共通です。各ポートは、境界クロックのその他すべてのポートから使用可能な最善のクロックに基づいて、個々の状態を、マスター（それに接続されている他のポートを同期する）またはスレーブ（ダウストリーム ポートに同期する）に決定します。同期とマスター/スレーブ階層の確立に関するメッセージは、境界クロックのプロトコルエンジンで終了し、転送されません。

## トランスペアレント クロック

通常のスイッチやルータなどのすべての PTP メッセージを転送しますが、スイッチでのパケットの滞留時間（パケットがトランスペアレント クロックを通過するために要した時間）と、場合によってはパケットの入力ポートのリンク遅延を測定します。トランスペアレント クロックはグランドマスター クロックに同期する必要がないため、ポートの状態はありません。

次の 2 種類のトランスペアレント クロックがあります。

### エンドツーエンド トランスペアレント クロック

PTP メッセージの滞留時間を測定し、PTP メッセージまたは関連付けられたフォローアップ メッセージの修正フィールドの時間を収集します。

### ピアツーピア トランスペアレント クロック

PTP メッセージの滞留時間を測定し、各ポートと、リンクを共有する他のノードの同じように装備されたポートとの間のリンク遅延を計算します。パケットの場合、この着信リンクの遅延は、PTP メッセージまたは関連付けられたフォローアップメッセージの修正フィールドの滞留時間に追加されます。



(注) PTP は境界クロック モードのみで動作します。Grand Master Clock (10 MHz) アップストリームを導入することを推奨します。サーバには、同期する必要があり、スイッチに接続されたクロックが含まれます。

エンドツーエンド トランスペアレント クロック モードとピアツーピア トランスペアレント クロック モードはサポートされません。

## PTP プロセス

PTP プロセスは、マスター/スレーブ階層の確立とクロックの同期の2つのフェーズで構成されます。

PTP ドメイン内では、オーディナリクロックまたは境界クロックの各ポートが、次のプロセスに従ってステートを決定します。

- 受信したすべての（マスターステートのポートによって発行された）アナウンスメッセージの内容を検査します
- 外部マスターのデータセット（アナウンスメッセージ内）とローカルクロックで、優先順位、クロッククラス、精度などを比較します
- 自身のステートがマスターまたはスレーブのいずれであるかを決定します

マスター/スレーブ階層が確立されると、クロックは次のように同期されます。

- マスターはスレーブに同期メッセージを送信し、送信された時刻を記録します。
- スレーブは同期メッセージを受信し、受信した時刻を記録します。すべての同期メッセージには、フォローアップメッセージがあります。同期メッセージの数は、フォローアップメッセージの数と同じである必要があります。
- スレーブはマスターに遅延要求メッセージを送信し、送信された時刻を記録します。
- マスターは遅延要求メッセージを受信し、受信した時刻を記録します。
- マスターはスレーブに遅延応答メッセージを送信します。遅延要求メッセージの数は、遅延応答メッセージの数と同じである必要があります。
- スレーブは、これらのタイムスタンプを使用して、クロックをマスターの時刻に調整します。

## PTP のハイ アベイラビリティ

PTP のステートフル リスタートはサポートされません。

## PTP のライセンス要件

PTP にはライセンスは不要です。ライセンス パッケージに含まれていない機能はすべて Cisco NX-OS システム イメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。NX-OS ライセンス方式の詳細については、『*Cisco NX-OS Licensing Guide*』を参照してください。

## PTP の注意事項および制約事項

- Cisco Nexus 3000 および 3100 シリーズ スイッチでは、PTP クロック修正は 100 ~ 999 ナノ秒までの 3 桁の範囲に収まることが予想されます。
- Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチでは、マスター PTP ポートで操作の非ネゴシエートモードの混合がサポートされます。つまり、スレーブクライアントがユニキャスト遅延要求 PTP パケットを送信すると、Cisco Nexus 3000 がユニキャスト遅延応答パケットで応答することを意味します。また、スレーブクライアントがマルチキャスト遅延要求 PTP パケットを送信すると、Cisco Nexus 3000 はマルチキャスト遅延応答パケットで応答します。
- PTP は境界クロック モードのみで動作します。エンドツーエンド トランスペアレント クロック モードとピアツーピア トランスペアレント クロック モードはサポートされません。
- PTP はユーザ データグラム プロトコル (UDP) 上の転送をサポートします。イーサネット上の転送はサポートされません。
- PTP はマルチキャスト通信だけをサポートします。ネゴシエートされたユニキャスト通信はサポートされません。
- PTP はネットワークごとに 1 つのドメインに制限されます。
- PTP 管理パケットを転送することはサポートされていません。
- PTP 対応ポートは、ポート上で PTP をイネーブルにしない場合、PTP パケットを識別せず、これらのパケットにタイムスタンプを適用したり、パケットをリダイレクトしたりしません。
- 1 packet per second (1 pps) 入力はサポートされていません。
- IPv6 を介した PTP はサポートされていません。
- Cisco Nexus スイッチは、-2 ~ -5 の同期化ログ間隔を使用して、隣接マスターから同期する必要があります。

## PTP のデフォルト設定

次の表に、PTP パラメータのデフォルト設定を示します。

表 3: デフォルトの PTP パラメータ

パラメータ (Parameters)	デフォルト
PTP	ディセーブル
PTP バージョン	2



パラメータ (Parameters)	デフォルト
PTP ドメイン	0
クロックをアドバタイズする場合、PTP プライオリティ 1 値	255
クロックをアドバタイズする場合、PTP プライオリティ 2 値	255
PTP アナウンス間隔	1 ログ秒
PTP 同期間隔	-2 ログ秒
PTP アナウンス タイムアウト	3 アナウンス間隔
PTP 最小遅延要求間隔	0 ログ秒
PTP VLAN	1

## PTP の設定

### PTP のグローバルな設定

デバイスで PTP をグローバルにイネーブルまたはディセーブルにできます。また、ネットワーク内のどのクロックがグランドマスターとして選択される優先順位が最も高いかを判別するために、さまざまな PTP クロック パラメータを設定できます。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>[no] feature ptp</b>	デバイス上で PTP をイネーブルまたはディセーブルにします。  (注) スイッチの PTP をイネーブルにしても、各インターフェイスの PTP はイネーブルになりません。
ステップ 3	switch(config) # <b>[no] ptp source ip-address [vrf vrf]</b>	すべての PTP パケットのソース IP アドレスを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
		<i>ip-address</i> には IPv4 形式を使用できません。
ステップ 4	(任意) <code>switch(config) # [no] ptp domain number</code>	このクロックで使用するドメイン番号を設定します。PTP ドメインを使用すると、1つのネットワーク上で、複数の独立した PTP クロッキングサブドメインを使用できます。  <i>number</i> の範囲は 0 ~ 128 です。
ステップ 5	(任意) <code>switch(config) # [no] ptp priority1 value</code>	このクロックをアダプタイズするときに使用する <i>priority1</i> の値を設定します。この値はベストマスタークロック選択のデフォルトの基準（クロック品質、クロッククラスなど）を上書きします。低い値が優先されます。  <i>value</i> の範囲は 0 ~ 255 です。
ステップ 6	(任意) <code>switch(config) # [no] ptp priority2 value</code>	このクロックをアダプタイズするときに使用する <i>priority2</i> の値を設定します。この値は、デフォルトの基準では同等に一致する2台のデバイスのうち、どちらを優先するかを決めるために使用されます。たとえば、 <i>priority2</i> 値を使用して、特定のスイッチが他の同等のスイッチよりも優先されるようにすることができます。  <i>value</i> の範囲は 0 ~ 255 です。
ステップ 7	(任意) <code>switch(config) # show ptp brief</code>	PTP のステータスを表示します。
ステップ 8	(任意) <code>switch(config) # show ptp clock</code>	ローカルクロックのプロパティを表示します。
ステップ 9	(任意) <code>switch(config) # copy running-config startup-config</code>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

## 例

次に、デバイス上で PTP をグローバルに設定し、PTP 通信用の送信元 IP アドレスを指定し、クロックの優先レベルを設定する例を示します。

```

switch# configure terminal
switch(config)# feature ptp
switch(config)# ptp source 10.10.10.1
switch(config)# ptp priority1 1
switch(config)# ptp priority2 1
switch(config)# show ptp brief
PTP port status
-----
Port State
-----
switch(config)# show ptp clock
PTP Device Type: Boundary clock
Clock Identity : 0:22:55:ff:ff:79:a4:c1
Clock Domain: 0
Number of PTP ports: 0
Priority1 : 1
Priority2 : 1
Clock Quality:
Class : 248
Accuracy : 254
Offset (log variance) : 65535
Offset From Master : 0
Mean Path Delay : 0
Steps removed : 0
Local clock time:Sun Jul 3 14:13:24 2011
switch(config)#

```

## インターフェイスでの PTP の設定

PTP をグローバルにイネーブルにしても、デフォルトで、サポートされているすべてのインターフェイス上でイネーブルになりません。PTP インターフェイスは個別にイネーブルに設定する必要があります。

### 始める前に

スイッチ上でグローバルに PTP をイネーブルにし、PTP 通信の送信元 IP アドレスを設定したことを確認します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>interface ethernet slot/port</b>	PTP をイネーブルにするインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	switch(config-if) # <b>[no] feature ptp</b>	インターフェイスで PTP をイネーブルまたはディセーブルにします。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	(任意) <code>switch(config-if) # [no] ptp announce { interval log seconds   timeout count }</code>	<p>インターフェイス上の PTP アナウンスメッセージ間の間隔またはタイムアウトがインターフェイスで発生する前の PTP 間隔の数を設定します。</p> <p>PTP アナウンス間隔の範囲は 0 ~ 4 秒で、間隔のタイムアウトの範囲は 2 ~ 10 です。</p>
ステップ 5	(任意) <code>switch(config-if) # [no] ptp delay request minimum interval log seconds</code>	<p>ポートがマスター ステートの場合に PTP 遅延要求メッセージ間で許可される最小間隔を設定します。</p> <p>範囲はログ (-6) ~ ログ (1) 秒です。ログ (-2) は、1 秒あたり 2 フレームです。</p>
ステップ 6	(任意) <code>switch(config-if) # [no] ptp sync interval log seconds</code>	<p>インターフェイス上の PTP 同期メッセージの送信間隔を設定します。</p> <p>Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチの PTP 同期間隔の範囲は -6 ログ秒 ~ 1 秒です。</p> <p>Cisco Nexus 3548 シリーズ スイッチの PTP 同期間隔の範囲は -3 ログ秒 ~ 1 秒です。</p>
ステップ 7	(任意) <code>switch(config-if) # [no] ptp vlan vlan-id</code>	<p>PTP をイネーブルにするインターフェイスの VLAN を指定します。インターフェイスの 1 つの VLAN でイネーブルにできるのは、1 つの PTP のみです。</p> <p>指定できる範囲は 1 ~ 4094 です。</p>
ステップ 8	(任意) <code>switch(config-if) # show ptp brief</code>	PTP のステータスを表示します。
ステップ 9	(任意) <code>switch(config-if) # show ptp port interface interface slot/port</code>	PTP ポートのステータスを表示します。
ステップ 10	(任意) <code>switch(config-if) # copy running-config startup-config</code>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

## 例

次に、インターフェイス上で PTP を設定し、アナウンス、遅延要求、および同期メッセージの間隔を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# ptp
switch(config-if)# ptp announce interval 3
switch(config-if)# ptp announce timeout 2
switch(config-if)# ptp delay-request minimum interval 4
switch(config-if)# ptp sync interval -1
switch(config-if)# show ptp brief
PTP port status
-----
Port State
-----
Eth2/1 Master
switch(config-if)# show ptp port interface ethernet 2/1
PTP Port Dataset: Eth2/1
Port identity: clock identity: 0:22:55:ff:ff:79:a4:c1
Port identity: port number: 1028
PTP version: 2
Port state: Master
Delay request interval(log mean): 4
Announce receipt time out: 2
Peer mean path delay: 0
Announce interval(log mean): 3
Sync interval(log mean): -1
Delay Mechanism: End to End
Peer delay request interval(log mean): 0
switch(config-if)#
```

## 複数の PTP ドメインの設定

単一のネットワークに対して、複数の PTP クロッキングドメインを設定することができます。各ドメインには、特定の優先順位の値が関連付けられます。デフォルト値は 255 です。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>[no] feature ptp</b>	デバイス上で PTP をイネーブルまたはディセーブルにします。  (注) スイッチの PTP をイネーブルにしても、各インターフェイスの PTP はイネーブルになりません。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	switch(config) # [no] <b>ptp source ip-address</b> [ vrf vrf]	すべての PTP パケットのソース IP アドレスを設定します。  <i>ip-address</i> には IPv4 形式を使用できません。
ステップ 4	switch(config) # [no] <b>ptp multi-domain</b>	スイッチでマルチ ドメイン機能をイネーブルにします。ここでは、優先順位、クロック クラスのしきい値、クロック精度のしきい値、移行の優先順位などの属性もスイッチに設定できます。
ステップ 5	switch(config) # [no] <b>ptp domain value</b> <b>priority value</b>	ドメインおよび優先度の値を指定します。  domain の <i>value</i> の範囲は 0 ~ 127 です。 domain のデフォルト値は 0 です。  priority の <i>value</i> の範囲は 0 ~ 255 です。 priority のデフォルト値は 255 です。
ステップ 6	switch(config) # [no] <b>ptp domain value</b> <b>clock-class-threshold value</b>	ドメインおよびクロック クラスのしきい値を指定します。デフォルト値は 248 です。  domain の <i>value</i> の範囲は 0 ~ 127 です。  clock-class-threshold の <i>value</i> の範囲は 0 ~ 255 です。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>(注) クロック クラスのしきい値で、いずれかのポート上のスレーブクロックを必ず選択する必要はありません。スイッチはこの値を使用して、送信元クロックがトレース可能かを判断します。ピアからのクロッククラス値がドメインのクロッククラスのしきい値に等しいかより高い場合、スイッチは BMCA を実行してドメインからスレーブポートを選択します。しきい値より低いクロッククラスがどのドメインにもない場合、スイッチは PTP がイネーブルなすべてのポートで BMCA を実行して最適なクロックを選択します。</p>
ステップ 7	switch(config) # [no] ptp domain value clock-accuracy-threshold value	<p>ドメインおよびクロックの精度のしきい値を指定します。デフォルト値は 254 です。</p> <p>domain の value の範囲は 0 ~ 127 です。</p> <p>clock-accuracy-threshold の value の範囲は 0 ~ 255 です。</p>
ステップ 8	switch(config) # [no] ptp multi-domain transition-attributes priority1 value	<p>当該ドメインからピアドメインへのパケット送信時に使用する domain transition-attributes priority1 値を設定します。リモートポートからのアナウンスメッセージ内の priority1 の値は、ドメイン内のピアにアナウンスメッセージを送信する必要があり、その値がスレーブインターフェイスの値と異なる場合、domain transition-attributes priority1 の値で置き換えられます。デフォルト値は 255 です。</p> <p>transition-attributes priority1 の value の範囲は 0 ~ 255 です。</p>
ステップ 9	switch(config) # [no] ptp multi-domain transition-attributes priority2 value	<p>当該ドメインからピアドメインへのパケット送信時に使用する domain</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		<p><i>transition-attributes priority2</i> 値を設定します。リモートポートからのアナウンスメッセージ内の <i>priority2</i> の値は、ドメイン内のピアにアナウンスメッセージを送信する必要があるため、その値がスレーブインターフェイスの値と異なる場合、<i>domain transition-attributes priority2</i> の値で置き換えられます。デフォルト値は 255 です。</p> <p><i>transition-attributes priority2</i> の <i>value</i> の範囲は 0 ~ 255 です。</p>
ステップ 10	<code>switch(config-if) # [no] ptp domain value</code>	<p>PTP がイネーブルにされたインターフェイスとドメインを関連付けます。インターフェイスへの明示的なドメイン指定を行わない場合は、デフォルト値 (0) が適用されます。</p> <p><i>domain</i> の <i>value</i> の範囲は 0 ~ 127 です。</p>

## 例

次に、スイッチに設定されている PTP ドメインを表示する例を示します。

```
switch(config)# show ptp domain data
MULTI DOMAIN : ENABLED
GM CAPABILITY : ENABLED
PTP DEFAULT DOMAIN : 0
PTP TRANSITION PRIORITY1 : 20
PTP TRANSITION PRIORITY2 : 255
PTP DOMAIN PROPERTY
Domain-Number Domain-Priority Clock-Class Clock-Accuracy Ports
0          255          248          254          Eth1/1
1           1           1           254
```

```
switch(config)#
```

次に、PTP がイネーブルにされた各インターフェイスに関連付けられたドメインを表示する例を示します。

```
switch(config)# show ptp interface domain
PTP port interface domain
-----
Port          Domain
-----
Eth1/1        0
              1          1          254
```

```
switch(config)#
```



## クロック ID の設定

Cisco Nexus 3500 スイッチにはクロック ID を設定できます。デフォルトのクロック ID は、スイッチの MAC アドレスをベースにした固有の 8 オクテット文字列です。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>[no] feature ptp</b>	デバイス上で PTP をイネーブルまたはディセーブルにします。  (注) スイッチの PTP をイネーブルにしても、各インターフェイスの PTP はイネーブルになりません。
ステップ 3	switch(config-if) # <b>ptp clock-identity</b> <i>MAC Address</i>	PTP clock-identity として 6 バイトの MAC アドレスを割り当てます。デフォルトのクロック ID は、スイッチの MAC アドレスをベースにしています。クロック ID は IEEE 標準によって定義されます (MAC-48 Byte0   MAC-48 Byte1   MAC-48 Byte2   FF   FE   MAC-48 Bytes3-5)。

## インターフェイスでの PTP コストの設定

Cisco Nexus 3500 スイッチで PTP がイネーブルにされた各ポートには、インターフェイス コストを設定できます。PTP がイネーブルにされた各ポートでコストが適用されるのは、グランドマスター クロックへの複数のパスがスイッチにある場合です。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>[no] feature ptp</b>	デバイス上で PTP をイネーブルまたはディセーブルにします。

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) スイッチの PTP をイネーブルにしても、各インターフェイスの PTP はイネーブルになりません。
ステップ 3	switch(config) # [no] <b>ptp source ip-address</b> [vrf vrf]	すべての PTP パケットのソース IP アドレスを設定します。  <i>ip-address</i> には IPv4 形式を使用できます。
ステップ 4	switch(config-if) # [no] <b>feature ptp</b>	インターフェイスの PTP をディセーブル、またはイネーブルにします。
ステップ 5	switch(config-if) # [no] <b>ptp cost value</b>	PTP がイネーブルにされたインターフェイスにコストを関連付けます。コストが最も低いインターフェイスが、スレーブインターフェイスになります。  コストの範囲は 0～255 です。デフォルト値は 255 です。

### 例

次に、PTP がイネーブルにされた各インターフェイスに関連付けられたコストを表示する例を示します。

```
switch(config)# show ptp cost
PTP port costs
-----
Port          Cost
-----
Eth1/1        255
switch(config)#
```

## 平均パス遅延のしきい値の設定

平均パス遅延は、マスターおよびスレーブ間を移動するために PTP フレームが使用する最新の既知の良好な値です。超過すると Syslog メッセージをトリガーするしきい値を設定することができます。デフォルト値は、1 ナノ秒です。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>[no] feature ptp</b>	デバイス上で PTP をイネーブルまたはディセーブルにします。  (注) スイッチの PTP をイネーブルにしても、各インターフェイスの PTP はイネーブルになりません。
ステップ 3	switch(config) # <b>ptp mean-path-delay threshold-value</b>  例： switch(config)# ptp mean-path-delay 20 switch(config)# 2018 Jun 18 11:17:23 3548-XL-1 %PTP-2-PTP_HIGH_MEAN_PATH_DELAY: PTP mean-path-delay 31 exceeds the threshold. Discarding the value.	Syslog メッセージをトリガーするしきい値の時間をナノ秒単位で指定します。  平均パス遅延の <i>threshold-value</i> の範囲は 10 ~ 1000000000 です。  デフォルト値は、1000000000 ナノ秒です。

## 例

次の例では、過去のいくつかの PTP 修正と、それらの平均パス遅延の情報を示します。

```
switch(config)# show ptp corrections
PTP past corrections
```

Slave Port	SUP Time	Correction (ns)	MeanPath Delay (ns)
Eth1/2	Fri Dec 15 03:36:33 2017 226753	7	36
Eth1/2	Fri Dec 15 03:36:32 2017 975282	-1	36
Eth1/2	Fri Dec 15 03:36:32 2017 723901	0	36
Eth1/2	Fri Dec 15 03:36:32 2017 472521	0	36
Eth1/2	Fri Dec 15 03:36:32 2017 222255	-1	38
Eth1/2	Fri Dec 15 03:36:31 2017 971076	-2	38
Eth1/2	Fri Dec 15 03:36:31 2017 719685	-8	38
Eth1/2	Fri Dec 15 03:36:31 2017 468215	15	38
Eth1/2	Fri Dec 15 03:36:31 2017 217020	-2	35
Eth1/2	Fri Dec 15 03:36:30 2017 965528	3	35
Eth1/2	Fri Dec 15 03:36:30 2017 714151	-4	35
Eth1/2	Fri Dec 15 03:36:30 2017 462905	0	35
Eth1/2	Fri Dec 15 03:36:30 2017 212015	-1	39
Eth1/2	Fri Dec 15 03:36:29 2017 960621	-2	39
Eth1/2	Fri Dec 15 03:36:29 2017 709293	0	39
Eth1/2	Fri Dec 15 03:36:29 2017 457782	5	39
Eth1/2	Fri Dec 15 03:36:29 2017 206421	1	36
Eth1/2	Fri Dec 15 03:36:28 2017 954986	1	36

次の例では、設定されている平均パス遅延の値が表示されます。

```
switch(config)# show run all | grep mean-path-delay
ptp mean-path-delay 1000000000
```

## PTP インターフェイスがマスター ステートを維持する設定

この手順では、エンドポイントによってポートがスレーブ ステートに移行するのを防ぐ方法について説明します。

### 始める前に

- スイッチ上でグローバルに PTP をイネーブルにし、PTP 通信の送信元 IP アドレスを設定したことを確認します。
- PTP をグローバルにイネーブルにしても、デフォルトで、サポートされているすべてのインターフェイス上でイネーブルになりません。PTP インターフェイスは個別にイネーブルに設定する必要があります。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch # <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>interface ethernet slot/port</b>	PTP をイネーブルにするインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	switch(config-if) # <b>[no] feature ptp</b>	インターフェイスで PTP をイネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 4	switch(config-if) # <b>ptp multicast master-only</b>	マスター ステートを維持するようにポートを設定します。

### 例

この例では、インターフェイス上に PTP を設定し、インターフェイスがマスター ステートを維持するように設定する方法を示しています。

```
switch(config)# show ptp brief

PTP port status
-----
Port                State
-----
Eth1/1              Slave
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# ptp multicast master-only
2001 Jan 7 07:50:03 A3-MTC-CR-1 %$ VDC-1 %$ %PTP-2-PTP_GM_CHANGE: Grandmaster clock has changed
```

```

from 60:73:5c:ff:fe:62:a1:41 to 58:97:bd:ff:fe:0d:54:01 for the PTP protocol
2001 Jan  7 07:50:03 A3-MTC-CR-1 %$ VDC-1 %$ %PTP-2-PTP_STATE_CHANGE: Interface Eth1/1 change from
PTP_BMC_STATE_SLAVE to PTP_BMC_STATE_PRE_MASTER
2001 Jan  7 07:50:03 A3-MTC-CR-1 %$ VDC-1 %$ %PTP-2-PTP_TIMESYNC_LOST: Lost sync with master clock
2001 Jan  7 07:50:07 A3-MTC-CR-1 %$ VDC-1 %$ %PTP-2-PTP_STATE_CHANGE: Interface Eth1/1 change from
PTP_BMC_STATE_PRE_MASTER to PTP_BMC_STATE_MASTER

```

## PTP 設定の確認

次のいずれかのコマンドを使用して、設定を確認します。

表 4: PTP Show コマンド

コマンド	目的
<b>show ptp brief</b>	PTP のステータスを表示します。
<b>show ptp clock</b>	ローカルクロックのプロパティ（クロック ID など）を表示します。
<b>show ptp clock foreign-masters-record</b>	PTP プロセスが認識している外部マスターの状態を表示します。外部マスターごとに、出力に、クロック ID、基本的なクロックプロパティ、およびクロックがグランドマスターとして使用されているかどうかが表示されます。
<b>show ptp corrections</b>	最後の数個の PTP 修正を表示します。
<b>show ptp parent</b>	PTP ペアレントのプロパティを表示します。
<b>show ptp port interface ethernet slot/port</b>	スイッチの PTP ポートのステータスを表示します。





## 第 6 章

# NTP の設定

この章は、次の項で構成されています。

- [NTP の概要 \(65 ページ\)](#)
- [タイム サーバとしての NTP \(66 ページ\)](#)
- [CFS を使用した NTP の配信 \(66 ページ\)](#)
- [クロック マネージャ \(66 ページ\)](#)
- [ハイ アベイラビリティ \(67 ページ\)](#)
- [仮想化のサポート \(67 ページ\)](#)
- [ライセンス要件 \(67 ページ\)](#)
- [NTP の前提条件 \(67 ページ\)](#)
- [NTP の注意事項と制約事項 \(67 ページ\)](#)
- [デフォルト設定 \(69 ページ\)](#)
- [NTP の設定 \(70 ページ\)](#)
- [NTP の設定確認 \(85 ページ\)](#)
- [NTP の設定例 \(86 ページ\)](#)

## NTP の概要

ネットワーク タイム プロトコル (NTP) は、分散している一連のタイム サーバとクライアント間で 1 日の時間を同期させ、複数のネットワーク デバイスから受信するシステム ログや時間関連のイベントを相互に関連付けられるようにします。NTP ではトランスポート プロトコルとして、ユーザデータグラム プロトコル (UDP) を使用します。すべての NTP 通信は UTC を使用します。

NTP サーバは通常、タイム サーバに接続されたラジオクロックやアトミック クロックなどの正規の時刻源から時刻を受信し、ネットワークを介してこの時刻を配信します。NTP はきわめて効率的で、毎分 1 パケット以下で 2 台のマシンを相互に 1 ミリ秒以内に同期します。

NTP ではストラタム (stratum) を使用して、ネットワーク デバイスと正規の時刻源の距離を表します。

- ストラタム 1 のタイム サーバは、信頼できる時刻源に直接接続されます (無線時計や原子時計または GPS 時刻源など)。

- ストラタム 2 の NTP サーバは、ストラタム 1 のタイムサーバから NTP を使用して時刻を受信します。

同期の前に、NTP は複数のネットワーク サービスが報告した時刻を比較し、1 つの時刻が著しく異なる場合は、それが Stratum 1 であっても、同期しません。Cisco NX-OS は、無線時計や原子時計に接続できず、ストラタム 1 サーバとして動作することはできないため、インターネット上で利用できるパブリック NTP サーバを使用することを推奨します。ネットワークがインターネットから切り離されている場合、Cisco NX-OS では、NTP によって時刻が同期されていなくても、NTP で同期されているものとして時刻を設定できます。



- (注) NTP ピア関係を作成して、サーバで障害が発生した場合に、ネットワーク デバイスを同期させて、正確な時刻を維持するための時刻提供ホストを指定できます。

デバイス上の時刻は重要な情報であるため、NTP のセキュリティ機能を使用して、不正な時刻を誤って（または悪意を持って）設定できないように保護することを強く推奨します。その方法として、アクセスリストベースの制約方式と暗号化認証方式があります。

## タイムサーバとしての NTP

他のデバイスからタイムサーバとして設定できます。デバイスを正規の NTP サーバとして動作するよう設定し、外部の時刻源と同期していないときでも時刻を配信させることもできます。

## CFS を使用した NTP の配信

Cisco Fabric Services (CFS) は、ローカル NTP コンフィギュレーションをネットワーク内のすべてのシスコ デバイスに配信します。

デバイス上で CFS をイネーブルにすると、NTP コンフィギュレーションが起動された場合には常に、ネットワーク全体のロックが NTP に適用されます。NTP コンフィギュレーションを変更した後で、これらの変更を破棄することもコミットすることもできます。

いずれの場合でも、CFS のロックはこのときに NTP アプリケーションから解放されます。

## クロック マネージャ

クロックはさまざまなプロセス間で共有する必要のあるリソースです。

NTP や高精度時間プロトコル (PTP) といった複数の時刻同期プロトコルがシステムで稼働している可能性があります。



## ハイアベイラビリティ

NTP はステートレス リスタートをサポートします。リブート後またはスーパーバイザ スイッチオーバー後に、実行コンフィギュレーションが適用されます。

NTP ピアを設定すると、NTP サーバ障害の発生時に冗長性が得られます。

## 仮想化のサポート

NTP は Virtual Routing and Forwarding (VRF) インスタンスを認識します。NTP サーバおよび NTP ピアに対して特定の VRF を設定していない場合、NTP はデフォルトの VRF を使用します。

## ライセンス要件

製品	ライセンス要件
Cisco NX-OS	NTP にはライセンスは不要です。ライセンスパッケージに含まれていない機能はすべて Cisco NX-OS システム イメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。NX-OS ライセンス方式の詳細については、『Cisco NX-OS Licensing Guide』を参照してください。

## NTP の前提条件

NTP の前提条件は、次のとおりです。

- NTP を設定するには、NTP が動作している 1 つ以上のサーバに接続できなければなりません。

## NTP の注意事項と制約事項

NTP に関する設定時の注意事項および制約事項は、次のとおりです。

- `show ntp session status` CLI コマンドには、最後のアクションのタイムスタンプ、最後のアクション、最後のアクションの結果、および最後のアクションの失敗理由は表示されません。
- NTP サーバ機能はサポートされます。

- 別のデバイスとの間にピアアソシエーションを設定できるのは、使用するクロックの信頼性が確実な場合（つまり、信頼できる NTP サーバのクライアントである場合）に限られます。
- 単独で設定したピアは、サーバの役割を担いますが、バックアップとして使用する必要があります。サーバが 2 台ある場合、いくつかのデバイスが一方のサーバに接続し、残りのデバイスが他方のサーバに接続するように設定できます。その後、2 台のサーバ間にピアアソシエーションを設定すると、信頼性の高い NTP 構成になります。
- サーバが 1 台だけの場合は、すべてのデバイスをそのサーバのクライアントとして設定する必要があります。
- 設定できる NTP エンティティ（サーバおよびピア）は、最大 64 です。
- NTP に対して CFS がディセーブルになっていると、その NTP からコンフィギュレーションは配信されず、ネットワーク内の他のデバイスからの配信も受け入れません。
- NTP に対して CFS 配信をイネーブルにしても、**commit** コマンドを入力するまで、NTP コンフィギュレーション コマンドのエントリは NTP コンフィギュレーションに対してネットワークをロックします。ロック中は、ネットワーク内の（ロックを保持しているデバイス以外の）すべてのデバイスは NTP コンフィギュレーションを変更できません。
- CFS を使用して NTP をディセーブルにする場合、ネットワーク内のすべてのデバイスは、NTP に対して使用するよう設定したものと同一 VRF を持っている必要があります。
- VRF で NTP を設定する場合は、NTP サーバおよびピアが、設定された VRF を介して相互にアクセスできることを確認します。
- ネットワーク全体の NTP サーバおよび Cisco NX-OS デバイスに、NTP 認証キーを手動で配信する必要があります。
- スイッチをエッジデバイスとして使用して NTP を利用したい場合は、**ntp access-group** コマンドを使用して必要なエッジデバイスにのみ NTP をフィルタリングすることを推奨します。
- システムに **ntp passive**、**ntp broadcast client**、または **ntp multicast client** コマンドが設定されている場合、対称アクティブの着信パケット、ブロードキャストパケット、マルチキャストパケットを NTP が受信する際に、送信者と同期させるための一時的なピアアソシエーションを設定できます。



(注) 上記コマンドのいずれかを有効にする前に必ず **ntp authenticate** を指定してください。そうしないと、上記のパケットタイプのいずれかを送信する任意のデバイス（悪意のある攻撃者に制御されたデバイスを含む）とデバイスが同期される可能性があります。

- **ntp authenticate** コマンドが指定されている場合、対称アクティブパケット、ブロードキャストパケット、マルチキャストパケットが受信されても、**ntp trusted-key** グローバ

ル コンフィギュレーション コマンドで指定された認証キーの 1 つがパケットで運ばれていない限り、システムとピアの同期は行われません。

- **ntp access-group** コマンドなど他の方法で、デバイスの NTP サービスと非承認ホストとの通信防止の措置が取られている場合を除き、非承認のネットワークホストとの同期を避けるには、**ntp passive**、**ntp broadcast client**、**ntp multicast client** コマンドを指定した段階で随時 **ntp authenticate** コマンドを指定する必要があります。
- **ntp authenticate** コマンドは、**ntp server** および **ntp peer** コンフィギュレーション コマンドで設定されたピア アソシエーションを認証しません。**ntp server** および **ntp peer** アソシエーションを認証するには、**key** キーワードを指定します。
- 時刻の精度および信頼性要件が厳密ではない場合、NTP ブロードキャストまたはマルチキャストアソシエーションを使用すると、ネットワークがローカル化され、ネットワークは 20 以上のクライアントを持ちます。帯域幅、システムメモリ、または CPU リソースが限られているネットワークでは NTP ブロードキャストまたはマルチキャストアソシエーションの使用をお勧めします。
- 1 つの NTP アクセス グループに最大 4 つの ACL を設定できます。



(注) 情報の流れが一方向に限定されるため、NTP ブロードキャストアソシエーションでは、時刻の精度がわずかに低下します。

## デフォルト設定

次に、NTP パラメータのデフォルト設定を示します。

パラメータ (Parameters)	デフォルト
NTP	すべてのインターフェイスでイネーブル
NTP passive (アソシエーションを形成するために NTP をイネーブルにする)	イネーブル
NTP 認証	ディセーブル
NTP アクセス	イネーブル
NTP access group match all	ディセーブル
NTP ブロードキャスト サーバ	ディセーブル
NTP マルチキャスト サーバ	ディセーブル
NTP マルチキャスト クライアント	ディセーブル
NTP ロギング	ディセーブル

## NTP の設定

### インターフェイスでの NTP のイネーブル化またはディセーブル化

特定のインターフェイスで NTP をイネーブルまたはディセーブルにできます。NTP は、すべてのインターフェイスでデフォルトでイネーブルに設定されています。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>interface type slot/port</b>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	switch(config-if)# <b>[no] ntp disable {ip   ipv6}</b>	指定のインターフェイスで NTP IPv4 または IPv6 をディセーブルにします。  インターフェイス上で NTP を再度イネーブルにするにはこのコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。
ステップ 4	(任意) switch(config-if)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

#### 例

次に、インターフェイスで NTP をイネーブルまたはディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 6/1
switch(config-if)# ntp disable ip
switch(config-if)# copy running-config startup-config
```

### 正規の NTP サーバとしてのデバイスの設定

デバイスを正規の NTP サーバとして動作するよう設定し、既存のタイムサーバと同期していないときでも時刻を配信させることができます。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	[no] <b>ntp master</b> [ <i>stratum</i> ]	正規の NTP サーバとしてデバイスを設定します。  NTP クライアントがこれらの時間を同期するのと別の階層レベルを指定できます。指定できる範囲は 1 ~ 15 です。
ステップ 3	(任意) <b>show running-config ntp</b>	NTP コンフィギュレーションを表示します。
ステップ 4	(任意) switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

## 例

次に、正規の NTP サーバとして Cisco NX-OS デバイスを別の階層レベルで設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# ntp master 5
```

## NTP サーバおよびピアの設定

NTP サーバおよびピアを設定できます。

## 始める前に

NTP サーバとそのピアの IP アドレスまたは DNS 名がわかっていることを確認します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	switch(config)# [no] ntp server {ip-address   ipv6-address   dns-name} [key key-id] [maxpoll max-poll] [minpoll min-poll] [prefer] [use-vrf vrf-name]	<p>1つのサーバと1つのサーバアソシエーションを形成します。</p> <p>NTP サーバとの通信で使用するキーを設定するには、<b>key</b> キーワードを使用します。</p> <p><i>key-id</i> 引数の範囲は 1 ～ 65535 です。</p> <p>ピアをポーリングする最大および最小の間隔を設定するには、<b>maxpoll</b> および <b>minpoll</b> キーワードを使用します。 <i>max-poll</i> および <i>min-poll</i> 引数の範囲は 4 ～ 16 秒で、デフォルト値はそれぞれ 6 秒と 4 秒です。</p> <p>デバイスに対して対象の NTP サーバを優先サーバにするには、<b>prefer keyword</b> を使用します。</p> <p>指定された VRF を介して通信するように NTP サーバを設定するには、<b>use-vrf</b> キーワードを使用します。</p> <p><i>vrf-name</i> 引数として、default、management、または大文字と小文字を区別した 32 文字までの任意の英数字の文字列を使用できます。</p> <p>(注) NTP サーバとの通信で使用するキーを設定する場合は、そのキーが、デバイス上の信頼できるキーとして存在していることを確認してください。</p>
ステップ 3	switch(config)# [no] ntp peer {ip-address   ipv6-address   dns-name} [key key-id] [maxpoll max-poll] [minpoll min-poll] [prefer] [use-vrf vrf-name]	<p>1つのピアと1つのピアアソシエーションを形成します。複数のピアアソシエーションを指定できます。</p> <p>NTP ピアとの通信で使用するキーを設定するには、<b>key</b> キーワードを使用します。 <i>key-id</i> 引数の範囲は 1 ～ 65535 です。</p> <p>ピアをポーリングする最大および最小の間隔を設定するには、<b>maxpoll</b> および <b>minpoll</b> キーワードを使用します。 <i>max-poll</i> および <i>min-poll</i> 引数の範囲は 4</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>～ 17 秒で、デフォルト値はそれぞれ 6 秒と 4 秒です。</p> <p>デバイスに対して対象の NTP ピアを優先にするには、<b>prefer</b> キーワードを使用します。</p> <p>指定された VRF を介して通信するように NTP ピアを設定するには、<b>use-vrf</b> キーワードを使用します。<i>vrf-name</i> 引数には、<b>default</b>、<b>management</b>、または大文字と小文字が区別される最大 32 文字の任意の英数字文字列を指定できます。</p>
ステップ 4	(任意) <code>switch(config)# show ntp peers</code>	<p>設定されたサーバおよびピアを表示します。</p> <p>(注) ドメイン名が解決されるのは、DNS サーバが設定されている場合だけです。</p>
ステップ 5	(任意) <code>switch(config)# copy running-config startup-config</code>	<p>リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。</p>

## NTP 認証の設定

ローカル ロックを同期させる時刻源を認証するようデバイスを設定できます。NTP 認証をイネーブルにすると、**ntp trusted-key** コマンドによって指定されたいずれかの認証キーを時刻源が保持している場合のみ、デバイスはその時刻源と同期します。デバイスは、認証チェックに失敗したすべてのパケットをドロップし、それらのパケットでローカルクロックがアップデートされないようにします。NTP 認証はデフォルトでディセーブルになっています。

### 始める前に

NTP サーバと NTP ピアの認証は、**key** キーワードを各 **ntp server** および **ntp peer** コマンドで使用するにより、アソシエーションごとに設定されます。この手順で指定する予定の認証キーによって、すべての NTP サーバとピア アソシエーションが設定されていることを確認します。**ntp server** または **ntp peer** コマンドで **key** キーワードを指定しない場合、認証なしでの動作が続けられます。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>[no] ntp authentication-key number md5 md5-string</b> 例 : <pre>switch(config)# ntp authentication-key 42 md5 aNiceKey</pre>	<p>認証キーを定義します。デバイスが時刻源と同期するのは、時刻源がこれらの認証キーのいずれかをもち、<b>ntp trusted-key number</b> コマンドによってキー番号が指定されている場合だけです。</p> <p>認証キーの範囲は 1 ~ 65535 です。MD5 文字列の場合は、最大 8 文字の英数字を指定できます。</p>
ステップ 3	<b>ntp server ip-address key key-id</b> 例 : <pre>switch(config)# ntp server 192.0.2.1 key 1001</pre>	<p>指定された NTP サーバで認証を有効にし、サーバとのアソシエーションを形成します。</p> <p>NTP サーバとの通信で使用するキーを設定するには、<b>key</b> キーワードを使用します。<i>key-id</i> 引数の範囲は 1 ~ 65535 です。</p> <p>認証を必須とする場合は、<b>key</b> キーワードを使用する必要があります。<b>ntp server</b> または <b>ntp peer</b> コマンドで <b>key</b> キーワードを指定しない場合、認証なしでの動作が続けられます。</p>
ステップ 4	(任意) <b>show ntp authentication-keys</b> 例 : <pre>switch(config)# show ntp authentication-keys</pre>	設定済みの NTP 認証キーを表示します。
ステップ 5	<b>[no] ntp trusted-key number</b> 例 : <pre>switch(config)# ntp trusted-key 42</pre>	1 つ以上のキー (ステップ 2 で定義されているもの) を指定します。デバイスを時刻源と同期させるには、未設定のリモート シンメトリック、ブロードキャスト、およびマルチキャストの時刻源を NTP パケット内に入力する必要があります。 <b>trusted key</b> の範囲は 1 ~ 65535 です。



	コマンドまたはアクション	目的
		このコマンドにより、デバイスが、信頼されていない時刻源と誤って同期する、ということが防止されます。
ステップ 6	(任意) <b>show ntp trusted-keys</b> 例： switch(config)# show ntp trusted-keys	設定済みの NTP の信頼されているキーを表示します。
ステップ 7	[no] <b>ntp authenticate</b> 例： switch(config)# ntp authenticate	ntp passive、ntp broadcast client、および ntp multicast で認証を有効または無効にします。NTP 認証はデフォルトでディセーブルになっています。
ステップ 8	(任意) <b>show ntp authentication-status</b> 例： switch(config)# show ntp authentication-status	NTP 認証の状況を表示します。
ステップ 9	(任意) <b>copy running-config startup-config</b> 例： switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

## NTP アクセス制限の設定

アクセスグループを使用して、NTP サービスへのアクセスを制御できます。具体的には、デバイスを許可する要求のタイプ、およびデバイスが応答を受け取るサーバを指定できます。

アクセスグループを設定しない場合は、すべてのデバイスに NTP アクセス権が付与されます。何らかのアクセスグループを設定した場合は、ソース IP アドレスがアクセスリストの基準をパスしたりリモートデバイスに対してだけ、NTP アクセス権が付与されます。

Cisco NX-OS リリース 7.0(3)I7(3) 以降では、アクセスグループは次の方法で評価されます。

- **match-all** キーワードがない場合、パケットは permit が見つかるまでアクセスグループに対して（以下に示す順で）評価されます。permit が検出されない場合、パケットはドロップされます。
- **match-all** キーワードがある場合、パケットはすべてのアクセスグループに対して（以下に示す順で）評価され、最後に成功した評価（ACL が設定されている最後のアクセスグループ）に基づいてアクションが実行されます。

アクセスグループとパケットのタイプのマッピングは次のとおりです。

- **peer** : クライアント、対称アクティブ、対称パッシブ、サービス、コントロール、およびプライベート パケット (すべてのタイプ) を処理
- **serve** : クライアント、コントロール、およびプライベート パケットを処理
- **serve-only** : クライアント パケットだけを処理
- **query-only** : コントロールおよびプライベート パケットだけを処理

アクセス グループは、次の降順で評価されます。

1. **peer** (すべてのパケット タイプ)
2. **serve** (クライアント、コントロール、およびプライベート パケット)
3. **query only** (クライアント パケット) または **query-only** (コントロールおよびプライベート パケット)

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config)# [no] ntp access-group match-all   {peer   serve   serve-only   query-only }access-list-name</code>	<p>NTP のアクセスを制御し、基本の IP アクセス リストを適用するためのアクセス グループを作成または削除します。</p> <p>アクセス グループのオプションは、次の順序で制限の緩いものから厳しいものへとスキャンされます。ただし、ピアに設定された拒否 ACL ルールに NTP が一致した場合、ACL 処理は停止し、次のアクセス グループ オプションへと継続しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>peer</b> キーワードは、デバイスが時刻要求と NTP 制御クエリーを受信し、アクセス リストで指定されているサーバと同期するようにします。</li> <li>• <b>serve</b> キーワードは、アクセス リストに指定されているサーバからの時刻要求と NTP 制御クエリーをデバイスが受信できるようにしますが、指定されたサーバとは同期しないようにします。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>serve-only</b> キーワードは、デバイスがアクセスリストで指定されたサーバからの時刻要求だけを受信するようにします。</li> <li>• <b>query-only</b> キーワードは、デバイスがアクセスリストで指定されたサーバからの NTP 制御クエリーのみを受信するようにします。</li> <li>• <b>match-all</b> キーワードを使用すると、アクセス グループ オプションが、制限の最も緩いものから最も厳しいもの、peer、serve、serve-only、query-only の順序でスキャンされるようにできます。着信パケットが peer アクセス グループの ACL に一致しない場合、パケットは serve アクセス グループに送信され、処理されます。パケットが serve アクセス グループの ACL に一致しない場合、serve-only アクセス グループに送られ、これが継続されます。</li> </ul> <p>(注) <b>match-all</b> キーワードは、Cisco NX-OS リリース 7.0(3)I6(1)以降で使用可能です。</p>
ステップ 3	switch(config)# <b>show ntp access-groups</b>	(任意) NTP アクセス グループのコンフィギュレーションを表示します。
ステップ 4	(任意) switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

## 例

次に、アクセスグループ「accesslist1」からピアと同期できるようデバイスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ntp access-group peer accesslist1
switch(config)# show ntp access-groups
Access List Type
```

```

-----
accesslist1 Peer
switch(config)# copy running-config startup-config
[#####] 100%
switch(config)#

```

## NTP ソース IP アドレスの設定

NTP は、NTP パケットが送信されたインターフェイスのアドレスに基づいて、すべての NTP パケットにソース IP アドレスを設定します。特定のソース IP アドレスを使用するよう NTP を設定できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	[no] <b>ntp source ip-address</b>	すべての NTP パケットにソース IP アドレスを設定します。ip-address には IPv4 または IPv6 形式を使用できます。

### 例

次に、NTP ソース IP アドレスに 192.0.2.2 を設定する例を示します。

```

switch# configure terminal
switch(config)# ntp source 192.0.2.2

```

## NTP ソース インターフェイスの設定

特定のインターフェイスを使用するよう NTP を設定できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	[no] <b>ntp source-interface interface</b>	すべての NTP パケットに対してソース インターフェイスを設定します。次のリストに、interface として有効な値を示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ethernet</li> <li>• loopback</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• mgmt</li> <li>• port-channel</li> <li>• vlan</li> </ul>

### 例

次に、NTP 送信元インターフェイスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ntp source-interface ethernet
```

## NTP ブロードキャスト サーバの設定

インターフェイス上で NTP IPv4 ブロードキャスト サーバを設定できます。デバイスは、そのインターフェイスを介してブロードキャストパケットを定期的送信します。クライアントは応答を送信する必要はありません。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>interface</b> <i>type slot/port</i>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	switch(config-if)# <b>[no] ntp broadcast</b> [ <b>destination</b> <i>ip-address</i> ] [ <b>key</b> <i>key-id</i> ] [ <i>version number</i> ]	指定されたインターフェイスの IPv4 NTP ブロードキャスト サーバをイネーブルにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>destination ip-address</b> : ブロードキャスト宛先 IP アドレスを設定します。</li> <li>• <b>key key-id</b> : ブロードキャスト認証キー番号を設定します。有効な範囲は 1 ~ 65535 です。</li> <li>• <b>version number</b> : NTP バージョンを設定します。範囲は 2 ~ 4 です。</li> </ul>
ステップ 4	switch(config-if)# <b>exit</b>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	(任意) <code>switch(config)# [no] ntp broadcastdelay delay</code>	推定のブロードキャストラウンドトリップ遅延をマイクロ秒単位で設定します。範囲は 1 ~ 999999 です。
ステップ 6	(任意) <code>switch(config)# copy running-config startup-config</code>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 例

次に、NTP ブロードキャスト サーバを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 6/1
switch(config-if)# ntp broadcast destination 192.0.2.10
switch(config-if)# exit
switch(config)# ntp broadcastdelay 100
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## NTP マルチキャスト サーバの設定

インターフェイスに対して NTP IPv4 または IPv6 マルチキャスト サーバを設定できます。デバイスは、そのインターフェイスを介してマルチキャスト パケットを定期的送信します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config)# interface type slot/port</code>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>switch(config-if)# [no] ntp multicast [ipv4-address   ipv6-address] [key key-id] [ttl value] [version number]</code>	指定したインターフェイスの NTP IPv4 または IPv6 マルチキャスト サーバをイネーブルにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>ipv4-address</code> または <code>ipv6-address</code> : マルチキャスト IPv4 または IPv6 アドレス。</li> <li>• <code>key key-id</code> : ブロードキャスト認証キー番号を設定します。有効な範囲は 1 ~ 65535 です。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>ttl value</i> : マルチキャストパケットの存続可能時間値。範囲は 1 ~ 255 です。</li> <li>• <i>version number</i> : NTP バージョン。範囲は 2 ~ 4 です。</li> </ul>
ステップ 4	(任意) <code>switch(config-if)# copy running-config startup-config</code>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 例

次に、NTP マルチキャストパケットを送信するようにイーサネットインターフェイスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/2
switch(config-if)# ntp multicast FF02::1:FF0E:8C6C
switch(config-if)# copy running-config startup-config
```

## NTP マルチキャストクライアントの設定

インターフェイス上で NTP マルチキャストクライアントを設定できます。デバイスは NTP マルチキャストメッセージをリッスンし、マルチキャストが設定されていないインターフェイスからのメッセージを廃棄します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config)# interface type slot/port</code>	インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	<code>switch(config-if)# [no] ntp multicast client [ipv4-address   ipv6-address]</code>	指定されたインターフェイスが NTP マルチキャストパケットを受信できるようにします。
ステップ 4	(任意) <code>switch(config-if)# copy running-config startup-config</code>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

## 例

次に、NTP マルチキャストパケットを受信するようにイーサネットインターフェイスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/3
switch(config-if)# ntp multicast client FF02::1:FF0E:8C6C
switch(config-if)# copy running-config startup-config
```

## NTP ログイングの設定

重要な NTP イベントでシステムログを生成するよう、NTP ログイングを設定できます。NTP ログイングはデフォルトでディセーブルになっています。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>[no] ntp logging</b>	重要な NTP イベントでシステムログを生成することをイネーブルまたはディセーブルにします。NTP ログイングはデフォルトでディセーブルになっています。
ステップ 3	(任意) switch(config)# <b>show ntp logging-status</b>	NTP ログイングのコンフィギュレーション 状況を表示します。
ステップ 4	(任意) switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

## 例

次に、重要な NTP イベントによってシステムログを生成するよう、NTP ログイングをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ntp logging
switch(config)# copy running-config startup-config
[#####] 100%
switch(config)#
```



## NTP 用の CFS 配信のイネーブル化

NTP コンフィギュレーションを他の CFS 対応デバイスに配信するために、NTP 用の CFS 配信をイネーブルにできます。

### 始める前に

デバイスの CFS 配信をイネーブルにしていることを確認します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>[no] ntp distribute</b>	CFS を介して配信される NTP コンフィギュレーションのアップデートをデバイスが受信することを、イネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 3	(任意) switch(config)# <b>show ntp status</b>	NTP CFS の配信状況を表示します。
ステップ 4	(任意) switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 例

次に、デバイスが CFS を介して NTP 設定の更新を受信できるようにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ntp distribute
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## NTP 設定変更のコミット

NTP コンフィギュレーションの変更をコミットすると、保留データベースのコンフィギュレーション変更によって有効なデータベースが上書きされ、ネットワーク内のすべてのデバイスが同じコンフィギュレーションを受け取ります。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>ntp commit</b>	ネットワーク内のすべての Cisco NX-OS デバイスに NTP コンフィギュレーションの変更を配信し、CFS ロックを解放します。このコマンドは、保留データベースに対して行われた変更によって、有効なデータベースを上書きします。

## NTP 設定変更の廃棄

コンフィギュレーション変更の後で、これらの変更をコミットせずに、破棄するよう選択することもできます。変更を破棄すると、Cisco NX-OS によって保留データベースの変更が削除され、CFS ロックが解放されます。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>ntp abort</b>	保留データベースで NTP コンフィギュレーションの変更を破棄して、CFS ロックを解放します。このコマンドは、NTP コンフィギュレーションを起動したデバイスで使います。

## CFS セッション ロックの解放

NTP コンフィギュレーションを実行したが、変更をコミットまたは破棄してロックを解放し忘れた場合は、自分で、または他の管理者がネットワーク内の任意のデバイスからロックを解放できます。また、この操作では、保留データベースの変更が破棄されます。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	switch(config)# <b>clear ntp session</b>	保留データベースで NTP コンフィギュレーションの変更を破棄して、CFS ロックを解放します。

## NTP の設定確認

コマンド	目的
<b>show ntp access-groups</b>	NTP アクセスグループのコンフィギュレーションを表示します。
<b>show ntp authentication-keys</b>	設定済みの NTP 認証キーを表示します。
<b>show ntp authentication-status</b>	NTP 認証の状況を表示します。
<b>show ntp logging-status</b>	NTP のロギング状況を表示します。
<b>show ntp peer-status</b>	すべての NTP サーバおよびピアのステータスを表示します。
<b>show ntp peer</b>	すべての NTP ピアを表示します。
<b>show ntp pending</b>	NTP 用の一時 CFS データベースを表示します。
<b>show ntp pending-diff</b>	保留 CFS データベースと現行の NTP コンフィギュレーションの差異を表示します。
<b>show ntp rts-update</b>	RTS アップデートの状況を表示します。
<b>show ntp session status</b>	NTPCFS 配信セッションの情報を表示します。
<b>show ntp source</b>	設定済みの NTP ソース IP アドレスを表示します。
<b>show ntp source-interface</b>	設定済みの NTP ソースインターフェイスを表示します。
<b>show ntp statistics {io   local   memory   peer {ipaddr {ipv4-addr}   name peer-name}}</b>	NTP 統計情報を表示します。
<b>show ntp status</b>	NTP CFS の配信状況を表示します。
<b>show ntp trusted-keys</b>	設定済みの NTP の信頼されているキーを表示します。
<b>show running-config ntp</b>	NTP 情報を表示します。

## NTP の設定例

### NTP の設定例

次に、NTP サーバおよびピアを設定し、NTP 認証をイネーブルにして、NTP ロギングをイネーブルにした後で、そのスタートアップの設定を保存し、リブートとリスタートを通して保存されるようにする例を示します。

```
switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# ntp server 192.0.2.105 key 42
switch(config)# ntp peer 192.0.2.105
switch(config)# show ntp peers
-----
Peer IP Address Serv/Peer
-----
192.0.2.100 Peer (configured)
192.0.2.105 Server (configured)
switch(config)# ntp authentication-key 42 md5 aNiceKey
switch(config)# show ntp authentication-keys
-----
Auth key MD5 String
-----
42 aNicekey
switch(config)# ntp trusted-key 42
switch(config)# show ntp trusted-keys
Trusted Keys:
42
switch(config)# ntp authenticate
switch(config)# show ntp authentication-status
Authentication enabled.
switch(config)# ntp logging
switch(config)# show ntp logging
NTP logging enabled.
switch(config)# copy running-config startup-config
[#####] 100%
switch(config)#
```

次に、以下の制約事項のある NTP アクセス グループの設定の例を示します。

- peer の制約事項は、「peer-acl」というアクセス リストの条件を満たす IP アドレスに適用されます。
- serve の制約事項は、「serve-acl」というアクセス リストの条件を満たす IP アドレスに適用されます。
- serve-only の制約事項は、「serve-only-acl」というアクセス リストの条件を満たす IP アドレスに適用されます。
- query-only の制約事項は、「query-only-acl」というアクセス リストの条件を満たす IP アドレスに適用されます。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ntp peer 10.1.1.1
switch(config)# ntp peer 10.2.2.2
```

```
switch(config)# ntp peer 10.3.3.3
switch(config)# ntp peer 10.4.4.4
switch(config)# ntp peer 10.5.5.5
switch(config)# ntp peer 10.6.6.6
switch(config)# ntp peer 10.7.7.7
switch(config)# ntp peer 10.8.8.8
switch(config)# ntp access-group peer peer-acl
switch(config)# ntp access-group serve serve-acl
switch(config)# ntp access-group serve-only serve-only-acl
switch(config)# ntp access-group query-only query-only-acl
switch(config)# ip access-list peer-acl
switch(config-acl)# 10 permit ip host 10.1.1.1 any
switch(config-acl)# 20 permit ip host 10.8.8.8 any
switch(config)# ip access-list serve-acl
switch(config-acl)# 10 permit ip host 10.4.4.4 any
switch(config-acl)# 20 permit ip host 10.5.5.5 any
switch(config)# ip access-list serve-only-acl
switch(config-acl)# 10 permit ip host 10.6.6.6 any
switch(config-acl)# 20 permit ip host 10.7.7.7 any
switch(config)# ip access-list query-only-acl
switch(config-acl)# 10 permit ip host 10.2.2.2 any
switch(config-acl)# 20 permit ip host 10.3.3.3 any
```





## 第 7 章

# ユーザアカウントおよび RBAC の設定

この章は、次の項で構成されています。

- [ユーザアカウントおよび RBAC の概要 \(89 ページ\)](#)
- [ユーザアカウントの注意事項および制約事項 \(93 ページ\)](#)
- [ユーザアカウントの設定 \(93 ページ\)](#)
- [RBAC の設定 \(96 ページ\)](#)
- [ユーザアカウントと RBAC の設定の確認 \(101 ページ\)](#)
- [ユーザアカウントおよび RBAC のユーザアカウントデフォルト設定 \(102 ページ\)](#)

## ユーザアカウントおよび RBAC の概要

Cisco Nexus シリーズ スイッチは、ロールベース アクセス コントロール (RBAC) を使用して、ユーザがスイッチにログインするときに各ユーザが持つアクセス権の量を定義します。

RBAC では、1 つまたは複数のユーザロールを定義し、各ユーザロールがどの管理操作を実行できるかを指定します。スイッチのユーザアカウントを作成するとき、そのアカウントにユーザロールを関連付けます。これにより個々のユーザがスイッチで行うことができる操作が決まります。

## ユーザロール

ユーザロールには、そのロールを割り当てられたユーザが実行できる操作を定義するルールが含まれています。各ユーザロールに複数のルールを含めることができ、各ユーザが複数のロールを持つことができます。たとえば、`role1` では設定操作へのアクセスだけが許可されており、`role2` ではデバッグ操作へのアクセスだけが許可されている場合、`role1` と `role2` の両方に属するユーザは、設定操作とデバッグ操作にアクセスできます。特定の、VLAN、およびインターフェイスへのアクセスを制限することもできます。

スイッチには、次のデフォルト ユーザ ロールが用意されています。

### **network-admin** (スーパーユーザ)

スイッチ全体に対する完全な読み取りと書き込みのアクセス権。

**network-operator**

スイッチに対する完全な読み取りアクセス権。



- (注) 複数のルールに属するユーザは、そのルールで許可されるすべてのコマンドの組み合わせを実行できます。コマンドへのアクセス権は、コマンドへのアクセス拒否よりも優先されます。たとえば、ユーザが、コンフィギュレーション コマンドへのアクセスが拒否されたルール A を持っていたとします。しかし、同じユーザが ルール B も持ち、このルールではコンフィギュレーション コマンドにアクセスできるとします。この場合、このユーザはコンフィギュレーション コマンドにアクセスできます。

## ルール

ルールは、ロールの基本要素です。ルールは、そのロールがユーザにどの操作の実行を許可するかを定義します。ルールは次のパラメータで適用できます。

### コマンド

正規表現で定義されたコマンドまたはコマンド グループ

### 機能

Cisco Nexus デバイスにより提供される機能に適用されるコマンド。**show role feature** コマンドを入力すると、このパラメータに指定できる機能名が表示されます。

### 機能グループ

機能のデフォルト グループまたはユーザ定義グループ **show role feature-group** コマンドを入力すると、このパラメータに指定できるデフォルトの機能グループが表示されます。

### OID

SNMP オブジェクト ID (OID)。

これらのパラメータは、階層状の関係を作成します。最も基本的な制御パラメータはコマンドです。次の制御パラメータは機能です。これは、その機能にアソシエートされているすべてのコマンドを表します。最後の制御パラメータが、機能グループです。機能グループは、関連する機能を組み合わせたものです。機能グループによりルールを簡単に管理できます。

SNMP OID は RBAC でサポートされています。SNMP OID に読み取り専用ルールまたは読み取り/書き込みルールを設定できます。

ロールごとに最大 256 のルールを設定できます。ルールが適用される順序は、ユーザ指定のルール番号で決まります。ルールは降順で適用されます。たとえば、1つのルールが3つのルールを持っている場合、ルール 3 がルール 2 よりも前に適用され、ルール 2 はルール 1 よりも前に適用されます。



## ユーザーロールポリシー

ユーザーがアクセスできるスイッチリソースを制限するために、またはインターフェイスとVLANへのアクセスを制限するために、ユーザーロールポリシーを定義できます。

ユーザーロールポリシーは、ロールに定義されているルールで制約されます。たとえば、特定のインターフェイスへのアクセスを許可するインターフェイスポリシーを定義した場合、**interface** コマンドを許可するコマンドルールをロールに設定しないと、ユーザーはインターフェイスにアクセスできません。

コマンドルールが特定のリソース（インターフェイス、VLAN、）へのアクセスを許可した場合、ユーザーがそのユーザーに関連付けられたユーザーロールポリシーに表示されていなくても、ユーザーはこれらのリソースへのアクセスを許可されます。

## ユーザーアカウントの設定の制限事項

次の語は予約済みであり、ユーザー設定に使用できません。

- adm
- bin
- daemon
- ftp
- ftpuser
- games
- gdm
- gopher
- halt
- lp
- mail
- mailnull
- man
- mtsuser
- news
- nobody
- san-admin
- shutdown
- sync
- sys

- uucp
- xfs



**注意** Cisco Nexus シリーズ スイッチでは、すべて数字のユーザ名が TACACS+ または RADIUS で作成されている場合でも、すべて数字のユーザ名はサポートされません。AAA サーバに数字だけのユーザ名が登録されていて、ログイン時に入力しても、スイッチはログイン要求を拒否します。

## ユーザパスワードの要件

Cisco Nexus デバイス パスワードには大文字小文字の区別があり、英数字だけを含むことができます。ドル記号 (\$) やパーセント記号 (%) などの特殊文字は使用できません。

パスワードが脆弱な場合（短い、解読されやすいなど）、Cisco Nexus デバイスはパスワードを拒否します。各ユーザアカウントには強力なパスワードを設定するようにしてください。強力なパスワードは、次の特性を持ちます。

- 長さが 8 文字以上である
- 複数の連続する文字（「abcd」など）を含んでいない
- 複数の同じ文字の繰り返し（「aaabbb」など）を含んでいない
- 辞書に載っている単語を含んでいない
- 固有名詞を含んでいない
- 大文字および小文字の両方が含まれている
- 数字が含まれている

強力なパスワードの例を次に示します。

- If2CoM18
- 2009AsdfLkj30
- Cb1955S21



**(注)** セキュリティ上の理由から、ユーザパスワードはコンフィギュレーションファイルに表示されません。

## ユーザアカウントの注意事項および制約事項

ユーザアカウントおよびRBACを設定する場合、ユーザアカウントには次の注意事項および制約事項があります。

- 最大 256 個のルールをユーザ ロールに追加できます。
- 最大 64 個のユーザ ロールをユーザアカウントに割り当てることができます。
- 1 つのユーザ ロールを複数のユーザアカウントに割り当てることができます。
- network-admin、network-operator、san-admin などの事前定義されたロールは編集不可です。
- ルールの追加、削除、編集は、SAN 管理者ユーザ ロールではサポートされません。
- インターフェイス、VLAN、または VSAN 範囲は SAN 管理者ユーザ ロールでは変更できません。



(注) ユーザアカウントは、少なくとも 1 つのユーザ ロールを持たなければなりません。

## ユーザアカウントの設定



(注) ユーザアカウントの属性に加えられた変更は、そのユーザがログインして新しいセッションを作成するまで有効になりません。

ユーザ名の最初の文字として、任意の英数字または \_ (アンダースコア) を使用できます。最初の文字にその他の特殊文字を使用することはできません。ユーザ名に許可されていない文字が含まれている場合、指定したユーザはログインできません。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	(任意) switch(config)# <b>show role</b>	使用可能なユーザロールを表示します。必要に応じて、他のユーザ ロールを設定できます。
ステップ 3	switch(config) # <b>username user-id [ password password] [ expire date] [ role role-name]</b>	ユーザアカウントを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p><i>user-id</i> は、最大 28 文字の英数字の文字列で、大文字と小文字が区別されます。</p> <p>デフォルトの <i>password</i> は定義されていません。</p> <p>(注) パスワードを指定しなかった場合、ユーザはスイッチにログインできない場合があります。</p> <p>(注) リリース 7.0(3)I2(1)以降では、パスワード強度をチェックするための新しい内部関数が実装されています。リリース 7.0(3)I2(1) の Cisco Nexus 3000 シリーズプラットフォームでパスワード強度チェックを有効にすると、以前のリリースとは異なる基準が適用されます。</p> <p><i>expire date</i> オプションのフォーマットは YYYY-MM-DD です。デフォルトでは、失効日はありません。</p>
ステップ 4	switch(config) # <b>exit</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	(任意) switch# <b>show user-account</b>	ロール設定を表示します。
ステップ 6	(任意) switch# <b>copy running-config startup-config</b>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

## 例

次に、ユーザアカウントを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# username NewUser password 4Ty18Rnt
switch(config)# exit
switch# show user-account
```

次に、リリース 7.0(3)I2(1)以降でパスワード強度チェックを有効にする基準の例を示します。

```
switch(config)# username xyz password nbv12345
password is weak
Password should contain characters from at least three of the following classes: lower
case letters, upper case letters, digits and special characters.
switch(config)# username xyz password Nbv12345
password is weak
it is too simplistic/systematic
switch(config)#
```

## SAN 管理者ユーザの設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>username user-id role san-admin password password</b>	指定したユーザに対する SAN 管理者ユーザ ロールのアクセス権を設定します。
ステップ 3	(任意) switch(config) # <b>show user-account</b>	ロール設定を表示します。
ステップ 4	(任意) switch(config) # <b>show snmp-user</b>	SNMP ユーザの設定を表示します。
ステップ 5	(任意) switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 例

次に、SAN 管理者ユーザを設定し、ユーザアカウントおよび SNMP ユーザ設定を表示する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# username user1 role san-admin password xyz123
switch(config)# show user-account
user:admin
    this user account has no expiry date
    roles:network-admin
user:user1
    this user account has no expiry date
    roles:san-admin
switch(config) # show snmp user
```

---

SNMP USERS

---

User	Auth	Priv(enforce)	Groups

```
admin    md5    des(no)    network-admin
user1    md5    des(no)    san-admin
```

---

NOTIFICATION TARGET USES (configured for sending V3 Inform)

---

```
User      Auth      Priv
-----
switch(config) #
```

## RBAC の設定

### ユーザ ロールおよびルールの作成

指定したルール番号は、ルールが適用される順番を決定します。ルールは降順で適用されます。たとえば、1つのロールが3つのルールを持っている場合、ルール3がルール2よりも前に適用され、ルール2はルール1よりも前に適用されます。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>role name role-name</b>	ユーザ ロールを指定し、ロール コンフィギュレーションモードを開始します。  <i>role-name</i> 引数は、最大 16 文字の英数字の文字列で、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	switch(config-role) # <b>rule number {deny   permit} command command-string</b>	コマンド ルールを設定します。  <i>command-string</i> には、スペースおよび正規表現を含めることができます。たとえば、「interface ethernet *」は、すべてのイーサネットインターフェイスが含まれます。  必要な規則の数だけこのコマンドを繰り返します。
ステップ 4	switch(config-role)# <b>rule number {deny   permit} {read   read-write}</b>	すべての操作の読み取り専用ルールまたは読み取り/書き込みルールを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<code>switch(config-role)# rule number {deny   permit} {read   read-write} feature feature-name</code>	機能に対して、読み取り専用規則か読み取りと書き込みの規則かを設定します。  機能リストを表示するには、 <b>show role feature</b> コマンドを使用します。  必要な規則の数だけこのコマンドを繰り返します。
ステップ 6	<code>switch(config-role)# rule number {deny   permit} {read   read-write} feature-group group-name</code>	機能グループに対して、読み取り専用規則か読み取りと書き込みの規則かを設定します。  機能グループのリストを表示するには、 <b>show role feature-group</b> コマンドを使用します。  必要な規則の数だけこのコマンドを繰り返します。
ステップ 7	(任意) <code>switch(config-role)# description text</code>	ロールの説明を設定します。説明にはスペースも含めることができます。
ステップ 8	<code>switch(config-role)# end</code>	ロールコンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 9	(任意) <code>switch# show role</code>	ユーザロールの設定を表示します。
ステップ 10	(任意) <code>switch# copy running-config startup-config</code>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

例

次に、ユーザロールを作成してルールを指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# role name UserA
switch(config-role)# rule deny command clear users
switch(config-role)# rule deny read-write
switch(config-role)# description This role does not allow users to use clear commands
switch(config-role)# end
switch(config)# show role
```

## 機能グループの作成

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>role feature-group group-name</b>	ユーザロール機能グループを指定して、ロール機能グループ コンフィギュレーション モードを開始します。  <i>group-name</i> は、最大 32 文字の英数字の文字列で、大文字と小文字が区別されません。
ステップ 3	switch(config) # <b>exit</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(任意) switch# <b>show role feature-group</b>	ロール機能グループ設定を表示します。
ステップ 5	(任意) switch# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 例

次に、機能グループを作成する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # role feature-group group1
switch(config) # exit
switch# show role feature-group
switch# copy running-config startup-config
switch#
```

## ユーザ ロール インターフェイス ポリシーの変更

ユーザロールインターフェイスポリシーを変更することで、ユーザがアクセスできるインターフェイスを制限できます。ロールがアクセスできるインターフェイスのリストを指定します。これを必要なインターフェイスの数だけ指定できます。



手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>role name role-name</b>	ユーザ ロールを指定し、ロール コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	switch(config-role) # <b>interface policy deny</b>	ロールインターフェイス ポリシー コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	switch(config-role-interface) # <b>permit interface interface-list</b>	<p>ロールがアクセスできるインターフェイスのリストを指定します。</p> <p>必要なインターフェイスの数だけこのコマンドを繰り返します。</p> <p>このコマンドの場合、イーサネットインターフェイスを指定できます。</p>
ステップ 5	switch(config-role-interface) # <b>exit</b>	ロールインターフェイス ポリシー コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 6	(任意) switch(config-role) # <b>show role</b>	ロール設定を表示します。
ステップ 7	(任意) switch(config-role) # <b>copy running-config startup-config</b>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

例

次に、ユーザがアクセスできるインターフェイスを制限するために、ユーザロールインターフェイス ポリシーを変更する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# role name UserB
switch(config-role)# interface policy deny
switch(config-role-interface)# permit interface ethernet 2/1
switch(config-role-interface)# permit interface fc 3/1
switch(config-role-interface)# permit interface vfc 30/1
```

## ユーザロールVLANポリシーの変更

ユーザロールVLANポリシーを変更することで、ユーザがアクセスできるVLANを制限できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>role name role-name</b>	ユーザロールを指定し、ロール コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	switch(config-role) # <b>vlan policy deny</b>	ロールVLANポリシー コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	switch(config-role-vlan) # <b>permit vlan vlan-list</b>	ロールがアクセスできるVLANの範囲を指定します。 必要なVLANの数だけこのコマンドを繰り返します。
ステップ 5	switch(config-role-vlan) # <b>exit</b>	ロールVLANポリシー コンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 6	(任意) switch# <b>show role</b>	ロール設定を表示します。
ステップ 7	(任意) switch# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

## ユーザロールVLANポリシーの変更

ユーザロールVLANポリシーを変更して、ユーザがアクセスできるVLANを制限できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	switch(config-role) # <b>role name</b> <i>role-name</i>	ユーザ ロールを指定し、ロール コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	switch(config-role) # <b>vsan policy deny</b>	ロール VSAN ポリシー コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	switch(config-role-vsan) # <b>permit vsan</b> <i>vsan-list</i>	ロールがアクセスできる VSAN 範囲を指定します。 必要な VSAN の数だけ、このコマンドを繰り返します。
ステップ 5	switch(config-role-vsan) # <b>exit</b>	ロール VSAN ポリシー コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 6	(任意) switch# <b>show role</b>	ロール設定を表示します。
ステップ 7	(任意) switch# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

## ユーザアカウントとRBACの設定の確認

次のいずれかのコマンドを使用して、設定を確認します。

コマンド	目的
<b>show role</b> [ <i>role-name</i> ]	ユーザ ロールの設定を表示します。
<b>show role feature</b>	機能リストを表示します。
<b>show role feature-group</b>	機能グループの設定を表示します。
<b>show startup-config security</b>	スタートアップコンフィギュレーションのユーザアカウント設定を表示します。
<b>show running-config security</b> [all]	実行コンフィギュレーションのユーザアカウント設定を表示します。all キーワードを指定すると、ユーザアカウントのデフォルト値が表示されます。
<b>show user-account</b>	ユーザアカウント情報を表示します。

## ユーザアカウントおよび RBAC のユーザアカウント デフォルト設定

次の表に、ユーザアカウントおよび RBAC パラメータのデフォルト設定を示します。

表 5: デフォルトのユーザアカウントおよび RBAC パラメータ

パラメータ (Parameters)	デフォルト
ユーザアカウントパスワード	未定義。
ユーザアカウントの有効期限	なし。
インターフェイス ポリシー	すべてのインターフェイスにアクセス可能。
VLAN ポリシー	すべての VLAN にアクセス可能。
VFC ポリシー	すべての VFC にアクセス可能。
VETH ポリシー	すべての VETH にアクセス可能。



## 第 8 章

# システム メッセージ ログイングの設定

この章は、次の項で構成されています。

- システム メッセージ ログイングの概要 (103 ページ)
- システム メッセージ ログイングのライセンス要件 (105 ページ)
- システム メッセージ ログイングの注意事項および制約事項 (105 ページ)
- システム メッセージ ログイングのデフォルト設定 (105 ページ)
- システム メッセージ ログイングの設定 (106 ページ)
- システム メッセージ ログイングの設定確認 (125 ページ)

## システム メッセージ ログイングの概要

システムメッセージログイングを使用して宛先を制御し、システムプロセスが生成するメッセージの重大度をフィルタリングできます。端末セッション、ログファイル、およびリモートシステム上の Syslog サーバへのログイングを設定できます。

システムメッセージログイングは [RFC 3164](#) に準拠しています。システムメッセージのフォーマットおよびデバイスが生成するメッセージの詳細については、『*Cisco NX-OS System Messages Reference*』を参照してください。

デフォルトでは、Cisco Nexus デバイスはメッセージをターミナルセッションへ出力します。

デフォルトでは、スイッチはシステムメッセージをログファイルに記録します。

次の表に、システムメッセージで使用されている重大度を示します。重大度を設定する場合、システムはそのレベル以下のメッセージを出力します。

表 6: システムメッセージの重大度

レベル	説明
0: 緊急	システムが使用不可
1: アラート	即時処理が必要
2: クリティカル	クリティカル状態

レベル	説明
3 : エラー	エラー状態
4 : 警告	警告状態
5 : 通知	正常だが注意を要する状態
6 : 情報	単なる情報メッセージ
7 : デバッグ	デバッグ実行時にのみ表示

重大度 0、1、または 2 の最新のメッセージを 100 個まで不揮発性 RAM (NVRAM) ログに記録します。NVRAM へのロギングは設定できません。

メッセージを生成したファシリティと重大度に基づいて記録するシステムメッセージを設定できます。

## Syslog サーバ

syslog サーバは、syslog プロトコルに基づいてシステムメッセージを記録するよう設定されたリモートシステムで稼働します。最大 8 台の syslog サーバにログを送信するように Cisco Nexus シリーズ スイッチを設定できます。

ファブリック内のすべてのスイッチで syslog サーバの同じ設定をサポートするために、Cisco Fabric Services (CFS) を使用して syslog サーバ設定を配布できます。



- (注) スイッチを最初に初期化する場合、ネットワークが初期化されてからメッセージが Syslog サーバに送信されます。

## セキュアな Syslog サーバ

Cisco NX-OS リリース 9.2(1) 以降では、リモートロギングサーバへのセキュアな TLS トランスポート接続をサポートするように Syslog サーバを設定できます。さらに、相互認証の設定によって NX-OS スイッチ (クライアント) のアイデンティティを強化することができます。NX-OS スイッチの場合、この機能は TLSv1.1 および TLSv1.2 をサポートします。

セキュアな Syslog サーバの機能では、デバイス認証および暗号化を提供するために TCP/TLS トランスポートおよびセキュリティプロトコルを使用します。この機能を使用すると、(クライアントとして機能している) Cisco NX-OS デバイスが、ロギングにセキュアな接続をサポートする (サーバとして機能している) リモート Syslog サーバに対してセキュアな暗号化されたアウトバウンド接続を確立できるようになります。認証と暗号化により、この機能では、セキュリティ保護されていないネットワーク上でもセキュアな通信を実現できます。

## システムメッセージロギングのライセンス要件

製品	ライセンス要件
Cisco NX-OS	システムメッセージロギングにライセンスは不要です。ライセンスパッケージに含まれていない機能はすべて Cisco NX-OS システムイメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。NX-OS ライセンス方式の詳細については、『 <i>Cisco NX-OS Licensing Guide</i> 』を参照してください。

## システムメッセージロギングの注意事項および制約事項

システムメッセージロギングには、次の注意事項と制約事項があります。

- システムメッセージは、デフォルトでコンソールおよびログファイルに記録されます。
- Cisco Nexus 3000 シリーズのプラットフォームの Syslog は、MAC の衝突イベントを示します。syslog メッセージには、送信元 MAC アドレス、VLAN、内部ポートの番号情報などの詳細が含まれています。さまざまなセットアップで観察されるように、テーブルの使用率が約 75 % になると、MAC の衝突は普通に発生し、予想されるものです。次の syslog の例を参照してください。 2015 Mar 26 06:20:37  
switch%-SLOT1-5-BCM\_L2\_HASH\_COLLISION: L2 ENTRY unit=0  
mac=00:11:11:f7:46:40 vlan=1998 port=0x0800082e.
- Cisco NX-OS リリース 9.2(1) 以降では、リモートロギングサーバへのセキュアな TLS トランスポート接続をサポートするように Syslog サーバを設定できます。この機能は、TLSv1.1 および TLSv1.2 をサポートします。

## システムメッセージロギングのデフォルト設定

次の表に、システムメッセージロギングパラメータのデフォルト設定を示します。

表 7: デフォルトのシステムメッセージロギングパラメータ

パラメータ (Parameters)	デフォルト
コンソールロギング	重大度 2 でイネーブル
モニタロギング	重大度 2 でイネーブル
ログファイルロギング	重大度 5 のメッセージロギングがイネーブル

パラメータ (Parameters)	デフォルト
モジュール ログ	重大度 5 でイネーブル
ファシリティ ログ	イネーブル
タイムスタンプ単位	秒
Syslog サーバ ログ	ディセーブル
Syslog サーバ設定の配布	ディセーブル

## システムメッセージログの設定

### ターミナルセッションへのシステムメッセージログの設定

コンソール、Telnet、およびセキュアシェルセッションに対する重大度によって、メッセージを記録するようスイッチを設定できます。

デフォルトでは、ターミナルセッションでログはイネーブルです。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>terminal monitor</b>	コンソールから現在の端末セッションに syslog メッセージをコピーします。
ステップ 2	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	switch(config)# <b>logging console</b> [severity-level]	指定された重大度（またはそれ以上）に基づくコンソールセッションへのメッセージの記録をイネーブルにします（数字が小さいほうが重大度が高いことを示します）。重大度は 0～7 の範囲です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0：緊急</li> <li>• 1：アラート</li> <li>• 2：クリティカル</li> <li>• 3：エラー</li> <li>• 4：警告</li> <li>• 5：通知</li> </ul>



	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 6 : 情報</li> <li>• 7 : デバッグ</li> </ul> <p>重大度が指定されていない場合、デフォルトの 2 が使用されます。</p>
ステップ 4	(任意) <code>switch(config)# no logging console [severity-level]</code>	コンソールへのログメッセージをディセーブルにします。
ステップ 5	<code>switch(config)# logging monitor [severity-level]</code>	<p>指定された重大度（またはそれ以上）に基づくモニタへのメッセージの記録をイネーブルにします（数字が小さいほうが重大度が高いことを示します）。重大度は 0 ~ 7 の範囲です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 : 緊急</li> <li>• 1 : アラート</li> <li>• 2 : クリティカル</li> <li>• 3 : エラー</li> <li>• 4 : 警告</li> <li>• 5 : 通知</li> <li>• 6 : 情報</li> <li>• 7 : デバッグ</li> </ul> <p>重大度が指定されていない場合、デフォルトの 2 が使用されます。</p> <p>設定は Telnet および SSH セッションに適用されます。</p>
ステップ 6	(任意) <code>switch(config)# no logging monitor [severity-level]</code>	Telnet および SSH セッションへのメッセージログをディセーブルにします。
ステップ 7	(任意) <code>switch# show logging console</code>	コンソールログ設定を表示します。
ステップ 8	(任意) <code>switch# show logging monitor</code>	モニタ ログ設定を表示します。
ステップ 9	(任意) <code>switch# copy running-config startup-config</code>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

**例**

次に、コンソールのロギング レベルを 3 に設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging console 3
```

次に、コンソールのロギングの設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging console
Logging console:                enabled (Severity: error)
```

次に、コンソールのロギングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no logging console
```

次に、ターミナルセッションのロギング レベルを 4 に設定する例を示します。

```
switch# terminal monitor
switch# configure terminal
switch(config)# logging monitor 4
```

次に、ターミナルセッションのロギングの設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging monitor
Logging monitor:                enabled (Severity: warning)
```

次に、ターミナルセッションのロギングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no logging monitor
```

## ファイルへのシステムメッセージ ロギングの設定

システムメッセージをファイルに記録するようスイッチを設定できます。デフォルトでは、システムメッセージはファイル log:messages に記録されます。

**手順**

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>logging logfile logfile-name severity-level [ size bytes]</b>	システム メッセージを保存するのに使用するログ ファイルの名前と、記録す

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>る最小重大度を設定します。任意で最大ファイルサイズを指定できます。デフォルトの重大度は5です。ファイルサイズは4194304です。</p> <p>重大度は0～7の範囲です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 : 緊急</li> <li>• 1 : アラート</li> <li>• 2 : クリティカル</li> <li>• 3 : エラー</li> <li>• 4 : 警告</li> <li>• 5 : 通知</li> <li>• 6 : 情報</li> <li>• 7 : デバッグ</li> </ul> <p>ファイルサイズは4096～10485760バイトです。</p>
ステップ 3	(任意) switch(config)# <b>no logging logfile</b> [logfile-name severity-level [ size bytes]]	ログファイルへのロギングをディセーブルにします。任意で最大ファイルサイズを指定できます。デフォルトの重大度は5です。ファイルサイズは4194304です。
ステップ 4	(任意) switch# <b>show logging info</b>	ロギング設定を表示します。任意で最大ファイルサイズを指定できます。デフォルトの重大度は5です。ファイルサイズは4194304です。
ステップ 5	(任意) switch# <b>copy running-config startup-config</b>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

### 例

次に、システムメッセージをファイルに記録するようスイッチを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging logfile my_log 6 size 4194304
```

次の例は、ログ設定の表示方法を示しています（簡潔にするため、一部の出力が削除されています）。

```
switch# show logging info
Logging console:          enabled (Severity: debugging)
Logging monitor:         enabled (Severity: debugging)

Logging timestamp:       Seconds
Logging server:          disabled
Logging logfile:         enabled
Name - my_log: Severity - informational Size - 4194304
Facility      Default Severity      Current Session Severity
-----
aaa           3           3
aclmgr        3           3
afm           3           3
altos         3           3
auth          0           0
authpriv     3           3
bootvar      5           5
callhome     2           2
capability   2           2
cdp          2           2
cert_enroll  2           2
...
```

## モジュールおよびファシリティメッセージのログの設定

モジュールおよびファシリティに基づいて記録するメッセージの重大度およびタイムスタンプの単位を設定できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>logging module</b> [severity-level]	指定された重大度またはそれ以上の重大度であるモジュールログメッセージをイネーブルにします。重大度は0～7の範囲です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 : 緊急</li> <li>• 1 : アラート</li> <li>• 2 : クリティカル</li> <li>• 3 : エラー</li> <li>• 4 : 警告</li> <li>• 5 : 通知</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 6 : 情報</li> <li>• 7 : デバッグ</li> </ul> <p>重大度が指定されていない場合、デフォルトの 5 が使用されます。</p>
ステップ 3	<code>switch(config)# logging level facility severity-level</code>	<p>指定された重大度またはそれ以上の重大度である指定のファシリティからのログメッセージをイネーブルにします。重大度は 0 ~ 7 です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 : 緊急</li> <li>• 1 : アラート</li> <li>• 2 : クリティカル</li> <li>• 3 : エラー</li> <li>• 4 : 警告</li> <li>• 5 : 通知</li> <li>• 6 : 情報</li> <li>• 7 : デバッグ</li> </ul> <p>同じ重大度をすべてのファシリティに適用するには、<b>all</b> ファシリティを使用します。デフォルト値については、<b>show logging level</b> コマンドを参照してください。</p> <p>(注) リリース 7.0(3)I2(1) 以降、<b>BCM_USD</b>、<b>ETHPC</b>、<b>FWM</b>、および <b>NOHMS</b> プロセスのログレベルは設定できません。<b>BCM_USD</b> プロセスの場合、<b>attach module 1</b> コマンドを使用して、ログレベルを設定します。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) コンポーネントの現行セッションの重大度がデフォルトの重大度と同じ場合には、実行中のコンフィギュレーションでそのコンポーネントのログレベルが表示されないことが予想されます。デフォルトのログレベルは、実行中のコンフィギュレーションでは表示されませんが、 <b>show logging level</b> コマンドで表示されます。
ステップ 4	(任意) switch(config)# <b>no logging module</b> [severity-level]	モジュール ログ メッセージをディセーブルにします。
ステップ 5	(任意) switch(config)# <b>no logging level</b> [facility severity-level]	指定されたファシリティのログギング重大度をデフォルト レベルにリセットします。ファシリティおよび重大度を指定しないと、スイッチはすべてのファシリティをデフォルト レベルにリセットします。
ステップ 6	(任意) switch# <b>show logging module</b>	モジュールログギング設定を表示します。
ステップ 7	(任意) switch# <b>show logging level</b> [facility]	ファシリティごとに、ログギング レベル設定およびシステムのデフォルトレベルを表示します。ファシリティを指定しないと、スイッチはすべてのファシリティのレベルを表示します。
ステップ 8	(任意) switch# <b>copy running-config startup-config</b>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

### 例

次に、モジュールおよび特定のファシリティメッセージの重大度を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging module 3
switch(config)# logging level aaa 2
```

## ログ タイムスタンプの設定

Cisco Nexus シリーズ スイッチによって記録されるメッセージのタイムスタンプの単位を設定できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>logging timestamp</b> {microseconds   milliseconds   seconds}	ログ タイムスタンプ単位を設定します。デフォルトでは、単位は秒です。
ステップ 3	(任意) switch(config)# <b>no logging timestamp</b> {microseconds   milliseconds   seconds}	ログ タイムスタンプ単位をデフォルトの秒にリセットします。
ステップ 4	(任意) switch# <b>show logging timestamp</b>	設定されたログ タイムスタンプ単位を表示します。
ステップ 5	(任意) switch# <b>copy running-config startup-config</b>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

### 例

次に、メッセージのタイムスタンプ単位を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging timestamp milliseconds
switch(config)# exit
switch# show logging timestamp
Logging timestamp:                Milliseconds
```

## ACL ログ キャッシュの設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>logging ip access-list cache entries num_entries</b>	ソフトウェア内にキャッシュする最大ログ エントリ数を設定します。範囲は 0

	コマンドまたはアクション	目的
		～1000000 エントリです。デフォルト値は 8000 エントリです。
ステップ 3	<code>switch(config)# logging ip access-list cache interval seconds</code>	ログの更新の間隔を秒数で設定します。この時間中エントリが非アクティブの場合、キャッシュから削除されます。指定できる範囲は 5～86400 秒です。デフォルト値は 300 秒です。
ステップ 4	<code>switch(config)# logging ip access-list cache threshold num_packets</code>	エントリがログに記録されるまでに一致するパケット数を設定します。範囲は 0～1000000 パケットです。デフォルト値は 0 パケットです。つまり、パケットの一致数によってロギングがトリガーされることはありません。
ステップ 5	(任意) <code>switch(config)# copy running-config startup-config</code>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 例

次に、ログ エントリの最大数を 5000、間隔を 120 秒、しきい値を 500000 に設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging ip access-list cache entries 5000
switch(config)# logging ip access-list cache interval 120
switch(config)# logging ip access-list cache threshold 500000
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## インターフェイスへの ACL ロギングの適用

### 始める前に

- ロギング用に設定された少なくとも 1 つのアクセス コントロール エントリ (ACE) で IP アクセス リストを作成します。
- ACL ロギング キャッシュを設定します。
- ACL ログの一致レベルを設定します。



## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>interface mgmt0</b>	mgmt0 インターフェイスを指定します。
ステップ 3	switch(config-if)# <b>ip access-group name in</b>	指定したインターフェイスの入力トラフィックで ACL ロギングをイネーブルにします。
ステップ 4	(任意) switch(config-if)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

## 例

次に、すべての入力トラフィックに対して acl1 で指定されたロギングに mgmt0 インターフェイスを適用する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface mgmt0
switch(config-if)# ip access-group acl1 in
switch(config-if)# copy running-config startup-config
```

## Source-Interface ロギングの設定

syslog メッセージがどのインターフェイスを使用してルータを出るかにかかわらず、syslog サーバに送信されるすべてのシステム ロギング (syslog) メッセージに、送信元アドレスと同じ IP アドレスを含めるように設定できます。送信元インターフェイスで指定されている syslog パケットにユーザ設定の送信元 IP を設定できます。



(注) 有効な IP アドレスが割り当てられていない場合、syslog が作成され、メッセージが出口インターフェイス IP アドレスとともに送信されます。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	switch(config)# <b>[no] logging source-interface [ ethernet slot/port   loopback interface-number   mgmt interface-number   port-channel port channel-number   vlan interface-number   tunnel interface-number]</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ethernet</b> : イーサネット オプションの送信元インターフェイスの範囲は 1 ~ 253 です。</li> <li>• <b>loopback</b> : ループバック オプションの送信元インターフェイスの範囲は 1 ~ 1023 です。</li> <li>• <b>mgmt</b> : 管理オプションの送信元インターフェイスのインターフェイス番号は 0 です。</li> <li>• <b>port-channel</b> : ポートチャネルオプションの送信元インターフェイスの範囲は 1 ~ 4096 です。</li> </ul>
ステップ 3	(任意) switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 例

次に、送信元インターフェイスをイーサネットインターフェイスとして設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging source-interface ethernet 2/1
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## ACL ログの一致レベルの設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>acllog match-log-level number</b>	ACL ログ (acllog) で記録されるエントリと一致するようにログ レベルを指定します。 <i>number</i> は 0 ~ 7 までの値です。デフォルト値は 6 です。

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) ログに入力するログメッセージでは、ACL ログ ファシリティ (acllog) のログレベルとログファイルのロギング重大度は、ACL ログの一致ログレベル設定よりも大きいか、同じです。詳細については、 <a href="#">モジュールおよびファシリティメッセージのロギングの設定 (110ページ)</a> および <a href="#">ファイルへのシステムメッセージロギングの設定 (108ページ)</a> を参照してください。
ステップ 3	(任意) <code>switch(config)# copy running-config startup-config</code>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

## syslog サーバの設定

システムメッセージを記録する、リモートシステムを参照する syslog サーバを最大で 8 台設定できます。



- (注) シスコは、管理仮想ルーティングおよび転送 (VRF) インスタンスを使用するサーバとして、syslog サーバを設定することを推奨します。VRF の詳細情報については、『[Cisco Nexus 3000 Series NX-OS Unicast Routing Configuration Guide](#)』を参照してください。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例： <code>switch# configure terminal</code> <code>switch(config)#</code>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<b>logging server host [severity-level [ use-vrf vrf-name [ facility facility]]]</b> 例：	ホストが syslog メッセージを受信するように設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>switch(config)# logging server 172.28.254.254 5 use-vrf default facility local3</pre>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>host</i> 引数は、syslog サーバホストのホスト名または IPv4 または IPv6 アドレスを示します。</li> <li>• <i>severity-level</i> 引数は、指定したレベルに syslog サーバへのメッセージのロギングを制限します。重大度は 0 ~ 7 の範囲です。表 6: システムメッセージの重大度 (103 ページ) を参照してください。</li> <li>• <b>use vrf vrf-name</b> キーワードと引数は、Virtual Routing and Forwarding (VRF) 名の <i>default</i> または <i>management</i> 値を示します。特定の VRF が指定されない場合は、<i>management</i> がデフォルトです。ただし、<i>management</i> が設定されているときは、それがデフォルトであるため、<b>show-running</b> コマンドの出力には表示されません。特定の VRF が設定されている場合、<b>show-running</b> コマンドの出力には、各サーバの VRF が表示されます。  (注) 現在の Cisco Fabric Services (CFS) 配信では VRF をサポートしていません。CFS 配信がイネーブルの場合、デフォルト VRF で設定されているロギングサーバは管理 VRF として配布されます。</li> <li>• <i>facility</i> 引数は syslog ファシリティタイプを指定します。デフォルトの発信ファシリティは <i>local7</i> です。  ファシリティは、使用している Cisco Nexus シリーズ ソフトウェアのコマンドリファレンスに記載されています。</li> </ul> <p>(注) デバッグは CLI ファシリティですが、デバッグの syslog はサーバに送信されません。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	(任意) <b>no logging server host</b> 例： switch(config)# no logging server 172.28.254.254 5	指定されたホストのログ サーバを削除します。
ステップ 4	(任意) <b>show logging server</b> 例： switch# show logging server	Syslog サーバ設定を表示します。
ステップ 5	(任意) <b>copy running-config startup-config</b> 例： switch(config)# copy running-config startup-config	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 例

次に、syslog サーバを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging server 172.28.254.254 5
use-vrf default facility local3
```

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging server 172.28.254.254 5 use-vrf management facility local3
```

## UNIX または Linux システムでの syslog の設定

/etc/syslog.conf ファイルに次の行を追加して、UNIX または Linux システム上に syslog サーバを設定できます。

```
facility.level <five tab characters> action
```

次の表に、設定可能な syslog フィールドを示します。

表 8: *syslog.conf* の *syslog* フィールド

フィールド	説明
Facility	メッセージの作成者。auth、authpriv、cron、daemon、kern、lpr、mail、mark、news、syslog、user、local0～local7 です。アスタリスク (*) を使用するとすべてを指定します。これらのファシリティ指定により、発信元に基づいてメッセージの宛先を制御できます。  (注) ローカル ファシリティを使用する前に設定をチェックします。

フィールド	説明
Level	メッセージを記録する最小重大度。debug、info、notice、warning、err、crit、alert、emerg です。アスタリスク (*) を使用するとすべてを指定します。none を使用するとファシリティをディセーブルにできます。
Action	メッセージの宛先。ファイル名、前にアットマーク (@) が付いたホスト名、カンマで区切られたユーザリストです。アスタリスク (*) を使用するとすべてのログインユーザを指定します。

### 手順

**ステップ 1** /etc/syslog.conf ファイルに次の行を追加して、ファイル /var/log/myfile.log に local7 ファシリティのデバッグメッセージを記録します。

```
debug.local7                /var/log/myfile.log
```

**ステップ 2** シェルプロンプトで次のコマンドを入力して、ログファイルを作成します。

```
$ touch /var/log/myfile.log
$ chmod 666 /var/log/myfile.log
```

**ステップ 3** 次のコマンドを入力して、システムメッセージログGING デーモンが myfile.log をチェックして、新しい変更を取得するようにします。

```
$ kill -HUP ~cat /etc/syslog.pid~
```

## セキュアな Syslog サーバの設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<b>[no] logging server host [severity-level [port port-number]][secure[trustpoint client-identity trustpoint-name]][use-vrf vrf-name]]</b> 例：	指定されたホスト名、あるいは IPv4 または IPv6 アドレスで Syslog サーバを設定します。必要に応じて、CA によって署名されるクライアントアイデンティティ証明書をインストールし、trustpoint

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>switch(config)# logging server 192.0.2.253 secure</pre> <p>例 :</p> <pre>switch(config)# logging server 2001::3 5 secure trustpoint client-identity myCA use-vrf red</pre>	<p><b>client-identity</b> オプションを使用することで相互認証を適用できます。</p> <p>セキュアな TLS 接続のデフォルト宛先ポートは 6514 です。</p>
ステップ 3	<p>(任意) <b>logging source-interface interface name</b></p> <p>例 :</p> <pre>switch(config)# logging source-interface lo0</pre>	<p>リモート Syslog サーバの送信元インターフェイスをイネーブルにします。</p>
ステップ 4	<p>(任意) <b>show logging server</b></p> <p>例 :</p> <pre>switch(config)# show logging server</pre>	<p>Syslog サーバ設定を表示します。secure オプションを設定する場合、出力のエントリにトランスポート情報が含まれるようになります。デフォルトでは、secure オプションが設定されていない場合、トランスポートは UDP です。</p>
ステップ 5	<p>(任意) <b>copy running-config startup-config</b></p> <p>例 :</p> <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	<p>実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。</p>

## CA 証明書の設定

セキュアな Syslog 機能のサポートには、トラストポイントの設定によってリモートサーバを認証する必要があります。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p><b>configure terminal</b></p> <p>例 :</p> <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	<p>グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。</p>
ステップ 2	<p><b>[no] crypto ca trustpoint trustpoint-name</b></p> <p>例 :</p> <pre>switch(config)# crypto ca trustpoint winca switch(config-trustpoint)#</pre>	<p>トラストポイントを設定します。</p> <p>(注) トラストポイントの設定の前に <b>ip domain-name</b> を設定する必要があります。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	必須: <b>crypto ca authenticate</b> <i>trustpoint-name</i>  例 : <pre>switch(config-trustpoint)# crypto ca authenticate winca</pre>	トラストポイントの CA 証明書を設定し ます。
ステップ 4	(任意) <b>show crypto ca certificate</b>  例 : <pre>switch(config)# show crypto ca certificates</pre>	設定されている証明書/チェーンと、関 連付けられているトラスポイントを表 示します。
ステップ 5	(任意) <b>copy running-config</b> <b>startup-config</b>  例 : <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	デバイスのリロード後にトラスポイン トが持続されるように、実行コンフィ ギュレーションをスタートアップコン フィギュレーションにコピーします。

## CA 証明書の登録

NX-OS スイッチ (クライアント) が識別するようリモートサーバによって要求される相互認証では、ピア認証が必須であるため、これは証明書をスイッチに登録するための追加設定です。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	必須: <b>crypto key generate rsa label key</b> <b>name exportable modules 2048</b>  例 : <pre>switch(config-trustpoint)# crypto key generate rsa label myKey exportable modulus 2048</pre>	RSA キー ペアを設定します。デフォル トでは、Cisco NX-OS ソフトウェアは 1024 ビットの RSA キーを作成します。
ステップ 3	<b>[no] crypto ca trustpoint trustpoint-name</b>  例 : <pre>switch(config)# crypto ca trustpoint myCA switch(config-trustpoint)#</pre>	トラストポイントを設定します。  (注) トラストポイントの設定の前 に <b>ip domain-name</b> を設定する 必要があります。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	必須: <b>rsa keypair</b> <i>key-name</i> 例: <pre>switch(config-trustpoint)# rsa keypair myKey</pre>	トラストポイント CA に生成されたキーペアを関連付けます。
ステップ 5	<b>crypto ca trustpoint</b> <i>trustpoint-name</i> 例: <pre>switch(config)# crypto ca authenticate myCA</pre>	トラストポイントの CA 証明書を設定します。
ステップ 6	<b>[no] crypto ca enroll</b> <i>trustpoint-name</i> 例: <pre>switch(config)# crypto ca enroll myCA</pre>	CA に登録するスイッチのアイデンティティ証明書を生成します。
ステップ 7	<b>crypto ca import</b> <i>trustpoint-name certificate</i> 例: <pre>switch(config-trustpoint)# crypto ca import myCA certificate</pre>	CA によって署名されたアイデンティティ証明書をスイッチにインポートします。
ステップ 8	(任意) <b>show crypto ca certificates</b> 例: <pre>switch# show crypto ca certificates</pre>	設定されている証明書またはチェーンと、関連付けられているトラストポイントを表示します。
ステップ 9	必須: <b>copy running-config startup-config</b> 例: <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

## syslog サーバ設定の配布の設定

Cisco Fabric Services (CFS) インフラストラクチャを使用して、ネットワーク内の他のスイッチへ Syslog サーバ設定を配布できます。

Syslog サーバ設定の配布をイネーブルにすると、配布設定をコミットする前に Syslog サーバ設定を変更し、保留中の変更を表示できます。配布がイネーブルである限り、スイッチは Syslog サーバ設定に対する保留中の変更を維持します。



(注) スイッチを再起動すると、揮発性メモリに保存されている syslog サーバ設定の変更は失われることがあります。

## 始める前に

1 つまたは複数の syslog サーバを設定しておく必要があります。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>logging distribute</b>	CFS インフラストラクチャを使用して、ネットワーク スイッチへの syslog サーバ設定の配布をイネーブルにします。デフォルトでは、配布はディセーブルです。
ステップ 3	switch(config)# <b>logging commit</b>	ファブリック内のスイッチへ配布するための Syslog サーバ設定に対する保留中の変更をコミットします。
ステップ 4	switch(config)# <b>logging abort</b>	Syslog サーバ設定に対する保留中の変更をキャンセルします。
ステップ 5	(任意) switch(config)# <b>no logging distribute</b>	CFS インフラストラクチャを使用して、ネットワーク スイッチへの syslog サーバ設定の配布をディセーブルにします。設定変更が保留中の場合は、配布をディセーブルにできません。 <b>logging commit</b> および <b>logging abort</b> コマンドを参照してください。デフォルトでは、配布はディセーブルです。
ステップ 6	(任意) switch# <b>show logging pending</b>	Syslog サーバ設定に対する保留中の変更を表示します。
ステップ 7	(任意) switch# <b>show logging pending-diff</b>	syslog サーバ設定の保留中の変更に対して、現在の syslog サーバ設定との違いを表示します。
ステップ 8	(任意) switch# <b>copy running-config startup-config</b>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

## ログファイルの表示およびクリア

ログファイルおよび NVRAM のメッセージを表示したり消去したりできます。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>show logging last</b> <i>number-lines</i>	ログイング ファイルの最終行番号を表示します。最終行番号には 1 ～ 9999 を指定できます。
ステップ 2	switch# <b>show logging logfile</b> [ <i>start-time</i> <i>yyyy mmm dd hh:mm:ss</i> ] [ <i>end-time</i> <i>yyyy mmm dd hh:mm:ss</i> ]	入力されたスパン内にタイム スタンプがあるログ ファイルのメッセージを表示します。終了時間を入力しないと、現在の時間が使用されます。月の時間フィールドには3文字を、年と日の時間フィールドには数値を入力します。
ステップ 3	switch# <b>show logging nvram</b> [ <i>last number-lines</i> ]	NVRAMのメッセージを表示します。表示される行数を制限するには、表示する最終行番号を入力できます。最終行番号には 1 ～ 100 を指定できます。
ステップ 4	switch# <b>clear logging logfile</b>	ログ ファイルの内容をクリアします。
ステップ 5	switch# <b>clear logging nvram</b>	NVRAMの記録されたメッセージをクリアします。

## 例

次に、ログ ファイルのメッセージを表示する例を示します。

```
switch# show logging last 40
switch# show logging logfile start-time 2007 nov 1 15:10:0
switch# show logging nvram last 10
```

次に、ログ ファイルのメッセージをクリアする例を示します。

```
switch# clear logging logfile
switch# clear logging nvram
```

## システムメッセージ ログイングの設定確認

システムメッセージのログイング設定情報を確認するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<b>show logging console</b>	コンソール ログイング設定を表示します。

コマンド	目的
<b>show logging info</b>	ロギング設定を表示します。
<b>show logging ip access-list cache</b>	IP アクセス リスト キャッシュを表示します。
<b>show logging ip access-list cache detail</b>	IP アクセス リスト キャッシュに関する詳細情報を表示します。
<b>show logging ip access-list status</b>	IP アクセス リスト キャッシュのステータスを表示します。
<b>show logging last <i>number-lines</i></b>	ログ ファイルの末尾から指定行数を表示します。
<b>show logging level [<i>facility</i>]</b>	ファシリティ ロギング重大度設定を表示します。
<b>show logging logfile [ <i>start-time</i> <i>yyyy mmm dd hh:mm:ss</i> ] [ <i>end-time</i> <i>yyyy mmm dd hh:mm:ss</i> ]</b>	ログ ファイルのメッセージを表示します。
<b>show logging module</b>	モジュール ロギング設定を表示します。
<b>show logging monitor</b>	モニタ ロギング設定を表示します。
<b>show logging nvram [ <i>last number-lines</i> ]</b>	NVRAM ログのメッセージを表示します。
<b>show logging pending</b>	Syslog サーバの保留中の配布設定を表示します。
<b>show logging pending-diff</b>	Syslog サーバの保留中の配布設定の違いを表示します。
<b>show logging server</b>	Syslog サーバ設定を表示します。
<b>show logging session</b>	ロギング セッションのステータスを表示します。
<b>show logging status</b>	ロギング ステータスを表示します。
<b>show logging timestamp</b>	ロギング タイムスタンプ単位設定を表示します。
<b>show running-config acllog</b>	ACL ログ ファイルの実行コンフィギュレーションを表示します。



## 第 9 章

# Smart Call Home の設定

この章は、次の項で構成されています。

- [Smart Call Home に関する情報](#) (127 ページ)
- [Smart Call Home の注意事項および制約事項](#) (137 ページ)
- [Smart Call Home の前提条件](#) (137 ページ)
- [Call Home のデフォルト設定](#) (137 ページ)
- [Smart Call Home の設定](#) (138 ページ)
- [Smart Call Home 設定の確認](#) (150 ページ)
- [フルテキスト形式での syslog アラート通知の例](#) (151 ページ)
- [XML 形式での syslog アラート通知の例](#) (151 ページ)

## Smart Call Home に関する情報

Smart Call Home は、重要なシステム イベントを E メールで通知します。Cisco Nexus シリーズ スイッチは、幅広いメッセージフォーマットを提供し、ポケベル サービス、標準 E メール、または XML ベースの自動解析アプリケーションと最適な互換性を保てます。この機能を使用して、ネットワーク サポート エンジニアやネットワーク オペレーション センターを呼び出せます。また、Cisco Smart Call Home サービスを使用して、TAC でケースを自動的に生成することもできます。

シスコと直接サービス契約を結んでいる場合は、Smart Call Home サービス用のデバイスを登録できます。Smart Call Home は、ご使用のデバイスから送信された Smart Call Home メッセージを分析し、背景情報および推奨事項を提供して、システムの問題を迅速に解決します。既知と特定できる問題、特に GOLD 診断エラーについては、シスコ TAC によって自動サービス リクエストが生成されます。

Smart Call Home には、次の機能があります。

- 継続的なデバイス ヘルス モニタリングとリアルタイムの診断アラート。
- ご使用のデバイスからの Smart Call Home メッセージの分析と、必要に応じた自動サービス リクエストの生成は、問題を迅速に解決するための詳細な診断情報とともに、適切な TAC チームにルーティングされます。

- セキュアなメッセージ転送が、ご使用のデバイスから直接、またはダウンロード可能な Transport Gateway (TG) 集約ポイントを経由して行われます。複数のデバイスでサポートを必要としている場合、またはセキュリティ要件の関係でご使用のデバイスをインターネットに直接接続できない場合は、TG 集約ポイントを使用できます。
- Smart Call Home メッセージと推奨事項、すべての Smart Call Home デバイスのインベントリおよび設定情報、および Field Notice、セキュリティ勧告、およびサポート終了日情報への Web ベースのアクセス。

## Smart Call Home の概要

Smart Call Home を使用すると、重要なイベントがデバイスで発生した場合に外部エンティティに通知できます。Smart Call Home では、ユーザが宛先プロファイルに設定する複数の受信者にアラートが配信されます。

Smart Call Home には、スイッチで事前に定義された一連のアラートが含まれます。これらのアラートはアラート グループにグループ化され、アラート グループのアラートが発生したときに実行する CLI コマンドが割り当てられています。スイッチには、転送された Smart Call Home メッセージのコマンド出力が含まれます。

Smart Call Home 機能には、次のものがあります。

- 関連する CLI コマンド出力の実行および添付が自動化されます。
- 次のような、複数のメッセージフォーマットオプションがあります。
  - ショートテキスト：ポケットベルまたは印刷されたレポートに適している文字。
  - フルテキスト：人間が判読しやすいように完全にフォーマットされたメッセージ情報です。
  - XML：Extensible Markup Language (XML) および Adaptive Messaging Language (AML) XML スキーマ定義 (XSD) を使用した、判読可能なフォーマットです。XML 形式では、シスコ TAC と通信できます。
- 複数のメッセージ宛先への同時配信が可能。各宛先プロファイルには最大 50 件の電子メール宛先アドレスを設定できます。

## Smart Call Home 宛先プロファイル

Smart Call Home 宛先プロファイルには、次の情報が含まれています。

- 1 つ以上のアラート グループ：アラートの発生時に、特定の Smart Call Home メッセージを送信するアラートのグループ。
- 1 つ以上の電子メール宛先：この宛先プロファイルに割り当てられたアラートグループによって生成された Smart Call Home メッセージの受信者リスト。

- メッセージフォーマット：Smart Call Home メッセージのフォーマット（ショート テキスト、フル テキスト、または XML）。
- メッセージ重大度：スイッチが宛先プロファイル内のすべての電子メールアドレスに対して Smart Call Home メッセージを生成するまで、アラートが満たす必要がある Smart Call Home 重大度。アラートの Smart Call Home 重大度が、宛先プロファイルに設定されたメッセージ重大度よりも低い場合、スイッチはアラートを生成しません。

定期メッセージを日別、週別、月別で送信するコンポーネントアラートグループを使用して、定期的なコンポーネント アップデート メッセージを許可するよう宛先プロファイルを設定することもできます。

Cisco Nexus スイッチは、次の定義済み宛先プロファイルをサポートします。

- CiscoTAC-1：XML メッセージフォーマットの Cisco-TAC アラートグループをサポートします。
- full-text-destination：フル テキスト メッセージフォーマットをサポートします。
- short-text-destination：ショート テキスト メッセージフォーマットをサポートします。

## Smart Call Home アラート グループ

アラートグループは、すべての Cisco Nexus デバイスでサポートされる Smart Call Home アラートの定義済みサブセットです。アラートグループを使用すると、定義済みまたはカスタム宛先プロファイルに送信する一連の Smart Call Home アラートを選択できます。Smart Call Home アラートが宛先プロファイルにアソシエートされたいずれかのアラートグループに属する場合、およびアラートで、Smart Call Home メッセージ重大度が宛先プロファイルに設定されているメッセージ重大度と同じか、それ以上である場合のみ、スイッチは Smart Call Home アラートを宛先プロファイルの電子メールの宛先に送信します。

次の表に、サポートされるアラートグループと、アラートグループ用に生成された Smart Call Home メッセージに含まれるデフォルトの CLI コマンド出力を示します。

表 9: アラートグループおよび実行されるコマンド

アラートグループ	説明	実行されるコマンド
Cisco-TAC	Smart Call Home 宛での、他のアラートグループからのすべてのクリティカルアラート。	アラートを発信するアラートグループに基づいてコマンドを実行します。
診断	診断によって生成されたイベント。	<b>show diagnostic result module all detail</b> <b>show moduleshow version</b> <b>show tech-support platform callhome</b>

アラートグループ	説明	実行されるコマンド
スーパーバイザハードウェア	スーパーバイザ モジュールに関連するイベント。	<b>show diagnostic result module all detail</b> <b>show moduleshow version</b> <b>show tech-support platform callhome</b>
ラインカードハードウェア	標準またはインテリジェント スイッチング モジュールに関連するイベント。	<b>show diagnostic result module all detail</b> <b>show moduleshow version</b> <b>show tech-support platform callhome</b>
設定	設定に関連した定期的なイベント。	<b>show version</b> <b>show module</b> <b>show running-config all</b> <b>show startup-config</b>
システム	装置の動作に重要なソフトウェア システムの障害によって生成されるイベント	<b>show system redundancy status</b> <b>show tech-support</b>
環境	電源、ファン、および温度アラームなどの環境検知要素に関連するイベント。	<b>show environment</b> <b>show logging last 1000</b> <b>show module show version</b> <b>show tech-support platform callhome</b>
インベントリ	装置がコールドブートした場合、または FRU の取り付けまたは取り外しを行った場合に示されるコンポーネント ステータス。このアラートは重要でないイベントであり、情報はステータスおよび使用権に使用されます。	<b>show module</b> <b>show version</b> <b>show license usage</b> <b>show inventory</b> <b>show sprom all</b> <b>show system uptime</b>

Smart Call Home は、syslog の重大度を、syslog ポート グループ メッセージの対応する Smart Call Home の重大度に対応させます。

特定のイベントが発生し、Smart Call Home メッセージを含む **show** 出力を送信した場合に、追加の **show** コマンドを実行するために、定義済みのアラート グループをカスタマイズできます。

**show** コマンドは、フルテキストおよび XML 宛先プロファイルにのみ追加できます。ショートテキスト宛先プロファイルは、128 バイトのテキストに制限されているため、追加の **show** コマンドをサポートしていません。



## Smart Call Home のメッセージ レベル

Smart Call Home を使用すると、緊急度に基づいてメッセージをフィルタリングできます。各宛先プロファイル（定義済みおよびユーザ定義）を、Smart Call Home メッセージ レベルしきい値にアソシエートすることができます。宛先プロファイルのこのしきい値よりも小さい値を持つ Smart Call Home メッセージは、スイッチによって生成されません。Smart Call Home メッセージ レベルの範囲は0（緊急度が最小）～9（緊急度が最大）です。デフォルトは0です（スイッチはすべてのメッセージを送信します）。

syslog アラート グループに送信される Smart Call Home メッセージでは、syslog の重大度が Smart Call Home のメッセージ レベルにマッピングされます。



(注) Smart Call Home は、メッセージテキストで syslog メッセージ レベルを変更しません。

次の表に、各 Smart Call Home メッセージ レベルのキーワードと、syslog ポート アラート グループの対応する syslog レベルを示します。

表 10: 重大度と syslog レベルのマッピング

Smart Call Home レベル	キーワード	Syslog レベル	説明
9	Catastrophic	該当なし	ネットワーク全体に壊滅的な障害が発生しています。
8	Disaster	該当なし	ネットワークに重大な影響が及びます。
7	Fatal	緊急 (0)	システムが使用不可能な状態。
6	Critical	アラート (1)	クリティカルな状況で、すぐに対応する必要があります。
5	Major	重要 (2)	重大な状態。
4	Minor	エラー (3)	軽微な状態。
3	警告	警告 (4)	警告状態。
2	通知	通知 (5)	基本的な通知および情報メッセージです。
1	標準	情報 (6)	標準状態に戻ることを示す標準イベントです。
0	Debugging	デバッグ (7)	デバッグ メッセージ。

## Call Home のメッセージ形式

Call Home では、次のメッセージフォーマットがサポートされます。

- ショートテキストメッセージフォーマット
- すべてのフルテキストと XML メッセージに共通のフィールド
- 対処的または予防的イベントメッセージに挿入されるフィールド
- コンポーネント イベントメッセージの挿入フィールド
- ユーザが作成したテストメッセージの挿入フィールド

次の表に、すべてのメッセージタイプのショートテキスト書式設定オプションを示します。

表 11: ショートテキストメッセージフォーマット

データ項目	説明
デバイス ID	設定されたデバイス名
日時スタンプ	起動イベントのタイムスタンプ
エラー判別メッセージ	起動イベントの簡単な説明（英語）
アラームの緊急度	システムメッセージに適用されるようなエラーレベル

次の表に、フルテキストまたは XML の共通するイベントメッセージ形式について説明します。

表 12: すべてのフルテキストと XML メッセージに共通のフィールド

データ項目（プレーンテキストおよび XML）	説明（プレーンテキストおよび XML）	XML タグ（XML のみ）
タイムスタンプ	ISO 時刻通知でのイベントの日付/タイムスタンプ <i>YYYY-MM-DD HH:MM:SS GMT+HH:MM</i>	/aml/header/time
メッセージ名	メッセージの名前。特定のイベント名は上記の表に記載	/aml/header/name
メッセージタイプ	リアクティブまたはプロアクティブなどのメッセージタイプの名前。	/aml/header/type
メッセージグループ	Syslog などのアラートグループの名前。	/aml/header/group

データ項目（プレーンテキストおよび XML）	説明（プレーンテキストおよび XML）	XML タグ（XML のみ）
重大度	メッセージの重大度	/aml/header/level
送信元 ID	ルーティングのための製品タイプ	/aml/header/source
デバイス ID	<p>メッセージを生成したエンドデバイスの固有デバイス識別情報（UDI）。メッセージがデバイスに対して固有でない場合は、このフィールドを空にする必要があります。形式は、<i>type@Sid@serial</i>。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>type</i> は、バックプレーン IDPROM からの製品の型番。</li> <li>• <i>@</i> は区切り文字です。</li> <li>• <i>Sid</i> は C で、シリアル ID をシャージシリアル番号として特定します。</li> <li>• <i>serial</i> は、Sid フィールドによって識別される番号です。</li> </ul> <p>例：WS-C6509@C@12345678</p>	/aml/ header/deviceID
カスタマー ID	サポート サービスによって契約情報やその他の ID に使用されるオプションのユーザ設定可能なフィールド	/aml/ header/customerID
連絡先 ID	サポート サービスによって契約情報やその他の ID に使用されるオプションのユーザ設定可能なフィールド	/aml/ header /contractID
サイト ID	シスコが提供したサイト ID または別のサポート サービスにとって意味のあるその他のデータに使用されるオプションのユーザ設定可能なフィールド	/aml/ header/siteID

データ項目（プレーンテキストおよびXML）	説明（プレーンテキストおよびXML）	XML タグ（XML のみ）
サーバ ID	<p>デバイスからメッセージが生成された場合、これはデバイスの Unique Device Identifier (UDI) フォーマットです。</p> <p>形式は、<i>type@Sid@serial</i>。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>type</i> は、バックプレーン IDPROM からの製品の型番。</li> <li>• <i>@</i> は区切り文字です。</li> <li>• <i>Sid</i> は C で、シリアル ID をシャードシリアル番号として特定します。</li> <li>• <i>serial</i> は、Sid フィールドによって識別される番号です。</li> </ul> <p>例：WS-C6509@C@12345678</p>	/aml/header/serverID
メッセージの説明	エラーを説明するショートテキスト。	/aml/body/msgDesc
デバイス名	イベントが発生したノード（デバイスのホスト名）。	/aml/body/sysName
担当者名	イベントが発生したノード関連の問題について問い合わせる担当者名。	/aml/body/sysContact
連絡先電子メール	この装置の担当者の E メールアドレス。	/aml/body/sysContactEmail
連絡先電話番号	このユニットの連絡先である人物の電話番号	/aml/body/sysContactPhoneNumber
住所	この装置関連の返品許可（RMA）部品の送付先住所を保存するオプションフィールド。	/aml/body/sysStreetAddress
モデル名	デバイスのモデル名（製品ファミリ名に含まれる具体的なモデル）。	/aml/body/chassis/name

データ項目（プレーンテキストおよび XML）	説明（プレーンテキストおよび XML）	XML タグ（XML のみ）
シリアル番号	ユニットのシャーシのシリアル番号	/aml/body/chassis/serialNo
シャーシの部品番号	シャーシの最上アセンブリ番号	/aml/body/chassis/partNo
特定のアラート グループ メッセージの固有のフィールドは、ここに挿入されます。		
このアラート グループに対して複数の CLI コマンドが実行されると、次のフィールドが繰り返される場合があります。		
Command output name	実行された CLI コマンドの正確な名前。	/aml/attachments/attachment/name
添付ファイルの種類	特定のコマンド出力。	/aml/attachments/attachment/type
MIME タイプ	プレーンテキストまたは符号化タイプ。	/aml/attachments/attachment/mime
コマンド出力テキスト	自動的に実行されるコマンドの出力	/aml/attachments/attachment/atdata

次の表に、フルテキストまたは XML のリアクティブ イベント メッセージ形式について説明します。

表 13: 対処的または予防的イベントメッセージに挿入されるフィールド

データ項目（プレーンテキストおよび XML）	説明（プレーンテキストおよび XML）	XML タグ（XML のみ）
シャーシのハードウェアバージョン	シャーシのハードウェアバージョン。	/aml/body/chassis/hwVersion
スーパーバイザ モジュールのソフトウェアバージョン	最上レベルのソフトウェアバージョン	/aml/body/chassis/swVersion
影響のある FRU 名	イベントメッセージを生成する関連 FRU の名前。	/aml/body/fru/name
影響のある FRU のシリアル番号	関連 FRU のシリアル番号。	/aml/body/fru/serialNo
影響のある FRU の製品番号	関連 FRU の部品番号。	/aml/body/fru/partNo
FRU スロット	イベントメッセージを生成する FRU のスロット番号。	/aml/body/fru/slot

データ項目（プレーンテキストおよび XML）	説明（プレーンテキストおよび XML）	XML タグ（XML のみ）
FRU ハードウェア バージョン	関連 FRU のハードウェアバージョン。	/aml/body/fru/hwVersion
FRU ソフトウェアのバージョン	関連 FRU で稼働しているソフトウェアバージョン。	/aml/body/fru/swVersion

次の表に、フルテキストまたは XML のコンポーネント イベント メッセージ形式について説明します。

表 14: コンポーネント イベント メッセージの挿入フィールド

データ項目（プレーンテキストおよび XML）	説明（プレーンテキストおよび XML）	XML タグ（XML のみ）
シャーシのハードウェア バージョン	シャーシのハードウェアバージョン。	/aml/body/chassis/hwVersion
スーパーバイザ モジュールのソフトウェア バージョン	最上レベルのソフトウェアバージョン	/aml/body/chassis/swVersion
FRU 名	イベントメッセージを生成する関連 FRU の名前。	/aml/body/fru/name
FRU s/n	FRU のシリアル番号。	/aml/body/fru/serialNo
FRU 製品番号	FRU の部品番号。	/aml/body/fru/partNo
FRU スロット	FRU のスロット番号。	/aml/body/fru/slot
FRU ハードウェア バージョン	FRU のハードウェアバージョン。	/aml/body/fru/hwVersion
FRU ソフトウェアのバージョン	FRU で稼働しているソフトウェアバージョン。	/aml/body/fru/swVersion

次の表に、フルテキストまたは XML のユーザが作成したテストメッセージ形式について説明します。

表 15: ユーザが作成したテストメッセージの挿入フィールド

データ項目（プレーンテキストおよび XML）	説明（プレーンテキストおよび XML）	XML タグ（XML のみ）
プロセス ID	固有のプロセス ID	/aml/body/process/id
プロセス状態	プロセスの状態（実行中、中止など）	/aml/body/process/processState

データ項目（プレーンテキストおよび XML）	説明（プレーンテキストおよび XML）	XML タグ（XML のみ）
プロセス例外	原因コードの例外	/aml/body/process/exception

## Smart Call Home の注意事項および制約事項

- IP 接続がない場合、またはプロファイル宛先への仮想ルーティングおよびフォワーディング（VRF）インスタンス内のインターフェイスがダウンしている場合、スイッチは Smart Call Home メッセージを送信できません。
- 任意の SMTP 電子メール サーバで動作します。



（注） SNMP sysContact は、デフォルトでは設定されていません。明示的に **snmp-server contact** <sys-contact> コマンドを使用して、SNMP sysContact を設定する必要があります。このコマンドを設定すると、callhome 機能が有効になります。

## Smart Call Home の前提条件

- 電子メール サーバに接続できる必要があります。
- コンタクト名（SNMP サーバのコンタクト）、電話番号、および住所情報へアクセスできる必要があります。
- スイッチと電子メール サーバ間に IP 接続が必要です。
- 設定するデバイスに対して有効なサービス契約が必要です。

## Call Home のデフォルト設定

表 16: デフォルトの Call Home パラメータ

パラメータ（Parameters）	デフォルト
フルテキストフォーマットで送信するメッセージの宛先メッセージサイズ	4000000
XML フォーマットで送信するメッセージの宛先メッセージサイズ	4000000

パラメータ (Parameters)	デフォルト
ショートテキストフォーマットで送信するメッセージの宛先メッセージサイズ	4000
ポートを指定しなかった場合の SMTP サーバポート	25
プロファイルとアラートグループのアソシエート	フルテキスト宛先プロファイルおよびショートテキスト宛先プロファイルの場合はすべて。CiscoTAC-1 宛先プロファイルの場合は cisco-tac アラートグループ
フォーマットタイプ	XML
Call Home のメッセージレベル	0 (ゼロ)

## Smart Call Home の設定

### Smart Call Home の登録

#### 始める前に

- ご使用のスイッチの sMARTnet 契約番号を確認してください
- 電子メールアドレスを確認してください
- Cisco.com ID を確認してください

#### 手順

**ステップ 1** ブラウザで、次の Smart Call Home Web ページに移動します。

<http://www.cisco.com/go/smartcall/>

**ステップ 2** [Getting Started] で、Smart Call Home の登録指示に従ってください。

#### 次のタスク

連絡先情報を設定します。



## 連絡先情報の設定

Smart Call Home には、電子メール、電話番号、住所の各情報を指定する必要があります。契約 ID、カスタマー ID、サイト ID、およびスイッチプライオリティ情報を任意で指定できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>snmp-server contact sys-contact</b>	SNMP sysContact を設定します。
ステップ 3	switch(config)# <b>callhome</b>	Smart Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	switch(config-callhome)# <b>email-contact email-address</b>	<p>スイッチの担当者の電子メールアドレスを設定します。</p> <p><i>email-address</i> には、電子メールアドレスの形式で、最大 255 の英数字を使用できます。</p> <p>(注) 任意の有効な E メールアドレスを使用できます。アドレスには、空白を含めることはできません。</p>
ステップ 5	switch(config-callhome)# <b>phone-contact international-phone-number</b>	<p>デバイスの担当者の電話番号を国際電話フォーマットで設定します。</p> <p><i>international-phone-number</i> は、最大 17 文字の英数字で、国際電話フォーマットにする必要があります。</p> <p>(注) 電話番号には、空白を含めることはできません。番号の前にプラス (+) プレフィックスを使用します。</p>
ステップ 6	switch(config-callhome)# <b>streetaddress address</b>	<p>スイッチの主担当者の住所を設定します。</p> <p><i>address</i> には、最大 255 の英数字を使用できます。スペースを使用できます。</p>
ステップ 7	(任意) switch(config-callhome)# <b>contract-id contract-number</b>	サービス契約からこのスイッチの契約番号を設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
		<i>contract-number</i> には最大 255 の英数字を使用できます。
ステップ 8	(任意) <code>switch(config-callhome)# customer-id customer-number</code>	サービス契約からこのスイッチのカスタマー番号を設定します。  <i>customer-number</i> には最大 255 の英数字を使用できます。
ステップ 9	(任意) <code>switch(config-callhome)# site-id site-number</code>	このスイッチのサイト番号を設定します。  <i>site-number</i> は、最大 255 文字の英数字を自由なフォーマットで指定できます。
ステップ 10	(任意) <code>switch(config-callhome)# switch-priority number</code>	このスイッチのスイッチ プライオリティを設定します。  指定できる範囲は 0～7 です。0 は最高のプライオリティを、7 は最低のプライオリティを示します。デフォルト値は 7 です。
ステップ 11	(任意) <code>switch# show callhome</code>	Smart Call Home コンフィギュレーションの概要を表示します。
ステップ 12	(任意) <code>switch(config)# copy running-config startup-config</code>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

## 例

次に、Call Home に関する担当者情報を設定する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# snmp-server contact personname@companyname.com
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# email-contact personname@companyname.com
switch(config-callhome)# phone-contact +1-800-123-4567
switch(config-callhome)# street-address 123 Anystreet St., Anycity, Anywhere
```

## 次のタスク

宛先プロファイルを作成します。

## 宛先プロファイルの作成

ユーザ定義の宛先プロファイルを作成し、新しい宛先プロファイルにメッセージフォーマットを設定する必要があります。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config)# callhome</code>	Smart Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>switch(config-callhome)# destination-profile {ciscoTAC-1 { alert-group group   email-addr address   http URL   transport-method {email   http}}   profilename { alert-group group   email-addr address   format {XML   full-txt   short-txt}   http URL   message-level level   message-size size   transport-method {email   http}}   full-txt-destination { alert-group group   email-addr address   http URL   message-level level   message-size size   transport-method {email   http}}   short-txt-destination { alert-group group   email-addr address   http URL   message-level level   message-size size   transport-method {email   http}}}</code>	新しい宛先プロファイルを作成し、そのプロファイルのメッセージフォーマットを設定します。プロファイル名は、最大 31 文字の英数字で指定できます。  このコマンドについての詳細は、プラットフォームのコマンドリファレンスを参照してください。
ステップ 4	(任意) <code>switch# show callhome destination-profile [ profile name]</code>	1つまたは複数の宛先プロファイルに関する情報を表示します。
ステップ 5	(任意) <code>switch(config)# copy running-config startup-config</code>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 例

次に、Smart Call Home の宛先プロファイルを作成する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# destination-profile Noc101 format full-txt
```

## 宛先プロファイルの変更

定義済みまたはユーザ定義の宛先プロファイルの次の属性を変更できます。

- 宛先アドレス：アラートの送信先となる実際のアドレス（トランスポートメカニズムに関係します）。
- メッセージフォーマット：アラート送信に使用されるメッセージフォーマット（フルテキスト、ショートテキスト、または XML）。
- メッセージレベル：この宛先プロファイルの Call Home メッセージの重大度。
- メッセージサイズ：この宛先プロファイルの E メールアドレスに送信された Call Home メッセージの長さ。



(注) CiscoTAC-1 宛先プロファイルは変更または削除できません。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>callhome</b>	Smart Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	switch(config-callhome)# <b>destination-profile</b> { <i>name</i>   <b>full-txt-destination</b>   <b>short-txt-destination</b> } <b>email-addr</b> <i>address</i>	ユーザ定義または定義済みの宛先プロファイルに E メールアドレスを設定します。宛先プロファイルには、最大 50 個の E メールアドレスを設定できます。
ステップ 4	<b>destination-profile</b> { <i>name</i>   <b>full-txt-destination</b>   <b>short-txt-destination</b> } <b>message-level</b> <i>number</i>	この宛先プロファイルの Smart Call Home メッセージの重大度を設定します。Smart Call Home 重大度が一致する、またはそれ以上であるアラートのみが、このプロファイルの宛先に送信されます。 <i>number</i> に指定できる範囲は 0～9 です。9 は最大の重大度を示します。
ステップ 5	switch(config-callhome)# <b>destination-profile</b> { <i>name</i>   <b>full-txt-destination</b>   <b>short-txt-destination</b> } <b>message-size</b> <i>number</i>	この宛先プロファイルの最大メッセージサイズを設定します。 <b>full-txt-destination</b> の値の範囲は 0～5000000 で、デフォルトは 2500000 です。 <b>short-txt-destination</b> の値の範囲は 0～100000 で、デフォルト

	コマンドまたはアクション	目的
		トは 4000 です。CiscoTAC-1 では、値は 5000000 で、これは変更不可能です。
ステップ 6	(任意) <code>switch# show callhome destination-profile [ profile name]</code>	1つまたは複数の宛先プロファイルに関する情報を表示します。
ステップ 7	(任意) <code>switch(config)# copy running-config startup-config</code>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 例

次に、Smart Call Home の宛先プロファイルを変更する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# destination-profile full-text-destination email-addr
person@example.com
switch(config-callhome)# destination-profile full-text-destination message-level 5
switch(config-callhome)# destination-profile full-text-destination message-size 10000
switch(config-callhome)#
```

### 次のタスク

アラートグループと宛先プロファイルをアソシエートします。

## アラートグループと宛先プロファイルのアソシエート

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config)# callhome</code>	Smart Call Home コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	<code>switch(config-callhome)# destination-profile name alert-group {All   Cisco-TAC   Configuration   Diagnostic   Environmental   Inventory   License   Linecard-Hardware   Supervisor-Hardware   Syslog-group-port   System   Test}</code>	アラートグループをこの宛先プロファイルにアソシエートします。キーワード <b>All</b> を使用して、すべてのアラートグループをこの宛先プロファイルにアソシエートします。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	(任意) switch# <b>show callhome destination-profile [ profile name]</b>	1つまたは複数の宛先プロファイルに関する情報を表示します。
ステップ 5	(任意) switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 例

次に、すべてのアラート グループを宛先プロファイル Noc101 にアソシエートする例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# destination-profile Noc101 alert-group All
switch(config-callhome)#
```

### 次のタスク

オプションで **show** コマンドをアラート グループに追加し、SMTP 電子メール サーバを設定することができます。

## アラート グループへの show コマンドの追加

1つのアラート グループには、最大 5 個のユーザ定義 **show** コマンドを割り当てることができます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>callhome</b>	Smart Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	switch(config-callhome)# <b>alert-group {Configuration   Diagnostic   Environmental   Inventory   License   Linecard-Hardware   Supervisor-Hardware   Syslog-group-port   System   Test} user-def-cmd show-cmd</b>	<b>show</b> コマンド出力を、このアラート グループに送信された Call Home メッセージに追加します。有効な <b>show</b> コマンドだけが受け入れられます。  (注) CiscoTAC-1 宛先プロファイルには、ユーザ定義の <b>show</b> コマンドを追加できません。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	(任意) <code>switch# show callhome user-def-cmds</code>	アラート グループに追加されたすべてのユーザ定義 <code>show</code> コマンドに関する情報を表示します。
ステップ 5	(任意) <code>switch(config)# copy running-config startup-config</code>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 例

次に、`show ip routing` コマンドを Cisco-TAC アラート グループに追加する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# alert-group Configuration user-def-cmd show ip routing
switch(config-callhome)#
```

### 次のタスク

SMTP 電子メール サーバに接続するように Smart Call Home を設定します。

## 電子メール サーバの詳細の設定

Smart Call Home 機能が動作するよう SMTP サーバ アドレスを設定します。送信元および返信先 E メール アドレスも設定できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config)# callhome</code>	Smart Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>switch(config-callhome)# transport email smtp-server ip-address [ port number] [ use-vrf vrf-name]</code>	SMTP サーバを、ドメイン ネーム サーバ (DNS) 名、IPv4 アドレス、または IPv6 アドレスのいずれかとして設定します。  番号の範囲は 1 ~ 65535 です。デフォルトのポート番号は 25 です。

	コマンドまたはアクション	目的
		この SMTP サーバと通信する際に使用するよう任意で VRF インスタンスを設定できます。
ステップ 4	(任意) switch(config-callhome)# <b>transport email from</b> <i>email-address</i>	Smart Call Home メッセージの送信元電子メール フィールドを設定します。
ステップ 5	(任意) switch(config-callhome)# <b>transport email reply-to</b> <i>email-address</i>	Smart Call Home メッセージの返信先電子メール フィールドを設定します。
ステップ 6	(任意) switch# <b>show callhome transport-email</b>	Smart Call Home の電子メール設定に関する情報を表示します。
ステップ 7	(任意) switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 例

次に、Smart Call Home メッセージの電子メール オプションを設定する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# transport email smtp-server 192.0.2.10 use-vrf Red
switch(config-callhome)# transport email from person@example.com
switch(config-callhome)# transport email reply-to person@example.com
switch(config-callhome)#
```

### 次のタスク

定期的なインベントリ通知を設定します。

## 定期的なインベントリ通知の設定

ハードウェアのインベントリ情報に加えて、デバイス上で現在イネーブルになっているすべてのソフトウェア サービスおよび実行中のすべてのソフトウェア サービスのインベントリに関するメッセージを定期的送信するようにスイッチを設定できます。スイッチは2つの Smart Call Home 通知（定期的な設定メッセージと定期的なインベントリ メッセージ）を生成します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	<code>switch(config)# callhome</code>	Smart Call Home コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	<code>switch(config-callhome)# periodic-inventory notification [ interval days] [ timeofday time]</code>	定期的なインベントリ メッセージを設定します。  <b>interval days</b> の範囲は 1 ～ 30 日です。 デフォルトは 7 日です。  <b>timeofday time</b> は HH:MM の形式です。
ステップ 4	(任意) <code>switch# show callhome</code>	Smart Call Home に関する情報を表示します。
ステップ 5	(任意) <code>switch(config)# copy running-config startup-config</code>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 例

次に、定期的なインベントリ メッセージを 20 日ごとに生成するよう設定する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# periodic-inventory notification interval 20
switch(config-callhome)#
```

### 次のタスク

重複メッセージ抑制をディセーブルにします。

## 重複メッセージ抑制のディセーブル化

同じイベントについて受信する重複メッセージの数を制限できます。デフォルトでは、スイッチは同じイベントについて受信する重複メッセージの数を制限します。2 時間の時間枠内で送信された重複メッセージの数が 30 メッセージを超えると、スイッチは同じアラートタイプの以降のメッセージを廃棄します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	switch(config)# <b>callhome</b>	Smart Call Home コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	switch(config-callhome) # <b>no duplicate-message throttle</b>	Smart Call Home の重複メッセージ抑制をディセーブルにします。 重複メッセージ抑制はデフォルトでイネーブルです。
ステップ 4	(任意) switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 例

次に、重複メッセージ抑制をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome) # no duplicate-message throttle
switch(config-callhome) #
```

### 次のタスク

Smart Call Home をイネーブルにします。

## Smart Call Home のイネーブル化またはディセーブル化

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>callhome</b>	Smart Call Home コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	switch(config-callhome) # [ <b>no</b> ] <b>enable</b>	Smart Call Home をイネーブルまたはディセーブルにします。 Smart Call Home は、デフォルトでディセーブルです。
ステップ 4	(任意) switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップ

	コマンドまたはアクション	目的
		コンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 例

次の例は、Smart Call Home をイネーブルにする方法を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# enable
switch(config-callhome)#
```

### 次のタスク

任意でテストメッセージを生成します。

## Smart Call Home 設定のテスト

### 始める前に

宛先プロファイルのメッセージレベルが 2 以下に設定されていることを確認します。



#### 重要

Smart Call Home のテストは、宛先プロファイルのメッセージレベルが 3 以上に設定されている場合は失敗します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>callhome</b>	Smart Call Home コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	switch(config-callhome) # <b>callhome send diagnostic</b>	設定されたすべての宛先に指定の Smart Call Home テストメッセージを送信します。
ステップ 4	switch(config-callhome) # <b>callhome test</b>	設定されたすべての宛先にテストメッセージを送信します。
ステップ 5	(任意) switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップ

	コマンドまたはアクション	目的
		コンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 例

次の例は、Smart Call Home をイネーブルにする方法を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# callhome send diagnostic
switch(config-callhome)# callhome test
switch(config-callhome)#
```

## Smart Call Home 設定の確認

次のいずれかのコマンドを使用して、設定を確認します。

コマンド	目的
<b>show callhome</b>	Smart Call Home のステータスを表示します。
<b>show callhome destination-profile <i>name</i></b>	1 つまたは複数の Smart Call Home 宛先プロファイルを表示します。
<b>show callhome pending-diff</b>	保留中の Smart Call Home 設定と実行中の Smart Call Home 設定の違いを表示します。
<b>show callhome status</b>	Smart Call Home ステータスを表示します。
<b>show callhome transport-email</b>	Smart Call Home の電子メール設定を表示します。
<b>show callhome user-def-cmds</b>	任意のアラート グループに追加された CLI コマンドを表示します。
<b>show running-config [callhome   callhome-all]</b>	Smart Call Home の実行コンフィギュレーションを表示します。
<b>show startup-config callhome</b>	Smart Call Home のスタートアップ コンフィギュレーションを表示します。
<b>show tech-support callhome</b>	Smart Call Home のテクニカル サポート出力を表示します。

## フル テキスト形式での syslog アラート通知の例

次の例では、Syslog ポート アラート グループ通知のフル テキスト形式を示します。

```
source:MDS9000
Switch Priority:7
Device Id:WS-C6509@C@FG@07120011
Customer Id:Example.com
Contract Id:123
Site Id:San Jose
Server Id:WS-C6509@C@FG@07120011
Time of Event:2004-10-08T11:10:44
Message Name:SYSLOG_ALERT
Message Type:Syslog
Severity Level:2
System Name:10.76.100.177
Contact Name:User Name
Contact Email:person@example.com
Contact Phone:+1-408-555-1212
Street Address:#1234 Any Street, Any City, Any State, 12345
Event Description:2006 Oct 8 11:10:44 10.76.100.177 %PORT-5-IF_TRUNK_UP:
%$VLAN 1%$ Interface e2/5, vlan 1 is up
syslog_facility:PORT
start chassis information:
Affected Chassis:WS-C6509
Affected Chassis Serial Number:FG@07120011
Affected Chassis Hardware Version:0.104
Affected Chassis Software Version:3.1(1)
Affected Chassis Part No:73-8607-01
end chassis information:
```

## XML 形式での syslog アラート通知の例

次の例では、Syslog ポート アラート グループ通知の XML を示します。

```
From: example
Sent: Wednesday, April 25, 2007 7:20 AM
To: User (user)
Subject: System Notification From Router - syslog - 2007-04-25 14:19:55
GMT+00:00
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<soap-env:Envelope xmlns:soap-env="http://www.w3.org/2003/05/soap-envelope">
<soap-env:Header>
<aml-session:Session xmlns:aml-session="http://www.example.com/2004/01/aml-session"
soap-env:mustUnderstand="true" soap-env:role=
"http://www.w3.org/2003/05/soap-envelope/role/next">
<aml-session:To>http://tools.example.com/services/DDCEService</aml-session:To>
<aml-session:Path>
<aml-session:Via>http://www.example.com/appliance/uri</aml-session:Via>
</aml-session:Path>
<aml-session:From>http://www.example.com/appliance/uri</aml-session:From>
<aml-session:MessageId>M2:69000101:C9D9E20B</aml-session:MessageId>
</aml-session:Session>
</soap-env:Header>
<soap-env:Body>
<aml-block:Block xmlns:aml-block="http://www.example.com/2004/01/aml-block">
<aml-block:Header>
<aml-block:Type>http://www.example.com/2005/05/callhome/syslog</aml-block:Type>
```

```

<aml-block:CreationDate>2007-04-25 14:19:55 GMT+00:00</aml-block:CreationDate>
<aml-block:Builder>
<aml-block:Name>Cat6500</aml-block:Name>
<aml-block:Version>2.0</aml-block:Version>
</aml-block:Builder>
<aml-block:BlockGroup>
<aml-block:GroupId>G3:69000101:C9F9E20C</aml-block:GroupId>
<aml-block:Number>0</aml-block:Number>
<aml-block:IsLast>true</aml-block:IsLast>
<aml-block:IsPrimary>true</aml-block:IsPrimary>
<aml-block:WaitForPrimary>false</aml-block:WaitForPrimary>
</aml-block:BlockGroup>
<aml-block:Severity>2</aml-block:Severity>
</aml-block:Header>
<aml-block:Content>
<ch:Call Home xmlns:ch="http://www.example.com/2005/05/callhome" version="1.0">
<ch:EventTime>2007-04-25 14:19:55 GMT+00:00</ch:EventTime>
<ch:MessageDescription>03:29:29: %CLEAR-5-COUNTERS: Clear counter on all
interfaces by console</ch:MessageDescription>
<ch:Event>
<ch>Type>syslog</ch>Type>
<ch:SubType>
</ch:SubType>
<ch:Brand>Cisco Systems</ch:Brand>
<ch:Series>Catalyst 6500 Series Switches</ch:Series>
</ch:Event>
<ch:CustomerData>
<ch:UserData>
<ch:Email>person@example.com</ch:Email>
</ch:UserData>
<ch:ContractData>
<ch:CustomerId>12345</ch:CustomerId>
<ch:SiteId>building 1</ch:SiteId>
<ch:ContractId>abcdefg12345</ch:ContractId>
<ch:DeviceId>WS-C6509@C@69000101</ch:DeviceId>
</ch:ContractData>
<ch:SystemInfo>
<ch>Name>Router</ch>Name>
<ch>Contact>
</ch>Contact>
<ch>ContactEmail>user@example.com</ch>ContactEmail>
<ch>ContactPhoneNumber>+1-408-555-1212</ch>ContactPhoneNumber>
<ch:StreetAddress>#1234 Any Street, Any City, Any State, 12345
</ch:StreetAddress>
</ch:SystemInfo>
</ch:CustomerData>
<ch:Device>
<rme:Chassis xmlns:rme="http://www.example.com/rme/4.0">
<rme:Model>WS-C6509</rme:Model>
<rme:HardwareVersion>1.0</rme:HardwareVersion>
<rme:SerialNumber>69000101</rme:SerialNumber>
<rme:AdditionalInformation>
<rme:AD name="PartNumber" value="73-3438-03 01" />
<rme:AD name="SoftwareVersion" value="4.0(20080421:012711)" />
</rme:AdditionalInformation>
</rme:Chassis>
</ch:Device>
</ch:Call Home>
</aml-block:Content>
<aml-block:Attachments>
<aml-block:Attachment type="inline">
<aml-block:Name>show logging</aml-block:Name>
<aml-block:Data encoding="plain">
<![CDATA[Syslog logging: enabled (0 messages dropped, 0 messages

```

```
rate-limited, 0 flushes, 0 overruns, xml disabled, filtering disabled)
  Console logging: level debugging, 53 messages logged, xml disabled,
  filtering disabled  Monitor logging: level debugging, 0 messages logged,
  xml disabled,filtering disabled  Buffer logging: level debugging,
  53 messages logged, xml disabled,      filtering disabled  Exception
  Logging: size (4096 bytes)  Count and timestamp logging messages: disabled
  Trap logging: level informational, 72 message lines logged
Log Buffer (8192 bytes):
00:00:54: curr is 0x20000
00:00:54: RP: Currently running ROMMON from F2 region
00:01:05: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from memory by console
00:01:09: %SYS-5-RESTART: System restarted --Cisco IOS Software,
s72033_rp Software (s72033_rp-ADVENTERPRISEK9_DBG-VM), Experimental
Version 12.2(20070421:012711) Copyright (c) 1986-2007 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 26-Apr-07 15:54 by xxx
Firmware compiled 11-Apr-07 03:34 by integ Build [100]00:01:01: %PFREDUN-6-ACTIVE:
  Initializing as ACTIVE processor for this switch00:01:01: %SYS-3-LOGGER_FLUSHED:
System was paused for 00:00:00 to ensure console debugging output.00:03:00: SP: SP:
Currently running ROMMON from F1 region00:03:07: %C6K_PLATFORM-SP-4-CONFREG_BREAK
_ENABLED: The default factory setting for config register is 0x2102.It is advisable
to retain 1 in 0x2102 as it prevents returning to ROMMON when break is issued.00:03:18:

%SYS-SP-5-RESTART: System restarted --Cisco IOS Software, s72033_sp Software
(s72033_sp-ADVENTERPRISEK9_DBG-VM), Experimental Version 12.2(20070421:012711)Copyright
(c) 1986-2007 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 26-Apr-07 18:00 by xxx
00:03:18: %SYS-SP-6-BOOTTIME: Time taken to reboot after reload = 339 seconds
00:03:18: %OIR-SP-6-INSPS: Power supply inserted in slot 1
00:03:18: %C6KPWR-SP-4-PSOK: power supply 1 turned on.
00:03:18: %OIR-SP-6-INSPS: Power supply inserted in slot00:01:09: %SSH-5-ENABLED:
  SSH 1.99 has been enabled
00:03:18: %C6KPWR-SP-4-PSOK: power supply 2 turned on.
00:03:18: %C6KPWR-SP-4-PSREDUNDANTMISMATCH: power supplies rated outputs do not match.
00:03:18: %C6KPWR-SP-4-PSREDUNDANTBOTHSUPPLY: in power-redundancy mode, system is
operating on both power supplies.
00:01:10: %CRYPTO-6-ISAKMP_ON_OFF: ISAKMP is OFF
00:01:10: %CRYPTO-6-ISAKMP_ON_OFF: ISAKMP is OFF
00:03:20: %C6KENV-SP-4-FANHIOUTPUT: Version 2 high-output fan-tray is in effect
00:03:22: %C6KPWR-SP-4-PSNOREDUNDANCY: Power supplies are not in full redundancy,
power usage exceeds lower capacity supply
00:03:26: %FABRIC-SP-5-FABRIC_MODULE_ACTIVE: The Switch Fabric Module in slot 6
became active.
00:03:28: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 6: Running Minimal Diagnostics...
00:03:50: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 6: Passed Online Diagnostics
00:03:50: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 6, interfaces are now online
00:03:51: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 3: Running Minimal Diagnostics...
00:03:51: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 7: Running Minimal Diagnostics...
00:03:51: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 9: Running Minimal Diagnostics...
00:01:51: %MFIB_CONST_RP-6-REPLICATION_MODE_CHANGE: Replication Mode Change Detected.
  Current system replication mode is Ingress
00:04:01: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 3: Passed Online Diagnostics
00:04:01: %OIR-SP-6-DOWNGRADE: Fabric capable module 3 not at an appropriate hardware
revision level, and can only run in flowthrough mode
00:04:02: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 3, interfaces are now online
00:04:11: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 7: Passed Online Diagnostics
00:04:14: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 7, interfaces are now online
00:04:35: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 9: Passed Online Diagnostics
00:04:37: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 9, interfaces are now online
00:00:09: DaughterBoard (Distributed Forwarding Card 3)
Firmware compiled 11-Apr-07 03:34 by integ Build [100]
00:00:22: %SYS-DFC4-5-RESTART: System restarted --
Cisco DCOS Software, c6lc2 Software (c6lc2-SPDBG-VM), Experimental Version 4.0
(20080421:012711)Copyright (c) 1986-2008 by Cisco Systems, Inc.
```

```

Compiled Thu 26-Apr-08 17:20 by xxx
00:00:23: DFC4: Currently running ROMMON from F2 region
00:00:25: %SYS-DFC2-5-RESTART: System restarted --
Cisco IOS Software, c6slc Software (c6slc-SPDBG-VM), Experimental Version 12.2
(20070421:012711)Copyright (c) 1986-2007 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 26-Apr-08 16:40 by username1
00:00:26: DFC2: Currently running ROMMON from F2 region
00:04:56: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 4: Running Minimal Diagnostics...
00:00:09: DaughterBoard (Distributed Forwarding Card 3)
Firmware compiled 11-Apr-08 03:34 by integ Build [100]
slot_id is 8
00:00:31: %FLASHFS_HES-DFC8-3-BADCARD: /bootflash:: The flash card seems to
be corrupted
00:00:31: %SYS-DFC8-5-RESTART: System restarted --
Cisco DCOS Software, c6lc2 Software (c6lc2-SPDBG-VM), Experimental Version 4.0
(20080421:012711)Copyright (c) 1986-2008 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 26-Apr-08 17:20 by username1
00:00:31: DFC8: Currently running ROMMON from S (Gold) region
00:04:59: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 2: Running Minimal Diagnostics...
00:05:12: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 8: Running Minimal Diagnostics...
00:05:13: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 1: Running Minimal Diagnostics...
00:00:24: %SYS-DFC1-5-RESTART: System restarted --
Cisco DCOS Software, c6slc Software (c6slc-SPDBG-VM), Experimental Version 4.0
(20080421:012711)Copyright (c) 1986-2008 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 26-Apr-08 16:40 by username1
00:00:25: DFC1: Currently running ROMMON from F2 region
00:05:30: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 4: Passed Online Diagnostics
00:05:31: %SPAN-SP-6-SPAN_EGRESS_REPLICATION_MODE_CHANGE: Span Egress HW
Replication Mode Change Detected. Current replication mode for unused asic
session 0 is Centralized
00:05:31: %SPAN-SP-6-SPAN_EGRESS_REPLICATION_MODE_CHANGE: Span Egress HW
Replication Mode Change Detected. Current replication mode for unused asic
session 1 is Centralized
00:05:31: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 4, interfaces are now online
00:06:02: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 1: Passed Online Diagnostics
00:06:03: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 1, interfaces are now online
00:06:31: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 2: Passed Online Diagnostics
00:06:33: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 2, interfaces are now online
00:04:30: %XDR-6-XDRIPCNOTIFY: Message not sent to slot 4/0 (4) because of IPC
error timeout. Disabling linecard. (Expected during linecard OIR)
00:06:59: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 8: Passed Online Diagnostics
00:06:59: %OIR-SP-6-DOWNGRADE_EARL: Module 8 DFC installed is not identical to
system PFC and will perform at current system operating mode.
00:07:06: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 8, interfaces are now online
Router#]]>
</aml-block:Data>
</aml-block:Attachment>
</aml-block:Attachments>
</aml-block:Block>
</soap-env:Body>
</soap-env:Envelope>

```





## 第 10 章

# Session Manager の設定

この章は、次の項で構成されています。

- [Session Manager の概要](#) (155 ページ)
- [Session Manager の注意事項および制約事項](#) (155 ページ)
- [Session Manager の設定](#) (156 ページ)
- [Session Manager 設定の確認](#) (158 ページ)

## Session Manager の概要

Session Manager を使用すると、設定変更をバッチ モードで実行できます。Session Manager は次のフェーズで機能します。

- **コンフィギュレーションセッション**：Session Manager モードで実行するコマンドのリストを作成します。
- **検証**：設定の基本的なセマンティクス検査を行います。Cisco NX-OS は、設定の一部でセマンティクス検査が失敗した場合にエラーを返します。
- **検証**：既存のハードウェア設定、ソフトウェア設定、およびリソースに基づいて、設定全体を確認します。Cisco NX-OS は、設定がこの確認フェーズで合格しなかった場合にエラーを返します。
- **コミット**：Cisco NX-OS は設定全体を確認して、デバイスに対する変更をアトミックに実行します。エラーが発生すると、Cisco NX-OS は元の設定に戻ります。
- **打ち切り**：設定変更を実行しないで廃棄します。

任意で、変更をコミットしないでコンフィギュレーションセッションを終了できます。また、コンフィギュレーションセッションを保存することもできます。

## Session Manager の注意事項および制約事項

Session Manager には、次の注意事項および制限事項があります。

- Session Manager は、アクセス コントロール リスト (ACL) 機能のみサポートします。
- 作成できるコンフィギュレーションセッションの最大数は 32 です。
- すべてのセッションで設定できるコマンドの最大数は 20,000 です。

## Session Manager の設定

### セッションの作成

作成できるコンフィギュレーションセッションの最大数は 32 です。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure session name</b>	コンフィギュレーションセッションを作成し、セッションコンフィギュレーションモードを開始します。名前は任意の英数字ストリングです。 セッションの内容を表示します。
ステップ 2	(任意) switch(config-s)# <b>show configuration session [name]</b>	セッションの内容を表示します。
ステップ 3	(任意) switch(config-s)# <b>save location</b>	セッションをファイルに保存します。保存場所には、bootflash または volatile を指定できます。

### セッションでの ACL の設定

コンフィギュレーションセッションで ACL を設定できます。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure session name</b>	コンフィギュレーションセッションを作成し、セッションコンフィギュレーションモードを開始します。名前は任意の英数字ストリングです。
ステップ 2	switch(config-s)# <b>ip access-list name</b>	ACL を作成します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	(任意) <code>switch(config-s-acl)# permit protocol source destination</code>	ACL に許可文を追加します。
ステップ 4	<code>switch(config-s-acl)# interface interface-type number</code>	インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 5	<code>switch(config-s-if)# ip port access-group name in</code>	インターフェイスにポートアクセスグループを追加します。
ステップ 6	(任意) <code>switch# show configuration session [name]</code>	セッションの内容を表示します。

## セッションの確認

セッションを確認するには、セッションモードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<code>switch(config-s)# verify [verbose]</code>	コンフィギュレーションセッションのコマンドを確認します。

## セッションのコミット

セッションをコミットするには、セッションモードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<code>switch(config-s)# commit [verbose]</code>	コンフィギュレーションセッションのコマンドをコミットします。

## セッションの保存

セッションを保存するには、セッションモードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<code>switch(config-s)# save location</code>	(任意) セッションをファイルに保存します。保存場所には、 <code>bootflash</code> または <code>volatile</code> を指定できます。

## セッションの廃棄

セッションを廃棄するには、セッションモードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
switch(config-s)# <b>abort</b>	コマンドを適用しないで、コンフィギュレーションセッションを廃棄します。

## Session Manager のコンフィギュレーション例

次に、ACL 用のコンフィギュレーションセッションを作成する例を示します。

```
switch# configure session name test2
switch(config-s)# ip access-list acl2
switch(config-s-acl)# permit tcp any any
switch(config-s-acl)# exit
switch(config-s)# interface Ethernet 1/4
switch(config-s-ip)# ip port access-group acl2 in
switch(config-s-ip)# exit
switch(config-s)# verify
switch(config-s)# exit
switch# show configuration session test2
```

## Session Manager 設定の確認

Session Manager の設定情報を確認するには、次の作業のいずれかを行います。

コマンド	目的
<b>show configuration session</b> <i>[name]</i>	コンフィギュレーションファイルの内容を表示します。
<b>show configuration session status</b> <i>[name]</i>	コンフィギュレーションセッションのステータスを表示します。
<b>show configuration session summary</b>	すべてのコンフィギュレーションセッションのサマリーを表示します。



# 第 11 章

## スケジューラの設定

この章は、次の項で構成されています。

- [スケジューラの概要 \(159 ページ\)](#)
- [スケジューラのライセンス要件 \(160 ページ\)](#)
- [スケジューラの注意事項および制約事項 \(160 ページ\)](#)
- [スケジューラのデフォルト設定 \(161 ページ\)](#)
- [スケジューラの設定 \(161 ページ\)](#)
- [スケジューラの設定確認 \(168 ページ\)](#)
- [スケジューラの設定例 \(169 ページ\)](#)
- [スケジューラの標準 \(170 ページ\)](#)

## スケジューラの概要

スケジューラを使用すると、次のようなメンテナンス作業のタイムテーブルを定義し、設定することができます。

- QoS (Quality of Service) ポリシーの変更
- データのバックアップ
- 設定の保存

ジョブは、定期的な作業を定義する単一または複数のコマンドで構成されています。ジョブは、1 回だけ、または定期的な間隔でスケジューリングすることができます。

スケジューラでは、ジョブと、そのタイムテーブルを次のように定義できます。

### ジョブ

コマンドリストとして定義され、指定されたスケジュールに従って実行される定期的なタスク。

### スケジュール

ジョブを実行するためのタイムテーブル。1 つのスケジュールに複数のジョブを割り当てるすることができます。

1つのスケジューラは、定期的、または1回だけ実行するように定義されます。

- 定期モード：ジョブを削除するまで続行される繰り返しの間隔。次のタイプの定期的な間隔を設定できます。
  - Daily：ジョブは1日1回実行されます。
  - Weekly：ジョブは毎週1回実行されます。
  - Monthly：ジョブは毎月1回実行されます。
  - Delta：ジョブは、指定した時間に開始され、以後、指定した間隔（days:hours:minutes）で実行されます。
- 1回限定モード：ジョブは、指定した時間に1回だけ実行されます。

## リモート ユーザ認証

ジョブの開始前に、スケジューラはジョブを作成したユーザを認証します。リモート認証からのユーザクレデンシャルは、スケジューラされたジョブをサポートできるだけの十分に長い時間保持されないため、ジョブを作成するユーザの認証パスワードをローカルで設定する必要があります。これらのパスワードは、スケジューラのコンフィギュレーションに含まれ、ローカル設定のユーザとは見なされません。

ジョブを開始する前に、スケジューラはローカルパスワードとリモート認証サーバに保存されたパスワードを照合します。

## スケジューラ ログ ファイル

スケジューラは、ジョブ出力を含むログ ファイルを管理します。ジョブ出力のサイズがログ ファイルのサイズより大きい場合、出力内容は切り捨てられます。

## スケジューラのライセンス要件

この機能には、ライセンスは必要ありません。ライセンスパッケージに含まれていない機能はすべて Cisco NX-OS システムイメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。NX-OS ライセンス方式の詳細については、『*Cisco NX-OS Licensing Guide*』を参照してください。

## スケジューラの注意事項および制約事項

- ジョブの実行中に次のいずれかの状況が発生した場合、スケジューラは失敗する可能性があります。

- 機能ライセンスが、その機能のジョブがスケジューラされている時間に期限切れになった場合。
- 機能が、その機能を使用するジョブがスケジューラされている時間にディセーブルになっている場合。
- 時刻が設定されていることを確認します。スケジューラはデフォルトのタイムテーブルを適用しません。スケジューラを作成し、ジョブを割り当てても、時刻を設定しなければ、ジョブは開始されません。
- ジョブは開始されると非インタラクティブ方式で実行されるため、ジョブの定義中、インタラクティブなコマンドや中断を伴うコマンド（例：**copy bootflash: file ftp:URI**、**write erase**、その他類似のコマンド）が指定されていないことを確認してください。

## スケジューラのデフォルト設定

表 17: コマンドスケジューラのパラメータのデフォルト

パラメータ (Parameters)	デフォルト
スケジューラの状態	ディセーブル
ログファイルサイズ	16 KB

## スケジューラの設定

### スケジューラのイネーブル化

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config) # feature scheduler</code>	スケジューラをイネーブルにします。
ステップ 3	(任意) <code>switch(config) # show scheduler config</code>	スケジューラ設定を表示します。
ステップ 4	(任意) <code>switch(config)# copy running-config startup-config</code>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

## 例

次に、スケジューラをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# feature scheduler
switch(config)# show scheduler config
config terminal
    feature scheduler
    scheduler logfile size 16
end
switch(config)#
```

## スケジューラ ログ ファイル サイズの定義

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>scheduler logfile size value</b>	スケジューラ ログ ファイル サイズをキロバイト (KB) で定義します。  範囲は 16～1024 です。デフォルトのログ ファイル サイズは 16 です。  (注) ジョブ出力のサイズがログ ファイルのサイズより大きい場合、出力内容は切り捨てられます。
ステップ 3	(任意) switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

## 例

次に、スケジューラ ログ ファイルのサイズを定義する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# scheduler logfile size 1024
switch(config)#
```



## リモートユーザ認証の設定

リモートユーザは、ジョブを作成および設定する前に、クリアテキストパスワードを使用して認証する必要があります。

**show running-config** コマンドの出力では、リモートユーザパスワードは常に暗号化された状態で表示されます。コマンドの暗号化オプション (7) は、ASCII デバイス設定をサポートします。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>scheduler aaa-authentication password [0   7] password</b>	現在ログインしているユーザのパスワードを設定します。  クリアテキストパスワードを設定するには、 <b>0</b> を入力します。  暗号化されたパスワードを設定するには、 <b>7</b> を入力します。
ステップ 3	switch(config) # <b>scheduler aaa-authentication username name password [0   7] password</b>	リモートユーザのクリアテキストパスワードを設定します。
ステップ 4	(任意) switch(config) # <b>show running-config   include "scheduler aaa-authentication"</b>	スケジュールのパスワード情報を表示します。
ステップ 5	(任意) switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 例

次に、NewUser という名前のリモートユーザのクリアテキストパスワードを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # scheduler aaa-authentication
username NewUser password z98y76x54b
switch(config) # copy running-config startup-config
switch(config) #
```

## ジョブの定義

一旦ジョブを定義すると、コマンドの変更、削除はできません。ジョブを変更するには、そのジョブを削除して新しいジョブを作成する必要があります。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config) # scheduler job name name</code>	ジョブを指定された名前で作成し、ジョブ コンフィギュレーション モードを開始します。  <i>name</i> は 31 文字までに制限されています。
ステップ 3	<code>switch(config-job) # command1 ; [command2 ; command3 ; ...</code>	特定のジョブに対応するコマンドシーケンスを定義します。コマンドはスペースとセミコロン (;) で区切ります。  ファイル名は現在のタイムスタンプとスイッチ名を使用して作成されます。
ステップ 4	(任意) <code>switch(config-job) # show scheduler job [name]</code>	ジョブ情報を表示します。  <i>name</i> は 31 文字までに制限されています。
ステップ 5	(任意) <code>switch(config-job) # copy running-config startup-config</code>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 例

次に、`backup-cfg` という名前のスケジューラ ジョブを作成し、実行コンフィギュレーションをブートフラッシュ内のファイルに保存し、そのファイルをブートフラッシュから TFTP サーバにコピーし、変更をスタートアップ コンフィギュレーションに保存する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # scheduler job name backup-cfg
switch(config-job) # cli var name timestamp
$(timestamp) ;copy running-config
bootflash:/$ (SWITCHNAME) -cfg.$ (timestamp) ;copy
bootflash:/$ (SWITCHNAME) -cfg.$ (timestamp)
tftp://1.2.3.4/ vrf management
switch(config-job) # copy running-config startup-config
```

## ジョブの削除

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>no scheduler job name</b> <i>name</i>	特定のジョブおよびそこで定義されたすべてのコマンドを削除します。  <i>name</i> は 31 文字までに制限されています。
ステップ 3	(任意) switch(config-job) # <b>show scheduler job [name]</b>	ジョブ情報を表示します。
ステップ 4	(任意) switch(config-job) # <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 例

次に、configsave という名前のジョブを削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # no scheduler job name configsave
switch(config-job) # copy running-config startup-config
switch(config-job) #
```

## タイムテーブルの定義

タイムテーブルを設定する必要があります。設定しないと、ジョブがスケジューリングされません。

**time** コマンドで時刻を設定しない場合は、スケジューラは現在の時刻を使用します。たとえば、現在の時刻が 2008 年 3 月 24 日の 22 時 00 分である場合、ジョブは次のように開始されます。

- スケジューラは、**time start 23:00 repeat 4:00:00** コマンドの開始時刻が、2008 年 3 月 24 日 23 時 00 分であると見なします。
- スケジューラは、**time daily 55** コマンドの開始時刻が、毎日 22 時 55 分であると見なします。
- スケジューラは、**time weekly 23:00** コマンドの開始時刻が、毎週金曜日の 23 時 00 分であると見なします。

- スケジューラは、**time monthly 23:00** コマンドの開始時刻が、毎月 24 日の 23 時 00 分であると見なします。



(注) スケジューラは、1 つ前のジョブが完了しない限り、次のジョブを開始しません。たとえば、1 分間隔で実行するジョブを 22 時 00 分に開始するようジョブをスケジューリングしたが、ジョブを完了するには 2 分間必要である場合、ジョブは次のように実行されます。スケジューラは 22 時 00 分に最初のジョブを開始し、22 時 02 分に完了します。次に 1 分間待機し、22 時 03 分に次のジョブを開始します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>scheduler schedule name name</b>	新しいスケジューラを作成し、そのスケジュールのスケジュール コンフィギュレーション モードを開始します。  <i>name</i> は 31 文字までに制限されています。
ステップ 3	switch(config-schedule) # <b>job name name</b>	このスケジュールにジョブを関連付けます。1 つのスケジュールに複数のジョブを追加できます。  <i>name</i> は 31 文字までに制限されています。
ステップ 4	switch(config-schedule) # <b>time daily time</b>	ジョブが毎日 HH:MM の形式で指定された時刻に開始することを意味します。
ステップ 5	switch(config-schedule) # <b>time weekly</b> [[ <i>day-of-week:</i> ] HH:] MM	ジョブが週の指定された曜日に開始することを意味します。  曜日は整数（たとえば、日曜日は <b>1</b> 、月曜日は <b>2</b> ）または略語（たとえば、 <b>sun</b> 、 <b>mon</b> ）で表します。  引数全体の最大長は 10 文字です。
ステップ 6	switch(config-schedule) # <b>time monthly</b> [[ <i>day-of-month:</i> ] HH:] MM	ジョブが月の特定の日に開始することを意味します。  29、30 または 31 のいずれかを指定した場合、そのジョブは各月の最終日に開始されます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	<code>switch(config-schedule) # time start { now repeat repeat-interval   delta-time [ repeat repeat-interval]}</code>	<p>ジョブが定期的に開始することを意味します。</p> <p>start-time の形式は [[[yy:]]mm:]dd:]HH]:MM です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>delta-time</i> : スケジュールの設定後、ジョブの開始までの待機時間を指定します。</li> <li>• <b>now</b> : ジョブが今から 2 分後に開始することを指定します。</li> <li>• <b>repeat repeat-interval</b> : ジョブを反復する回数を指定します。</li> </ul>
ステップ 8	(任意) <code>switch(config-schedule) # show scheduler config</code>	スケジューラの情報を表示します。
ステップ 9	(任意) <code>switch(config-schedule) # copy running-config startup-config</code>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

例

次に、ジョブが毎月 28 日の 23 時 00 分に開始するタイムテーブルを定義する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # scheduler schedule name weekendbackupqos
switch(config-scheduler) # job name offpeakzoning
switch(config-scheduler) # time monthly 28:23:00
switch(config-scheduler) # copy running-config startup-config
switch(config-scheduler) #
```

## スケジューラ ログ ファイルの消去

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config) # clear scheduler logfile</code>	スケジューラ ログ ファイルを消去します。

## 例

次に、スケジューラ ログ ファイルを消去する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# clear scheduler logfile
```

## スケジューラのディセーブル化

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>no feature scheduler</b>	スケジューラをディセーブルにします。
ステップ 3	(任意) switch(config) # <b>show scheduler config</b>	スケジューラ設定を表示します。
ステップ 4	(任意) switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

## 例

次に、スケジューラをディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # no feature scheduler
switch(config) # copy running-config startup-config
switch(config) #
```

## スケジューラの設定確認

次のいずれかのコマンドを使用して、設定を確認します。

表 18: スケジューラの *show* コマンド

コマンド	目的
<b>show scheduler config</b>	スケジューラ設定を表示します。
<b>show scheduler job [name name]</b>	設定されているジョブを表示します。

コマンド	目的
<b>show scheduler logfile</b>	スケジュール ログファイルの内容を表示します。
<b>show scheduler schedule [name name]</b>	設定されているスケジュールを表示します。

## スケジュールの設定例

### スケジュール ジョブの作成

次に、実行中のコンフィギュレーションを bootflash 内のファイルに保存し、ファイルを bootflash から TFTP サーバにコピーするスケジュールジョブを作成する例を示します（ファイル名は、現在のタイムスタンプとスイッチ名を使用して作成されます）。

```
switch# configure terminal
switch(config)# scheduler job name backup-cfg
switch(config-job)# cli var name timestamp $(TIMESTAMP) ;copy running-config
bootflash:/${SWITCHNAME}-cfg.${timestamp} ;copy bootflash:/${SWITCHNAME}-cfg.${timestamp}

tftp://1.2.3.4/ vrf management
switch(config-job)# end
switch(config)#
```

### スケジュール ジョブのスケジュールリング

次に、backup-cfg という名前のスケジュールジョブを、毎日午前1時に実行するようスケジュールリングする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# scheduler schedule name daily
switch(config-schedule)# job name backup-cfg
switch(config-schedule)# time daily 1:00
switch(config-schedule)# end
switch(config)#
```

### ジョブスケジュールの表示

次に、ジョブスケジュールを表示する例を示します。

```
switch# show scheduler schedule
Schedule Name      : daily
-----
User Name          : admin
Schedule Type      : Run every day at 1 Hrs 00 Mins
Last Execution Time : Fri Jan 2 1:00:00 2009
Last Completion Time: Fri Jan 2 1:00:01 2009
Execution count    : 2
-----
Job Name           Last Execution Status
-----
```

```
back-cfg                               Success (0)
switch(config)#
```

## スケジューラ ジョブの実行結果の表示

次に、スケジューラによって実行されたスケジューラ ジョブの結果を表示する例を示します。

```
switch# show scheduler logfile
Job Name      : back-cfg                Job Status: Failed (1)
Schedule Name : daily                  User Name  : admin
Completion time: Fri Jan 1  1:00:01 2009
----- Job Output -----
`cli var name timestamp 2009-01-01-01.00.00`
`copy running-config bootflash:/${(HOSTNAME)}-cfg.${(timestamp)}`
`copy bootflash:/switch-cfg.2009-01-01-01.00.00 tftp://1.2.3.4/ vrf management `
copy: cannot access file '/bootflash/switch-cfg.2009-01-01-01.00.00'
=====
Job Name      : back-cfg                Job Status: Success (0)
Schedule Name : daily                  User Name  : admin
Completion time: Fri Jan 2  1:00:01 2009
----- Job Output -----
`cli var name timestamp 2009-01-02-01.00.00`
`copy running-config bootflash:/switch-cfg.2009-01-02-01.00.00`
`copy bootflash:/switch-cfg.2009--01-02-01.00.00 tftp://1.2.3.4/ vrf management `
Connection to Server Established.
[                ]          0.50KBTrying to connect to tftp server.....
[#####         ]          24.50KB
TFTP put operation was successful
=====
switch#
```

## スケジューラの標準

この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。





## 第 12 章

# SNMP の設定

この章は、次の項で構成されています。

- [SNMP に関する情報](#) (171 ページ)
- [SNMP のライセンス要件](#) (176 ページ)
- [Smart Call Home の注意事項および制約事項](#) (176 ページ)
- [SNMP のデフォルト設定](#) (176 ページ)
- [SNMP の設定](#) (177 ページ)
- [SNMP ローカルエンジン ID の設定](#) (190 ページ)
- [SNMP のディセーブル化](#) (191 ページ)
- [SNMP 設定の確認](#) (191 ページ)

## SNMP に関する情報

簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) は、SNMP マネージャとエージェント間の通信用メッセージフォーマットを提供する、アプリケーションレイヤプロトコルです。SNMP では、ネットワーク内のデバイスのモニタリングと管理に使用する標準フレームワークと共通言語が提供されます。

## SNMP 機能の概要

SNMP フレームワークは 3 つの部分で構成されます。

- **SNMP マネージャ**：SNMP を使用してネットワークデバイスのアクティビティを制御し、モニタリングするシステム。
- **SNMP エージェント**：デバイスのデータを維持し、必要に応じてこれらのデータを管理システムに報告する、管理対象デバイス内のソフトウェア コンポーネント。Cisco Nexus デバイスはエージェントおよび MIB をサポートします。SNMP エージェントをイネーブルにするには、マネージャとエージェントの関係を定義する必要があります。
- **MIB (Management Information Base; 管理情報ベース)**：SNMP エージェントの管理対象オブジェクトの集まり



(注) Cisco NX-OS は、イーサネット MIB の SNMP セットをサポートしません。

Cisco Nexus デバイスは、SNMPv1、SNMPv2c、および SNMPv3 をサポートします。SNMPv1 および SNMPv2c はどちらも、コミュニティベース形式のセキュリティを使用します。

SNMP は、RFC 3410 (<http://tools.ietf.org/html/rfc3410>)、RFC 3411 (<http://tools.ietf.org/html/rfc3411>)、RFC 3412 (<http://tools.ietf.org/html/rfc3412>)、RFC 3413 (<http://tools.ietf.org/html/rfc3413>)、RFC 3414 (<http://tools.ietf.org/html/rfc3414>)、RFC 3415 (<http://tools.ietf.org/html/rfc3415>)、RFC 3416 (<http://tools.ietf.org/html/rfc3416>)、RFC 3417 (<http://tools.ietf.org/html/rfc3417>)、RFC 3418 (<http://tools.ietf.org/html/rfc3418>)、および RFC 3584 (<http://tools.ietf.org/html/rfc3584>) で定義されています。

## SNMP 通知

SNMP の重要な機能の 1 つは、SNMP エージェントから通知を生成できることです。これらの通知では、要求を SNMP マネージャから送信する必要はありません。通知は、不正なユーザ認証、再起動、接続の切断、隣接ルータとの接続の切断、その他の重要なイベントを表示します。

Cisco NX-OS は、トラップまたはインフォームとして SNMP 通知を生成します。トラップは、エージェントからホスト レシーバテーブルで指定された SNMP マネージャに送信される、非同期の非確認応答メッセージです。インフォームは、SNMP エージェントから SNMP マネージャに送信される非同期メッセージで、マネージャは受信したという確認応答が必要です。

トラップの信頼性はインフォームより低くなります。SNMP マネージャはトラップを受信しても確認応答 (ACK) を送信しないからです。このため、トラップが受信されたかどうかをスイッチが判断できません。インフォーム要求を受信する SNMP マネージャは、SNMP 応答プロトコルデータユニット (PDU) でメッセージの受信を確認応答します。Cisco Nexus デバイスが応答を受信しない場合、インフォーム要求を再び送信できます。

複数のホスト レシーバーに通知を送信するよう Cisco NX-OS を設定できます。

## SNMPv3

SNMPv3 は、ネットワーク経由のフレームの認証と暗号化を組み合わせることによって、デバイスへのセキュアアクセスを実現します。SNMPv3 が提供するセキュリティ機能は次のとおりです。

- メッセージの完全性：パケットが伝送中に改ざんされていないことを保証します。
- 認証：メッセージのソースが有効かどうかを判別します。
- 暗号化：許可されていないソースにより判読されないように、パケットの内容のスクランブルを行います。

SNMPv3 では、セキュリティ モデルとセキュリティ レベルの両方が提供されています。セキュリティ モデルは、ユーザおよびユーザが属するロールを設定する認証方式です。セキュリティ レベルとは、セキュリティ モデル内で許可されるセキュリティのレベルです。セキュリティ モデルとセキュリティ レベルの組み合わせにより、SNMP パケット処理中に採用されるセキュリティ メカニズムが決まります。

## SNMPv1、SNMPv2、SNMPv3 のセキュリティ モデルおよびセキュリティ レベル

セキュリティ レベルは、SNMP メッセージを開示から保護する必要があるかどうか、およびメッセージを認証するかどうか判断します。セキュリティ モデル内のさまざまなセキュリティ レベルは、次のとおりです。

- noAuthNoPriv : 認証または暗号化を実行しないセキュリティ レベル。このレベルは、SNMPv3 ではサポートされていません。
- authNoPriv : 認証は実行するが、暗号化を実行しないセキュリティ レベル。
- authPriv : 認証と暗号化両方を実行するセキュリティ レベル。

SNMPv1、SNMPv2c、および SNMPv3 の 3 つのセキュリティ モデルを使用できます。セキュリティ モデルとセキュリティ レベルの組み合わせにより、SNMP メッセージの処理中に適用されるセキュリティ メカニズムが決まります。

表 19: SNMP セキュリティ モデルおよびセキュリティ レベル

モデル	レベル	認証	暗号化	結果
v1	noAuthNoPriv	コミュニティ ストリング	未対応	コミュニティ ストリングの照合を使用して認証します。
v2c	noAuthNoPriv	コミュニティ ストリング	未対応	コミュニティ ストリングの照合を使用して認証します。

モデル	レベル	認証	暗号化	結果
v3	authNoPriv	HMAC-MD5 または HMAC-SHA	非対応	Hash-Based Message Authentication Code (HMAC) メッセージダイジェスト 5 (MD5) アルゴリズムまたは HMAC Secure Hash Algorithm (SHA) アルゴリズムに基づいて認証します。
v3	authPriv	HMAC-MD5 または HMAC-SHA	DES	HMAC-MD5 アルゴリズムまたは HMAC-SHA アルゴリズムに基づいて認証します。データ暗号規格 (DES) の 56 ビット暗号化、および暗号ブロック連鎖 (CBC) DES (DES-56) 標準に基づいて認証します。

## ユーザベースのセキュリティ モデル

SNMPv3 ユーザベースセキュリティ モデル (USM) は SNMP メッセージレベルセキュリティを参照し、次のサービスを提供します。

- メッセージの完全性：メッセージが不正な方法で変更または破壊されず、データシーケンスが悪意なく起こり得る範囲を超えて変更されていないことを保証します。
- メッセージの発信元の認証：データを受信したユーザが提示した ID の発信元を確認します。
- メッセージの機密性：情報が使用不可であること、または不正なユーザ、エンティティ、またはプロセスに開示されないことを保証します。

SNMPv3 は、設定済みユーザによる管理動作のみを許可し、SNMP メッセージを暗号化します。

Cisco NX-OSは、次の 2 つの SNMPv3 認証プロトコルを使用します。

- HMAC-MD5-96 認証プロトコル
- HMAC-SHA-96 認証プロトコル

Cisco NX-OS は、SNMPv3 メッセージ暗号化用プライバシープロトコルの1つとして、Advanced Encryption Standard (AES) を使用し、RFC 3826 に準拠します。

**priv** オプションで、SNMP セキュリティ暗号化方式として、DES または 128 ビット AES 暗号化を選択できます。**priv** オプションと **aes-128** トークンを併用すると、このプライバシーパスワードは 128 ビットの AES キー番号を生成するためのパスワードになります。AES **priv** パスワードは、8 文字以上の長さになります。パスフレーズをクリアテキストで指定する場合、最大 64 文字を指定できます。ローカライズドキーを使用する場合は、最大 130 文字を指定できます。



- (注) 外部の AAA サーバを使用して SNMPv3 を使う場合、外部 AAA サーバのユーザ設定でプライバシープロトコルに AES を指定する必要があります。

## CLI および SNMP ユーザの同期

SNMPv3 ユーザ管理は、Access Authentication and Accounting (AAA) サーバレベルで集中化できます。この中央集中型ユーザ管理により、Cisco NX-OS の SNMP エージェントは AAA サーバのユーザ認証サービスを利用できます。ユーザ認証が検証されると、SNMP PDU の処理が進行します。AAA サーバはユーザグループ名の格納にも使用されます。SNMP はグループ名を使用して、スイッチでローカルに使用できるアクセスポリシーまたはロールポリシーを適用します。

ユーザグループ、ロール、またはパスワードの設定が変更されると、SNMP と AAA の両方のデータベースが同期化されます。

Cisco NX-OS は、次のようにユーザ設定を同期化します。

- **snmp-server user** コマンドで指定された **auth** パスフレーズは、CLI ユーザのパスワードになります。
- **username** コマンドで指定されたパスワードは、SNMP ユーザの **auth** および **priv** パスフレーズになります。
- SNMP または CLI を使用してユーザを作成または削除すると、SNMP と CLI の両方でユーザが作成または削除されます。
- ユーザとロールの対応関係の変更は、SNMP と CLI で同期化されます。
- ロール変更 (CLI からの削除または変更) は、SNMP と同期化されます。



- (注) パスフレーズまたはパスワードをローカライズしたキーおよび暗号形式で設定した場合、Cisco NX-OS はユーザ情報 (パスワード、ルールなど) を同期させません。

## グループベースの SNMP アクセス



- (注) グループは業界全体で使用されている標準的な SNMP 用語なので、SNMP に関する説明では、「ロール」ではなく「グループ」を使用します。

SNMP アクセス権は、グループ別に編成されます。SNMP 内の各グループは、CLI を使用する場合のロールに似ています。各グループは3つのアクセス権により定義されます。つまり、読み取りアクセス、書き込みアクセス、および通知アクセスです。それぞれのアクセスを、各グループでイネーブルまたはディセーブルに設定できます。

ユーザ名が作成され、ユーザのロールが管理者によって設定され、ユーザがそのロールに追加されていれば、そのユーザはエージェントとの通信を開始できます。

## SNMP のライセンス要件

この機能には、ライセンスは必要ありません。ライセンスパッケージに含まれていない機能はすべて Cisco NX-OS システムイメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。NX-OS ライセンス方式の詳細については、『Cisco NX-OS Licensing Guide』を参照してください。

## Smart Call Home の注意事項および制約事項

- IP 接続がない場合、またはプロファイル宛先への仮想ルーティングおよびフォワーディング (VRF) インスタンス内のインターフェイスがダウンしている場合、スイッチは Smart Call Home メッセージを送信できません。
- 任意の SMTP 電子メール サーバで動作します。



- (注) SNMP sysContact は、デフォルトでは設定されていません。明示的に **snmp-server contact** <sys-contact> コマンドを使用して、SNMP sysContact を設定する必要があります。このコマンドを設定すると、callhome 機能が有効になります。

## SNMP のデフォルト設定

表 20: デフォルトの SNMP パラメータ

パラメータ (Parameters)	デフォルト
ライセンス通知	イネーブル

パラメータ (Parameters)	デフォルト
linkUp/Down 通知タイプ	ietf-extended

## SNMP の設定

### SNMP 送信元インターフェイスの設定

特定のインターフェイスを使用するように SNMP を設定できます。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>snmp-server source-interface {inform   trap} type slot/port</b>	すべての SNMP パケットの送信元インターフェイスを設定します。次のリストに、 <i>interface</i> として有効な値を示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ethernet</li> <li>• loopback</li> <li>• mgmt</li> <li>• port-channel</li> <li>• vlan</li> </ul>
ステップ 3	switch(config)# <b>show snmp source-interface</b>	設定済みの SNMP 送信元インターフェイスを表示します。

#### 例

次に、SNMP 送信元インターフェイスを設定する例を示します。

```
switch(config)# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# snmp-server source-interface inform ethernet 1/10
switch(config)# snmp-server source-interface trap ethernet 1/10
switch(config)# show snmp source-interface
-----
Notification                               source-interface
-----
trap                                         Ethernet1/10
inform                                       Ethernet1/10
-----
```

## SNMP ユーザの設定



(注) Cisco NX-OS で SNMP ユーザを設定するために使用するコマンドは、Cisco IOS でユーザを設定するために使用されるものとは異なります。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<pre>switch(config)# snmp-server user name [auth {md5   sha} passphrase [auto] [priv [aes-128] passphrase] [engineID id] [localizedkey]]</pre> 例 : <pre>switch(config)# snmp-server user Admin auth sha abcd1234 priv abcdefgh</pre>	認証およびプライバシー パラメータのある SNMP ユーザを設定します。  パスフレーズには最大 64 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字が区別されます。  <b>localizedkey</b> キーワードを使用する場合は、パスフレーズに大文字と小文字を区別した英数字を 130 文字まで使用できます。  <b>engineID</b> の形式は、12 桁のコロンで区切った 10 進数字です。
ステップ 3	(任意) <code>switch# show snmp user</code> 例 : <pre>switch(config) # show snmp user</pre>	1 人または複数の SNMP ユーザに関する情報を表示します。
ステップ 4	(任意) <b>copy running-config startup-config</b> 例 : <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。



## 例

次に、SNMP ユーザを設定する例を示します。

```
switch# config t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# snmp-server user Admin auth sha abcd1234 priv abcdefgh
```

## SNMP メッセージ暗号化の適用

着信要求に認証または暗号化が必要となるよう SNMP を設定できます。デフォルトでは、SNMP エージェントは認証および暗号化を行わないでも SNMPv3 メッセージを受け付けます。プライバシーを適用する場合、Cisco NX-OS は、**noAuthNoPriv** または **authNoPriv** のいずれかのセキュリティ レベルパラメータを使用するすべての SNMPv3 PDU 要求に対して、許可エラーで応答します。

SNMP メッセージの暗号化を特定のユーザに強制するには、グローバルコンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
switch(config)# <b>snmp-server user name enforcePriv</b>	このユーザに対して SNMP メッセージ暗号化を適用します。

SNMP メッセージの暗号化をすべてのユーザに強制するには、グローバルコンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
switch(config)# <b>snmp-server globalEnforcePriv</b>	すべてのユーザに対して SNMP メッセージ暗号化を適用します。

## SNMPv3 ユーザに対する複数のロールの割り当て

SNMP ユーザを作成した後で、そのユーザに複数のロールを割り当てることができます。



(注) 他のユーザにロールを割り当てることができるのは、**network-admin** ロールに属するユーザだけです。

コマンド	目的
switch(config)# <b>snmp-server user name group</b>	この SNMP ユーザと設定されたユーザ ロールをアソシエートします。

## SNMP コミュニティの作成

SNMPv1 または SNMPv2c の SNMP コミュニティを作成できます。

コマンド	目的
switch(config)# snmp-server community name group {ro   rw}	SNMP コミュニティ スtring を作成します。

## SNMP 要求のフィルタリング

アクセス コントロール リスト (ACL) をコミュニティに割り当てて、着信 SNMP 要求にフィルタを適用できます。割り当てた ACL により着信要求パケットが許可される場合、SNMP はその要求を処理します。ACL により要求が拒否される場合、SNMP はその要求を廃棄して、システム メッセージを送信します。

ACL は次のパラメータで作成します。

- 送信元 IP アドレス
- 宛先 IP アドレス
- 送信元ポート
- 宛先ポート
- プロトコル (UDP または TCP)

ACL は、UDP および TCP を介する IPv4 および IPv6 の両方に適用されます。ACL を作成したら、ACL を SNMP コミュニティに割り当てます。



**ヒント** ACL の作成の詳細については、使用している Cisco Nexus シリーズ ソフトウェアの NX-OS セキュリティ コンフィギュレーション ガイドを参照してください。

ACL をコミュニティに割り当てて SNMP 要求をフィルタするには、グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
switch(config)# snmp-server community community name use-acl acl-name  <b>Example:</b> switch(config)# snmp-server community public use-acl my_acl_for_public	SNMP コミュニティに IPv4 ACL または IPv6 ACL を割り当てて SNMP 要求をフィルタします。

## SNMP 通知レシーバの設定

複数のホスト レシーバーに対して SNMP 通知を生成するよう Cisco NX-OS を設定できます。

グローバル コンフィギュレーション モードで SNMPv1 トラップのホスト レシーバを設定できます。

コマンド	目的
switch(config)# <b>snmp-server host</b> <i>ip-address</i> <b>traps version 1</b> <i>community</i> [ <b>udp_port number</b> ]	SNMPv1 トラップのホスト レシーバを設定します。 <i>ip-address</i> は IPv4 または IPv6 アドレスを使用できます。 コミュニティは、最大 255 文字の英数字で指定できます。 UDP ポート番号の範囲は 0 ~ 65535 です。

グローバル コンフィギュレーション モードで SNMPv2c トラップまたはインフォームのホスト レシーバを設定できます。

コマンド	目的
switch(config)# <b>snmp-server host</b> <i>ip-address</i> { <b>traps</b>   <b>informs</b> } <b>version 2c</b> <i>community</i> [ <b>udp_port number</b> ]	SNMPv2c トラップまたはインフォームのホスト レシーバを設定します。 <i>ip-address</i> は IPv4 または IPv6 アドレスを使用できます。 コミュニティは、最大 255 文字の英数字で指定できます。 UDP ポート番号の範囲は 0 ~ 65535 です。

グローバル コンフィギュレーション モードで SNMPv3 トラップまたはインフォームのホスト レシーバを設定できます。

コマンド	目的
switch(config)# <b>snmp-server host</b> <i>ip-address</i> { <b>traps</b>   <b>informs</b> } <b>version 3</b> { <b>auth</b>   <b>noauth</b>   <b>priv</b> } <i>username</i> [ <b>udp_port number</b> ]	SNMPv2c トラップまたはインフォームのホスト レシーバを設定します。 <i>ip-address</i> は IPv4 または IPv6 アドレスを使用できます。 ユーザ名は、最大 255 文字の英数字で指定できます。 UDP ポート番号の範囲は 0 ~ 65535 です。



- (注) SNMP マネージャは、SNMPv3 メッセージを認証し暗号解除するため、Cisco Nexus デバイスの SNMP engineID に基づくユーザ クレデンシャル (authKey/PrivKey) を認識していなければなりません。

次に、SNMPv1 トラップのホスト レシーバを設定する例を示します。

```
switch(config)# snmp-server host 192.0.2.1 traps version 1 public
```

次に、SNMPv2 インフォームのホスト レシーバを設定する例を示します。

```
switch(config)# snmp-server host 192.0.2.1 informs version 2c public
```

次に、SNMPv3 インフォームのホスト レシーバを設定する例を示します。

```
switch(config)# snmp-server host 192.0.2.1 informs version 3 auth NMS
```

## VRF を使用する SNMP 通知レシーバの設定

設定された VRF をホスト レシーバに接続するように Cisco NX-OS を設定できます。SNMP 通知レシーバの VRF 到達可能性およびフィルタリング オプションを設定すると、SNMP によって CISCO-SNMP-TARGET-EXT-MIB の cExtSnmptargetVrfTable にエンタリが追加されます。



- (注) VRF 到達可能性またはフィルタリング オプションを設定する前に、ホストを設定する必要があります。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch# <b>snmp-server host ip-address use-vrf vrf_name [ udp_port number]</b>	特定の VRF を使用してホスト レシーバと通信するように SNMP を設定します。IP アドレスは、IPv4 または IPv6 アドレスを使用できます。VRF 名には最大 255 の英数字を使用できます。UDP ポート番号の範囲は 0～65535 です。このコマンドによって、CISCO-SNMP-TARGET-EXT-MB の ExtSnmptargetVrfTable にエンタリが追加されます。
ステップ 3	(任意) switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 例

次に、IP アドレス 192.0.2.1 の SNMP サーバ ホストを「Blue」という名前の VRF を使用するように設定する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# snmp-server host 192.0.2.1 use-vrf Blue
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## VRF に基づく SNMP 通知のフィルタリング

通知が発生した VRF に基づいて、Cisco NX-OS 通知をフィルタリングするように設定できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>snmp-server host ip-address filter-vrf vrf_name [ udp_port number]</b>	設定された VRF に基づいて、通知ホスト レシーバへの通知をフィルタリング します。IP アドレスは、IPv4 または IPv6 アドレスを使用できます。VRF 名には 最大 255 の英数字を使用できます。UDP ポート番号の範囲は 0 ~ 65535 です。  このコマンドによって、 CISCO-SNMP-TARGET-EXT-MB の ExtSnmptargetVrfTable にエントリが追 加されます。
ステップ 3	(任意) switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コン フィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーして、 変更を継続的に保存します。

### 例

次に、VRF に基づいて SNMP 通知のフィルタリングを設定する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# snmp-server host 192.0.2.1 filter-vrf Red
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## インバンド アクセスのための SNMP の設定

次のものを使用して、インバンド アクセス用に SNMP を設定できます。

- コンテキストのない SNMP v2 の使用：コンテキストにマッピングされたコミュニティを使用できます。この場合、SNMP クライアントはコンテキストについて認識する必要はありません。
- コンテキストのある SNMP v2 の使用：SNMP クライアントはコミュニティ、たとえば、<community>@<context> を指定して、コンテキストを指定する必要があります。

- SNMP v3 の使用：コンテキストを指定できます。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configuration terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>snmp-server context context-name vrf vrf-name</b>	管理 VRF またはデフォルト VRF に SNMP コンテキストをマッピングします。カスタム VRF はサポートされません。  名前には最大 32 の英数字を使用できます。
ステップ 3	switch(config)# <b>snmp-server community community-name group group-name</b>	SNMPv2c コミュニティと SNMP コンテキストにマッピングし、コミュニティが属するグループを識別します。名前には最大 32 の英数字を使用できます。
ステップ 4	switch(config)# <b>snmp-server mib community-map community-name context context-name</b>	SNMPv2c コミュニティを SNMP コンテキストにマッピングします。名前には最大 32 の英数字を使用できます。

## 例

次の SNMPv2 の例は、コンテキストに snmpdefault という名前のコミュニティをマッピングする方法を示しています。

```
switch# config t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# snmp-server context def vrf default
switch(config)# snmp-server community snmpdefault group network-admin
switch(config)# snmp-server mib community-map snmpdefault context def
switch(config)#
```

次の SNMPv2 の例は、マッピングされていないコミュニティ comm を設定し、インバンドアクセスする方法を示しています。

```
switch# config t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# snmp-server context def vrf default
switch(config)# snmp-server community comm group network-admin
switch(config)#
```

次の SNMPv3 の例は、v3 ユーザ名とパスワードを使用する方法を示しています。

```
switch# config t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# snmp-server context def vrf default
switch(config)#
```

## SNMP 通知のイネーブル化

通知をイネーブルまたはディセーブルにできます。通知名を指定しないと、Cisco NX-OSは通知をすべてイネーブルにします。



(注) **snmp-server enable traps** CLI コマンドを使用すると、設定通知ホスト レシーバによっては、トラップとインフォームの両方をイネーブルにできます。

次の表に、Cisco NX-OS MIB の通知をイネーブルにする CLI コマンドを示します。

表 21 : SNMP 通知のイネーブル化

MIB	関連コマンド
すべての通知	<b>snmp-server enable traps</b>
CISCO-ERR-DISABLE-MIB	<b>snmp-server enable traps show interface status</b>
Q-BRIDGE-MIB	<b>snmp-server enable traps show mac address-table</b>
CISCO-SWITCH-QOS-MIB	<b>snmp-server enable traps show hardware internal buffer info pkt-stats</b>
BRIDGE-MIB	<b>snmp-server enable traps bridge newroot</b> <b>snmp-server enable traps bridge topologychange</b>
CISCO-AAA-SERVER-MIB	<b>snmp-server enable traps aaa</b>
ENTITY-MIB、 CISCO-ENTITY-FRU-CONTROL-MIB、 CISCO-ENTITY-SENSOR-MIB	<b>snmp-server enable traps entity</b> <b>snmp-server enable traps entity fru</b>
CISCO-LICENSE-MGR-MIB	<b>snmp-server enable traps license</b>
IF-MIB	<b>snmp-server enable traps link</b>
CISCO-PSM-MIB	<b>snmp-server enable traps port-security</b>
SNMPv2-MIB	<b>snmp-server enable traps snmp</b> <b>snmp-server enable traps snmp authentication</b>
CISCO-FCC-MIB	<b>snmp-server enable traps fcc</b>
CISCO-DM-MIB	<b>snmp-server enable traps fcdomain</b>
CISCO-NS-MIB	<b>snmp-server enable traps fcns</b>
CISCO-FCS-MIB	<b>snmp-server enable traps fcs discovery-complete</b> <b>snmp-server enable traps fcs request-reject</b>

MIB	関連コマンド
CISCO-FDMI-MIB	<b>snmp-server enable traps fdmi</b>
CISCO-FSPF-MIB	<b>snmp-server enable traps fspf</b>
CISCO-PSM-MIB	<b>snmp-server enable traps port-security</b>
CISCO-RSCN-MIB	<b>snmp-server enable traps rscn</b> <b>snmp-server enable traps rscn els</b> <b>snmp-server enable traps rscn ils</b>
CISCO-ZS-MIB	<b>snmp-server enable traps zone</b> <b>snmp-server enable traps zone default-zone-behavior-change</b> <b>snmp-server enable traps zone enhanced-zone-db-change</b> <b>snmp-server enable traps zone merge-failure</b> <b>snmp-server enable traps zone merge-success</b> <b>snmp-server enable traps zone request-reject</b> <b>snmp-server enable traps zone unsupp-mem</b>
CISCO-CONFIG-MAN-MIB (注) ccmCLIRunningConfigChanged 通知を除き、MIB オブジェクト をサポートしていません。	<b>snmp-server enable traps config</b>



(注) ライセンス通知は、デフォルトではイネーブルです。

グローバル コンフィギュレーション モードで指定の通知をイネーブルにするには、次の作業を行います。

コマンド	目的
switch(config)# <b>snmp-server enable traps</b>	すべての SNMP 通知をイネーブルにします。
switch(config)# <b>snmp-server enable traps aaa</b> [server-state-change]	AAA SNMP 通知をイネーブルにします。
switch(config)# <b>snmp-server enable traps entity</b> [fru]	ENTITY-MIB SNMP 通知をイネーブルにします。
switch(config)# <b>snmp-server enable traps license</b>	ライセンス SNMP 通知をイネーブルにします。



コマンド	目的
switch(config)# <b>snmp-server enable traps port-security</b>	ポートセキュリティ SNMP 通知をイネーブルにします。
switch(config)# <b>snmp-server enable traps snmp [authentication]</b>	SNMP エージェント通知をイネーブルにします。

## リンクの通知の設定

デバイスに対して、イネーブルにする linkUp/linkDown 通知を設定できます。次のタイプの linkUp/linkDown 通知をイネーブルにできます。

- cieLinkDown : シスコ拡張リンク ステート ダウン通知をイネーブルにします。
- cieLinkUp : シスコ拡張リンク ステート アップ通知をイネーブルにします。
- cisco-xcvr-mon-status-chg : シスコ インターフェイス トランシーバ モニタ ステータス変更通知をイネーブルにします。
- delayed-link-state-change : 遅延リンク ステート変更をイネーブルにします。
- extended-linkUp : IETF 拡張リンク ステート アップ通知をイネーブルにします。
- extended-linkDown : IETF 拡張リンク ステート ダウン通知をイネーブルにします。
- linkDown : IETF リンク ステート ダウン通知をイネーブルにします。
- linkUp : IETF リンク ステート アップ通知をイネーブルにします。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例 : switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>snmp-server enable traps link [cieLinkDown   cieLinkUp   cisco-xcvr-mon-status-chg   delayed-link-state-change]   extended-linkUp   extended-linkDown   linkDown   linkUp]</b> 例 : switch(config)# snmp-server enable traps link cieLinkDown	リンク SNMP 通知をイネーブルにします。

## インターフェイスでのリンク通知のディセーブル化

個別のインターフェイスで linkUp および linkDown 通知をディセーブルにできます。これにより、フラッピングインターフェイス（アップとダウン間の移行を繰り返しているインターフェイス）に関する通知を制限できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>interface</b> <i>type slot/port</i>	変更するインターフェイスを指定します。
ステップ 3	switch(config-if)# <b>no snmp trap link-status</b>	インターフェイスの SNMP リンクステート トラップをディセーブルにします。この機能は、デフォルトでイネーブルにされています。

## TCP での SNMP に対するワンタイム認証のイネーブル化

TCP セッション上で SNMP に対するワンタイム認証をイネーブルにできます。

コマンド	目的
switch(config)# <b>snmp-server tcp-session [auth]</b>	TCP セッション上で SNMP に対するワンタイム認証をイネーブルにします。この機能はデフォルトで無効に設定されています。

## SNMP スイッチの連絡先および場所の情報の割り当て

スイッチの連絡先情報（スペースを含めず、最大 32 文字まで）およびスイッチの場所を割り当てることができます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configuration terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>snmp-server contact</b> <i>name</i>	sysContact（SNMP 担当者名）を設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	switch(config)# <b>snmp-server location name</b>	sysLocation (SNMP ロケーション) を設定します。
ステップ 4	(任意) switch# <b>show snmp</b>	1つまたは複数の宛先プロファイルに関する情報を表示します。
ステップ 5	(任意) switch# <b>copy running-config startup-config</b>	この設定変更を保存します。

## コンテキストとネットワーク エンティティ間のマッピング設定

プロトコルインスタンス、VRF などの論理ネットワーク エンティティに対する SNMP コンテキストのマッピングを設定できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configuration terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>snmp-server context context-name [ instance instance-name] [ vrf vrf-name] [ topology topology-name]</b>	SNMP コンテキストをプロトコル インスタンス、VRF、またはトポロジにマッピングします。名前には最大 32 の英数字を使用できます。
ステップ 3	switch(config)# <b>snmp-server mib community-map community-name context context-name</b>	SNMPv2c コミュニティを SNMP コンテキストにマッピングします。名前には最大 32 の英数字を使用できます。
ステップ 4	(任意) switch(config)# <b>no snmp-server context context-name [ instance instance-name] [ vrf vrf-name] [ topology topology-name]</b>	SNMP コンテキストとプロトコル インスタンス、VRF、またはトポロジ間のマッピングを削除します。名前には最大 32 の英数字を使用できます。  (注) コンテキストマッピングを削除する目的で、インスタンス、VRF、またはトポロジを入力しないでください。 <b>instance</b> 、 <b>vrf</b> 、または <b>topology</b> キーワードを使用すると、コンテキストとゼロ長ストリング間のマッピングが設定されます。

## SNMP ローカル エンジン ID の設定

Cisco NX-OS リリース 7.0(3)I6(1)以降では、ローカルデバイスにエンジン ID を設定できます。



- (注) SNMP ローカル エンジン ID を設定すると、すべての SNMP ユーザ、V3 ユーザに設定されたホスト、およびコミュニティストリングを再設定する必要があります。Cisco NX-OS リリース 7.0(3)I7(1)以降では、SNMP ユーザとコミュニティストリングのみを再設定する必要があります。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>snmp-server engineID local engineid-string</b> 例 : <pre>switch(config)# snmp-server engineID local AA:BB:CC:1A:2C:10</pre>	ローカル デバイスの SNMP engineID を変更します。  ローカル エンジン ID は、コロンで指定された 16 進数オクテットのリストとして設定する必要があります。ここでは 10 ~ 64 の範囲の偶数 16 進数文字が使用され、2 つの 16 進数文字ごとにコロンで区切られます。たとえば、i80:00:02:b8:04:61:62:63 です。
ステップ 3	<b>show snmp engineID</b> 例 : <pre>switch(config)# show snmp engineID</pre>	設定されている SNMP エンジンの ID を表示します。
ステップ 4	<b>[no] snmp-server engineID local engineid-string</b> 例 : <pre>switch(config)# no snmp-server engineID local AA:BB:CC:1A:2C:10</pre>	ローカル エンジン ID を無効にし、自動生成されたデフォルトのエンジン ID を設定します。
ステップ 5	必須: <b>copy running-config startup-config</b> 例 : <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

## SNMP のディセーブル化

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>switch(config) # no snmp-server protocol enable</b> 例 : <pre>no snmp-server protocol enable</pre>	SNMP をディセーブルにします。 SNMP は、デフォルトでディセーブルになっています。

## SNMP 設定の確認

SNMP 設定情報を表示するには、次の作業を行います。

コマンド	目的
<b>show snmp</b>	SNMP ステータスを表示します。
<b>show snmp community</b>	SNMP コミュニティ スtring を表示します。
<b>show interface snmp-ifindex</b>	すべてのインターフェイスについて (IF-MIB から) SNMP の ifIndex 値を表示します。
<b>show running-config snmp [all]</b>	SNMP の実行コンフィギュレーションを表示します。
<b>show snmp engineID</b>	SNMP engineID を表示します。
<b>show snmp group</b>	SNMP ロールを表示します。
<b>show snmp sessions</b>	SNMP セッションを表示します。
<b>show snmp context</b>	SNMP コンテキスト マッピングを表示します。
<b>show snmp host</b>	設定した SNMP ホストの情報を表示します。
<b>show snmp source-interface</b>	設定した発信元インターフェイスの情報を表示します。
<b>show snmp trap</b>	イネーブルまたはディセーブルである SNMP 通知を表示します。

コマンド	目的
<code>show snmp user</code>	SNMPv3 ユーザを表示します。



## 第 13 章

# PCAP SNMP パーサーの使用

この章は、次の項で構成されています。

- [PCAP SNMP パーサーの使用 \(193 ページ\)](#)

## PCAP SNMP パーサーの使用

PCAP SNMP パーサーは、.pcap 形式でキャプチャされた SNMP パケットを分析するツールです。スイッチ上で動作し、スイッチに送信されるすべての SNMP get、getnext、getbulk、set、trap、および response 要求の統計情報レポートを生成します。

PCAP SNMP パーサーを使用するには、次のいずれかのコマンドを使用します。

- **debug packet-analysis snmp [mgmt0 | inband] duration seconds [output-file] [keep-pcap]** : Tshark を使用して指定の秒数間のパケットをキャプチャし、一時 .pcap ファイルに保存します。次に、その .pcap ファイルに基づいてパケットを分析します。

結果は出力ファイルに保存されます。出力ファイルが指定されていない場合は、コンソールに出力されます。**keep-pcap** オプションを使用する場合を除き、一時 .pcap ファイルはデフォルトで削除されます。パケット キャプチャは、デフォルトの管理インターフェイス (mgmt0)、または帯域内インターフェイスで実行できます。

例 :

```
switch# debug packet-analysis snmp duration 100

switch# debug packet-analysis snmp duration 100 bootflash:snmp_stats.log

switch# debug packet-analysis snmp duration 100 bootflash:snmp_stats.log keep-pcap

switch# debug packet-analysis snmp inband duration 100

switch# debug packet-analysis snmp inband duration 100 bootflash:snmp_stats.log

switch# debug packet-analysis snmp inband duration 100 bootflash:snmp_stats.log
keep-pcap
```

- **debug packet-analysis snmp input-pcap-file [output-file]** : 既存の .pcap ファイルにあるキャプチャしたパケットを分析します。

例 :

```
switch# debug packet-analysis snmp bootflash:snmp.pcap

switch# debug packet-analysis snmp bootflash:snmp.pcap bootflash:snmp_stats.log
```

次に、**debug packet-analysis snmp [mgmt0 | inband] duration** コマンドの統計情報レポートの例を示します。

```
switch# debug packet-analysis snmp duration 10
Capturing on eth0
36
wireshark-cisco-mtc-dissector: ethertype=0xde09, devicetype=0x0
wireshark-broadcom-rcpu-dissector: ethertype=0xde08, devicetype=0x0

Started analyzing. It may take several minutes, please wait!

Statistics Report
-----
SNMP Packet Capture Duration: 0 seconds
Total Hosts: 1
Total Requests: 18
Total Responses: 18
Total GET: 0
Total GETNEXT: 0
Total WALK: 1 (NEXT: 18)
Total GETBULK: 0
Total BULKWALK: 0 (BULK: 0)
Total SET: 0
Total TRAP: 0
Total INFORM: 0

Hosts          GET  GETNEXT  WALK(NEXT)  GETBULK  BULKWALK(BULK)  SET  TRAP  INFORM  RESPONSE
-----
10.22.27.244   0      0          1(18)       0         0(0)            0    0      0        18

Sessions
-----
1

MIB Objects GET  GETNEXT  WALK(NEXT)  GETBULK(Non_rep/Max_rep)  BULKWALK(BULK,
Non_rep/Max_rep)
-----
ifName      0      0          1(18)       0         0
```

SET	Hosts
0	10.22.27.244





## 第 14 章

# RMON の設定

この章は、次の項で構成されています。

- [RMON について \(195 ページ\)](#)
- [RMON の設定時の注意事項および制約事項 \(197 ページ\)](#)
- [RMON 設定の確認 \(197 ページ\)](#)
- [デフォルトの RMON 設定 \(197 ページ\)](#)
- [RMON アラームの設定 \(197 ページ\)](#)
- [RMON イベントの設定 \(199 ページ\)](#)

## RMON について

RMON は、各種のネットワーク エージェントおよびコンソール システムがネットワーク モニタリング データを交換できるようにするための、Internet Engineering Task Force (IETF) 標準 モニタリング仕様です。Cisco NX-OS は、Cisco Nexus デバイスをモニタリングするための RMON アラーム、イベント、およびログをサポートします。

RMON アラームは、指定された期間、特定の管理情報ベース (MIB) オブジェクトをモニタリングし、指定されたしきい値でアラームを発生させ、別のしきい値でアラームをリセットします。アラームと RMON イベントを組み合わせて使用し、RMON アラームが発生したときにログ エントリまたは SNMP 通知を生成できます。

Cisco Nexus デバイスでは RMON はデフォルトでディセーブルに設定されており、イベントまたはアラームは設定されていません。RMON アラームおよびイベントを設定するには、CLI または SNMP 互換ネットワーク管理ステーションを使用します。

## RMON アラーム

SNMP INTEGER タイプの解決を行う任意の MIB オブジェクトにアラームを設定できます。指定されたオブジェクトは、標準のドット付き表記 (たとえば、1.3.6.1.2.1.2.2.1.17 は ifOutOctets.17 を表します) の既存の SNMP MIB オブジェクトでなければなりません。

アラームを作成する場合、次のパラメータを指定します。

- モニタリングする MIB オブジェクト

- サンプル間隔：MIB オブジェクトのサンプル値を収集するのに Cisco Nexus デバイスを使用する間隔
- サンプルタイプ：絶対サンプルでは、MIB オブジェクト値の現在のスナップショットを使用します。デルタサンプルは連続した2つのサンプルを使用し、これらの差を計算します。
- 上限しきい値：Cisco Nexus デバイスが上限アラームを発生させる、または下限アラームをリセットするときの値
- 下限しきい値：Cisco Nexus デバイスが下限アラームを発生させる、または上限アラームをリセットするときの値
- イベント：アラーム（上限または下限）の発生時に Cisco Nexus デバイスが実行するアクション



(注) hcalarms オプションを使用して、アラームを 64 ビットの整数の MIB オブジェクトに設定します。

たとえば、エラーカウンタ MIB オブジェクトにデルタタイプ上限アラームを設定できます。エラーカウンタデルタがこの値を超えた場合、SNMP 通知を送信し、上限アラームイベントを記録するイベントを発生させることができます。この上限アラームは、エラーカウンタのデルタサンプルが下限しきい値を下回るまで再度発生しません。



(注) 下限しきい値には、上限しきい値よりも小さな値を指定してください。

## RMON イベント

特定のイベントを各 RMON アラームにアソシエートさせることができます。RMON は次のイベントタイプをサポートします。

- SNMP 通知：関連したアラームが発生したときに、SNMP risingAlarm または fallingAlarm 通知を送信します。
- ログ：関連したアラームが発生した場合、RMON ログテーブルにエントリを追加します。
- 両方：関連したアラームが発生した場合、SNMP 通知を送信し、RMON ログテーブルにエントリを追加します。

下限アラームおよび上限アラームに異なるイベントを指定できます。

## RMON の設定時の注意事項および制約事項

RMON には、次の注意事項および制限事項があります。

- SNMP 通知イベントタイプを使用するには、SNMP ユーザおよび通知レシーバを設定する必要があります。
- 整数になる MIB オブジェクトに、RMON アラームのみを設定できます。

## RMON 設定の確認

RMON の設定情報を確認するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<code>show rmon alarms</code>	RMON アラームに関する情報を表示します。
<code>show rmon events</code>	RMON イベントに関する情報を表示します。
<code>show rmon hcalarms</code>	RMON 高容量アラームに関する情報を表示します。
<code>show rmon logs</code>	RMON ログに関する情報を表示します。

## デフォルトの RMON 設定

次の表に、RMON パラメータのデフォルト設定を示します。

表 22: デフォルトの RMON パラメータ

パラメータ (Parameters)	デフォルト
アラーム	未設定
イベント	未設定

## RMON アラームの設定

任意の整数の SNMP MIB オブジェクトに RMON アラームを設定できます。

次のパラメータを任意で指定することもできます。

- 上限および下限しきい値が指定値を超えた場合に発生させるイベント番号

- アラームのオーナー

SNMP ユーザが設定され、SNMP 通知がイネーブルであることを確認します。

#### 始める前に

SNMP ユーザが設定され、SNMP 通知がイネーブルであることを確認します。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config)# rmon alarm index mib-object sample-interval {absolute   delta} rising-threshold value [event-index] falling-threshold value [event-index] [ owner name]</code>	RMON アラームを作成します。値の範囲は -2147483647 ~ 2147483647 です。オーナー名は任意の英数字ストリングです。
ステップ 3	<code>switch(config)# rmon hcalarm index mib-object sample-interval {absolute   delta} rising-threshold-high value rising-threshold-low value [event-index] falling-threshold-high value falling-threshold-low value [event-index] [ owner name] [ storagetype type]</code>	RMON 高容量アラームを作成します。値の範囲は -2147483647 ~ 2147483647 です。オーナー名は任意の英数字ストリングです。 ストレージタイプの範囲は 1 ~ 5 です。
ステップ 4	(任意) <code>switch# show rmon {alarms   hcalarms}</code>	RMON アラームまたは高容量アラームに関する情報を表示します。
ステップ 5	(任意) <code>switch# copy running-config startup-config</code>	この設定変更を保存します。

#### 例

次に、RMON アラームを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# rmon alarm 1 1.3.6.1.2.1.2.2.1.17.83886080 5 delta rising-threshold 5 1
falling-threshold 0 owner test
switch(config)# exit
switch# show rmon alarms
Alarm 1 is active, owned by test
Monitors 1.3.6.1.2.1.2.2.1.17.83886080 every 5 second(s)
Taking delta samples, last value was 0
Rising threshold is 5, assigned to event 1
Falling threshold is 0, assigned to event 0
```

```
On startup enable rising or falling alarm
```

## RMON イベントの設定

RMON アラームとアソシエートするよう RMON イベントを設定できます。複数の RMON アラームで同じイベントを再利用できます。

SNMP ユーザが設定され、SNMP 通知がイネーブルであることを確認します。

### 始める前に

SNMP ユーザが設定され、SNMP 通知がイネーブルであることを確認します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>rmon event index [description string] [log] [trap] [owner name]</b>	RMON イベントを設定します。説明のストリングおよびオーナー名は、任意の英数字ストリングです。
ステップ 3	(任意) switch(config)# <b>show rmon {alarms   hcalarms}</b>	RMON アラームまたは高容量アラームに関する情報を表示します。
ステップ 4	(任意) switch# <b>copy running-config startup-config</b>	この設定変更を保存します。





## 第 15 章

# オンライン診断の設定

この章は、次の項で構成されています。

- [オンライン診断について \(201 ページ\)](#)
- [オンライン診断の注意事項と制約事項 \(204 ページ\)](#)
- [オンライン診断の設定 \(204 ページ\)](#)
- [オンライン診断設定の確認 \(205 ページ\)](#)
- [オンライン診断のデフォルト設定 \(205 ページ\)](#)
- [パリティエラーの診断 \(206 ページ\)](#)

## オンライン診断について

オンライン診断では、スイッチの起動時またはリセット時にハードウェアコンポーネントを確認し、通常の動作時にはハードウェアの状態を監視します。

Cisco Nexus シリーズ スイッチは、起動時診断および実行時診断をサポートします。起動時診断には、システム起動時とリセット時に実行する、中断を伴うテストおよび非中断テストが含まれます。

実行時診断（ヘルスマonitoring診断）には、スイッチの通常の動作時にバックグラウンドで実行する非中断テストが含まれます。

## ブートアップ診断

起動時診断は、スイッチをオンラインにする前にハードウェアの障害を検出します。起動診断では、スーパーバイザと ASIC の間のデータパスと制御パスの接続も確認します。次の表に、スイッチの起動時またはリセット時にだけ実行される診断を示します。

表 23: ブートアップ診断

診断	説明
PCIe	PCI express (PCIe) アクセスをテストします。
NVRAM	NVRAM (不揮発性 RAM) の整合性を確認します。

診断	説明
インバンドポート	インバンドポートとスーパーバイザの接続をテストします。
管理ポート	管理ポートをテストします。
メモリ	DRAM の整合性を確認します。

起動時診断には、ヘルス モニタリング診断と共通するテストセットも含まれます。

起動時診断では、オンボード障害ロギング (OBFL) システムに障害を記録します。また、障害により LED が表示され、診断テストのステート (on、off、pass、または fail) を示します。

起動診断テストをバイパスするように Cisco Nexus デバイスを設定することも、またはすべての起動診断テストを実行するように設定することもできます。

## ヘルス モニタリング診断

ヘルス モニタリング診断では、スイッチの状態に関する情報を提供します。実行時のハードウェアエラー、メモリエラー、ソフトウェア障害、およびリソースの不足を検出します。

ヘルス モニタリング診断は中断されずにバックグラウンドで実行され、ライブ ネットワークトラフィックを処理するスイッチの状態を確認します。

次の表に、スイッチのヘルス モニタリング診断を示します。

表 24: ヘルス モニタリング診断テスト

診断	説明
LED	ポートおよびシステムのステータス LED を監視します。
電源モジュール	電源装置のヘルス ステータスを監視します。
温度センサー	温度センサーの読み取り値を監視します。
テスト ファン	ファンの速度およびファンの制御をモニタします。



- (注) スイッチが吸気温度のしきい値に達し、120 秒の制限内には温度が低下しない場合、スイッチを復旧するには、スイッチの電源をオフにして、電源装置を再装着する必要があります。

次の表に、システム起動時とリセット時にも実行されるヘルスモニタリング診断を示します。



表 25:ヘルス モニタリングおよび起動時診断テスト

診断	説明
SPROM	バックプレーンとスーパーバイザ SPROM の整合性を確認します。
ファブリック エンジン	スイッチ ファブリック ASIC をテストします。
ファブリック ポート	スイッチ ファブリック ASIC 上のポートをテストします。
転送エンジン	転送エンジン ASIC をテストします。
転送エンジン ポート	転送エンジン ASIC 上のポートをテストします。
前面ポート	前面ポート上のコンポーネント (PHYおよびMACなど) をテストします。



(注) スイッチが70度 (摂氏) の内部温度しきい値を超え、120秒以内にしきい値の制限以下に温度が低下しない場合、スイッチを復旧するには、スイッチの電源をオフにして、スイッチの電源を再投入する必要があります。

## 拡張モジュール診断

スイッチの起動時またはリセット時の起動時診断には、スイッチのインサービス拡張モジュールのテストが含まれます。

稼働中のスイッチに拡張モジュールを挿入すると、診断テストセットが実行されます。次の表に、拡張モジュールの起動時診断を示します。これらのテストは、起動時診断と共通です。起動時診断が失敗した場合、拡張モジュールはサービス状態になりません。

表 26:拡張モジュールの起動時診断およびヘルス モニタリング診断

診断	説明
SPROM	バックプレーンとスーパーバイザ SPROM の整合性を確認します。
ファブリック エンジン	スイッチ ファブリック ASIC をテストします。
ファブリック ポート	スイッチ ファブリック ASIC 上のポートをテストします。
転送エンジン	転送エンジン ASIC をテストします。
転送エンジン ポート	転送エンジン ASIC 上のポートをテストします。
前面ポート	前面ポート上のコンポーネント (PHYおよびMACなど) をテストします。

ヘルス モニタリング診断は、IS 拡張モジュールで実行されます。次の表で、拡張モジュールのヘルス モニタリング診断に固有の追加のテストについて説明します。

表 27: 拡張モジュールのヘルス モニタリング診断

診断	説明
LED	ポートおよびシステムのステータス LED を監視します。
温度センサー	温度センサーの読み取り値を監視します。

## オンライン診断の注意事項と制約事項

オンライン診断には、次の注意事項と制限事項があります。

- 中断を伴うオンライン診断テストをオンデマンド方式で実行することはできません。
- BootupPortLoopback テストはサポートされていません。
- インターフェイス Rx および Tx パケット カウンタは、シャットダウン状態のポートで増えます（およそ 15 分ごとに 4 パケット）。
- 管理ダウン ポートでは、ユニキャスト パケット Rx および Tx のカウンタが、GOLD ループバック パケットに対して追加されます。PortLoopback テストがオンデマンドなのは Cisco NX-OS 7.0(3)I1(2) より前のリリースであるため、パケット カウンタが追加されるのは、テストを管理ダウンポートで実行する場合だけです。Cisco NX-OS リリース 7.0(3)I1(2) 以降では PortLoopback テストは定期的に行われるため、パケット カウンタは管理ダウンポートで 30 分ごとに追加されます。テストは管理ダウンポートでのみ実行されます。ポートが閉じられている場合は、カウンタは影響を受けません。

## オンライン診断の設定

完全なテストセットを実行するよう起動時診断を設定できます。もしくは、高速モジュール起動時のすべての起動時診断テストをバイパスできます。



- (注) 起動時オンライン診断レベルを **complete** に設定することを推奨します。起動時オンライン診断をバイパスすることは推奨しません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>diagnostic bootup level [complete   bypass]</b>	デバイスの起動時に診断を実行するよう起動時診断レベルを次のように設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>complete</b> : すべての起動時診断を実行します。これはデフォルト値です。</li> <li>• <b>bypass</b> : 起動時診断を実行しません。</li> </ul>
ステップ 3	(任意) switch# <b>show diagnostic bootup level</b>	現在、スイッチで実行されている起動時診断レベル (bypass または complete) を表示します。

例

次に、完全な診断を実行するよう起動時診断レベルを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# diagnostic bootup level complete
```

## オンライン診断設定の確認

オンライン診断の設定情報を確認するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<b>show diagnostic bootup level</b>	起動時診断レベルを表示します。
<b>show diagnostic result module slot</b>	診断テストの結果を表示します。

## オンライン診断のデフォルト設定

次の表に、オンライン診断パラメータのデフォルト設定を示します。

表 28: デフォルトのオンライン診断パラメータ

パラメータ (Parameters)	デフォルト
起動時診断レベル	complete

## パリティ エラーの診断

### パリティ エラーのクリア

**hardware profile parity-error {l2-table | l3-table} clear** コマンドを使用して、パリティ エラーが検出された場合、対応するレイヤ2またはレイヤ3 テーブル エントリ (0 付き) をクリアできます。このコマンドは、実行コンフィギュレーションでのシステムの起動時に有効です。また、このコマンドは有効にする必要があるため、設定を保存後、システムを再起動してコマンドを有効にします。



**重要** このコマンドは、Cisco NX-OS リリース 6.0(2)U2(1) 以降のバージョンではサポートされていません。

次のガイドラインが適用されます。

- **l2\_entry** テーブルにこのコマンドが使用されている場合、トラフィック パターンのためにクリアされたエントリを再学習する必要があります。
- **l3\_entry\_only** (ホスト) テーブルにこのコマンドが使用されている場合、クリアされたエントリは再学習されません。

このコマンドは、次のお客様の設定で役立ちます。

- **L2\_Entry** テーブル (スタティック **L2\_entry** テーブル エントリなし)

**L2\_Entry** テーブル エントリがクリアされている場合、エントリはトラフィック パターンから動的に学習する必要があります。IGMP やマルチキャストから学習することはできません。

- **L3\_Entry\_only** (ホスト) テーブル

お客様はホスト テーブルを使用できません。 **hardware profile unicast enable-host-ecmp** コマンドを有効にする必要があります。この場合、カスタマー ノードの **L3\_Entry\_only** テーブルには有効なエントリが存在しないため、**L3\_Entry\_only** エントリ テーブルをクリアしても何の影響も生じません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>hardware profile parity-error l2-table clear</b>	レイヤ 2 テーブルのパリティ エラー エントリをクリアします。
ステップ 3	switch(config)# <b>hardware profile parity-error l3-table clear</b>	レイヤ 3 テーブルのパリティ エラー エントリをクリアします。

例

次に、レイヤ 2 テーブルのパリティ エラーをクリアする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# hardware profile parity-error l2-table clear
switch(config)# copy running-config startup-config
switch(config)# reload
```

次に、レイヤ 3 テーブルのパリティ エラーをクリアする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# hardware profile parity-error l3-table clear
switch(config)# copy running-config startup-config
switch(config)# reload
```

## ソフトウェアリカバリ

Cisco NX-OS リリース 6.0(2)U2(1) には、フォワーディング エンジンの内蔵メモリ テーブルにおけるソフトウェアに対するソフトウェア エラー リカバリ (SER) が導入されています。この機能は、デフォルトでイネーブルにされています。

フォワーディング エンジンの内蔵コントロールテーブルとパケットメモリは、エラー訂正コード (ECC)、パリティ保護、またはテーブルのパリティ チェックに基づいたソフトウェア スキャンなど、さまざまなメカニズムによって保護されます。ソフトウェアのキャッシュは、大部分のハードウェア テーブルで保持されます。パリティ エラーおよび ECC エラーは、トラフィックが影響を受けているエントリにヒットすると検出されます。Ternary Content Addressable Memory (TCAM) の場合、CPU によってソフトウェア シャドウ エントリとハードウェア エントリが比較されるときにエラーが検出されます。これらのいずれかのタイプのエラーが検出されると、そのメモリのエラーを報告するための割り込みが発生します。

修正メカニズムは、ハードウェア テーブルごとに異なります。ソフトウェア シャドウがあるハードウェア テーブルの場合は、影響を受けているエントリがソフトウェア キャッシュからコピーされて、割り込みがクリアされます。レイヤ 3 ホスト ルックアップ テーブルや ACL TCAM テーブルなどのハードウェア テーブルは、この方法で検出されて修正されます。ソフトウェア シャドウがないハードウェア テーブルの場合は、影響を受けているエントリがクリ

アされるか、またはゼロ設定されます。ハードウェア学習されたレイヤ2エントリテーブルなどのハードウェアテーブルおよびカウンタのメモリは、この方法で検出されて修正されます。

パケットのフォワーディングルックアップ時にハードウェアでパリティエラーが発生すると、パリティエラーが発生したテーブルによってはパケットがドロップされます。パリティエラーの検出から修正までのリカバリ時間は、この場合、1 エントリで 600 マイクロ秒以上かかります。トラフィックがこのエントリにヒットしている場合、この期間のトラフィックは失われます。

パリティ保護されていない TCAM テーブルの場合、パリティ エラーを検出するために、テーブルエントリに対する定期的なソフトウェア スキャンが実行されます。パリティ エラーが検出された場合、影響を受けているメモリ位置がソフトウェア シャドウからコピーされて、エラーが修正されます。ソフトウェア起動のスキャンは 10 秒ごとに行われ、1 回のスキャンで 4,000 エントリがスキャンされます。フォワーディング エンジンには、スキャン対象の TCAM エントリが約 36,000 あります。最悪の場合、これらのテーブルのパリティ エラーを検出して修正するのに 90 秒以上かかります。リカバリ時間は、システムの負荷に基づき算出されます。

回復不能なパリティ エラーの場合、次の例のような、syslog イベント通知が生成されます。

```
2013 Nov 14 12:37:32 switch %USER-3-SYSTEM_MSG: bcm_usd_isr_switch_event_cb_log:658:
slot_num 0, event 2, memory error type: Detection(0x1), table name: Ingress ACL result
table(0x830004b5), index: 1790 - bcm_usd
```

## メモリ テーブルの状態の確認

ASIC メモリ テーブルで発生したパリティ エラー数の概要を表示するには、次のコマンドを実行します。

コマンド	目的
<b>show hardware forwarding memory health summary</b>	ASIC メモリ テーブルのパリティ エラー数の概要を表示します。

### 例

次に、ASIC メモリ テーブルのパリティ エラー数の概要を表示する例を示します。

```
switch# show hardware forwarding memory health summary
Parity error counters:
Total parity error detections: 7
Total parity error corrections: 7
Total TCAM table parity error detections: 1
Total TCAM table parity error corrections: 1
Total SRAM table parity error detections: 6
Total SRAM table parity error corrections: 6
Parity error summary:
Table ID: L2 table      Detections: 1   Corrections: 1
Table ID: L3 Host table Detections: 1   Corrections: 1
Table ID: L3 LPM table  Detections: 1   Corrections: 1
Table ID: L3 LPM result table Detections: 1   Corrections: 1
Table ID: Ingress pre-lookup ACL result table Detections: 1   Corrections: 1
Table ID: Ingress ACL result table      Detections: 1   Corrections: 1
Table ID: Egress ACL result table       Detections: 1   Corrections: 1
```



## 第 16 章

# Embedded Event Manager の設定

この章は、次の項で構成されています。

- [Embedded Event Manager について](#) (209 ページ)
- [Embedded Event Manager の設定](#) (214 ページ)
- [Embedded Event Manager の設定確認](#) (226 ページ)
- [Embedded Event Manager の設定例](#) (226 ページ)
- [その他の参考資料](#) (227 ページ)
- [EEM の機能の履歴](#) (227 ページ)

## Embedded Event Manager について

Cisco NX-OS システム内のクリティカル イベントを検出して処理する機能は、ハイ アベイラビリティにとって重要です。Embedded Event Manager (EEM) は、デバイス上で発生するイベントをモニタし、設定に基づいてこれらのイベントを回復またはトラブルシューティングするためのアクションを実行することによってシステム内のイベントを検出して処理する、中央のポリシー駆動型のフレームワークを提供します。

EEM は次の 3 種類の主要コンポーネントからなります。

### イベント文

何らかのアクション、回避策、または通知が必要になる可能性のある、別の Cisco NX-OS コンポーネントからモニタするイベント。

### アクション文

電子メールの送信やインターフェイスのディセーブル化などの、イベントから回復するために EEM が実行できるアクション。

### ポリシー

イベントのトラブルシューティングまたはイベントからの回復を目的とした 1 つまたは複数のアクションとペアになったイベント。

EEM を使用しない場合は、個々のコンポーネントが独自のイベントの検出および処理を行います。たとえば、ポートでフラップが頻繁に発生する場合は、「errDisable ステートにする」のポリシーが ETHPM に組み込まれます。

## Embedded Event Manager ポリシー

EEM ポリシーは、イベント文および 1 つまたは複数のアクション文からなります。イベント文では、探すイベントとともに、イベントのフィルタリング特性を定義します。アクション文では、イベントの発生時に EEM が実行するアクションを定義します。

たとえば、いつカードがデバイスから取り外されたかを識別し、カードの取り外しに関する詳細を記録する EEM ポリシーを設定できます。カードの取り外しのインスタンスすべてを探すようにシステムに指示するイベント文および詳細を記録するようにシステムに指示するアクション文を設定します。

コマンドラインインターフェイス (CLI) または VSH スクリプトを使用して EEM ポリシーを設定できます。

EEM からデバイス全体のポリシー管理ビューが得られます。EEM ポリシーが設定されると、対応するアクションがトリガーされます。トリガーされたイベントのすべてのアクション (システムまたはユーザ設定) がシステムによって追跡され、管理されます。

### 設定済みのシステム ポリシー

Cisco NX-OS には、設定済みのさまざまなシステム ポリシーがあります。これらのシステムポリシーでは、デバイスに関連する多数の一般的なイベントおよびアクションが定義されています。システムポリシー名は、2 個の下線記号 (\_\_) から始まります。

一部のシステムポリシーは上書きできます。このような場合、イベントまたはアクションに対する上書きを設定できます。設定した上書き変更がシステムポリシーの代わりになります。



- (注) 上書きポリシーにはイベント文を含める必要があります。イベント文が含まれていない上書きポリシーは、システムポリシーで想定されるすべてのイベントを上書きします。

設定済みのシステムポリシーを表示し、上書きできるポリシーを決定するには、**show event manager system-policy** コマンドを使用します。

### ユーザ作成ポリシー

ユーザ作成ポリシーを使用すると、ネットワークの EEM ポリシーをカスタマイズできます。ユーザポリシーがイベントに対して作成されると、ポリシーのアクションは、EEM が同じイベントに関連するシステムポリシーアクションをトリガーした後にのみトリガーされます。

### ログ ファイル

EEM ポリシーの一致に関連するデータが格納されたログファイルは、/log/event\_archive\_1 ディレクトリにある event\_archive\_1 ログファイルで維持されます。



## イベント文

対応策、通知など、一部のアクションが実行されるデバイス アクティビティは、EEM によってイベントと見なされます。イベントは通常、インターフェイスやファンの誤動作といったデバイスの障害に関連します。

イベント文は、どのイベントがポリシー実行のトリガーになるかを指定します。



### ヒント

ポリシー内に複数の EEM イベントを作成し、区別してから、カスタムアクションをトリガーするためのイベントの組み合わせを定義することで、イベントの組み合わせに基づいた EEM ポリシーをトリガーするように EEM を設定できます。

EEM ではイベントフィルタを定義して、クリティカルイベントまたは指定された時間内で繰り返し発生したイベントだけが関連付けられたアクションのトリガーになるようにします。

一部のコマンドまたは内部イベントが他のコマンドを内部的にトリガーします。これらのコマンドは表示されませんが、引き続きアクションをトリガーするイベント指定と一致します。これらのコマンドがアクションをトリガーするのを防ぐことはできませんが、どのイベントがアクションを引き起こしたかを確認できます。

### サポートされるイベント

EEM はイベント文で次のイベントをサポートします。

- カウンタ イベント
- ファン欠損イベント
- ファン不良イベント
- メモリしきい値イベント
- 上書きされたシステム ポリシーで使用されるイベント
- SNMP 通知イベント
- syslog イベント
- システム マネージャ イベント
- 温度イベント
- 追跡イベント

## アクション文

アクション文は、イベントが発生したときに、ポリシーによってトリガーされるアクションを説明します。各ポリシーに複数のアクション文を設定できます。ポリシーにアクションを関連付けなかった場合、EEM はイベント観察を続けますが、アクションは実行されません。

トリガーされたイベントがデフォルト アクションを処理するために、デフォルト アクションを許可する EEM ポリシーを設定する必要があります。たとえば、一致文で CLI コマンドを照合する場合、EEM ポリシーに `event-default` アクション文を追加する必要があります。この文がないと、EEM ではコマンドを実行できません。



(注) ユーザポリシーまたは上書きポリシー内のアクション文を設定する場合、アクション文が、相互に否定したり、関連付けられたシステムポリシーに悪影響を与えるようなことがないように確認することが重要です。

### サポートされるアクション

EEM がアクション文でサポートするアクションは、次のとおりです。

- CLI コマンドの実行
- カウンタのアップデート
- デバイスのリロード
- syslog メッセージの生成
- SNMP 通知の生成
- システム ポリシー用デフォルト アクションの使用

## VSH スクリプト ポリシー

テキストエディタを使用して、VSH スクリプトでポリシーを作成できます。VSH スクリプトを使用して作成されたポリシーには、他のポリシーと同様にイベント文とアクション文が含まれます。また、これらのポリシーはシステムポリシーを拡張するか、または無効にすることができます。

VSH スクリプト ポリシーを定義したら、それをデバイスにコピーしてアクティブにします。

## Embedded Event Manager のライセンス要件

この機能には、ライセンスは必要ありません。ライセンスパッケージに含まれていない機能はすべて Cisco NX-OS システムイメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。NX-OS ライセンス方式の詳細については、『*Cisco NX-OS Licensing Guide*』を参照してください。

## Embedded Event Manager の前提条件

EEM を設定するには、`network-admin` の権限が必要です。

## Embedded Event Manager の注意事項および制約事項

EEM の設定を計画するときは、次の点を考慮します。

- 設定可能な EEM ポリシーの最大数は 500 です。
- ユーザポリシーまたは上書きポリシー内のアクション文が、相互に否定したり、関連付けられたシステムポリシーに悪影響を与えたりすることがないようにする必要があります。
- 発生したイベントでデフォルトのアクションを処理できるようにする場合は、デフォルトのアクションを許可する EEM ポリシーを設定する必要があります。たとえば、一致文でコマンドを照合する場合、EEM ポリシーに `event-default` アクション文を追加する必要があります。この文がないと、EEM ではコマンドを実行できません。
- イベント文が指定されていて、アクション文が指定されていない上書きポリシーを設定した場合、アクションは開始されません。また、障害も通知されません。
- 上書きポリシーにイベント文が含まれていないと、システムポリシーで可能性のあるイベントがすべて上書きされます。
- 通常コマンドの表現の場合：すべてのキーワードを拡張する必要があり、アスタリスク (\*) 記号のみが引数の置換に使用できます。
- EEM イベント相関は 1 つのポリシーに最大 4 つのイベント文をサポートします。イベントタイプは同じでも別でもかまいませんが、サポートされるイベントタイプは、`cli`、カウンタ、`snmp`、`syslog`、追跡だけです。
- 複数のイベント文が EEM ポリシーに存在する場合は、各イベント文に `tag` キーワードと一意な `tag` 引数が必要です。
- EEM イベント相関はシステムのデフォルト ポリシーを上書きしません。
- デフォルトアクション実行は、タグ付きのイベントで設定されているポリシーではサポートされません。
- イベント指定が CLI のパターンと一致する場合、SSH 形式のワイルドカード文字を使用できます。  
たとえば、すべての `show` コマンドを照合する場合は、`show *` コマンドを入力します。  
`show . *` コマンドを入力すると、機能しません。
- イベント指定が一致する `syslog` メッセージの正規表現の場合、適切な正規表現を使用できます。  
たとえば、`syslog` が生成されているポート上で `ADMIN_DOWN` イベントを検出するには、`.ADMIN_DOWN.` を使用します。`ADMIN_DOWN` コマンドを入力すると、機能しません。
- `syslog` のイベント指定では、`regex` は、EEM ポリシーのアクションとして生成される `syslog` メッセージと一致しません。

- EEM イベントが CLI の **show** コマンドと一致し、画面に表示するために（および EEM ポリシーによってブロックされないために）**show** コマンドの出力が必要な場合は、EEM ポリシーの最初のアクションに対して、**event-default** コマンドを指定する必要があります。

## Embedded Event Manager のデフォルト設定

表 29: デフォルトの EEM パラメータ

パラメータ (Parameters)	デフォルト
システム ポリシー	Active

## Embedded Event Manager の設定

### 環境変数の定義

環境変数の定義はオプションの手順ですが、複数のポリシーで繰り返し使用する共通の値を設定する場合に役立ちます。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例： <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>event manager environment <i>variable-name</i> <i>variable-value</i></b> 例： <pre>switch(config) # event manager environment emailto "admin@anyplace.com"</pre>	EEM 用の環境変数を作成します。  <i>variable-name</i> は大文字と小文字を区別し、最大 29 文字の英数字を使用できません。  <i>variable-value</i> は大文字と小文字が区別され、引用符で囲んだ最大 39 文字の英数字を使用できます。
ステップ 3	(任意) <b>show event manager environment {<i>variable-name</i>   all}</b> 例： <pre>switch(config) # show event manager environment all</pre>	設定した環境変数に関する情報を表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	(任意) <b>copy running-config startup-config</b> 例 : <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

#### 次のタスク

ユーザ ポリシーを設定します。

## CLI によるユーザ ポリシーの定義

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>event manager applet <i>applet-name</i></b> 例 : <pre>switch(config)# event manager applet monitorShutdown switch(config-applet)#</pre>	EEM にアプレットを登録し、アプレット コンフィギュレーション モードを開始します。  <b>applet-name</b> は大文字と小文字を区別し、最大 29 文字の英数字を使用できます。
ステップ 3	(任意) <b>description <i>policy-description</i></b> 例 : <pre>switch(config-applet)# description "Monitors interface shutdown."</pre>	ポリシーの説明になるストリングを設定します。  <b>string</b> には最大 80 文字の英数字を使用できます。ストリングは引用符で囲みます。
ステップ 4	<b>event <i>event-statement</i></b> 例 : <pre>switch(config-applet)# event cli match "shutdown"</pre>	ポリシーのイベント文を設定します。
ステップ 5	(任意) <b>tag <i>tag</i> {and   andnot   or} <i>tag</i> [and   andnot   or {<i>tag</i>}] { happens occurs in <i>seconds</i>}</b> 例 : <pre>switch(config-applet)# tag one or two happens 1 in 10000</pre>	ポリシー内の複数のイベントを相互に関連付けます。  <b>occurs</b> 引数の範囲は 1 ~ 4294967295 です。

	コマンドまたはアクション	目的
		<i>seconds</i> 引数の範囲は 0 ~ 4294967295 秒です。
ステップ 6	<b>action</b> <i>number</i> [ <i>number2</i> ] <i>action-statement</i> 例： switch(config-applet)# action 1.0 cli show interface e 3/1	ポリシーのアクション文を設定します。アクション文が複数ある場合、このステップを繰り返します。
ステップ 7	(任意) <b>show event manager policy-state</b> <i>name</i> [ <b>module</b> <i>module-id</i> ] 例： switch(config-applet)# show event manager policy-state monitorShutdown	設定したポリシーの状態に関する情報を表示します。
ステップ 8	(任意) <b>copy running-config</b> <b>startup-config</b> 例： switch(config)# copy running-config startup-config	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 次のタスク

イベント文およびアクション文を設定します。

## イベント文の設定

イベント文を設定するには、EEM コンフィギュレーションモード (config-applet) で次のいずれかのコマンドを使用します。



- (注) 多くの機能が展開されている場合、ベースラインのメモリでは、マイナー、重大、およびクリティカルのしきい値を定義する必要があります。デフォルトのしきい値は DRAM サイズに応じて起動時に計算されるため、その値はプラットフォームで使用されている DRAM サイズによって異なります。しきい値は、`system memory-thresholds minor percentage severe percentage critical percentage` コマンドを使用して設定できます。メモリの少ないプラットフォーム、たとえば 4GB DRAM を搭載したデバイスでは、誤ったアラームが発生しないようにメモリのしきい値を高い値に設定します。

### 始める前に

ユーザ ポリシーを定義します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p><b>event cli</b> [ <b>tag tag</b>] <b>match expression</b> [ <b>count repeats</b>   <b>time seconds</b>]</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-applet) # event cli match "shutdown"</pre>	<p>正規表現と一致するコマンドが入力された場合に、イベントを発生させます。</p> <p><b>tag tag</b> キーワードと引数のペアは、複数のイベントがポリシーに含まれている場合、この特定のイベントを識別します。</p> <p><i>repeats</i> の範囲は 1 ~ 65000 です。</p> <p><i>time</i> の範囲は 0 ~ 4294967295 です。0 は無制限を示します。</p>
ステップ 2	<p><b>event counter</b> [ <b>tag tag</b>] <b>name counter</b> <b>entry-val entry entry-op {eq   ge   gt   le   lt   ne}</b> { <b>exit-val exit exit-op {eq   ge   gt   le   lt   ne}</b>}</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-applet) # event counter name mycounter entry-val 20 gt</pre>	<p>カウンタが、開始演算子に基づいて開始のしきい値を超えた場合にイベントを発生させます。イベントはただちにリセットされます。任意で、カウンタが終了のしきい値を超えたあとでリセットされるように、イベントを設定できます。</p> <p><b>tag tag</b> キーワードと引数のペアは、複数のイベントがポリシーに含まれている場合、この特定のイベントを識別します。</p> <p><i>counter name</i> は大文字と小文字を区別し、最大 28 の英数字を使用できます。</p> <p><i>entry</i> および <i>exit</i> の値の範囲は 0 ~ 2147483647 です。</p>
ステップ 3	<p><b>event fanabsent</b> [ <b>fan number</b>] <b>time seconds</b></p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-applet) # event fanabsent time 300</pre>	<p>秒数で設定された時間を超えて、ファンがデバイスから取り外されている場合に、イベントを発生させます。</p> <p><i>number</i> の範囲はモジュールに依存します。</p> <p><i>seconds</i> の範囲は 10 ~ 64000 です。</p>
ステップ 4	<p><b>event fanbad</b> [ <b>fan number</b>] <b>time seconds</b></p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-applet) # event fanbad time 3000</pre>	<p>秒数で設定された時間を超えて、ファンが故障状態の場合に、イベントを発生させます。</p> <p><i>number</i> の範囲はモジュールに依存します。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		<i>seconds</i> の範囲は 10 ～ 64000 です。
ステップ 5	<b>event memory {critical   minor   severe}</b> 例 : <pre>switch(config-applet) # event memory critical</pre>	メモリのしきい値を超えた場合にイベントを発生させます。
ステップ 6	<b>event policy-default count repeats [ time seconds]</b> 例 : <pre>switch(config-applet) # event policy-default count 3</pre>	システムポリシーで設定されているイベントを使用します。このオプションは、ポリシーを上書きする場合に使用します。  <i>repeats</i> の範囲は 1 ～ 65000 です。  <i>seconds</i> の範囲は 0 ～ 4294967295 秒です。0 は無制限を示します。
ステップ 7	<b>event snmp [ tag tag] oid oid get-type {exact   next} entry-op {eq   ge   gt   le   lt   ne} entry-val entry [exit-comb {and   or}] exit-op {eq   ge   gt   le   lt   ne} exit-val exit exit-time time polling-interval interval</b> 例 : <pre>switch(config-applet) # event snmp oid 1.3.6.1.2.1.31.1.1.1.6 get-type next  entry-op lt 300 entry-val 0 exit-op eq 400 exit-time 30 polling-interval 300</pre>	SNMP OID が、開始演算子に基づいて開始のしきい値を超えた場合にイベントを発生させます。イベントはただちにリセットされます。または任意で、カウンタが終了のしきい値を超えたあとでリセットされるように、イベントを設定できます。OID はドット付き 10 進表記です。  <b>tag tag</b> キーワードと引数のペアは、複数のイベントがポリシーに含まれている場合、この特定のイベントを識別します。  <i>entry</i> および <i>exit</i> の値の範囲は 0 ～ 18446744073709551615 です。  <i>time</i> の範囲は 0 ～ 2147483647 秒です。  <i>interval</i> の範囲は 0 ～ 2147483647 秒です。
ステップ 8	<b>event sysmgr memory [ module module-num] major major-percent minor minor-percent clear clear-percent</b> 例 : <pre>switch(config-applet) # event sysmgr memory minor 80</pre>	指定したシステムマネージャのメモリのしきい値を超えた場合にイベントを発生させます。  <i>percent</i> の範囲は 1 ～ 99 です。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 9	<b>event temperature</b> [ <i>module slot</i> ] [ <i>sensor number</i> ] <b>threshold</b> { <i>any</i>   <i>down</i>   <i>up</i> } 例 : <pre>switch(config-applet) # event temperature module 2 threshold any</pre>	温度センサーが設定されたしきい値を超えた場合に、イベントを発生させます。 <i>sensor</i> の範囲は 1 ~ 18 です。
ステップ 10	<b>event track</b> [ <i>tag tag</i> ] <i>object-number</i> <b>state</b> { <i>any</i>   <i>down</i>   <i>up</i> } 例 : <pre>switch(config-applet) # event track 1 state down</pre>	トラッキング対象オブジェクトが設定された状態になった場合に、イベントを発生させます。 <b>tag tag</b> キーワードと引数のペアは、複数のイベントがポリシーに含まれている場合、この特定のイベントを識別します。 指定できる <i>object-number</i> の範囲は 1 ~ 500 です。

### 次のタスク

アクション文を設定します。

すでにアクション文を設定した場合、または設定しないことを選択した場合は、次のオプション作業のいずれかを実行します。

- VSH スクリプトを使用してポリシーを定義します。その後、VSH スクリプト ポリシーを登録し、アクティブにします。
- メモリのしきい値を設定します。
- EEM パブリッシャとして `syslog` を設定します。
- EEM 設定を確認します。

## アクション文の設定

EEM のコンフィギュレーション モード (`config-applet`) で次のいずれかのコマンドを使用して、アクションを設定できます。



(注) 発生したイベントでデフォルトのアクションを処理できるようにする場合は、デフォルトのアクションを許可する EEM ポリシーを設定する必要があります。

たとえば、一致文でコマンドを照合する場合、EEM ポリシーに `event-default` アクション文を追加する必要があります。この文がないと、EEM ではコマンドを実行できません。 **terminal event-manager bypass** コマンドを使用すると、一致するすべての EEM ポリシーでコマンドを実行できます。

## 始める前に

ユーザ ポリシーを定義します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>action number[.number2] cli command1[command2. ] [local]</b>  例 : <pre>switch(config-applet) # action 1.0 cli "show interface e 3/1"</pre>	設定済みコマンドを実行します。任意で、イベントが発生したモジュール上でコマンドを実行できます。  アクション ラベルのフォーマットは <b>number1.number2</b> です。  <i>number</i> には 1 ~ 16 桁の任意の番号を指定できます。  <i>number2</i> の範囲は 0 ~ 9 です。
ステップ 2	<b>action number[.number2] counter name counter value val op {dec   inc   nop   set}</b>  例 : <pre>switch(config-applet) # action 2.0 counter name mycounter value 20 op inc</pre>	設定された値および操作でカウンタを変更します。  アクション ラベルのフォーマットは <b>number1.number2</b> です。  <i>number</i> には 1 ~ 16 桁の任意の番号を指定できます。  <i>number2</i> の範囲は 0 ~ 9 です。  <i>counter</i> は大文字と小文字を区別し、最大 28 文字の英数字を使用できます。  <i>val</i> には 0 ~ 2147483647 の整数または置換パラメータを指定できます。
ステップ 3	<b>action number[.number2] event-default</b>  例 : <pre>switch(config-applet) # action 1.0 event-default</pre>	関連付けられたイベントのデフォルトアクションを実行します。  アクション ラベルのフォーマットは <b>number1.number2</b> です。  <i>number</i> には 1 ~ 16 桁の任意の番号を指定できます。  <i>number2</i> の範囲は 0 ~ 9 です。
ステップ 4	<b>action number[.number2] policy-default</b>  例 : <pre>switch(config-applet) # action 1.0 policy-default</pre>	上書きしているポリシーのデフォルトアクションを実行します。  アクション ラベルのフォーマットは <b>number1.number2</b> です。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p><i>number</i> には 1 ～ 16 桁の任意の番号を指定できます。</p> <p><i>number2</i> の範囲は 0 ～ 9 です。</p>
ステップ 5	<p><b>action</b> <i>number</i>[.<i>number2</i>] <b>reload</b> [ <b>module</b> <i>slot</i> [ - <i>slot</i>]]</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-applet) # action 1.0 reload module 3-5</pre>	<p>システム全体に 1 つ以上のモジュールをリロードします。</p> <p>アクション ラベルのフォーマットは <i>number1.number2</i> です。</p> <p><i>number</i> には 1 ～ 16 桁の任意の番号を指定できます。</p> <p><i>number2</i> の範囲は 0 ～ 9 です。</p>
ステップ 6	<p><b>action</b> <i>number</i>[.<i>number2</i>] <b>snmp-trap</b> [ <b>intdata1</b> <i>integer-data1</i>] [ <b>intdata2</b> <i>integer-data2</i>] [ <b>strdata</b> <i>string-data</i>]</p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-applet) # action 1.0 snmp-trap strdata "temperature problem"</pre>	<p>設定されたデータを使用して SNMP トラップを送信します。アクション ラベルのフォーマットは <i>number1.number2</i> です。</p> <p><i>number</i> には 1 ～ 16 桁の任意の番号を指定できます。</p> <p><i>number2</i> の範囲は 0 ～ 9 です。</p> <p><i>data</i> 要素には 80 桁までの任意の数を指定できます。</p> <p><i>string</i> には最大 80 文字の英数字を使用できます。</p>
ステップ 7	<p><b>action</b> <i>number</i>[.<i>number2</i>] <b>syslog</b> [ <b>priority</b> <i>prio-val</i>] <b>msg</b> <i>error-message</i></p> <p>例 :</p> <pre>switch(config-applet) # action 1.0 syslog priority notifications msg "cpu high"</pre>	<p>設定されたプライオリティで、カスタマイズした syslog メッセージを送信します。</p> <p>アクション ラベルのフォーマットは <i>number1.number2</i> です。</p> <p><i>number</i> には 1 ～ 16 桁の任意の番号を指定できます。</p> <p><i>number2</i> の範囲は 0 ～ 9 です。</p> <p><i>error-message</i> には最大 80 文字の英数字を引用符で囲んで使用できます。</p>

#### 次のタスク

イベント文を設定します。

すでにイベント文を設定した場合、または設定しないことを選択した場合は、次のオプション作業のいずれかを実行します。

- VSH スクリプトを使用してポリシーを定義します。その後、VSH スクリプト ポリシーを登録し、アクティブにします。
- メモリのしきい値を設定します。
- EEM パブリッシャとして syslog を設定します。
- EEM 設定を確認します。

## VSH スクリプトによるポリシーの定義

これはオプションのタスクです。VSH スクリプトを使用して EEM ポリシーを記述する場合は、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** テキスト エディタで、ポリシーを定義するコマンドリストを指定します。
- ステップ 2** テキスト ファイルに名前をつけて保存します。
- ステップ 3** 次のシステム ディレクトリにファイルをコピーします。bootflash://eem/user\_script\_policies
- 

### 次のタスク

VSH スクリプト ポリシーを登録してアクティブにします。

## VSH スクリプト ポリシーの登録およびアクティブ化

これはオプションのタスクです。VSH スクリプトを使用して EEM ポリシーを記述する場合は、次の手順を実行します。

### 始める前に

ポリシーを VSH スクリプトを使用して定義し、システム ディレクトリにファイルをコピーします。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
<b>ステップ 1</b>	<b>configure terminal</b> 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	<b>event manager policy <i>policy-script</i></b> 例： switch(config)# event manager policy moduleScript	EEM スクリプト ポリシーを登録してアクティブにします。  <i>policy-script</i> は大文字と小文字を区別し、最大 29 文字の英数字を使用できます。
ステップ 3	(任意) <b>event manager policy internal <i>name</i></b> 例： switch(config)# event manager policy internal moduleScript	EEM スクリプト ポリシーを登録してアクティブにします。  <i>policy-script</i> は大文字と小文字を区別し、最大 29 の英数字を使用できます。
ステップ 4	(任意) <b>copy running-config startup-config</b> 例： switch(config)# copy running-config startup-config	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 次のタスク

システム要件に応じて、次のいずれかを実行します。

- メモリのしきい値を設定します。
- EEM バブリッシャとして syslog を設定します。
- EEM 設定を確認します。

## システム ポリシーの上書き

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	(任意) <b>show event manager policy-state <i>system-policy</i></b> 例： switch(config-applet)# show event manager policy-state __ethpm_link_flap Policy __ethpm_link_flap Cfg count : 5 Cfg time interval : 10.000000	上書きするシステム ポリシーの情報をしきい値を含めて表示します。 <b>show event manager system-policy</b> コマンドを使用して、システム ポリシーの名前を探します。

	コマンドまたはアクション	目的
	(seconds) Hash default, Count 0	
ステップ 3	<b>event manager applet <i>applet-name</i> override <i>system-policy</i></b>  例 : <pre>switch(config-applet)# event manager applet ethport override __ethpm_link_flap switch(config-applet)#</pre>	システムポリシーを上書きし、アプレット コンフィギュレーション モードを開始します。  <i>applet-name</i> は大文字と小文字を区別し、最大 80 文字の英数字を使用できます。  <i>system-policy</i> は、システム ポリシーの 1 つにする必要があります。
ステップ 4	<b>description <i>policy-description</i></b>  例 : <pre>switch(config-applet)# description "Overrides link flap policy"</pre>	ポリシーの説明になるストリングを設定します。  <i>policy-description</i> は大文字と小文字を区別し、最大 80 文字の英数字を使用できますが、引用符で囲む必要があります。
ステップ 5	<b>event <i>event-statement</i></b>  例 : <pre>switch(config-applet)# event policy-default count 2 time 1000</pre>	ポリシーのイベント文を設定します。
ステップ 6	<b>section <i>number</i> <i>action-statement</i></b>  例 : <pre>switch(config-applet)# action 1.0 syslog priority warnings msg "Link is flapping."</pre>	ポリシーのアクション文を設定します。複数のアクション文では、この手順を繰り返します。
ステップ 7	(任意) <b>show event manager policy-state <i>name</i></b>  例 : <pre>switch(config-applet)# show event manager policy-state ethport</pre>	設定したポリシーに関する情報を表示します。
ステップ 8	(任意) <b>copy running-config startup-config</b>  例 : <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

## EEM パブリッシャとしての syslog の設定

EEM パブリッシャとして syslog を設定すると、スイッチから syslog メッセージをモニタできます。



(注) syslog メッセージをモニタする検索文字列の最大数は 10 です。

### 始める前に

- EEM が syslog による登録で利用できることを確認します。
- syslog デーモンが設定され、実行されていることを確認します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>event manager applet <i>applet-name</i></b> 例： switch(config)# event manager applet abc switch (config-appliet)#	EEM にアプレットを登録し、アプレット コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>event syslog [ tag <i>tag</i>] { occurs <i>number</i>   period <i>seconds</i>   pattern <i>msg-text</i>   priority <i>priority</i>}</b> 例： switch(config-appliet)# event syslog occurs 10	EEM にアプレットを登録し、アプレット コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	(任意) <b>copy running-config startup-config</b> 例： switch(config)# copy running-config startup-config	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 次のタスク

EEM 設定を確認します。

## Embedded Event Manager の設定確認

次のいずれかのコマンドを使用して、設定を確認します。

コマンド	目的
<code>show event manager environment [variable-name   all]</code>	イベント マネージャの環境変数に関する情報を表示します。
<code>show event manager event-types [event   all   module slot]</code>	イベント マネージャのイベントタイプに関する情報を表示します。
<code>show event manager history events [detail] [maximum num-events] [severity {catastrophic   minor   moderate   severe}]</code>	すべてのポリシーについて、イベント履歴を表示します。
<code>show event manager policy-state policy-name</code>	しきい値を含め、ポリシーの状態に関する情報を表示します。
<code>show event manager script system [policy-name   all]</code>	スクリプト ポリシーに関する情報を表示します。
<code>show event manager system-policy [all]</code>	定義済みシステム ポリシーに関する情報を表示します。
<code>show running-config eem</code>	EEMの実行コンフィギュレーションに関する情報を表示します。
<code>show startup-config eem</code>	EEMのスタートアップコンフィギュレーションに関する情報を表示します。

## Embedded Event Manager の設定例

次に、モジュール3の中断のないアップグレードの障害のしきい値だけを変更することによって、`__lcm_module_failure` システムポリシーを上書きする例を示します。また、`syslog` メッセージも送信します。その他のすべての場合、システムポリシー `__lcm_module_failure` の設定値が適用されます。

```
event manager applet example2 override __lcm_module_failure
event module-failure type hitless-upgrade-failure module 3 count 2
  action 1 syslog priority errors msg module 3 "upgrade is not a hitless upgrade!"
  action 2 policy-default
```

次に、`__ethpm_link_flap` システムポリシーを上書きし、インターフェイスをシャットダウンする例を示します。

```
event manager applet ethport override __ethpm_link_flap
event policy-default count 2 time 1000
  action 1 cli conf t
```



```
action 2 cli int et1/1
action 3 cli no shut
```

次に、ユーザがデバイスでコンフィギュレーションモードを開始すると、コマンドを実行できるが、SNMP 通知をトリガーする EEM ポリシーを作成する例を示します。

```
event manager applet TEST
  event cli match "conf t"
  action 1.0 snmp-trap strdata "Configuration change"
  action 2.0 event-default
```



- (注) EEM ポリシーに **event-default** アクション文を追加する必要があります。この文がないと、EEM ではコマンドを実行できません。

次に、EEM ポリシーの複数イベントを関連付け、イベントトリガーの組み合わせに基づいてポリシーを実行する例を示します。この例では、EEM ポリシーは、指定された syslog パターンのいずれかが 120 秒以内に発生したときにトリガーされます。

```
event manager applet eem-correlate
  event syslog tag one pattern "copy bootflash:.* running-config.*"
  event syslog tag two pattern "copy run start"
  event syslog tag three pattern "hello"
  tag one or two or three happens 1 in 120
  action 1.0 reload module 1
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
EEM コマンド	『Cisco Nexus 3000 Series NX-OS System Management Command Reference』

### 標準

この機能では、新規の標準がサポートされることも、一部変更された標準がサポートされることもありません。また、既存の標準に対するサポートが変更されることもありません。

## EEM の機能の履歴

表 30: EEM の機能の履歴

機能名	リリース	機能情報
組み込みイベントマネージャ (EEM)	5.0(3)U3(1)	機能が追加されました。





## 第 17 章

# SPAN の設定

この章は、次の項で構成されています。

- [SPAN について \(229 ページ\)](#)
- [SPAN 送信元 \(230 ページ\)](#)
- [送信元ポートの特性 \(230 ページ\)](#)
- [SPAN 宛先 \(231 ページ\)](#)
- [宛先ポートの特性 \(231 ページ\)](#)
- [SPAN の注意事項および制約事項 \(231 ページ\)](#)
- [SPAN セッションの作成または削除 \(233 ページ\)](#)
- [イーサネット宛先ポートの設定 \(234 ページ\)](#)
- [SPAN トラフィックのレート制限の設定 \(235 ページ\)](#)
- [送信元ポートの設定 \(236 ページ\)](#)
- [送信元ポート チャネルまたは VLAN の設定 \(237 ページ\)](#)
- [SPAN セッションの説明の設定 \(238 ページ\)](#)
- [SPAN セッションのアクティブ化 \(238 ページ\)](#)
- [SPAN セッションの一時停止 \(239 ページ\)](#)
- [SPAN 情報の表示 \(239 ページ\)](#)
- [SPAN のコンフィギュレーション例 \(240 ページ\)](#)

## SPAN について

スイッチドポートアナライザ (SPAN) 機能 (ポート ミラーリングまたはポート モニタリングとも呼ばれる) は、ネットワーク アナライザによる分析のためにネットワーク トラフィックを選択します。ネットワーク アナライザは、Cisco SwitchProbe またはその他のリモート モニタリング (RMON) プロブです。

## SPAN 送信元

SPAN 送信元とは、トラフィックをモニタリングできるインターフェイスを表します。Cisco Nexus デバイスは、SPAN 送信元として、イーサネット、ファイバチャネル、仮想ファイバチャネル、ポートチャネル、SANポートチャネル、VSAN、およびVLANをサポートします。VLAN または VSAN では、指定された VLAN または VSAN でサポートされているすべてのインターフェイスが SPAN 送信元として含まれます。イーサネット、ファイバチャネル、および仮想ファイバチャネルの送信元インターフェイスで、入力方向、出力方向、または両方向の SPAN トラフィックを選択できます。

- 入力送信元 (Rx) : この送信元ポートを介してデバイスに入るトラフィックは、SPAN 宛先ポートにコピーされます。
- 出力送信元 (Tx) : この送信元ポートを介してデバイスから出るトラフィックは、SPAN 宛先ポートにコピーされます。

VLAN アクセス コントロール リスト (VACL) を使用し、入力トラフィック (Rx) をフィルタ処理するように SPAN 送信元セッションを設定することもできます。

SPAN 送信元インターフェイスが 6 Gbps よりも大きいトラフィックを送信した場合、またはトラフィックがあまりにも急増した場合、デバイスは送信元インターフェイスでトラフィックをドロップします。送信元インターフェイスの実際のトラフィックのドロップを減らすために、SPAN 宛先に対して **switchport monitor rate-limit 1G** コマンドを使用できます。ただし、SPAN トラフィックは 1 Gbps に制限されます。

Cisco Nexus 34180YC プラットフォーム スイッチは、SPAN 送信元として VLAN をサポートしていません。

## 送信元ポートの特性

送信元ポート (モニタリング対象ポートとも呼ばれる) は、ネットワークトラフィック分析のためにモニタリングするスイッチドインターフェイスです。スイッチは、任意の数の入力送信元ポート (スイッチで使用できる最大数のポート) と任意の数の送信元 VLAN をサポートします。

送信元ポートの特性は、次のとおりです。

- イーサネット、ポートチャネル、または VLAN ポートタイプにできます。
- ACL フィルタが設定されていない場合、方向または SPAN 宛先のいずれかが異なっていれば、複数のセッションに対して同じ送信元を設定することができます。ただし、各 SPAN RX の送信元は、ACL フィルタを使用して、1 つの SPAN セッションにのみ設定する必要があります。
- 宛先ポートには設定できません。

- モニタする方向（入力、出力、または両方）を設定できます。VLAN送信元の場合、モニタリング方向は入力のみであり、グループ内のすべての物理ポートに適用されます。RXとTXのオプションは、VLANのSPANセッションでは使用できません。
- ACLを使用して入力トラフィックをフィルタし、ACL基準に一致する情報のパケットのみがミラーリングされるようにすることができます。
- 同じまたは別のVLANに設定できます。

## SPAN 宛先

SPAN 宛先とは、送信元ポートをモニタリングするインターフェイスを表します。Cisco Nexus シリーズ デバイスは、SPAN 宛先として、イーサネット インターフェイス インターフェイスをサポートします。

## 宛先ポートの特性

各ローカル SPAN セッションには、送信元ポートまたは VLAN からトラフィックのコピーを受信する宛先ポート（モニタリングポートとも呼ばれる）が必要です。宛先ポートの特性は、次のとおりです。

- すべての物理ポートが可能です。送信元イーサネットおよび FCoE ポートは、宛先ポートにできません。
- 送信元ポートにはなれません。
- ポート チャネルにはできません。
- SPAN セッションがアクティブなときは、スパニングツリーに参加しません。
- 任意の SPAN セッションの送信元 VLAN に属する場合、送信元リストから除外され、モニタリングされません。
- すべてのモニタリング対象送信元ポートの送受信トラフィックのコピーを受信します。

## SPAN の注意事項および制約事項

SPAN には、次の注意事項と制限事項があります。

- 同じ送信元（イーサネットまたはポートチャネル）は、複数のセッションの一部にすることができます。宛先が異なる2つのモニタセッションを設定することはできますが、同じ送信元 VLAN はサポートされていません。
- VLAN送信元セッションおよびポート送信元セッションの組み合わせはサポートされていません。トラフィック ストリームが VLAN 送信元セッションに加えてポート送信元セッ

セッションとも一致する場合、2つの宛先ポートで2つのコピーが必要です。ハードウェアの制限により、VLAN 送信元 SPAN と特定の宛先ポートのみが SPAN パケットを受信します。

この制限は、次のシスコ デバイスに適用されます。

表 31 : Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチ

Cisco Nexus 3048TP	Cisco Nexus 31128PQ	Cisco Nexus 3132Q
Cisco Nexus 3172PQ	Cisco Nexus 3172TQ	Cisco Nexus 3172TQ-XL

- 複数の ACL フィルタは、同じ送信元でサポートされます。
  - **show monitor session** コマンドの出力には、送信元 VLAN のすべての方向が表示されますが、フィルタ VLAN のオプションは表示されません。
  - リリース NX-OS 5.0(3)U2(2) をインストールしてからソフトウェアを以前のバージョンにダウングレードすると、SPAN の設定は失われます。  
リリース NX-OS 5.0(3)U2(2) にアップグレードする前に設定を保存し、ダウングレード後にローカル SPAN の設定を再適用する必要があります。
- 同様の ERSPAN の制約事項については、[を参照してください。ERSPAN の注意事項および制約事項 \(247 ページ\)](#)
- ACL フィルタリングは、Rx SPAN に対してのみサポートされます。Tx SPAN は、送信元インターフェイスで出力されるすべてのトラフィックをミラーリングします。
  - ACL フィルタリングは、TCAM (Ternary Content Addressable Memory) 幅の制限により、IPv6 および MAC ACL ではサポートされていません。
  - SPAN TCAM サイズは、ASIC に応じて 128 または 256 です。1つのエントリがデフォルトでインストールされ、4つは ERSPAN 用に予約されます。
  - 
  - 同じ送信元が複数の SPAN セッションで設定されていて、各セッションに ACL フィルタが設定されている場合、送信元インターフェイスは、最初のアクティブ SPAN セッションに対してのみプログラムされます。その他のセッションの ACE にプログラムされているハードウェア エントリは、この送信元インターフェイスには含まれません。
  - 許可と拒否の両方のアクセス コントロール エントリ (ACE) は、同様に処理されます。ACE と一致するパケットは、ACL の許可エントリまたは拒否エントリを含んでいるかどうかに関係なく、ミラーリングされます。



(注) 拒否 ACE により、パケットがドロップされることはありません。SPAN セッションに設定されている ACL によってのみ、パケットをミラーリングするかどうかが決まります。

- パフォーマンス向上のため、SPAN には RX タイプの送信元トラフィックのみを使用することをお勧めします。RX トラフィックがカットスルーであるのに対し、TX はストアアンドフォワードであるためです。したがって、両方向 (RX および TX) をモニタする場合、パフォーマンスは RX のみをモニタするときほど良好になりません。両方向のトラフィックをモニタする必要がある場合は、より多くの物理ポートで RX をモニタすると、トラフィックの両側をキャプチャすることができます。
- Cisco Nexus 34180YC プラットフォーム スイッチには次の制限が適用されます。
  - VLAN は SPAN 送信元としてサポートされていません。
  - 送信元として VLAN ポート タイプはサポートされていません。
  - VACL フィルタはサポートされていません。
  - ACL フィルタと VLAN フィルタはサポートされていません。
  - SPAN UDF ベースの ACL サポートはサポートされていません
  - 同じ送信元を複数の SPAN セッションで設定することはできません。
  - SPAN および ERSPAN では、PortChannel は宛先インターフェイスとしてサポートされていません。
  - Cisco Nexus 34180YC プラットフォーム スイッチは、スイッチに設定されている合計で 32 セッションの SPAN および ERSPAN セッションをサポートします。32 すべてのセッションを同時にアクティブにできます。
  - `filter access-group` コマンドは、Cisco Nexus 34180YC プラットフォーム スイッチでサポートされていません。
  - スーパーバイザに対する SPAN はサポートされていません。

## SPAN セッションの作成または削除

`monitor session` コマンドを使用してセッション番号を割り当てることによって、SPAN セッションを作成できます。セッションがすでに存在する場合、既存のセッションにさらに設定情報が追加されます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config)# monitor session session-number</code>	モニタ コンフィギュレーション モードを開始します。既存のセッション設定に新しいセッション設定が追加されます。

## 例

次に、SPAN モニタ セッションを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # monitor session 2
switch(config) #
```

## イーサネット宛先ポートの設定

SPAN 宛先ポートとしてイーサネット インターフェイスを設定できます。



(注) SPAN 宛先ポートは、スイッチ上の物理ポートにのみ設定できます。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>interface ethernet slot/port</b>	指定されたスロットとポートでイーサネット インターフェイスの インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。  (注) 仮想イーサネット ポート上で <b>switchport monitor</b> コマンドを有効にするには、 <b>interface vethernet slot/port</b> コマンドを使用できます。
ステップ 3	switch(config-if)# <b>switchport monitor</b>	指定されたイーサネット インターフェイスの モニタ モードを開始します。ポートが SPAN 宛先として設定されている場合、プライオリティフロー制御はディセーブルです。
ステップ 4	switch(config-if)# <b>exit</b>	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 5	switch(config)# <b>monitor session session-number</b>	指定した SPAN セッションの モニタ コンフィギュレーション モードを開始します。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	<code>switch(config-monitor)# destination interface ethernet slot/port</code>	イーサネット SPAN 宛先ポートを設定します。  (注) モニタ コンフィギュレーションで宛先インターフェイスとして仮想イーサネット ポートを有効にするには、 <b>destination interface vethernet slot/port</b> コマンドを使用できます。

### 例

次に、イーサネット SPAN 宛先ポート (HIF) を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet100/1/24
switch(config-if)# switchport monitor
switch(config-if)# exit
switch(config)# monitor session 1
switch(config-monitor)# destination interface ethernet100/1/24
switch(config-monitor)#
```

次に、仮想イーサネット (VETH) SPAN 宛先ポートを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface vethernet10
switch(config-if)# switchport monitor
switch(config-if)# exit
switch(config)# monitor session 2
switch(config-monitor)# destination interface vethernet10
switch(config-monitor)#
```

## SPAN トラフィックのレート制限の設定

モニタ セッション全体で SPAN トラフィックのレート制限を 1Gbps に設定することで、モニタされた実稼働トラフィックへの影響を回避できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config)# interface ethernet slot/port</code>	スロット値およびポート値による選択で指定されたイーサネット インターフェイスで、インターフェイスコンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<code>switch(config-if)# <b>switchport monitor rate-limit 1G</b></code>	レート制限が 1 Gbps であることを指定します。
ステップ 4	<code>switch(config-if)# <b>exit</b></code>	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

### 例

次に、イーサネット インターフェイス 1/2 の帯域幅を 1 Gbps に制限する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/2
switch(config-if)# switchport monitor rate-limit 1G
switch(config-if)#
```

## 送信元ポートの設定

送信元ポートは、イーサネット ポートのみを設定できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# <b>configure terminal</b></code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config) # <b>monitor session session-number</b></code>	指定したモニタリングセッションのモニタ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>switch(config-monitor) # <b>source interface type slot/port [rx   tx   both]</b></code>	イーサネット SPAN の送信元ポートを追加し、パケットを複製するトラフィック方向を指定します。イーサネット、ファイバ チャンネル、または仮想ファイバ チャンネルのポート範囲を入力できます。複製するトラフィック方向を、入力 (Rx)、出力 (Tx)、または両方向 (both) として指定できます。デフォルトは both です。

### 例

次に、イーサネット SPAN 送信元ポートを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# monitor session 2
switch(config-monitor)# filter access-group acl1
switch(config-monitor)# source interface ethernet 1/16
switch(config-monitor)#
```

## 送信元ポート チャンネルまたは VLAN の設定

SPANセッションに送信元チャンネルを設定できます。これらのポートは、ポートチャンネル、および VLAN に設定できます。モニタリング方向は入力、出力、またはその両方に設定でき、グループ内のすべての物理ポートに適用されます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>monitor session</b> <i>session-number</i>	指定した SPAN セッションのモニタ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	switch(config-monitor) # <b>filter access-group</b> <i>access-map</i>	ACL リストに基づいて、送信元ポートで入力トラフィックをフィルタリングします。アクセスマップに使用されるアクセスリストと一致するパケットのみがスパニングされます。
ステップ 4	switch(config-monitor) # <b>source {interface</b> <b>{port-channel} channel-number [rx   tx  </b> <b>both]   vlan vlan-range}</b>	ポート チャンネルまたは VLAN 送信元を設定します。VLAN送信元の場合、モニタリング方向は暗黙的です。

### 例

次に、ポート チャンネル SPAN 送信元を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# monitor session 2
switch(config-monitor)# filter access-group acl1
switch(config-monitor)# source interface port-channel 1 rx
switch(config-monitor)# source interface port-channel 3 tx
switch(config-monitor)# source interface port-channel 5 both
switch(config-monitor)#
```

次に、VLAN SPAN 送信元を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# monitor session 2
switch(config-monitor)# filter access-group acl1
```

```
switch(config-monitor) # source vlan 1
switch(config-monitor) #
```

## SPAN セッションの説明の設定

参照しやすいように、SPAN セッションにわかりやすい名前を付けることができます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>monitor session</b> <i>session-number</i>	指定した SPAN セッションのモニタ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	switch(config-monitor) # <b>description</b> <i>description</i>	SPAN セッションのわかりやすい名前を作成します。

### 例

次に、SPAN セッションの説明を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # monitor session 2
switch(config-monitor) # description monitoring ports eth2/2-eth2/4
switch(config-monitor) #
```

## SPAN セッションのアクティブ化

デフォルトでは、セッション ステータスは shut のままになります。送信元から宛先へパケットをコピーするセッションを開くことができます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>no monitor session</b> {all   <i>session-number</i> } <b>shut</b>	指定された SPAN セッションまたはすべてのセッションを開始します。

## 例

次に、SPAN セッションをアクティブにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # no monitor session 3 shut
```

## SPAN セッションの一時停止

デフォルトでは、セッション状態は **shut** です。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config) # <b>monitor session {all   session-number} shut</b>	指定された SPAN セッションまたはすべてのセッションを一時停止します。

## 例

次に、SPAN セッションを一時停止する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # monitor session 3 shut
switch(config) #
```

## SPAN 情報の表示

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>show monitor</b> [session {all   session-number   range session-range} [brief]]	SPAN 設定を表示します。

## 例

次に、SPAN セッションの情報を表示する例を示します。

```
switch# show monitor
SESSION STATE REASON DESCRIPTION
```

```

-----
2      up          The session is up
3      down        Session suspended
4      down        No hardware resource

```

次に、SPAN セッションの詳細を表示する例を示します。

```

switch# show monitor session 2
      session 2
-----
type           : local
state          : up

source intf    :

source VLANs   :
  rx           : 100
  tx           :
  both         :
filter VLANs   : filter not specified
destination ports : Eth3/1

```

## SPAN のコンフィギュレーション例

### SPAN セッションのコンフィギュレーション例

SPAN セッションを設定する手順は、次のとおりです。

#### 手順

**ステップ1** アクセスモードで宛先ポートを設定し、SPAN モニタリングをイネーブルにします。

例：

```

switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/5
switch(config-if)# switchport
switch(config-if)# switchport monitor
switch(config-if)# no shut
switch(config-if)# exit
switch(config)#

```

**ステップ2** SPAN セッションを設定します。

例：

```

switch(config)# no monitor session 3
switch(config)# monitor session 3
switch(config-monitor)# source interface ethernet 2/1-3, ethernet 3/1 rx
switch(config-monitor)# source interface port-channel 2
switch(config-monitor)# source interface sup-eth 0 both
switch(config-monitor)# source vlan 3, 6-8 rx
switch(config-monitor)# source interface ethernet 101/1/1-3
switch(config-monitor)# filter vlan 3-5, 7
switch(config-monitor)# destination interface ethernet 2/5

```

```
switch(config-monitor)# no shut
switch(config-monitor)# exit
switch(config)# show monitor session 3
switch(config)# copy running-config startup-config
```

---

## 単一方向 SPAN セッションの設定例

単一方向 SPAN セッションを設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ1** アクセス モードで宛先ポートを設定し、SPAN モニタリングをイネーブルにします。

例：

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/5
switch(config-if)# switchport
switch(config-if)# switchport monitor
switch(config-if)# no shut
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

**ステップ2** SPAN セッションを設定します。

例：

```
switch(config)# no monitor session 3
switch(config)# monitor session 3 rx
switch(config-monitor)# source interface ethernet 2/1-3, ethernet 3/1 rx
switch(config-monitor)# filter vlan 3-5, 7
switch(config-monitor)# destination interface ethernet 2/5
switch(config-monitor)# no shut
switch(config-monitor)# exit
switch(config)# show monitor session 3
switch(config)# copy running-config startup-config
```

---

## SPAN ACL の設定例

次に、SPAN ACL を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip access-list match_11_pkts
switch(config-acl)# permit ip 11.0.0.0 0.255.255.255 any
switch(config-acl)# exit
switch(config)# ip access-list match_12_pkts
switch(config-acl)# permit ip 12.0.0.0 0.255.255.255 any
switch(config-acl)# exit
switch(config)# vlan access-map span_filter 5
```

```

switch(config-access-map)# match ip address match_11_pkts
switch(config-access-map)# action forward
switch(config-access-map)# exit
switch(config)# vlan access-map span_filter 10
switch(config-access-map)# match ip address match_12_pkts
switch(config-access-map)# action forward
switch(config-access-map)# exit
switch(config)# monitor session 1
switch(config-erspan-src)# filter access-group span_filter

```

## UDF ベース SPAN の設定例

次に、以下の一致基準を使用して、カプセル化された IP-in-IP パケットの内部 TCP フラグで照合する UDF ベース SPAN を設定する例を示します。

- 外部送信元 IP アドレス : 10.0.0.2
- 内部 TCP フラグ : 緊急 TCP フラグを設定
- バイト : Eth Hdr (14) + 外部 IP (20) + 内部 IP (20) + 内部 TCP (20、ただし、13 番目のバイトの TCP フラグ)
- パケットの先頭からのオフセット :  $14 + 20 + 20 + 13 = 67$
- UDF の照合値 : 0x20
- UDF マスク : 0xFF

```

udf udf_tcpflags packet-start 67 1
hardware access-list tcam region racl qualify udf udf_tcpflags
copy running-config startup-config
reload
ip access-list acl-udf
 permit ip 10.0.0.2/32 any udf udf_tcpflags 0x20 0xff
monitor session 1
 source interface Ethernet 1/1
 filter access-group acl-udf

```

次に、以下の一致基準を使用して、レイヤ 4 ヘッダーの先頭から 6 バイト目のパケット署名 (DEADBEEF) と通常の IP パケットを照合する UDF ベース SPAN を設定する例を示します。

- 外部送信元 IP アドレス : 10.0.0.2
- 内部 TCP フラグ : 緊急 TCP フラグを設定
- バイト : Eth Hdr (14) + IP (20) + TCP (20) + ペイロード : 112233445566DEADBEEF7788
- レイヤ 4 ヘッダーの先頭からのオフセット :  $20 + 6 = 26$
- UDF の照合値 : 0xDEADBEEF (2 バイトのチャンクおよび 2 つの UDF に分割)
- UDF マスク : 0xFFFFFFFF

```

udf udf_pktsig_msb header outer 13 26 2
udf udf_pktsig_lsb header outer 13 28 2
hardware access-list tcam region racl qualify udf udf_pktsig_msb udf_pktsig_lsb
copy running-config startup-config

```



```
reload
ip access-list acl-udf-pktsig
  permit udf udf_pktsig_msb 0xDEAD 0xFFFF udf udf_pktsig_lsb 0xBEEF 0xFFFF
monitor session 1
  source interface Ethernet 1/1
  filter access-group acl-udf-pktsig
```





## 第 18 章

# ローカル SPAN および ERSPAN の設定

この章は、次の項で構成されています。

- [ERSPAN に関する情報 \(245 ページ\)](#)
- [ERSPAN のライセンス要件 \(246 ページ\)](#)
- [ERSPAN の前提条件 \(247 ページ\)](#)
- [ERSPAN の注意事項および制約事項 \(247 ページ\)](#)
- [ERSPAN のデフォルト設定 \(251 ページ\)](#)
- [ERSPAN の設定 \(252 ページ\)](#)
- [ERSPAN の設定例 \(267 ページ\)](#)
- [その他の参考資料 \(269 ページ\)](#)

## ERSPAN に関する情報

Cisco NX-OS システムは、発信元および宛先ポートの両方で Encapsulated Remote Switching Port Analyzer (ERSPAN) 機能をサポートします。ERSPAN は、IP ネットワークでミラーリングされたトラフィックを転送します。トラフィックは、送信元ルータでカプセル化され、ネットワーク間を転送されます。パケットは宛先ルータでカプセル化解除され、宛先インターフェイスに送信されます。

ERSPAN は、ERSPAN 送信元セッション、ルーティング可能な ERSPAN Generic Routing Encapsulation (GRE) カプセル化トラフィック、および ERSPAN 宛先セッションで構成されています。異なるスイッチで ERSPAN 送信元セッションおよび宛先セッションを個別に設定することができます。ACL を使用し、入力トラフィックをフィルタ処理するように ERSPAN 送信元セッションを設定することもできます。

## ERSPAN 送信元

トラフィックをモニタできるモニタ元インターフェイスのことを ERSPAN 送信元と呼びます。送信元では、監視するトラフィックを指定し、さらに入力、出力、または両方向のトラフィックをコピーするかどうかを指定します。ERSPAN 送信元には次のものが含まれます。

- イーサネット ポートおよびポート チャネル。

- VLAN : VLAN が ERSPAN 送信元として指定されている場合、VLAN でサポートされているすべてのインターフェイスが ERSPAN 送信元となります。

ERSPAN 送信元ポートには、次の特性があります。

- 送信元ポートとして設定されたポートを宛先ポートとしても設定することはできません。
- ERSPAN は送信元に関係なく、スーパーバイザによって生成されるパケットをモニタしません。
- ACL を使用して送信元ポートで入力トラフィックをフィルタし、ACL 基準に一致する情報のパケットのみがミラーリングされるようにすることができます。

## マルチ ERSPAN セッション

最大 18 個の ERSPAN セッションを定義できますが、同時に作動できるのは最大 4 個の ERSPAN または SPAN セッションのみです。受信ソースと送信ソースの両方が同じセッションに設定されている場合、同時に作動できるのは 2 つの ERSPAN または SPAN セッションのみです。未使用の ERSPAN セッションはシャットダウンもできます。



- (注) Cisco Nexus 34180YC プラットフォーム スイッチは、スイッチに設定されている合計で 32 セッションの SPAN および ERSPAN セッションをサポートします。32 すべてのセッションを同時にアクティブにできます。

ERSPAN セッションのシャットダウンについては、[ERSPAN セッションのシャットダウンまたはアクティブ化 \(264 ページ\)](#) を参照してください。

## ハイ アベイラビリティ

ERSPAN 機能はステートレス およびステートフル リスタートをサポートします。リブートまたはスーパーバイザ スイッチオーバー後に、実行コンフィギュレーションが適用されます。

## ERSPAN のライセンス要件

次の表に、この機能のライセンス要件を示します。

製品	ライセンス要件
Cisco NX-OS	ERSPAN にはライセンスは不要です。ライセンス パッケージに含まれていない機能はすべて Cisco NX-OS システム イメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。Cisco NX-OS のライセンススキームの詳細は、Cisco NX-OS ソフトウェアのライセンスおよび著作権情報は、次の URL から入手できます。 <a href="http://www.cisco.com/US/products/switches/4010/switches/agnat/nxosv.html">http://www.cisco.com/US/products/switches/4010/switches/agnat/nxosv.html</a>

## ERSPAN の前提条件

ERSPAN の前提条件は、次のとおりです。

- 所定の ERSPAN 設定をサポートするには、まず各デバイス上でポートのイーサネットインターフェイスを設定する必要があります。詳細については、お使いのプラットフォームのインターフェイス コンフィギュレーション ガイドを参照してください。

## ERSPAN の注意事項および制約事項

ERSPAN 設定時の注意事項と制限事項は次のとおりです。

- 同じ送信元は、複数のセッションの一部にすることができます。
- 複数の ACL フィルタは、同じ送信元でサポートされます。
- Cisco Nexus 34180YC プラットフォーム スイッチには次の制限が適用されます。
  - ERSPAN では、PortChannel は宛先インターフェイスとしてサポートされていません。
  - ACL フィルタと VLAN フィルタはサポートされていません。
  - ERSPAN UDF ベースの ACL サポートはサポートされていません
  - Cisco Nexus 34180YC プラットフォーム スイッチは、スイッチに設定されている合計で 32 セッションの SPAN および ERSPAN セッションをサポートします。32 すべてのセッションを同時にアクティブにできます。
  - **filter access-group** コマンドは、Cisco Nexus 34180YC プラットフォーム スイッチでサポートされていません。
  - スーパーバイザに対する ERSPAN はサポートされていません。
  - ERSPAN での IPv6 ベースのルーティングおよび IPv6 UDF はサポートされていません。
- ERSPAN は次をサポートしています。

- 4～6 個のトンネル
  - トンネルなしパケット
  - IP-in-IP トンネル
  - IPv4 トンネル (制限あり)
  - Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチでは、ERSPAN 送信元セッションと一致するパケットのスパニングに汎用 GRE ERSPAN ヘッダー形式を使用します。この形式は、Cisco ERSPAN タイプ 1/2/3 ヘッダー形式に準拠していません。Cisco ASIC ベースのプラットフォームでは、Cisco ERSPAN カプセル化形式タイプに準拠した ERSPAN パケットに対してのみ ERSPAN 終端およびカプセル化解除がサポートされます。したがって、Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチから CISCOS ASIC ベース スイッチのローカル宛先 IP アドレスに対して発信される ERSPAN パケットは ERSPAN 終端フィルタと一致しません。宛先 IP アドレスが Cisco ASIC プラットフォーム上のローカル IP アドレスでもある場合、ERSPAN パケットはソフトウェアに送信され、ソフトウェアでドロップされます。
  - ERSPAN 宛先セッションタイプ (ただし、ERSPAN パケットのカプセル化を解除するためのサポートは使用できません。カプセル化されたパケット全体は、ERSPAN 終端ポイントの前面パネルポートにスパンされます)。
- ERSPAN パケットは、カプセル化されたミラーパケットがレイヤ 2 MTU のチェックに失敗した場合、ドロップされます。
- 出力カプセルでは 112 バイトの制限があります。この制限を超えるパケットはドロップされます。このシナリオは、トンネルとミラーリングが混在する場合に発生することがあります。
- ERSPAN セッションは複数のローカルセッションで共有されます。最大 18 セッションが設定できます。ただし、同時に動作できるのは最大 4 セッションのみです。受信ソースと送信ソースの両方が同じセッションで設定されている場合、2 セッションのみが動作できます。
- NX-OS 5.0(3)U2(2) をインストールして ERSPAN を設定し、その後でソフトウェアを以前のバージョンにダウングレードすると、ERSPAN の設定は失われます。これは、ERSPAN が NX-OS 5.0(3)U2(2) よりも前のバージョンでサポートされていないためです。
- 同様の SPAN の制約事項については、[SPAN の注意事項および制約事項 \(231 ページ\)](#) を参照してください。
- ERSPAN および ERSPAN (ACL フィルタリングあり) は、スーパーバイザが生成したパケットではサポートされません。
  - ACL フィルタリングは、Rx ERSPAN に対してのみサポートされます。Tx ERSPAN は、送信元インターフェイスで出力されるすべてのトラフィックをミラーリングします。
  - ACL フィルタリングは、TCAM 幅の制限があるため、IPv6 および MAC ACL ではサポートされません。

- 同じ送信元が複数の ERSPAN セッションで設定されていて、各セッションに ACL フィルタが設定されている場合、送信元インターフェイスは、最初のアクティブ ERSPAN セッションに対してのみプログラムされます。その他のセッションに属する ACE には、この送信元インターフェイスはプログラムされません。
- 同じ送信元を使用するように ERSPAN セッションおよびローカル SPAN セッション (filter access-group および allow-sharing オプションを使用) を設定する場合は、設定を保存してスイッチをリロードすると、ローカル SPAN セッションがダウンします。
- モニタセッションの filter access-group を使用する VLAN アクセスマップ設定では、ドロップアクションはサポートされていません。モニタセッションでドロップアクションのある VLAN アクセスマップに filter access-group が設定されている場合、モニタセッションはエラー状態になります。
- 許可 ACE と拒否 ACE は、どちらも同様に処理されます。ACE と一致するパケットは、ACL の許可エントリまたは拒否エントリを含んでいるかどうかに関係なく、ミラーリングされます。
- ERSPAN は、管理ポートではサポートされません。
- 宛先ポートは、一度に 1 つの ERSPAN セッションだけで設定できます。
- ポートを送信元ポートと宛先ポートの両方として設定することはできません。
- 1 つの ERSPAN セッションに、次の送信元を組み合わせ使用できます。
  - イーサネットポートまたはポートチャネル (サブインターフェイスを除く)。
  - ポートチャネルサブインターフェイスに割り当てることができる VLAN またはポートチャネル。
  - コントロールプレーン CPU へのポートチャネル。



---

(注) ERSPAN は送信元に関係なく、スーパーバイザによって生成されるパケットをモニタしません。

---

- 宛先ポートはスパニングツリーインスタンスまたはレイヤ3プロトコルに参加しません。
- ERSPAN セッションに、送信方向または送受信方向でモニタされている送信元ポートが含まれている場合、パケットが実際にはその送信元ポートで送信されなくても、これらのポートを受け取るパケットが ERSPAN の宛先ポートに複製される可能性があります。送信元ポート上でのこの動作の例を、次に示します。
  - フラッドイングから発生するトラフィック
  - ブロードキャストおよびマルチキャストトラフィック

- 入力と出力の両方が設定されている VLAN ERSPAN セッションでは、パケットが同じ VLAN 上でスイッチングされる場合に、宛先ポートから 2 つのパケット（入力側から 1 つ、出力側から 1 つ）が転送されます。
- VLAN ERSPAN がモニタするのは、VLAN のレイヤ 2 ポートを出入りするトラフィックだけです。
- Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチが ERSPAN 宛先の場合、GRE ヘッダーは、終端ポイントからミラーパケットが送信される前には削除されません。パケットは、GRE パケットである GRE ヘッダー、および GRE ペイロードである元のパケットとともに送信されます。
- ERSPAN 送信元セッションの出力インターフェイスは、**show monitor session <session-number>** CLI コマンドの出力に表示されるようになりました。出力インターフェイスには、物理ポートまたは **port-channel** を指定できます。ECMP の場合、ECMP メンバー内の 1 つのインターフェイスが出力に表示されます。この特定のインターフェイスがトラフィックの出力に使用されます。
- SPAN/ERSPAN ACL 統計情報は、**show monitor filter-list** コマンドを使用して表示できます。このコマンドの出力には、SPAN TCAM の統計情報とともにすべてのエントリが表示されます。ACL 名は表示されず、エントリのみ出力に表示されます。統計情報は、**clear monitor filter-list statistics** コマンドを使用してクリアできます。出力は、**show ip access-list** コマンドの出力と同様です。Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチは、ACL レベルごとの統計情報をサポートしていません。この機能強化は、ローカル SPAN および ERSPAN の両方でサポートされています。
- CPU とやりとりされるトラフィックはスパニングされます。その他のインターフェイス SPAN に似ています。この機能強化は、ローカル SPAN でのみサポートされています。ACL 送信元ではサポートされていません。Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチは、CPU から送信される (RCPU.dest\_port != 0) ヘッダー付きのパケットはスパニングしません。
- SPAN 転送ドロップトラフィックの場合、フォワーディングプレーンにおけるさまざまな原因でドロップされるパケットのみ SPAN されます。この機能強化は、ERSPAN 送信元セッションでのみサポートされています。SPAN ACL、送信元 VLAN、および送信元インターフェイスとともにサポートされません。SPAN のドロップトラフィックには、3 つの ACL エントリがインストールされます。ドロップエントリに優先度を設定して、その他のモニタセッションの SPAN ACL エントリや VLAN SPAN エントリよりも高いまたは低い優先度にすることができます。デフォルトでは、ドロップエントリの優先度の方が高くなります。
- SPAN UDF (ユーザ定義フィールド) ベースの ACL サポート
  - パケットの最初の 128 バイトのパケットヘッダーまたはペイロード（一定の長さ制限あり）を照合できます。
  - 照合のために、特定のオフセットと長さを指定して UDF を定義できます。
  - 1 バイトまたは 2 バイトの長さのみ照合できます。
  - 最大 8 個の UDF がサポートされます。



- 追加の UDF 一致基準が ACL に追加されます。
- UDF 一致基準は、SPAN ACL に対してのみ設定できます。この機能強化は、その他の ACL 機能 (RACL、PACL、および VACL) ではサポートされていません。
- ACE ごとに最大 8 個の UDF 一致基準を指定できます。
- UDF および HTTP リダイレクト設定を、同じ ACL に共存させることはできません。
- UDF 名は、SPAN TCAM に適合している必要があります。
- UDF は、SPAN TCAM によって認定されている場合のみ有効です。
- UDF 定義の設定および SPAN TCAM での UDF 名の認定では、**copy r s** コマンドを使用して、リロードする必要があります。
- UDF の照合は、ローカル SPAN と ERSPAN 送信元セッションの両方でサポートされています。
- UDF 名の長さは最大 16 文字です。
- UDF のオフセットは 0 (ゼロ) から始まります。オフセットが奇数で指定されている場合、ソフトウェアの 1 つの UDF 定義に対して、ハードウェアで 2 つの UDF が使用されます。ハードウェアで使用している UDF の数が 8 を超えると、その設定は拒否されます。
- UDF の照合では、SPAN TCAM リージョンが倍幅になる必要があります。そのため、その他の TCAM リージョンのサイズを減らして、SPAN の領域を確保する必要があります。
- SPAN UDF は、タップ アグリゲーションモードではサポートされていません。
- **erspan-src** セッションに **sup-eth** 送信元インターフェイスが設定されている場合、**acl-span** を送信元としてそのセッションに追加することはできません (その逆も同様)。
- ERSPAN 送信元および ERSPAN 宛先セッションでは、専用のループバック インターフェイスを使用する必要があります。そのようなループバック インターフェイスには、どのようなコントロールプレーンプロトコルも使用しません。
- ERSPAN マーケットパケット UDP データ ペイロードは、Cisco Nexus 3000 シリーズスイッチで 58 バイトです。

## ERSPAN のデフォルト設定

次の表に、ERSPAN パラメータのデフォルト設定を示します。

表 32: デフォルトの ERSPAN パラメータ

パラメータ (Parameters)	デフォルト
ERSPAN セッション	シャット ステートで作成されます。

## ERSPAN の設定

### ERSPAN 送信元セッションの設定

ERSPAN セッションを設定できるのはローカルデバイス上だけです。デフォルトでは、ERSPAN セッションはシャット ステートで作成されます。

送信元には、イーサネットポート、ポートチャネル、および VLAN を指定できます。単一の ERSPAN セッションには、イーサネットポートまたは VLAN を組み合わせた送信元を使用できます。



(注) ERSPAN は送信元に関係なく、スーパーバイザによって生成されるパケットをモニタしません。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  例 : switch# config t switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>monitor erspan origin ip-address ip-address global</b>  例 : switch(config)# monitor erspan origin ip-address 10.0.0.1 global	ERSPAN のグローバルな送信元 IP アドレスを設定します。
ステップ 3	<b>no monitor session {session-number   all}</b>  例 : switch(config)# no monitor session 3	指定した ERSPAN セッションの設定を消去します。新しいセッション コンフィギュレーションは、既存のセッション コンフィギュレーションに追加されます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<b>monitor session</b> { <i>session-number</i>   <b>all</b> } <b>type erspan-source</b> 例 : <pre>switch(config)# monitor session 3 type erspan-source switch(config-erspan-src)#</pre>	ERSPAN 送信元セッションを設定します。
ステップ 5	<b>description</b> <i>description</i> 例 : <pre>switch(config-erspan-src)# description erspan_src_session_3</pre>	セッションの説明を設定します。デフォルトでは、説明は定義されません。説明には最大 32 の英数字を使用できます。
ステップ 6	<b>filter access-group</b> <i>acl-name</i> 例 : <pre>switch(config-erspan-src)# filter access-group acl1</pre>	ACL リストに基づいて、送信元ポートで入力トラフィックをフィルタリングします。アクセスリストに一致するパケットのみがスパニングされます。 <i>acl-name</i> には、IP アクセスリストを指定できますが、アクセスマップは指定できません。
ステップ 7	<b>source</b> { <b>interface</b> <i>type</i> [ <b>rx</b> [ <b>allow-pfc</b> ]   <b>tx</b>   <b>both</b> ]   <b>vlan</b> { <i>number</i>   <i>range</i> } [ <b>rx</b> ]   <b>forward-drops</b> <b>rx</b> [ <b>priority-low</b> ]} 例 : <pre>switch(config-erspan-src)# source interface ethernet 2/1-3, ethernet 3/1 rx</pre> 例 : <pre>switch(config-erspan-src)# source interface port-channel 2</pre> 例 : <pre>switch(config-erspan-src)# source interface sup-eth 0 both</pre> 例 : <pre>switch(config-monitor)# source interface ethernet 101/1/1-3</pre>	送信元およびパケットをコピーするトラフィックの方向を設定します。イーサネットポート範囲、ポートチャネル、または VLAN 範囲を入力できます。  送信元は 1 つ設定することも、またはカンマで区切った一連のエントリとして、または番号の範囲として、複数設定することもできます。最大 128 のインターフェイスを指定できます。VLAN の範囲については、『Cisco Nexus 3000 Series NX-OS Layer 2 Switching Configuration Guide』を参照してください。  コピーするトラフィックの方向には、入力、出力、または両方を指定できます。デフォルトは双方向です。  <b>allow-pfc</b> オプションは、ポートで受信されるプライオリティフロー制御 (PFC) フレームのスパニングを開始します。PFC フレームは、ドロップされずに入力パイプラインで許可されず。該当ポートに ERSPAN が設定され

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>ている場合、それらの PFC フレームは適切な出力インターフェイスにスパニングされます。このオプションを指定して設定されているポートは、通常のデータトラフィックもスパニングできます。</p> <p>インターフェイスまたは VLAN を ERSPAN 送信元として設定する代わりに、入力パイプラインで可能な最大数のフォワードパケットドロップをスパニングするように ERSPAN を設定できます。そのように設定することで、ネットワークのパケットドロップを分析して、分離することができます。デフォルトでは、<b>source forward-drops rx</b> コマンドは、ネットワーク転送モジュールのすべてのポートのパケットドロップをキャプチャします。</p> <p><b>priority-low</b> オプションを指定すると、この ERSPAN アクセスコントロールエントリ (ACE) の一致ドロップ条件は、標準インターフェイスや VLAN ERSPAN ACL によって設定されているその他の ERSPAN ACE よりも優先度が低くなります。</p>
ステップ 8	(任意) ステップ 6 を繰り返して、すべての ERSPAN 送信元を設定します。	—
ステップ 9	<b>destination ip ip-address</b> 例 : <pre>switch(config-erspan-src)# destination ip 10.1.1.1</pre>	ERSPAN セッションの宛先 IP アドレスを設定します。ERSPAN 送信元セッションごとに 1 つの宛先 IP アドレスのみがサポートされます。
ステップ 10	(任意) <b>ip ttl ttl-number</b> 例 : <pre>switch(config-erspan-src)# ip ttl 25</pre>	ERSPAN トラフィックの IP 存続可能時間 (TTL) 値を設定します。範囲は 1 ~ 255 です。
ステップ 11	(任意) <b>ip dscp dscp-number</b> 例 : <pre>switch(config-erspan-src)# ip dscp 42</pre>	ERSPAN トラフィックのパケットの DiffServ コードポイント (DSCP) 値を設定します。範囲は 0 ~ 63 です。
ステップ 12	<b>no shut</b> 例 :	ERSPAN 送信元セッションをイネーブルにします。デフォルトでは、セッ

	コマンドまたはアクション	目的
	<code>switch(config-erspan-src)# no shut</code>	セッションはシャット状態で作成されます。  (注) 同時に実行できる ERSPAN 送信元セッションは2つだけです。
ステップ 13	(任意) <b>show monitor session {all   session-number   range session-range}</b>  例： <code>switch(config-erspan-src)# show monitor session 3</code>	ERSPAN セッション設定を表示します。
ステップ 14	(任意) <b>show running-config monitor</b>  例： <code>switch(config-erspan-src)# show running-config monitor</code>	ERSPAN の実行コンフィギュレーションを表示します。
ステップ 15	(任意) <b>show startup-config monitor</b>  例： <code>switch(config-erspan-src)# show startup-config monitor</code>	ERSPAN のスタートアップコンフィギュレーションを表示します。
ステップ 16	(任意) <b>copy running-config startup-config</b>  例： <code>switch(config-erspan-src)# copy running-config startup-config</code>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

## ERSPAN 送信元セッションの SPAN 転送ドロップトラフィックの設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  例： <code>switch# config t</code> <code>switch(config)#</code>	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<b>monitor session {session-number   all} type erspan-source</b>  例：	ERSPAN 送信元セッションを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>switch(config)# monitor session 1 type erspan-source switch(config-erspan-src)#</pre>	
ステップ 3	<b>vrf <i>vrf-name</i></b> 例 : <pre>switch(config-erspan-src)# vrf default</pre>	ERSPAN 送信元セッションがトラフィックの転送に使用する VRF を設定します。
ステップ 4	<b>destination ip <i>ip-address</i></b> 例 : <pre>switch(config-erspan-src)# destination ip 10.1.1.1</pre>	ERSPAN セッションの宛先 IP アドレスを設定します。ERSPAN 送信元セッションごとに 1 つの宛先 IP アドレスのみがサポートされます。
ステップ 5	<b>source forward-drops rx [<i>priority-low</i>]</b> 例 : <pre>switch(config-erspan-src)# source forward-drops rx [<i>priority-low</i>]</pre>	ERSPAN 送信元セッションの SPAN 転送ドロップトラフィックを設定します。低い優先度に設定されている場合、この SPAN ACE の一致ドロップ条件は、ACL SPAN または VLAN ACL SPAN インターフェイスによって設定されているその他の SPAN ACE よりも優先度が低くなります。priority-low キーワードを指定しない場合、これらのドロップ ACE は、標準インターフェイスや VLAN SPAN ACL よりも優先度が高くなります。優先度は、パケットの一致ドロップ ACE およびインターフェイス/VLAN SPAN ACL が設定されている場合のみ問題になります。
ステップ 6	<b>no shut</b> 例 : <pre>switch(config-erspan-src)# no shut</pre>	ERSPAN 送信元セッションをイネーブルにします。デフォルトでは、セッションはシャット状態で作成されます。  (注) 同時に実行できる ERSPAN 送信元セッションは 2 つだけです。
ステップ 7	(任意) <b>show monitor session {<i>all</i>   <i>session-number</i>   <i>range session-range</i>}</b> 例 : <pre>switch(config-erspan-src)# show monitor session 3</pre>	ERSPAN セッション設定を表示します。

## 例

```
switch# config t
switch(config)# monitor session 1 type erspan-source
switch(config-erspan-src)# vrf default
switch(config-erspan-src)# destination ip 40.1.1.1
switch(config-erspan-src)# source forward-drops rx
switch(config-erspan-src)# no shut
switch(config-erspan-src)# show monitor session 1

switch# config t
switch(config)# monitor session 1 type erspan-source
switch(config-erspan-src)# vrf default
switch(config-erspan-src)# destination ip 40.1.1.1
switch(config-erspan-src)# source forward-drops rx priority-low
switch(config-erspan-src)# no shut
switch(config-erspan-src)# show monitor session 1
```

## ERSpan ACL の設定

デバイスに IPv4 ERSpan ACL を作成して、ルールを追加できます。

## 始める前に

DSCP 値または GRE プロトコルを変更するには、新しい宛先モニタセッションを割り当てる必要があります。最大 4 つの宛先モニタセッションがサポートされます。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<b>ip access-list <i>acl-name</i></b> 例： switch(config)# ip access-list erspan-acl switch(config-acl)#	ERSpan ACL を作成して、IP ACL コンフィギュレーションモードを開始します。 <i>acl-name</i> 引数は 64 文字以内で指定します。
ステップ 3	<b>[<i>sequence-number</i>] {permit   deny} protocol <i>source destination</i> [ set-erspan-dscp <i>dscp-value</i>] [ set-erspan-gre-proto <i>protocol-value</i>]</b> 例： switch(config-acl)# permit ip 192.168.2.0/24 any set-erspan-dscp 40 set-erspan-gre-proto 5555	ERSpan ACL 内にルールを作成します。多数のルールを作成できます。 <i>sequence-number</i> 引数には、1 ~ 4294967295 の整数を指定します。 <b>permit</b> コマンドと <b>deny</b> コマンドには、トラフィックを識別するための多くの方法が用意されています。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p><b>set-erspan-dscp</b> オプションは、ERSPAN 外部 IP ヘッダーに DSCP 値を設定します。DSCP 値の範囲は 0 ～ 63 です。ERSPAN ACL に設定された DSCP 値で モニタ セッションに設定されている値が上書きされます。ERSPAN ACL にこのオプションを含めない場合、0 または モニタ セッションで設定されている DSCP 値が設定されます。</p> <p><b>set-erspan-gre-proto</b> オプションは、ERSPAN GRE ヘッダーにプロトコル値を設定します。プロトコル値の範囲は 0 ～ 65535 です。ERSPAN ACL にこのオプションを含めない場合、ERSPAN カプセル化パケットの GRE ヘッダーのプロトコルとしてデフォルト値の 0x88be が設定されます。</p> <p><b>set-erspan-gre-proto</b> または <b>set-erspan-dscp</b> アクションが設定されている各アクセス コントロール エントリ (ACE) は、1 つの宛先モニタセッションを使用します。ERSPAN ACL ごとに、これらのアクションのいずれかが設定されている最大 3 つの ACE がサポートされます。たとえば、次のいずれかを設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>set-erspan-gre-proto</b> または <b>set-erspan-dscp</b> アクションが設定された最大 3 つの ACE がある ACL が設定されている 1 つの ERSPAN セッション</li> <li>• <b>set-erspan-gre-proto</b> または <b>set-erspan-dscp</b> アクションと 1 つの追加のローカルまたは ERSPAN セッションが設定された 2 つの ACE がある ACL が設定されている 1 つの ERSPAN セッション</li> <li>• <b>set-erspan-gre-proto</b> または <b>set-erspan-dscp</b> アクションが設定された 1 つの ACE がある ACL が設定</li> </ul>



	コマンドまたはアクション	目的
		されている最大2つのERSPANセッション
ステップ 4	(任意) <b>show ip access-lists name</b> 例: switch(config-acl)# show ip access-lists erpsan-acl	ERSPAN ACL の設定を表示します。
ステップ 5	(任意) <b>show monitor session {all   session-number   range session-range} [brief]</b> 例: switch(config-acl)# show monitor session 1	ERSPANセッション設定を表示します。
ステップ 6	(任意) <b>copy running-config startup-config</b> 例: switch(config-acl)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

## ユーザ定義フィールド (UDF) ベースの ACL サポートの設定

Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチにユーザ定義フィールド (UDF) ベースの ACL のサポートを設定できます。次の手順を参照して、UDF に基づく ERSPAN を設定します。詳細については、「ERSPAN の注意事項および制約事項」を参照してください。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	<pre>switch(config)# udf &lt;udf-name&gt; &lt;packet start&gt; &lt;offset&gt; &lt;length&gt;</pre> <p>例 :</p> <pre>(config)# udf udf1 packet-start 10 2 (config)# udf udf2 packet-start 50 2</pre>	<p>UDF を定義します。</p> <p>(注) 複数の UDF を定義できますが、必要な UDF のみ設定することを推奨します。UDF は、TCAM カービング時 (ブートアップ時) にリージョンの修飾子セットに追加されるため、この設定は、UDF を TCAM リージョンにアタッチして、ボックスを再起動した後でのみ有効になります。</p>
ステップ 3	<pre>switch(config)# udf &lt;udf-name&gt; header &lt;Layer3/Layer4&gt; &lt;offset&gt; &lt;length&gt;</pre> <p>例 :</p> <pre>(config)# udf udf3 header outer 14 0 1 (config)# udf udf3 header outer 14 10 2 (config)# udf udf3 header outer 14 50 1</pre>	UDF を定義します。
ステップ 4	<pre>switch(config)# hardware profile tcam region span qualify udf &lt;name1&gt;..... &lt;name8&gt;</pre> <p>例 :</p> <pre>(config)# hardware profile tcam region span qualify udf udf1 udf2 udf3 udf4 udf5</pre> <p>[SUCCESS] Changes to UDF qualifier set will be applicable only after reboot. You need to 'copy run start' and 'reload'</p> <pre>config)#</pre>	<p>SPAN TCAM に UDF 認定を設定します。TCAM カービング時 (ブートアップ時) に UDF を TCAM リージョンの修飾子セットに追加します。この設定では、SPAN リージョンにアタッチできる最大 4 つの UDF を許可できます。UDF はすべて、リージョンの単一コマンドでリストされます。リージョンの新しい設定により、既存の設定が置き換わりますが、設定を有効にするには再起動する必要があります。</p> <p>UDF 修飾子が SPAN TCAM に追加されると、TCAM リージョンはシングル幅から倍幅に拡大します。拡大に使用できる十分な空き領域 (128 以上のシングル幅エントリ) があることを確認します。十分な領域がない場合、コマンドは拒否されます。未使用リージョンの TCAM 領域を削減して領域を確保したら、コマンドを再入力します。 <b>no hardware profile tcam region span qualify udf &lt;name1&gt; ..&lt;name8&gt;</b> コマンドを使用して</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		UDF が SPAN/TCAM リージョンからデタッチされると、SPAN/TCAM リージョンはシングル幅エントリであると見なされます。
ステップ 5	<pre>switch(config)# permit ..... &lt;regular ACE match criteria&gt; udf &lt;name1&gt; &lt;val &gt; &lt;mask&gt; .....&lt;name8&gt; &lt;val &gt; &lt;mask&gt;</pre> <p>例 :</p> <pre>(config)# ip access-list test 10 permit ip any any udf udf1 0x1234 0xffff udf3 0x56 0xff 30 permit ip any any dscp af11 udf udf5 0x22 0x22 config)#</pre>	UDF と一致する ACL を設定します。
ステップ 6	<pre>switch(config)# show monitor session &lt;session-number&gt;</pre> <p>例 :</p> <pre>(config)# show monitor session 1 session 1 ----- type                : erspan-source state               : up vrf-name            : default destination-ip      : 40.1.1.1 ip-ttl              : 255 ip-dscp             : 0 acl-name            : test origin-ip           : 100.1.1.10 (global) source intf         :   rx                : Eth1/20   tx                : Eth1/20   both              : Eth1/20 source VLANs        : filter VLANs        : filter not specified           :   rx                : source fwd drops    : egress-intf         : Eth1/23 switch# config)#</pre>	<b>show monitor session &lt;session-number&gt;</b> コマンドを使用して、ACL を表示します。BCMSHELL コマンドを使用して、SPAN/TCAM リージョンがカービングされているかどうかを確認できます。

## ERSPAN での IPv6 ユーザ定義フィールド (UDF) の設定

Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチでは ERSPAN で IPv6 ユーザ定義フィールド (UDF) を設定できます。次の手順を参照して、IPv6 UDF に基づく ERSPAN を設定します。詳細については、「ERSPAN の注意事項および制約事項」を参照してください。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>udf &lt;udf-name&gt; &lt;packet start&gt; &lt;offset&gt; &lt;length&gt;</b>  例 : <pre>(config)# udf udf1 packet-start 10 2 (config)# udf udf2 packet-start 50 2</pre>	UDF を定義します。  (注) 複数の UDF を定義できますが、必要な UDF のみ設定することを推奨します。UDF は、TCAM カービング時 (ブートアップ時) にリージョンの修飾子セットに追加されるため、この設定は、UDF を TCAM リージョンにアタッチして、ボックスを再起動した後でのみ有効になります。
ステップ 3	switch(config)# <b>udf &lt;udf-name&gt; header &lt;Layer3/Layer4&gt; &lt;offset&gt; &lt;length&gt;</b>  例 : <pre>(config)# udf udf3 header outer 14 0 1 (config)# udf udf3 header outer 14 10 2 (config)# udf udf3 header outer 14 50 1</pre>	UDF を定義します。
ステップ 4	switch(config)# <b>hardware profile tcam region ipv6-span-l2 512</b>  例 : <pre>(config)# hardware profile tcam region ipv6-span-l2 512 Warning: Please save config and reload the system for the configuration to take effect. (config)#</pre>	レイヤ 2 ポートの UDF で IPv6 を設定します。リージョンの新しい設定により既存の設定が置き換わりますが、設定を有効にするにはスイッチを再起動する必要があります。
ステップ 5	switch(config)# <b>hardware profile tcam region ipv6-span 512</b>  例 : <pre>(config)# hardware profile tcam region ipv6-span 512 Warning: Please save config and reload the system for the configuration to take effect. (config)#</pre>	レイヤ 3 ポートの UDF で IPv6 を設定します。リージョンの新しい設定により既存の設定が置き換わりますが、設定を有効にするにはスイッチを再起動する必要があります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	<pre>switch(config)# hardware profile tcam region span spanv6 qualify udf &lt;name1&gt;..... &lt;name8&gt;</pre> <p>例 :</p> <pre>(config)# hardware profile tcam region spanv6 qualify udf udf1 [SUCCESS] Changes to UDF qualifier set will be applicable only after reboot. You need to 'copy run start' and 'reload' config)#</pre>	<p>レイヤ 3 ポートの SPAN に UDF 認定を設定します。これにより、ipv6-span TCAM リージョンの UDF 照合が有効になります。TCAM カービング時 (ブートアップ時) に UDF を TCAM リージョンの修飾子セットに追加します。この設定では、SPAN リージョンにアタッチできる最大 2 つの IPv6 UDF を許可できます。UDF はすべて、リージョンの単一コマンドでリストされます。リージョンの新しい設定により、既存の設定が置き換わりますが、設定を有効にするには再起動する必要があります。</p>
ステップ 7	<pre>switch(config)# hardware profile tcam region span spanv6-12 qualify udf &lt;name1&gt;..... &lt;name8&gt;</pre> <p>例 :</p> <pre>(config)# hardware profile tcam region spanv6-12 qualify udf udf1 [SUCCESS] Changes to UDF qualifier set will be applicable only after reboot. You need to 'copy run start' and 'reload' config)#</pre>	<p>レイヤ 2 ポートの SPAN に UDF 認定を設定します。これにより、ipv6-span-12 TCAM リージョンの UDF 照合が有効になります。TCAM カービング時 (ブートアップ時) に UDF を TCAM リージョンの修飾子セットに追加します。この設定では、SPAN リージョンにアタッチできる最大 2 つの IPv6 UDF を許可できます。UDF はすべて、リージョンの単一コマンドでリストされます。リージョンの新しい設定により、既存の設定が置き換わりますが、設定を有効にするには再起動する必要があります。</p>
ステップ 8	<pre>switch (config-erspan-src)# filter ..... ipv6 access-group....&lt;aclname&gt;....&lt;allow-sharing&gt;</pre> <p>例 :</p> <pre>(config-erspan-src)# ipv6 filter access-group test (config)#</pre>	<p>SPAN および ERSpan モードで IPv6 ACL を設定します。1 つのモニタセッションには「filter ip access-group」または「filter ipv6 access-group」のいずれか 1 つだけを設定できます。同じ送信元インターフェイスが IPv4 と IPv6 ERSpan ACL モニタセッションの一部である場合は、モニタセッションの設定で「allow-sharing」に「filter [ipv6] access-group」を設定する必要があります。</p>
ステップ 9	<pre>switch(config)# permit ..... &lt;regular ACE match criteria&gt; udf &lt;name1&gt; &lt;val &gt; &lt;mask&gt; .....&lt;name8&gt; &lt;val &gt; &lt;mask&gt;</pre>	<p>UDF と一致する ACL を設定します。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
	例 : <pre>(config-erspan-src)# ipv6 access-list test (config-ipv6-acl)# permit ipv6 any any udf udf1 0x1 0x0</pre>	
ステップ 10	<pre>switch(config)# show monitor session &lt;session-number&gt;</pre> 例 : <pre>(config)# show monitor session 1 session 1 ----- type           : erspan-source state          : up vrf-name       : default destination-ip : 40.1.1.1 ip-ttl         : 255 ip-dscp        : 0 acl-name       : test origin-ip      : 100.1.1.10 (global) source intf    :   rx           : Eth1/20   tx           : Eth1/20   both         : Eth1/20 source VLANs   : filter VLANs   : filter not specified   rx           : source fwd drops : egress-intf    : Eth1/23 switch# config)#</pre>	<b>show monitor session &lt;session-number&gt;</b> コマンドを使用して、ACLを表示します。

## ERSPAN セッションのシャットダウンまたはアクティブ化

ERSPANセッションをシャットダウンすると、送信元から宛先へのパケットのコピーを切断できます。同時に実行できる ERSPAN セッション数は限定されているため、あるセッションをシャットダウンしてハードウェアリソースを解放することによって、別のセッションが使用できるようになります。デフォルトでは、ERSPANセッションはシャットステートで作成されます。

ERSPANセッションをイネーブルにすると、送信元から宛先へのパケットのコピーをアクティブ化できます。すでにイネーブルになっていて、動作状況がダウンの ERSPAN セッションをイネーブルにするには、そのセッションをいったんシャットダウンしてから、改めてイネーブルにする必要があります。ERSPANセッションステートをシャットダウンおよびイネーブルにするには、グローバルまたはモニタ コンフィギュレーションモードのいずれかのコマンドを使用できます。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configuration terminal</b> 例 : <pre>switch# configuration terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>monitor session {session-range   all} shut</b> 例 : <pre>switch(config)# monitor session 3 shut</pre>	<p>指定の ERSPAN セッションをシャットダウンします。セッションの範囲は 1～18 です。デフォルトでは、セッションはシャット ステートで作成されます。単方向の 4 つのセッション、または双方向の 2 つのセッションを同時にアクティブにすることができます。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Nexus 5000 および 5500 プラットフォームでは、2 つのセッションを同時に実行できます。</li> <li>• Cisco Nexus 5600 および 6000 プラットフォームでは、16 のセッションを同時に実行できます。</li> </ul>
ステップ 3	<b>no monitor session {session-range   all} shut</b> 例 : <pre>switch(config)# no monitor session 3 shut</pre>	<p>指定の ERSPAN セッションを再開 (イネーブルに) します。セッションの範囲は 1～18 です。デフォルトでは、セッションはシャット ステートで作成されます。単方向の 4 つのセッション、または双方向の 2 つのセッションを同時にアクティブにすることができます。</p> <p>(注) モニタセッションがイネーブルで動作状況がダウンの場合、セッションをイネーブルにするには、最初に <b>monitor session shut</b> コマンドを指定してから、<b>no monitor session shut</b> コマンドを続ける必要があります。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<b>monitor session <i>session-number</i> type erspan-source</b> 例 : <pre>switch(config)# monitor session 3 type erspan-source switch(config-erspan-src)#</pre>	ERSpan 送信元タイプのモニタ コンフィギュレーションモードを開始します。新しいセッション コンフィギュレーションは、既存のセッション コンフィギュレーションに追加されます。
ステップ 5	<b>monitor session <i>session-number</i> type erspan-destination</b> 例 : <pre>switch(config-erspan-src)# monitor session 3 type erspan-destination</pre>	ERSpan 宛先タイプのモニタ コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 6	<b>shut</b> 例 : <pre>switch(config-erspan-src)# shut</pre>	ERSpan セッションをシャットダウンします。デフォルトでは、セッションはシャットステートで作成されます。
ステップ 7	<b>no shut</b> 例 : <pre>switch(config-erspan-src)# no shut</pre>	ERSpan セッションをイネーブルにします。デフォルトでは、セッションはシャットステートで作成されます。
ステップ 8	(任意) <b>show monitor session all</b> 例 : <pre>switch(config-erspan-src)# show monitor session all</pre>	ERSpan セッションのステータスを表示します。
ステップ 9	(任意) <b>show running-config monitor</b> 例 : <pre>switch(config-erspan-src)# show running-config monitor</pre>	ERSpan の実行コンフィギュレーションを表示します。
ステップ 10	(任意) <b>show startup-config monitor</b> 例 : <pre>switch(config-erspan-src)# show startup-config monitor</pre>	ERSpan のスタートアップ コンフィギュレーションを表示します。
ステップ 11	(任意) <b>copy running-config startup-config</b> 例 : <pre>switch(config-erspan-src)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。



## ERSPAN 設定の確認

ERSPAN の設定情報を確認するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<code>show monitor session {all   session-number   range session-range}</code>	ERSPAN セッション設定を表示します。
<code>show running-config monitor</code>	ERSPAN の実行コンフィギュレーションを表示します。
<code>show startup-config monitor</code>	ERSPAN のスタートアップコンフィギュレーションを表示します。

## ERSPAN の設定例

### ERSPAN 送信元セッションの設定例

次に、ERSPAN 送信元セッションを設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# interface e14/30
switch(config-if)# no shut
switch(config-if)# exit
switch(config)# monitor erspan origin ip-address 3.3.3.3 global
switch(config)# monitor session 1 type erspan-source
switch(config-erspan-src)# filter access-group acl1
switch(config-erspan-src)# source interface e14/30
switch(config-erspan-src)# ip ttl 16
switch(config-erspan-src)# ip dscp 5
switch(config-erspan-src)# vrf default
switch(config-erspan-src)# destination ip 9.1.1.2
switch(config-erspan-src)# no shut
switch(config-erspan-src)# exit
switch(config)# show monitor session 1
```

### ERSPAN ACL の設定例

次に、ERSPAN ACL を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip access-list match_11_pkts
switch(config-acl)# permit ip 11.0.0.0 0.255.255.255 any
switch(config-acl)# exit
switch(config)# ip access-list match_12_pkts
switch(config-acl)# permit ip 12.0.0.0 0.255.255.255 any
switch(config-acl)# exit
switch(config)# vlan access-map erspan_filter 5
switch(config-access-map)# match ip address match_11_pkts
switch(config-access-map)# action forward
switch(config-access-map)# exit
```

```

switch(config)# vlan access-map erspan_filter 10
switch(config-access-map)# match ip address match_12_pkts
switch(config-access-map)# action forward
switch(config-access-map)# exit
switch(config)# monitor session 1 type erspan-source
switch(config-erspan-src)# filter access_group erspan_filter

```

## UDF ベース ERSPAN の設定例

次に、以下の一致基準を使用して、カプセル化された IP-in-IP パケットの内部 TCP フラグで照合する UDF ベース ERSPAN を設定する例を示します。

- 外部送信元 IP アドレス : 10.0.0.2
- 内部 TCP フラグ : 緊急 TCP フラグを設定
- バイト : Eth Hdr (14) + 外部 IP (20) + 内部 IP (20) + 内部 TCP (20、ただし、13 番目のバイトの TCP フラグ)
- パケットの先頭からのオフセット :  $14 + 20 + 20 + 13 = 67$
- UDF の照合値 : 0x20
- UDF マスク : 0xFF

```

udf udf_tcpflags packet-start 67 1
hardware access-list tcam region racl qualify udf udf_tcpflags
copy running-config startup-config
reload
ip access-list acl-udf
 permit ip 10.0.0.2/32 any udf udf_tcpflags 0x20 0xff
monitor session 1 type erspan-source
 source interface Ethernet 1/1
 filter access-group acl-udf

```

次に、以下の一致基準を使用して、レイヤ 4 ヘッダーの先頭から 6 バイト目のパケット署名 (DEADBEEF) と通常の IP パケットを照合する UDF ベース ERSPAN を設定する例を示します。

- 外部送信元 IP アドレス : 10.0.0.2
- 内部 TCP フラグ : 緊急 TCP フラグを設定
- バイト : Eth Hdr (14) + IP (20) + TCP (20) + ペイロード : 112233445566DEADBEEF7788
- レイヤ 4 ヘッダーの先頭からのオフセット :  $20 + 6 = 26$
- UDF の照合値 : 0xDEADBEEF (2 バイトのチャンクおよび 2 つの UDF に分割)
- UDF マスク : 0xFFFFFFFF

```

udf udf_pktsig_msb header outer 13 26 2
udf udf_pktsig_lsb header outer 13 28 2
hardware access-list tcam region racl qualify udf udf_pktsig_msb udf_pktsig_lsb
copy running-config startup-config
reload
ip access-list acl-udf-pktsig

```

```
permit udf udf_pktsig_msb 0xDEAD 0xFFFF udf udf_pktsig_lsb 0xBEEF 0xFFFF
monitor session 1 type erspan-source
source interface Ethernet 1/1
filter access-group acl-udf-pktsig
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
ERSPAN コマンド：コマンド構文の詳細、コマンドモード、コマンド履歴、デフォルト、使用上の注意事項、および例	ご使用プラットフォームの『 <i>Cisco Nexus NX-OS System Management Command Reference</i> 』。





## 第 19 章

# DNS の設定

この章は、次の項で構成されています。

- [DNS クライアントに関する情報 \(271 ページ\)](#)
- [DNS クライアントの前提条件 \(272 ページ\)](#)
- [DNS クライアントのライセンス要件 \(272 ページ\)](#)
- [DNS クライアントのデフォルト設定 \(273 ページ\)](#)
- [DNS 送信元インターフェイスの設定 \(273 ページ\)](#)
- [DNS クライアントの設定 \(274 ページ\)](#)

## DNS クライアントに関する情報

自分で名前の割り当てを管理していないネットワーク内のデバイスとの接続を、ネットワークデバイスが必要とする場合は、DNS を使用して、ネットワーク間でデバイスを特定する一意のデバイス名を割り当てることができます。DNS は、階層方式を使用して、ネットワーク ノードのホスト名を確立します。これにより、クライアントサーバ方式によるネットワークのセグメントのローカル制御が可能となります。DNS システムは、デバイスのホスト名をその関連する IP アドレスに変換することで、ネットワーク デバイスを検出できます。

インターネット上のドメインは、組織のタイプや場所に基づく一般的なネットワークのグループを表す命名階層ツリーの一部です。ドメイン名は、ピリオド (.) を区切り文字として使用して構成されています。たとえば、シスコは、インターネットでは `com` ドメインで表される営利団体であるため、そのドメイン名は `cisco.com` です。このドメイン内の特定のホスト名、たとえばファイル転送プロトコル (FTP) システムは `ftp.cisco.com` で識別されます。

## ネーム サーバ

ネーム サーバはドメイン名の動向を把握し、自身が完全な情報を持っているドメイン ツリーの部分を認識しています。ネーム サーバは、ドメイン ツリーの他の部分の情報を格納している場合もあります。Cisco NX-OS 内の IP アドレスにドメイン名をマッピングするには、最初にホスト名を示し、その後にネーム サーバを指定して、DNS サービスをイネーブルにする必要があります。

Cisco NX-OS では、スタティックに IP アドレスをドメイン名にマッピングできます。また、1 つ以上のドメイン ネーム サーバを使用してホスト名の IP アドレスを見つけるよう、Cisco NX-OS を設定することもできます。

## DNS の動作

ネームサーバは、次に示すように、特定のゾーン内でローカルに定義されるホストの DNS サーバに対してクライアントが発行したクエリーを処理します。

- 権限ネーム サーバは、その権限ゾーン内のドメイン名を求める DNS ユーザ照会に、自身のホストテーブル内にキャッシュされた永久的なエントリを使用して応答します。照会で求められているのが、自身の権限ゾーン内であるが、設定情報が登録されていないドメイン名の場合、権限ネーム サーバはその情報が存在しないと応答します。
- 権限ネーム サーバとして設定されていないネーム サーバは、以前に受信した照会への返信からキャッシュした情報を使用して、DNS ユーザ照会に応答します。ゾーンの権限ネーム サーバとして設定されたルータがない場合は、ローカルに定義されたホストを求める DNS サーバへの照会には、正規の応答は送信されません。

ネーム サーバは、特定のドメインに設定された転送パラメータおよびルックアップパラメータに従って、DNS 照会に応答します（着信 DNS 照会を転送するか、内部的に生成された DNS 照会を解決します）。

## ハイ アベイラビリティ

Cisco NX-OS は、DNS クライアントのステートレス リスタートをサポートします。リブートまたはスーパーバイザスイッチオーバーの後、Cisco NX-OS は実行コンフィギュレーションを適用します。

## DNS クライアントの前提条件

DNS クライアントには次の前提条件があります。

- ネットワーク上に DNS ネーム サーバが必要です。

## DNS クライアントのライセンス要件

次の表に、この機能のライセンス要件を示します。

製品	ライセンス要件
Cisco NX-OS	DNS にはライセンスは不要です。ライセンス パッケージに含まれていない機能はすべて Cisco NX-OS システム イメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。NX-OS ライセンス方式の詳細については、『Cisco NX-OS Licensing Guide』を参照してください。

## DNS クライアントのデフォルト設定

次の表に、DNS クライアント パラメータのデフォルト設定を示します。

パラメータ	デフォルト
DNS クライアント	イネーブル

## DNS 送信元インターフェイスの設定

特定のインターフェイスを使用するように DNS を設定できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>ip dns source-interface type slot/port</b>	すべての DNS パケットの送信元インターフェイスを設定します。次のリストに、 <i>interface</i> として有効な値を示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ethernet</li> <li>• loopback</li> <li>• mgmt</li> <li>• port-channel</li> <li>• vlan</li> </ul> <p>(注) DNS の送信元インターフェイスを設定する場合、サーバから開始される SCP コピー操作は失敗します。サーバからの SCP コピー操作を実行するには、DNS 送信元インターフェイスの設定を削除します。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	switch(config)# <b>show ip dns source-interface</b>	設定済みの DNS 送信元インターフェイスを表示します。

### 例

次に、DNS 送信元インターフェイスを設定する例を示します。

```
switch(config)# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# ip dns source-interface ethernet 1/8
switch(config)# show ip dns source-interface
VRF Name                               Interface
default                                 Ethernet1/8
```

## DNS クライアントの設定

ネットワーク上の DNS サーバを使用するよう、DNS クライアントを設定できます。

### 始める前に

- ネットワーク上にドメイン ネーム サーバがあることを確認します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configuration terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>vrf context management</b>	設定可能な仮想およびルーティング (VRF) 名を指定します。
ステップ 3	switch(config)# <b>{ip   ipv6} host name ipv/ipv6 address1 [ip/ipv6 address2... ip/ipv6 address6]</b>	ホスト名キャッシュに、6 つまでのスタティック ホスト名/アドレス マッピングを定義します。
ステップ 4	(任意) switch(config)# <b>ip domain name name [ use-vrf vrf-name]</b>	Cisco NX-OS が非完全修飾ホスト名に使用するデフォルトのドメインネームサーバを定義します。このドメイン名を設定した VRF でこのドメインネームサーバを解決できない場合は、任意で、Cisco NX-OS がこのドメインネームサーバを解決するために使用する VRF を定義することもできます。



	コマンドまたはアクション	目的
		Cisco NX-OS は、ドメイン名ルックアップを開始する前に、完全なドメイン名を含まないあらゆるホスト名にデフォルトドメイン名を追加します。
ステップ 5	(任意) <code>switch(config)# ip domain-list name [ use-vrf vrf-name ]</code>	<p>Cisco NX-OS が非完全修飾ホスト名に使用できる追加のドメインネームサーバを定義します。このドメイン名を設定した VRF でこのドメインネームサーバを解決できない場合は、任意で、Cisco NX-OS がこのドメインネームサーバを解決するために使用する VRF を定義することもできます。</p> <p>Cisco NX-OS はドメインリスト内の各エントリを使用して、ドメイン名ルックアップを開始する前に、完全なドメイン名を含まないあらゆるホスト名にこのドメイン名を追加します。Cisco NX-OS は、一致するものが見つかるまで、ドメインリストの各エントリにこれを実行します。</p>
ステップ 6	(任意) <code>switch(config)# ip name-server ip/ipv6 server-address1 [ip/ipv6 server-address2... ip/ipv6 server-address6] [use-vrf vrf-name]</code>	<p>最大 6 台のネームサーバを定義します。使用可能なアドレスは、IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスです。</p> <p>このネームサーバを設定した VRF でこのネームサーバに到達できない場合は、任意で、Cisco NX-OS がこのネームサーバに到達するために使用する VRF を定義することもできます。</p>
ステップ 7	(任意) <code>switch(config)# ip domain-lookup</code>	DNS ベースのアドレス変換をイネーブルにします。この機能は、デフォルトでイネーブルにされています。
ステップ 8	(任意) <code>switch(config)# show hosts</code>	DNS に関する情報を表示します。
ステップ 9	<code>switch(config)# exit</code>	コンフィギュレーションモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
ステップ 10	(任意) <code>switch# copy running-config startup-config</code>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

### 例

次に、デフォルトドメイン名を設定し、DNS ルックアップをイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# vrf context management
switch(config)# ip domain-name mycompany.com
switch(config)# ip name-server 172.68.0.10
switch(config)# ip domain-lookup
```



## 第 20 章

# sFlow の設定

この章は、次の項で構成されています。

- [sFlow について \(277 ページ\)](#)
- [ライセンス要件 \(278 ページ\)](#)
- [前提条件 \(278 ページ\)](#)
- [sFlow の注意事項および制約事項 \(278 ページ\)](#)
- [sFlow のデフォルト設定 \(279 ページ\)](#)
- [sFlow の設定 \(279 ページ\)](#)
- [sFlow 設定の確認 \(287 ページ\)](#)
- [sFlow の設定例 \(287 ページ\)](#)
- [sFlow に関する追加情報 \(287 ページ\)](#)
- [sFlow の機能の履歴 \(288 ページ\)](#)

## sFlow について

sFlow を使用すると、スイッチやルータを含むデータネットワーク内のリアルタイムトラフィックをモニタできます。sFlow では、トラフィックをモニタするためにスイッチやルータ上の sFlow エージェントソフトウェアでサンプリングメカニズムを使用して、入力および出力ポート上のサンプルデータを中央のデータコレクタ (sFlow アナライザとも呼ばれる) に転送します。

sFlow の詳細については、RFC 3176 を参照してください。

## sFlow エージェント

Cisco NX-OS ソフトウェアに組み込まれている sFlow エージェントは、サンプリングされるパケットのデータソースに関連付けられたインターフェイスカウンタを定期的にサンプリングまたはポーリングします。このデータソースは、イーサネットインターフェイス、EtherChannel インターフェイス、ある範囲に属するイーサネットインターフェイスのいずれかです。sFlow エージェントは、イーサネットポートマネージャにクエリーを送信して対応する EtherChannel

メンバーシップ情報を確認するほか、イーサネット ポート マネージャからもメンバーシップの変更の通知を受信します。

Cisco NX-OS ソフトウェアで sFlow サンプリングをイネーブルにすると、サンプリング レートとハードウェア内部の乱数に基づいて、入力パケットと出力パケットが sFlow でサンプリングされたパケットとして CPU に送信されます。sFlow エージェントはサンプリングされたパケットを処理し、sFlow アナライザに sFlow データグラムを送信します。sFlow データグラムには、元のサンプリングされたパケットに加えて、入力ポート、出力ポート、および元のパケット長に関する情報が含まれます。sFlow データグラムには、複数の sFlow サンプルを含めることができます。

## ライセンス要件

この機能には、ライセンスは必要ありません。ライセンスパッケージに含まれていない機能はすべて Cisco NX-OS システムイメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。NX-OS ライセンス方式の詳細については、『*Cisco NX-OS Licensing Guide*』を参照してください。

## 前提条件

sFlow を設定するには、`feature sflow` コマンドを使用して sFlow 機能をイネーブルにする必要があります。

## sFlow の注意事項および制約事項

sFlow 設定時の注意事項および制約事項は次のとおりです。

- インターフェイスの sFlow をイネーブルにすると、入力と出力の両方に対してイネーブルになります。入力だけまたは出力だけの sFlow をイネーブルにできません。
- マルチキャスト、ブロードキャスト、または未知のユニキャストパケットの sFlow の出力のサンプリングはサポートされません。
- システムの sFlow の設定およびトラフィックに基づいてサンプリング レートを設定する必要があります。
- Cisco Nexus 3000 シリーズは、1 つの sFlow コレクタだけをサポートします。

## sFlow のデフォルト設定

表 33: デフォルトの sFlow パラメータ

パラメータ (Parameters)	デフォルト
sFlow sampling-rate	4096
sFlow sampling-size	128
sFlow max datagram-size	1400
sFlow collector-port	6343
sFlow counter-poll-interval	20

## sFlow の設定

### sFlow 機能のイネーブル化

スイッチの sFlow を設定する前に sFlow 機能をイネーブルにする必要があります。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	[no] <b>feature sflow</b>	sFlow 機能をイネーブルにします。
ステップ 3	(任意) <b>show feature</b>	イネーブルおよびディセーブルにされた機能を表示します。
ステップ 4	(任意) switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

#### 例

次に、sFlow 機能をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# feature sflow
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## サンプルング レートの設定

始める前に

sFlow 機能がイネーブルになっていることを確認します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	[no] <b>sflow sampling-rate <i>sampling-rate</i></b>	パケットの sFlow のサンプルング レートを設定します。  <i>sampling-rate</i> には 4096 ~ 1000000000 の整数を指定できます。デフォルト値は 4096 です。
ステップ 3	(任意) <b>show sflow</b>	sFlow 情報を表示します。
ステップ 4	(任意) switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

例

次に、サンプルング レートを 50,000 に設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# sflow sampling-rate 50000
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## 最大サンプルング サイズの設定

サンプルングされたパケットからコピーする最大バイト数を設定できます。

始める前に

sFlow 機能がイネーブルになっていることを確認します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	[no] <b>sflow max-sampled-size <i>sampling-size</i></b>	sFlow の最大サンプリングサイズ パケットを設定します。  <i>sampling-size</i> の範囲は 64~256 バイトです。デフォルト値は 128 です。
ステップ 3	(任意) <b>show sflow</b>	sFlow 情報を表示します。
ステップ 4	(任意) switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

## 例

次に、sFlow エージェントの最大サンプリング サイズを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# sflow max-sampled-size 200
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## カウンタのポーリング間隔の設定

データ ソースに関連するカウンタの継続的なサンプル間の最大秒数を設定できます。サンプリング間隔 0 は、カウンタのサンプリングをディセーブルにします。

## 始める前に

sFlow 機能がイネーブルになっていることを確認します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	[no] <b>sflow counter-poll-interval <i>poll-interval</i></b>	インターフェイスの sFlow のポーリング間隔を設定します。 <i>poll-interval</i> の範囲は 0~2147483647 秒です。デフォルト値は 20 です。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	(任意) <code>show sflow</code>	sFlow 情報を表示します。
ステップ 4	(任意) <code>switch(config)# copy running-config startup-config</code>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 例

次に、インターフェイスの sFlow のポーリング間隔を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# sflow counter-poll-interval 100
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## 最大データグラム サイズの設定

1 つのサンプルデータグラムで送信できるデータの最大バイト数を設定できます。

### 始める前に

sFlow 機能がイネーブルになっていることを確認します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<code>[no] sflow max-datagram-size datagram-size</code>	sFlow の最大データグラムサイズを設定します。  <i>datagram-size</i> の範囲は 200~9000 バイトです。デフォルト値は 1400 です。
ステップ 3	(任意) <code>show sflow</code>	sFlow 情報を表示します。
ステップ 4	(任意) <code>switch(config)# copy running-config startup-config</code>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。



## 例

次に、sFlow の最大データグラム サイズを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# sflow max-datagram-size 2000
switch(config)# copy running-config startup-config
[#####] 100%
```

## sFlow アナライザのアドレスの設定

## 始める前に

sFlow 機能がイネーブルになっていることを確認します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	[no] <b>sflow collector-ip</b> <i>IP-address</i> <i>vrf-instance</i>	sFlow アナライザの IPv4 アドレスを設定します。  <i>vrf-instance</i> は、次のいずれかになります。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザ定義の VRF 名：最大 32 文字の英数字を指定できます。</li> <li>• <b>vrf management</b> : sFlow データ コレクタが管理ポートに接続されたネットワークに存在する場合は、このオプションを使用する必要があります。</li> <li>• <b>vrf default</b> : sFlow データ コレクタが前面パネルのポートに接続されたネットワークに存在する場合は、このオプションを使用する必要があります。</li> </ul>
ステップ 3	(任意) <b>show sflow</b>	sFlow 情報を表示します。
ステップ 4	(任意) switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップ

	コマンドまたはアクション	目的
		コンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 例

次に、管理ポートに接続されている sFlow データ コレクタの IPv4 アドレスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# sflow collector-ip 192.0.2.5 vrf management
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## sFlow アナライザ ポートの設定

sFlow データグラムの宛先ポートを設定できます。

### 始める前に

sFlow 機能がイネーブルになっていることを確認します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	[no] <b>sflow collector-port</b> <i>collector-port</i>	sFlow アナライザの UDP ポートを設定します。  <i>collector-port</i> の範囲は 0~65535 です。デフォルト値は 6343 です。
ステップ 3	(任意) <b>show sflow</b>	sFlow 情報を表示します。
ステップ 4	(任意) switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 例

次に、sFlow データグラムの宛先ポートを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# sflow collector-port 7000
switch(config)# copy running-config startup-config
```

```
[#####] 100%
switch(config)#
```

## sFlow エージェントアドレスの設定

### 始める前に

sFlow 機能がイネーブルになっていることを確認します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	[no] <b>sflow agent-ip ip-address</b>	sFlow エージェントの IPv4 アドレスを設定します。  デフォルトの <i>ip-address</i> は 0.0.0.0 です。つまり、すべてのサンプリングがスイッチでディセーブルであることを示します。sFlow 機能をイネーブルにするには、有効な IP アドレスを指定する必要があります。
ステップ 3	(任意) <b>show sflow</b>	sFlow 情報を表示します。
ステップ 4	(任意) switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

### 例

次に、sFlow エージェントの IPv4 アドレスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# sflow agent-ip 192.0.2.3
switch(config)# copy running-config startup-config
```

## sFlow サンプリング データ ソースの設定

sFlow のサンプリングデータ ソースには、イーサネットポート、イーサネットポートの範囲、またはポート チャネルを指定できます。

## 始める前に

- sFlow 機能がイネーブルになっていることを確認します。
- データ ソースとしてポート チャネルを使用する場合は、すでにポート チャネルを設定して、ポート チャネル番号がわかっていることを確認してください。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>[no] sflow data-source interface [ ethernet slot/port[-port]   port-channel channel-number]</b>	sFlow のサンプルング データ ソースを設定します。  イーサネットのデータ ソースの場合、 <i>slot</i> はスロット番号、 <i>port</i> は1つのポート番号または <i>port-port</i> で指定されたポートの範囲です。
ステップ 3	(任意) switch(config)# <b>show sflow</b>	sFlow 情報を表示します。
ステップ 4	(任意) switch(config)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

## 例

次に、sFlow のサンプラーのイーサネット ポート 5~12 を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# sflow data-source interface ethernet 1/5-12
switch(config)# copy running-config startup-config
[#####] 100%
switch(config)#
```

次に、sFlow のサンプラーのポート チャネル 100 を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# sflow data-source interface port-channel 100
switch(config)# copy running-config startup-config
[#####] 100%
switch(config)#
```

## sFlow 設定の確認

sFlow の設定情報を確認するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<code>show sflow</code>	sFlow のグローバル コンフィギュレーションを表示します。
<code>show sflow statistics</code>	sFlow の統計情報を表示します。
<code>clear sflow statistics</code>	sFlow 統計情報をクリアします。
<code>show running-config sflow [all]</code>	現在実行中の sFlow コンフィギュレーションを表示します。

## sFlow の設定例

次に sFlow を設定する例を示します。

```
feature sflow
sflow sampling-rate 5000
sflow max-sampled-size 200
sflow counter-poll-interval 100
sflow max-datagram-size 2000
sflow collector-ip 192.0.2.5 vrf management
sflow collector-port 7000
sflow agent-ip 192.0.2.3
sflow data-source interface ethernet 1/5
```

## sFlow に関する追加情報

表 34: sFlow の関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
sFlow CLI コマンド	『Cisco Nexus 3000 Series NX-OS System Management Command Reference』
RFC 3176	sFlow のパケット形式と SNMP MIB を定義します。 <a href="http://www.sflow.org/rfc3176.txt">http://www.sflow.org/rfc3176.txt</a>

## sFlow の機能の履歴

この表には、機能の追加や変更によるリリースの更新内容のみが記載されています。

機能名	リリース	機能情報
sFlow	5.0(3)U4(1)	この機能が導入されました。



## 第 21 章

# タップアグリゲーションおよびMPLSストリップिंगの設定

この章は、次の項で構成されています。

- [タップアグリゲーションに関する情報 \(289 ページ\)](#)
- [MPLS ストリッピングに関する情報 \(292 ページ\)](#)
- [タップアグリゲーションの設定 \(293 ページ\)](#)
- [タップアグリゲーションの設定の確認 \(297 ページ\)](#)
- [MPLS ストリッピングの設定 \(298 ページ\)](#)
- [MPLS ラベルの設定の確認 \(302 ページ\)](#)

## タップアグリゲーションに関する情報

### ネットワーク タップ

さまざまなメソッドを使用して、パケットをモニタできます。1つのメソッドでは、物理ハードウェア タップが使用されます。

ネットワーク タップは、ネットワークを通過するデータへの直接インラインアクセスが可能なので、トラフィックのモニタリングに非常に役立ちます。多くの場合、サードパーティがネットワーク内の2ポイント間のトラフィックをモニタするのに適しています。ポイントAとBの間のネットワークが物理ケーブルで構成されている場合、ネットワークタップがこのモニタリングを実現する最良の方法になります。ネットワークタップには、少なくとも3つのポート (A ポート、B ポート、およびモニタ ポート) があります。A ポートとBポートの間に挿入されるタップは、すべてのトラフィックをスムーズに通過させますが、同じデータをそのモニタ ポートにもコピーするため、サードパーティがリッスンできるようになります。

タップには次の利点があります。

- 全二重データ伝送を処理可能
- 目立たず、ネットワークによって検出されることがなく、物理または論理アドレッシングが不要

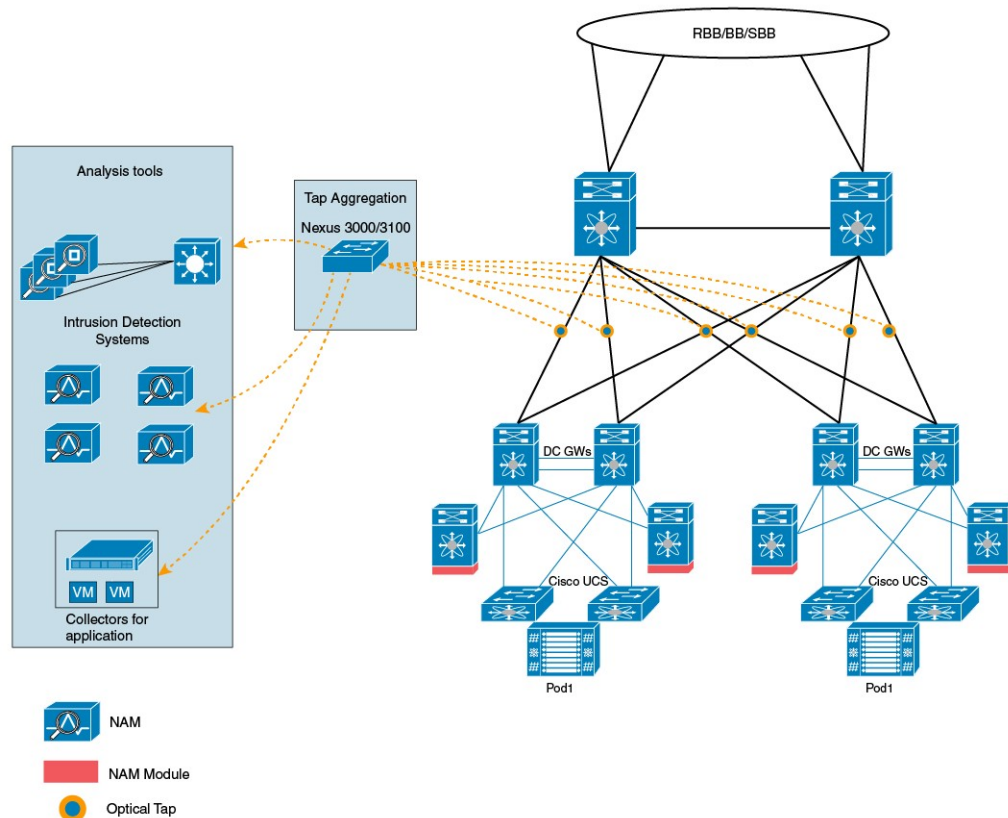
- 一部のタップは、分散タップを構築する機能のあるフルインラインパワーをサポート

ネットワークのエッジまたは仮想エッジにおけるサーバ間データ通信に対する可視性を確保しようとする場合、またはネットワークのインターネットエッジで侵入防御システム (IPS) アプライアンスにトラフィックのコピーを提供する場合でも、ネットワークタップは、環境内のほぼすべての場所で使用できます。ただし、大規模環境にネットワークタップを導入する場合、多くのコストがかかり、運用の複雑さが増し、ケーブル配線の問題が生じます。

## タップアグリゲーション

データセンターにおけるモニタリングおよびトラブルシューティングタスクに役立つ代替ソリューションは、複数タップの集約を可能にし、複数のモニタリングシステムに接続するためだけに指定されているデバイスを使用するソリューションです。このソリューションは、タップアグリゲーションと呼ばれます。タップアグリゲーションスイッチは、監視する必要があるパケットを処理するネットワークファブリック内の特定のポイントにすべてのモニタリングデバイスを直接リンクします。

図 1: タップアグリゲーションスイッチソリューション



タップアグリゲーションスイッチソリューションでは、Cisco Nexus 3000 または Cisco Nexus 3100 シリーズスイッチは、パケットのモニタリングに都合の良い、ネットワーク内のさまざまなポイントに接続されます。各ネットワーク要素から、スイッチドポートアナライザ



(SPAN) または光タップを使用して、このタップアグリゲーションスイッチにトラフィックフローを直接送信できます。タップアグリゲーションスイッチ自体は、ネットワーク ファブリック内のイベントをモニタするために使用されるすべての分析ツールに直接接続されます。これらのモニタリングデバイスには、リモートモニタリング (RMON) プロンプ、アプリケーションファイアウォール、IPS デバイス、およびパケット スニファ ツールが含まれます。

ネットワーク要素に接続されている特定のポートのセットを介して、トラフィックのスイッチへの到達を許可する設定を指定して、タップアグリゲーションスイッチを動的にプログラミングできます。特定のトラフィックをフィルタ処理して、1 つ以上のツールにリダイレクトする、複数の一致条件とアクションも設定できます。

## タップアグリゲーションの注意事項と制約事項

タップアグリゲーションに関する注意事項と制約事項は次のとおりです。

- Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチでは、MPLS タグでの TAP アグリゲーション フィルタはサポートされていません。
- タップアグリゲーション ポリシーとともに適用されるインターフェイスは、レイヤ 2 にある必要があります。レイヤ 3 インターフェイスはポリシーを指定して設定できますが、そのポリシーは機能しなくなります。
- 各ルールは、1 つの固有の一致基準とのみ関連付ける必要があります。
- すべてのタップアグリゲーションインターフェイスが、同じ ACL を共有する必要があります。一致基準には入力インターフェイスが含まれているため、複数のインターフェイス間に複数の ACL は必要ありません。
- アクション **vlan-set** と **vlan-strip** は必ず **redirect** アクションの後に指定する必要があります。そうしないと、エントリが無効であるとして拒否されます。
- 拒否ルールでは、**redirect**、**vlan-set**、および **vlan-strip** などのアクションはサポートされません。
- ポリシー用インターフェイスのリストなどの入力リストを入力する場合は、スペースではなくカンマでエントリを区切る必要があります。例：  
`port-channel50,ethernet1/12,port-channel20`。
- ポリシーにターゲット インターフェイスを指定する場合、短縮形ではなく、完全なインターフェイスタイプを入力する必要があります。例、`eth1/1` ではなく `ethernet1/1`、`po50` ではなく `port-channel 50` と入力します。

# MPLS ストリッピングに関する情報

## MPLS の概要

マルチプロトコルラベルスイッチング (MPLS) では、レイヤ2スイッチングのパフォーマンスおよびトラフィック管理機能と、レイヤ3ルーティングの拡張性、柔軟性、およびパフォーマンスが統合されています。

MPLS アーキテクチャには、次の利点があります。

- データは、レイヤ2テクノロジーの任意の組み合わせを使用して転送できます。
- サポートは、すべてのレイヤ3プロトコルに対して提供されています。
- 今日のネットワークで提供される最も優れた拡張性を備えています。

## MPLS ヘッダー ストリッピング

Cisco Nexus 3172 の入力ポートは、さまざまな MPLS パケット タイプを受信します。MPLS ネットワークの各データパケットには、1つ以上のラベルヘッダーがあります。これらのパケットはリダイレクト ACL に基づいてリダイレクトされます。

ラベルは、Forwarding Equivalence Class (FEC) を特定するために使用される短い4バイトの固定長のローカルで有効な識別子です。特定のパケットに設定されているラベルは、そのパケットが割り当てられている FEC を表します。次のコンポーネントがあります。

- Label : ラベルの値 (非構造化) 、20 ビット
- Exp : 試験的使用、3 ビット、現在、サービス クラス (CoS) フィールドとして使用
- S : スタックの一番下、1 ビット
- TTL : 存続可能時間、8 ビット

MPLS ラベルはレイヤ2ヘッダーとレイヤ3ヘッダーの間に適用されるため、そのヘッダーとデータは、標準のバイトオフセットには含まれません。標準のネットワークモニタリングツールでは、このトラフィックのモニタリングと分析はできません。標準のネットワークモニタリングツールでこのトラフィックをモニタリングできるようにするには、単一ラベルのパケットから MPLS ラベルヘッダーを削除して、T キャッシュ デバイスにリダイレクトします。

複数のラベルヘッダーがある MPLS パケットは、MPLS ヘッダーが削除されずに、ディープパケットインスペクション (DPI) デバイスに送信されます。

## MPLS ストリッピングに関する注意事項と制限事項

MPLS ストリッピングに関する注意事項と制約事項は次のとおりです。

- MPLS ストリッピングを有効にする前に、すべてのレイヤ 3 および vPC 機能を無効にします。
- グローバル タップアグリゲーションモードが有効であることを確認します。
- MPLS ストリッピングに関係する入力および出力インターフェイスで、**mode tap-aggregation** が有効になっている必要があります。
- 目的の宛先にパケットを転送するためには、入力インターフェイスのリダイレクトアクションを使用してタップアグリゲーション ACL を設定する必要があります。
- システムでは 1 つのタップ ACL のみサポートされます。
- 削除されたパケットが出力される出力インターフェイスは、許可 VLAN としての VLAN 1 が存在するインターフェイスである必要があります。出力インターフェイスは、デフォルトですべての VLAN が許可されるトランクとして設定することを推奨します。
- MPLS ストリッピングを有効にするには、MPLS のコントロールプレーン ポリシング (CoPP) クラス (**copp-s-mpls**) を設定する必要があります。
- MPLS ストリッピング パケットの場合、port-channel ロード バランシングがサポートされます。
- レイヤ 3 ヘッダー ベースのハッシュおよびレイヤ 4 ヘッダー ベースのハッシュはサポートされていますが、レイヤ 2 ヘッダー ベースのハッシュはサポートされていません。
- MPLS ストリッピング時、VLAN では MPLS ラベルも削除されます。
- MPLS ストリッピングは、Cisco Nexus 3100 シリーズ スイッチでのみサポートされています。

## タップアグリゲーションの設定

### タップアグリゲーションの有効化

タップアグリゲーションを有効にしたら、**copy running-config startup-config** コマンドを実行して、スイッチをリロードしてください。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch (config)# <b>[no] hardware profile tap-aggregation [l2drop]</b>	タップアグリゲーションを有効にし、VLAN タギングに必要なエントリをインターフェイス テーブルに予約します。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p><b>l2drop</b> オプションは、タップ インターフェイス上で IP 以外のトラフィック入力をドロップします。</p> <p>このコマンドの <b>no</b> 形式を使用すると、この機能が無効化されます。</p>
ステップ 3	switch (config)# <b>copy running-config startup-config</b>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。
ステップ 4	switch (config)# <b>reload</b>	Cisco NX-OS ソフトウェアをリロードします。

例

次に、スイッチ上でタップアグリゲーションをグローバルに設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# hardware profile tap-aggregation
switch(config)# copy running-config startup-config
switch(config)# reload
```

## タップアグリゲーションポリシーの設定

IP アクセス コントロール リスト (ACL) または MAC ACL で、TAP アグリゲーション ポリシーを設定できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>• switch(config)# <b>ip access-list</b> <i>access-list-name</i></li> <li>• switch(config)# <b>mac access-list</b> <i>access-list-name</i></li> </ul>	IP ACL を作成して IP アクセス リスト コンフィギュレーション モードを開始するか、あるいは MAC ACL を作成して MAC アクセス リスト コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>(注) リリース 7.0(3)I5(1) 以降の Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチでは、IPv6 ACL のサポートが追加されます。IPv6 ACL ではリダイレクトアクションがサポートされます。リダイレクトアクションでは、現在 IPv6 PACL でサポートされているすべての <b>match</b> オプションがサポートされています。</p>
<p>ステップ 3</p>	<p>switch(config-acl)# <b>statistics per-entry</b></p>	<p>各エントリで許可または拒否されるパケット数の統計情報の記録を開始します。</p>
<p>ステップ 4</p>	<p>switch(config-acl)# <b>[no] permit protocol source destination match-criteria action</b></p>	<p>条件に一致するトラフィックを許可する、IP アクセス コントロール リスト (ACL) のルールを作成します。</p> <p>このコマンドの <b>no</b> バージョンは、ポリシーから許可ルールを削除します。</p> <p><i>match-criteria</i> は、次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ingress-intf</b> <p>(注) 入力インターフェイスはレイヤ 2 のみの一致基準 (EtherType またはポートチャンネル) になります。</p> </li> <li>• <b>vlan</b></li> <li>• <b>vlan-priority</b> <p>(注) 各ポリシーには、一意の一致条件と関連付けられた 1 つのルールのみ設定できます。</p> </li> </ul> <p><i>action</i> は、次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>redirect</b></li> <li>• <b>priority</b></li> <li>• <b>set-vlan</b></li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
		IP 以外の Ethertype で一致するタップ ACL には、0 よりも大きい優先度を指定する必要があります。
ステップ 5	<code>switch(config-acl)# [no] deny protocol source destination match-criteria action</code>	条件に一致するトラフィックを拒否する、IP アクセス コントロール リスト (ACL) のルールを作成します。  このコマンドの <b>no</b> バージョンは、ポリシーから拒否ルールを削除します。  <b>redirect</b> 、および <b>vlan-set</b> アクションはサポートしていません。

例

次に、タップアグリゲーションポリシーを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip access-list test
switch(config-acl)# statistics per-entry
switch(config-acl)# permit ip any any ingress-intf Ethernet1/4 redirect Ethernet1/8
switch(config-acl)# permit ip any any ingress-intf Ethernet1/6 redirect
Ethernet1/1,Ethernet1/2,port-channel7,port-channel8,Ethernet1/12,Ethernet1/13
switch(config-acl)# permit tcp any eq www any ingress-intf Ethernet1/10 redirect
port-channel4
switch(config-acl)# deny ip any any
```

## タップアグリゲーションポリシーのインターフェイスへのアタッチ

タップアグリゲーションポリシーをインターフェイスにアタッチするには、タップアグリゲーションモードを開始し、タップアグリゲーションが設定された ACL をインターフェイスに適用します。ポリシーをアタッチするインターフェイスがレイヤ2インターフェイスであることを確認します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config)# interface type slot/port</code>	指定したインターフェイスのインターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	<code>switch (config-if)# [no] mode tap-aggregation</code>	ACL と一致基準とアクション基準のアタッチメントを許可します。

	コマンドまたはアクション	目的
		このコマンドの <b>no</b> 形式は、タップアグリゲーションポリシーを設定した ACL のインターフェイスへのアタッチメントを禁止します。インターフェイスから ACL を削除するには、 <b>no ip port access-group</b> コマンドを使用します。
ステップ 4	<code>switch(config-if)# [no] ip port access-group access-list-name in</code>	IPv4 アクセスコントロールリスト (ACL) をポート ACL としてインターフェイスに適用します。  このコマンドの <b>no</b> 形式は、インターフェイスから ACL を削除します。

例

次に、タップアグリゲーションポリシーをインターフェイスにアタッチする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet1/2
switch (config-if)# mode tap-aggregation
switch(config-if)# ip port access-group test in
```

## タップアグリゲーションの設定の確認

コマンド	目的
<code>show ip access-list access-list-name</code>	すべての IPv4 アクセスコントロールリスト (ACL) または特定の IPv4 ACL を表示します。

例

次に、IPv4 ACL を表示する例を示します。

```
switch(config)# show ip access-list test
IPV4 ACL test
  10 permit ip any any ethertype 0x800 ingress-intf Ethernet1/4 redirect Ethernet1/8
  20 permit ip any any ingress-intf Ethernet1/6 redirect Ethernet1/1,Ethernet1/2,port-channel7,port-channel8,Ethernet1/12,Ethernet1/13
  30 permit tcp any eq www any ethertype 0x800 ingress-intf Ethernet1/10 redirect port-channel4
  40 deny ip any any
```

# MPLS ストリッピングの設定

## MPLS ストリッピングの有効化

MPLS ストリッピングをグローバルに有効にできます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>[no] mpls strip</b>	MPLS ストリッピングをグローバルに有効にします。  このコマンドの <b>no</b> 形式を使用すると、MPLS ストリッピングが無効化されます。

### 例

次に、MPLS ストリッピングを有効にする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# mpls strip
```

## MPLS ラベルの追加と削除

デバイスは、フレームがモード タップ インターフェイスで不明なラベルを受信するたびにラベルを動的に学習できます。また、次のコマンドを使用して、スタティック MPLS ラベルを追加または削除できます。

### 始める前に

- タップアグリゲーションの有効化
- タップアグリゲーション ポリシーの設定
- タップアグリゲーション ポリシーのインターフェイスへのアタッチ



手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>mpls strip label label</b>	指定したスタティック MPLS ラベルを追加します。  ラベルの値の範囲は1～1048575です。
ステップ 3	switch(config)# <b>no mpls strip label label   all</b>	指定したスタティック MPLS ラベルを削除します。  <b>all</b> オプションは、すべてのスタティック MPLS ラベルを削除します。

例

次に、スタティック MPLS ラベルを追加する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# mpls strip label 100
switch(config)# mpls strip label 200
switch(config)# mpls strip label 300
```

次に、スタティック MPLS ラベルを削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no mpls strip label 200
```

次に、すべてのスタティック MPLS ラベルを削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no mpls strip label all
```

## ラベル エントリのクリア

次のコマンドを使用して、MPLS ラベル テーブルからダイナミック ラベル エントリをクリアできます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>clear mpls strip label dynamic</b>	MPLS ラベル テーブルからダイナミック ラベル エントリをクリアします。

例

次に、ダイナミック ラベル エントリをクリアする例を示します。

```
switch# clear mpls strip label dynamic
```

## MPLS ストリッピング カウンタのクリア

すべてのソフトウェアおよびハードウェア MPLS ストリッピング カウンタをクリアできます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# clear counters mpls strip	すべての MPLS ストリッピング カウンタをクリアします。

例

次に、すべての MPLS ストリッピング カウンタをクリアする例を示します。

```
switch# clear counters mpls strip
switch# show mpls strip labels
MPLS Strip Labels:
  Total      : 15000
  Static     : 2
Legend:      * - Static Label
Interface - where label was first learned
Idle-Age   - Seconds since last use
SW-Counter- Packets received in Software
HW-Counter- Packets switched in Hardware
```

Label	Interface	Idle-Age	SW-Counter	HW-Counter
4096	Eth1/44	15	0	0
8192	Eth1/44	17	0	0
12288	Eth1/44	15	0	0
16384	Eth1/44	39	0	0
20480	Eth1/44	47	0	0
24576	Eth1/44	7	0	0
28672	Eth1/44	5	0	0
36864	Eth1/44	7	0	0
40960	Eth1/44	19	0	0
45056	Eth1/44	9	0	0
49152	Eth1/44	45	0	0
53248	Eth1/44	9	0	0

## MPLS ラベル エージングの設定

使用されていないダイナミック MPLS ラベルがエージアウトする時間を定義できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>mpls strip label-age age</b>	ダイナミック MPLS ラベルがエージアウトする時間を指定します。

例

次に、ダイナミック MPLS ラベルのラベル エージを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# mpls strip label-age 300
```

## 宛先 MAC アドレスの設定

削除された出力フレームの宛先 MAC アドレスを設定できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# <b>mpls strip dest-mac mac-address</b>	ヘッダーが削除された出力フレームの宛先 MAC アドレスを指定します。  MAC アドレスは、次の 4 つのいずれかの形式で指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• E.E.E</li> <li>• EE-EE-EE-EE-EE-EE</li> <li>• EE:EE:EE:EE:EE:EE</li> <li>• EEEE.EEEE.EEEE</li> </ul>

例

次に、出力フレームの宛先 MAC アドレスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# mpls strip dest-mac 1.1.1
```

# MPLS ラベルの設定の確認

次のコマンドを使用して、MPLS ラベルの設定を表示します。

コマンド	目的
<code>show mpls strip labels [label   all   dynamic   static]</code>	<p>MPLS ラベルに関する情報を表示します。次のオプションを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>label</i> : 表示するラベル</li> <li>• <b>all</b> : すべてのラベルを表示することを指定します。これがデフォルトのオプションです。</li> <li>• <b>dynamic</b> : ダイナミック ラベルのみ表示することを指定します。</li> <li>• <b>static</b> : スタティック ラベルのみ表示することを指定します。</li> </ul>

## 例

次に、すべての MPLS ラベルを表示する例を示します。

```
switch# show mpls strip labels
MPLS Strip Labels:
  Total      : 3005
  Static     : 5
Legend:    * - Static Label
Interface - where label was first learned
Idle-Age  - Seconds since last use
SW-Counter- Packets received in Software
HW-Counter- Packets switched in Hardware
-----
Label      Interface      Idle-Age  SW-Counter  HW-Counter
-----
4096      Eth1/53/1           15         1           210
4097      Eth1/53/1           15         1           210
4098      Eth1/53/1           15         1           210
4099      Eth1/53/1            7         2           219
4100      Eth1/53/1            7         2           219
4101      Eth1/53/1            7         2           219
4102      Eth1/53/1           39         1           206
4103      Eth1/53/1           39         1           206
4104      Eth1/53/1           39         1           206
4105      Eth1/53/1            1         1           217
4106      Eth1/53/1            1         1           217
4107      Eth1/53/1            1         1           217
4108      Eth1/53/1           15         1           210
* 25000   None <User>         39         1           206
* 20000   None <User>         39         1           206
* 21000   None <User>            1         1           217
```

次に、スタティック MPLS ラベルのみ表示する例を示します。

```
switch(config)# show mpls strip labels static
```

```
MPLS Strip Labels:
```

```
  Total      : 3005
```

```
  Static     : 5
```

```
Legend:      * - Static Label
```

```
Interface - where label was first learned
```

```
Idle-Age - Seconds since last use
```

```
SW-Counter- Packets received in Software
```

```
HW-Counter- Packets switched in Hardware
```

	Label	Interface	Idle-Age	SW-Counter	HW-Counter
*	300	None <User>	403	0	0
*	100	None <User>	416	0	0
*	25000	None <User>	869	0	0
*	20000	None <User>	869	0	0
*	21000	None <User>	869	0	0





## 第 22 章

# 一時キャプチャバッファの設定

- 一時キャプチャバッファについて (305 ページ)
- 注意事項と制約事項 (307 ページ)
- 一時キャプチャバッファ範囲およびエンティティ情報の設定 (308 ページ)
- 一時キャプチャバッファ プロファイルの設定 (310 ページ)
- 一時キャプチャバッファのグローバルパラメータ (311 ページ)
- 一時キャプチャバッファ トリガー イベントの設定 (312 ページ)
- 一時キャプチャバッファ サンプリング レートの設定 (312 ページ)
- 一時キャプチャバッファ タイマーの設定 (313 ページ)
- 一時キャプチャバッファ キャプチャ数の設定 (313 ページ)
- 一時キャプチャバッファ設定の確認 (314 ページ)
- 一時キャプチャバッファ情報のクリア (316 ページ)

## 一時キャプチャバッファについて

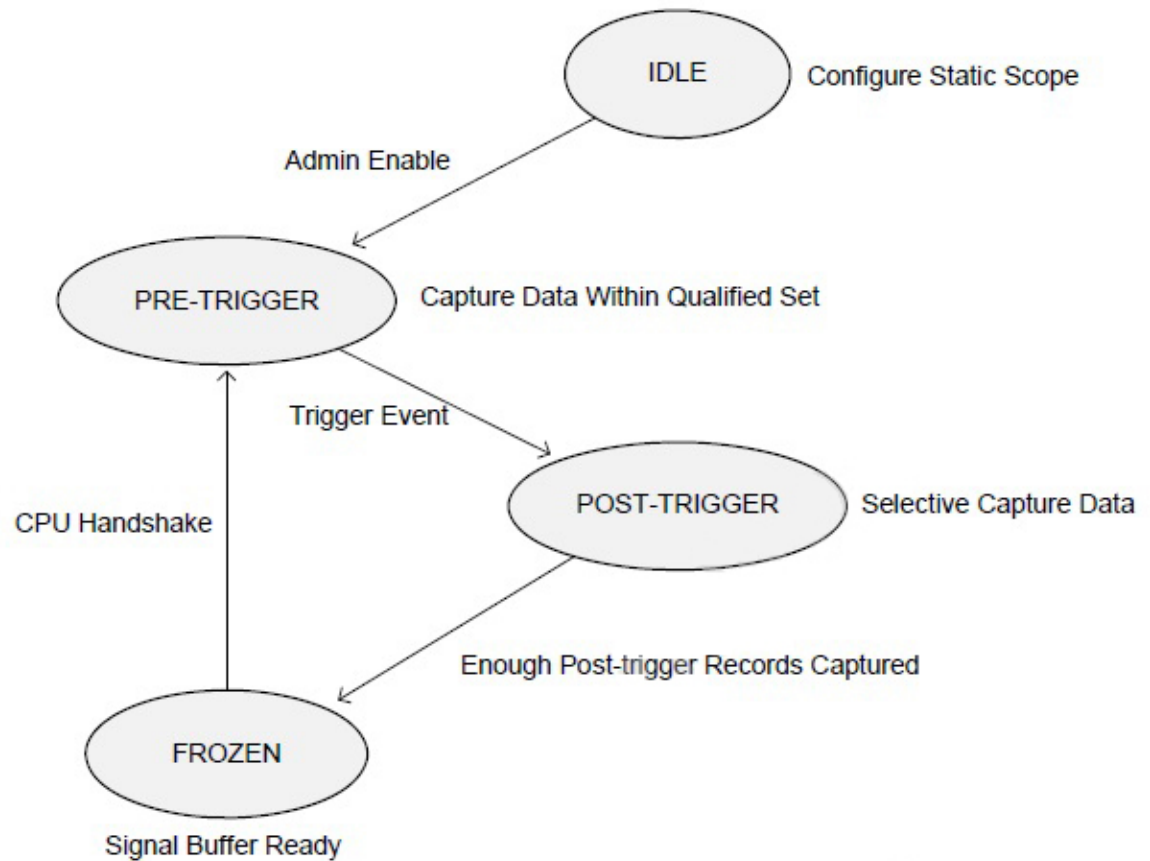
一時キャプチャバッファ (TCB) は、パケット ドロップ イベントをモニタするデバッグ機能です。TCB により、パケット ドロップの周辺にあるトランザクションがよく見えるようになります。この機能は、予期しない珍しいパケット ドロップのデバッグを目的としています。

TCB は以下で構成されています。

- **TCB バッファ (循環バッファ)** : 特定のドロップイベントの周辺にあるメモリ管理ユニット (MMU) リソースのセットでトランザクションをキャプチャするために使用します。
  - パケット メタデータ (送信元/宛先ポート、タイムスタンプ、ユニキャスト キュー番号、ユニキャスト キューの項目数、サービス プールの深さなど)
  - raw パケット データ (パケットの最初から 80 バイト)
- **イベント バッファ (FIFO バッファ)** : 次の目的で使用します。
  - ドロップ パケット メタデータの記録
  - ドロップの原因特定

次の図に、TCB のワークフローを示します。

図 2: 一時キャプチャバッファのフェーズワークフロー



トリガー後のフェーズでは、キャプチャ範囲の他のキューで発生するドロップがイベントバッファに保存されます。このバッファには、パケットのメタデータが保存されます。raw パケット情報は失われます。

TCB の設定属性を次に示します。

- キャプチャ範囲：
  - モニタ範囲タイプ：TCB がモニタする範囲タイプを決定します。サポートされている範囲は次のとおりです。
    - ユニキャストキュー (UCQ)
    - 入力ポート
    - 出力ポート
  - モニタ範囲エンティティ：モニタ範囲タイプと一貫性がある必要があります。サポートされているエンティティは次のとおりです。
    - UCQ ID



- ポート番号
  
- ドロップ イベント トリガー：トリガーを引き起こす可能性のあるメカニズムをドロップします。サポートされているトリガーは次のとおりです。
  - 入力アドミッション ドロップ
  - 出力アドミッション ドロップ
  - 重み付けランダム早期検出 (WRED) ドロップ
  
- トリガー前フェーズのサンプル確率：トリガー前フェーズのパケット サンプリング確率 (1/16 ~ すべて)
  
- トリガー後フェーズのサンプル確率：トリガー後フェーズのパケット サンプリング確率 (1/16 ~ すべて)
  
- 凍結条件：TCB ステートマシンは、以下の凍結条件のいずれかに達したときに凍結フェーズに入ります。
  - 凍結前キャプチャ数：ドロップ イベント トリガーと凍結フェーズの間でキャプチャされたパケットの数
  - 凍結前キャプチャ時間：ドロップ イベント トリガーから凍結フェーズまでの時間 (マイクロ秒)
  
- しきい値プロファイル：TCB インスタンスごとに使用できる 8 個のしきい値プロファイル。開始しきい値および停止しきい値があります。開始しきい値は、停止しきい値よりも大きい必要があります。
  
- しきい値プロファイルマップ：TCB スコープ内の各 UCQ は 1 つのしきい値プロファイルにマッピングでき、異なる UCQ を 1 つのしきい値プロファイルにマッピングすることもできます。サポートされているマップは次のとおりです。
  - 出力アドミッション ドロップ
  - 重み付けランダム ドロップ

## 注意事項と制約事項

一時キャプチャ バッファのガイドラインと制限事項は以下のとおりです。

- 一時キャプチャ バッファ機能は、Cisco Nexus 3132C-Z および Cisco Nexus 3264C-E スイッチでのみサポートされます
  
- 一度に設定できるキャプチャ範囲 (UC キュー、入力ポート、または出力ポートなど) は 1 つだけです。
  
- カットスルー パケットはキャプチャされません。

- TCB 機能はパケット ドロップが多数ある状況には適していない可能性があります。

## 一時キャプチャバッファ範囲およびエンティティ情報の設定

### 一時キャプチャバッファ範囲およびエンティティの設定方法

キャプチャ エンティティ パラメータは、周辺で TCB が機能するポートを指定します。エンティティには、範囲に応じて、ポートまたはポート内の特定の qos-group を指定できます。

次の 3 つの範囲で TCB を設定する手順を以下に示します。

- **ユニキャスト**：キュー単位でキャプチャ範囲を指定する場合に使用します。[一時キャプチャバッファユニキャスト範囲の設定 \(308 ページ\)](#) を参照してください。
- **入力**：キャプチャ範囲を入力として指定する場合に使用します。[一時キャプチャバッファ入力範囲の設定 \(309 ページ\)](#) を参照してください。
- **出力**：キャプチャ範囲を出力として指定する場合に使用します。[一時キャプチャバッファ出力範囲の設定 \(309 ページ\)](#) を参照してください。

### 一時キャプチャバッファユニキャスト範囲の設定

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch(config)# hardware profile packet-drop</code>	TCB を設定できるレベルに移動します。
ステップ 2	<code>switch(config-pkt-drop)# source unicast-queue interface <i>interface</i> qos-group <i>qos-group</i></code>  例： <code>switch(config-pkt-drop)# source unicast-queue interface ethernet 1/1 qos-group 1</code>	キュー単位でキャプチャ範囲を指定します。  • <i>interface</i> は、イーサネット IEEE 802.3z エンティティ インターフェイスです  • <i>qos-group</i> は、インターフェイスに関連付けられているキューです

## 一時キャプチャバッファ入力範囲の設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch(config)# hardware profile packet-drop</code>	TCBを設定できるレベルに移動します。
ステップ 2	<code>switch(config-pkt-drop)# source ingress interface ethernet interface</code> 例： <code>switch(config-pkt-drop)# source ingress interface ethernet 1/1</code>	キャプチャ範囲を入力として指定します。ここで、 <i>interface</i> はイーサネット IEEE 802.3z エンティティ インターフェイスです。

## 一時キャプチャバッファ出力範囲の設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch(config)# hardware profile packet-drop</code>	TCBを設定できるレベルに移動します。
ステップ 2	<code>switch(config-pkt-drop)# source egress interface ethernet interface</code> 例： <code>switch(config-pkt-drop)# source egress interface ethernet 1/1</code>	キャプチャ範囲を出力として指定します。ここで、 <i>interface</i> はイーサネット IEEE 802.3z エンティティ インターフェイスです。

## 一時キャプチャバッファ範囲の設定サンプル

各タイプの範囲について、TCB 設定のサンプルを次に示します。

### ユニキャスト範囲

```
hardware profile packet-drop
  source unicast-queue interface Ethernet1/49 qos-group 0
  timer 300
  count 200
  drop-trigger ingress-admission
  sampling-rate pre-trigger 10 post-trigger 10
  no shutdown
```

### 入力範囲

```
hardware profile packet-drop
  source ingress interface eth1/9
  timer 300
```

```

count 200
drop-trigger ingress-admission
profile acme
  start-threshold 1500
  stop-threshold 1000
  interface Ethernet1/49 qos-group 2
  interface Ethernet1/49 qos-group 0
sampling-rate pre-trigger 10 post-trigger 10
no shutdown

```

### 出力範囲

```

hardware profile packet-drop
source egress interface eth1/49
timer 300
count 200
drop-trigger egress-admission
profile acme
  start-threshold 1500
  stop-threshold 1000
  interface Ethernet1/49 qos-group 2
  interface Ethernet1/49 qos-group 0
no shutdown

```

## 一時キャプチャバッファ プロファイルの設定

最大7つのプロファイルを、モニタリング用のそれぞれの開始および停止しきい値とともに作成できます。設定するインターフェイスは、ハードウェアの対応するプロファイルにマッピングされます。入力範囲と出力範囲の場合にのみ必要です。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch(config)# <b>hardware profile packet-drop</b>	TCBを設定できるレベルに移動します。
ステップ 2	switch(config-pkt-drop)# <b>profile test</b>	TCB プロファイルを作成できるレベルに移動します。
ステップ 3	switch(config-pkt-drop-profile)# <b>start-threshold</b> <i>parameter</i>  例： switch(config-pkt-drop-profile)# <b>start-threshold 512</b>	start-threshold パラメータを設定します。ここで、 <i>parameter</i> はバイト単位のパラメータです。
ステップ 4	switch(config-pkt-drop-profile)# <b>stop-threshold</b> <i>parameter</i>  例： switch(config-pkt-drop-profile)# <b>stop-threshold 256</b>	stop-threshold パラメータを設定します。ここで、 <i>parameter</i> はバイト単位のパラメータです。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<pre>switch(config-pkt-drop-profile)# interface &lt;if_list&gt; {{qos-group &lt;ucastqos-grp&gt;}}</pre> <p>例 :</p> <pre>switch(config-pkt-drop-profile)# interface ethernet 1/1 qos-grp 1</pre>	キャプチャ範囲のパラメータを設定します。

## 一時キャプチャバッファのグローバルパラメータ

TCB 設定レベルに移動するには、次のコマンドを実行します。

```
switch(config)# hardware profile packet-drop
switch(config-pkt-drop)#
```

次のオプションは、このレベルで使用できます。

オプション	目的
<b>count</b>	キャプチャされるトランザクション数を設定します。これは省略可能なパラメータです。
<b>drop-trigger</b>	drop-trigger パラメータを設定します。
<b>no</b>	コマンドを無効にします。
<b>profile</b>	パケット ドロップ プロファイルの情報を提供します。
<b>sampling-rate</b>	sampling-rate パラメータを設定します。これは省略可能なパラメータです。
<b>show</b>	実行中のシステム情報を表示します。
<b>shutdown</b>	一時キャプチャ バッファを有効にします。
<b>source</b>	パケット ドロップ範囲を設定します。
<b>timer</b>	パケット ドロップ タイマー パラメータを設定します。これは省略可能なパラメータです。
<b>end</b>	EXEC モードに移行します。
<b>exit</b>	コマンドインタプリタを終了します。
<b>pop</b>	スタックからモードをポップするか、名前から復元します。
<b>push</b>	現在のモードをスタックにプッシュするか、名前でも保存します。
<b>where</b>	どの CLI コンテキストにいるかを表示します。

## 一時キャプチャバッファトリガーイベントの設定

ステートマシンが循環バッファで修飾セットをキャプチャできるようにするトリガーイベントを指定できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch(config)# hardware profile packet-drop</code>	TCBを設定できるレベルに移動します。
ステップ 2	<code>switch(config-pkt-drop)# drop-trigger trigger-event</code>	ステートマシンが循環バッファで修飾セットをキャプチャできるようにするトリガーイベントを設定します。ここで、 <i>trigger-event</i> は次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>egress-admission</b> : 出力アドミSSIONドロップ。</li> <li>• <b>ingress-admission</b> : 入力アドミSSIONドロップ。</li> <li>• <b>wred</b> : 重み付けランダム早期廃棄ドロップ。</li> </ul>

## 一時キャプチャバッファサンプリングレートの設定

ドロップの前後にキャプチャする必要があるパケットのサンプリングレートを追加できます。これは省略可能なパラメータです。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch(config)# hardware profile packet-drop</code>	TCBを設定できるレベルに移動します。
ステップ 2	<code>switch(config-pkt-drop)# sampling-rate pre-trigger pre-trig-params post-trigger post-trig-params</code>  例 : <code>switch(config-pkt-drop)# sampling-rate pre-trigger 11 post-trigger 12</code>	ドロップの前後にキャプチャする必要があるパケットのサンプリングレートを追加します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>pre-trig-params</b> : 16 のサンプルから、ドロップの前にキャプチャするトランザクションの数を指定します。有効なオプションは 1 ~ 16 です。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>post-trig-params</i> : 16 のサンプルから、ドロップの後にキャプチャするトランザクションの数を指定します。有効なオプションは 1 ~ 16 です。</li> </ul>

## 一時キャプチャバッファ タイマーの設定

期限が切れるとステートマシンが凍結になり、バッファの開始までのポインタがソフトウェアに通知される、TCB タイマー間隔を設定することができます。これは省略可能なパラメータです。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch(config)# hardware profile packet-drop</code>	TCB を設定できるレベルに移動します。
ステップ 2	<code>switch(config-pkt-drop)# timer timer</code>	<p>タイマー間隔を設定します。ここで、<i>timer</i> はマイクロ秒 (usec) 単位のキャプチャ タイマー間隔です。有効なオプションはスイッチによって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Nexus 3132C-Z スイッチの場合、キャプチャ タイマー間隔の有効なオプションは 1 ~ 429 です。</li> <li>• Cisco Nexus 3264C-E スイッチの場合、キャプチャ タイマー間隔の有効なオプションは 1 ~ 385 です。</li> </ul>

## 一時キャプチャバッファ キャプチャ数の設定

ドロップ後にキャプチャするトランザクションの最小数を設定できます。これに達するとステートマシンが凍結になり、バッファの開始までのポインタがソフトウェアに通知されます。これは省略可能なパラメータです。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch(config)# <b>hardware profile packet-drop</b>	TCBを設定できるレベルに移動します。
ステップ 2	switch(config-pkt-drop)# <b>count transactions</b>	ドロップ後にキャプチャするトランザクションの最小数を設定します。ここで、 <i>transactions</i> は 2 ~ 1024 です。

## 一時キャプチャバッファ設定の確認

### TCB の実行コンフィギュレーションの確認

TCB の実行コンフィギュレーションを表示するには、**show running-config ipqos** コマンドを使用します。出力は、設定した TCB 範囲とエンティティ設定によって異なります。

- 入力範囲とエンティティ設定では、次のような出力が表示されます。

```
switch# show running config ipqos
hardware profile packet-drop
  source ingress interface eth1/9
  timer 300
  count 200
  drop-trigger ingress-admission
  profile arvinth
    start-threshold 1500
    stop-threshold 1000
    interface Ethernet1/49 qos-group 2
    interface Ethernet1/49 qos-group 0
  sampling-rate pre-trigger 10 post-trigger 10
  no shutdown
```

- 出力範囲とエンティティ設定では、次のような出力が表示されます。

```
switch# show running config ipqos
hardware profile packet-drop
  source egress interface eth1/49
  timer 300
  count 200
  drop-trigger egress-admission
  profile arvinth
    start-threshold 1500
    stop-threshold 1000
    interface Ethernet1/49 qos-group 2
    interface Ethernet1/49 qos-group 0
  no shutdown
```

- ユニキャスト範囲とエンティティ設定では、次のような出力が表示されます。

```
switch# show running config ipqos
hardware profile packet-drop
  source unicast-queue interface Ethernet1/49 qos-group 0
  timer 300
  count 200
```





- **show hardware profile packet-drop event** を使用してキャプチャされたデータの例を次に示します（以下の出力例は実際の完全な出力のスニペットです）。

```
switch# show hardware profile packet-drop event
Details of Instance : 1
=====
Src_port : Ethernet1/10
Dst_port : Ethernet1/1 , Qos-group : 1 , Queue_depth : 3375216 bytes, Drop_reason :
Egress-Admission

Src_port : Ethernet1/10
Dst_port : Ethernet1/1 , Qos-group : 1 , Queue_depth : 3375216 bytes, Drop_reason :
Egress-Admission

Src_port : Ethernet1/10
Dst_port : Ethernet1/1 , Qos-group : 1 , Queue_depth : 3375216 bytes, Drop_reason :
Egress-Admission

Src_port : Ethernet1/10
Dst_port : Ethernet1/1 , Qos-group : 1 , Queue_depth : 3375216 bytes, Drop_reason :
Egress-Admission

Src_port : Ethernet1/10
Dst_port : Ethernet1/1 , Qos-group : 1 , Queue_depth : 3375216 bytes, Drop_reason :
Egress-Admission
```

- **show hardware profile packet-drop event instance instance-number** を使用してキャプチャされたデータの例を次に示します。ここで、*instance-number* は 1～5 の値です。

```
switch# show hardware profile packet-drop event instance 1
Details of Instance : 1
=====
Fri Apr 30 20-57-24 1971 , Src_port : Ethernet1/9
Dst_port : Ethernet1/49 , Qos-group : 0 , Queue_depth : 3452592 bytes, Drop_reason
: EADMIN
```

- **show hardware profile packet-drop status** を使用してキャプチャされたデータの例を次に示します。

```
switch# show hardware profile packet-drop status
TCB Enabled : FALSE
TCB State : IDLE
Capture Scope : ingress
Drop Trigger : wred
Capture Transactions : 304
Capture Timer : 385
```

## 一時キャプチャバッファ情報のクリア

パケットドロップデータ/イベント情報のすべてのインスタンスをクリアするには、このセクションの情報を使用します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch(config)# <b>clear hardware profile packet-drop file_instance</b>	





## 第 23 章

# グレースフル挿入と削除の設定

この章では、Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチでグレースフル挿入と削除（GIR）を設定する方法について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [グレースフル挿入と削除について](#) (319 ページ)
- [GIR のライセンス要件](#) (322 ページ)
- [メンテナンス モード \(GIR\) のワークフロー](#) (322 ページ)
- [プロファイル](#) (322 ページ)
- [メンテナンス モード プロファイルの設定](#) (324 ページ)
- [通常モード プロファイルの設定](#) (325 ページ)
- [スナップショットの作成](#) (326 ページ)
- [スナップショットへの show コマンドの追加](#) (328 ページ)
- [グレースフル削除のトリガー](#) (330 ページ)
- [グレースフル挿入のトリガー](#) (333 ページ)
- [メンテナンス モードの強化](#) (334 ページ)
- [GIR 設定の確認](#) (335 ページ)

## グレースフル挿入と削除について

グレースフル挿入と削除を使用してスイッチを正常に取り出し、そのスイッチをネットワークから分離して、デバッグ操作やアップグレード操作を実行することができます。スイッチは、最小限のトラフィックの中断だけで、通常の転送パスから取り外されます。デバッグ操作やアップグレード操作の実行が終了したら、グレースフル挿入を使用して、そのスイッチを完全な運用（通常）モードに戻すことができます。

グレースフル削除では、すべてのプロトコルと vPC ドメインが正常に停止し、スイッチはネットワークから分離されます。グレースフル挿入では、すべてのプロトコルと vPC ドメインが復元されます。

次のプロトコルは、IPv4 と IPv6 両方のアドレス ファミリでサポートされます。

- Border Gateway Protocol (BGP)

- Enhanced Interior Gateway Routing Protocol (EIGRP)
- Intermediate System-to-Intermediate System (ISIS)
- Open Shortest Path First (OSPF)
- Protocol Independent Multicast (PIM)
- Routing Information Protocol (RIP)



(注) グレースフル挿入と削除の場合、PIMプロトコルはvPC環境にのみ適用できます。グレースフル削除の間、vPC転送ロールがマルチキャストトラフィックのすべてのノースバウンド送信元に対するvPCピアに転送されます。

## プロファイル

デフォルトでは、すべての有効なプロトコルは、グレースフル削除中に分離され、グレースフル挿入時に復元されます。プロトコルは、定義済みの順序で分離および復元されます。

プロトコルを個別に分離、シャットダウン、または復元する（あるいは追加の設定を実施する）場合は、グレースフル削除またはグレースフル挿入時に適用できる設定コマンドを使用して、プロファイルを作成できます。ただし、プロトコルの順序が正しいことを確認し、すべての依存関係を考慮する必要があります。

スイッチは、次のプロファイルをサポートしています。

- メンテナンスモードプロファイル：スイッチがメンテナンスモードになったときに、グレースフル削除中に実行されるすべてのコマンドが含まれます。
- 通常モードプロファイル：スイッチが通常モードに戻ったときに、グレースフル挿入中に実行されるすべてのコマンドが含まれます。

プロファイルでは、次のコマンド（および任意の設定コマンド）がサポートされています。



(注) ルーティングプロトコルインスタンスまたはメンテナンスモードプロファイルで **shutdown** と **isolate** の両方が設定されている場合、**shutdown** コマンドが優先されます。

コマンド	説明
<b>isolate</b>	プロトコルをスイッチから分離し、プロトコルをメンテナンスモードにします。
<b>no isolate</b>	プロトコルを復元し、プロトコルを通常モードにします。

コマンド	説明
<b>shutdown</b>	プロトコルまたは vPC ドメインをシャットダウンします。
<b>no shutdown</b>	プロトコルまたは vPC ドメインを起動します。
<b>system interface shutdown [exclude fex-fabric]</b>	システム インターフェイスをシャットダウンします (管理 インターフェイスを除く)。
<b>no system interface shutdown [exclude fex-fabric]</b>	システム インターフェイスを起動します。
<b>sleep instance <i>instance-number seconds</i></b>	指定の秒数だけコマンドの実行を遅延させます。コマンドの複数のインスタンスを遅延できます。  <i>instance-number</i> および <i>seconds</i> 引数の範囲は、0 ~ 2177483647 です。
<b>python instance <i>instance-number uri [python-arguments]</i></b> 例 : <b>python instance 1 bootflash://script1.py</b>	Python スクリプトの呼び出しをプロファイルに設定します。コマンドの複数の呼び出しをプロファイルに追加できます。  Python 引数には最大 32 文字の英数字を入力できます。

## スナップショット

Cisco NX-OS では、スナップショットは選択した機能の実行状態をキャプチャし、永続ストレージメディアに保存するプロセスです。

スナップショットは、グレースフル削除前とグレースフル挿入後のスイッチの状態を比較する場合に役立ちます。スナップショット プロセスは、次の 3 つの部分で構成されます。

- 事前に選択したスイッチの一部機能の状態のスナップショットを作成し、永続ストレージメディアに保存する
- さまざまな時間間隔で取得したスナップショットを一覧にして、管理する
- スナップショットを比較して、機能間の相違を表示する

## GIR のライセンス要件

製品	ライセンス要件
Cisco NX-OS	グレースフル挿入と削除（GIR）にはライセンスは不要です。ライセンス パッケージに含まれていない機能は nx-os イメージにバンドルされており、無料で提供されます。Cisco NX-OS ライセンス方式の詳細については、『Cisco NX-OS Licensing Guide』を参照してください。

## メンテナンス モード（GIR）のワークフロー

グレースフル挿入と削除（GIR）のワークフローを完了する手順は、次のとおりです。

1. （任意）メンテナンス モード プロファイルを作成します（[メンテナンス モード プロファイルの設定（324 ページ）](#) を参照）。
2. （任意）通常モード プロファイルを作成します（[通常モード プロファイルの設定（325 ページ）](#) を参照）。
3. グレースフル削除をトリガーする前のスナップショットを取得します（[スナップショットの作成（326 ページ）](#) を参照）。
4. グレースフル削除をトリガーして、スイッチをメンテナンスモードにします（[グレースフル削除のトリガー（330 ページ）](#) を参照）。
5. グレースフル挿入をトリガーして、スイッチを通常モードに戻します（[グレースフル挿入のトリガー（333 ページ）](#) を参照）。
6. グレースフル挿入をトリガーした後のスナップショットを取得します（[スナップショットの作成（326 ページ）](#) を参照）。
7. show snapshots compare コマンドを使用して、グレースフル削除と挿入の前後のスイッチの運用データを比較して、すべてが想定どおりに動作していることを確認します（[GIR 設定の確認（335 ページ）](#) を参照）。

## プロファイル

デフォルトでは、すべての有効なプロトコルは、グレースフル削除中に分離され、グレースフル挿入時に復元されます。プロトコルは、定義済みの順序で分離および復元されます。

プロトコルを個別に分離、シャットダウン、または復元する（あるいは追加の設定を実施する）場合は、グレースフル削除またはグレースフル挿入時に適用できる設定コマンドを使用し



て、プロファイルを作成できます。ただし、プロトコルの順序が正しいことを確認し、すべての依存関係を考慮する必要があります。

スイッチは、次のプロファイルをサポートしています。

- **メンテナンス モードプロファイル**：スイッチがメンテナンス モードになったときに、グレースフル削除中に実行されるすべてのコマンドが含まれます。
- **通常モードプロファイル**：スイッチが通常モードに戻ったときに、グレースフル挿入中に実行されるすべてのコマンドが含まれます。

プロファイルでは、次のコマンド（および任意の設定コマンド）がサポートされています。

コマンド	説明
<b>isolate</b>	プロトコルをスイッチから分離し、プロトコルをメンテナンスモードにします。
<b>no isolate</b>	プロトコルを復元し、プロトコルを通常モードにします。
<b>shutdown</b>	プロトコルをシャットダウンします。
<b>no shutdown</b>	プロトコルを起動します。
<b>system interface shutdown [exclude fex-fabric]</b>	システム インターフェイスをシャットダウンします（管理 インターフェイスを除く）。
<b>no system interface shutdown [exclude fex-fabric]</b>	システム インターフェイスを起動します。
<b>sleep instance <i>instance-number seconds</i></b>	指定の秒数だけコマンドの実行を遅延させます。コマンドの複数のインスタンスを遅延できます。  <i>instance-number</i> および <i>seconds</i> 引数の範囲は、0 ~ 2177483647 です。
<b>python instance <i>instance-number uri [python-arguments]</i></b> 例： <b>python instance 1 bootflash://script1.py</b>	Python スクリプトの呼び出しをプロファイルに設定します。コマンドの複数の呼び出しをプロファイルに追加できます。  Python 引数には最大 32 文字の英数字を入力できます。

## メンテナンス モード プロファイルの設定

グレースフル削除またはグレースフル挿入時に適用できる設定コマンドを使用して、メンテナンス モード プロファイルを作成できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure maintenance profile maintenance-mode</b>  例 : <pre>switch# configure maintenance profile maintenance-mode Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z. switch(config-mm-profile)#</pre>	メンテナンス モード プロファイルのコンフィギュレーションセッションを開始します。  設定しているプロトコルに応じて、プロトコルを停止する適切なコマンドを入力する必要があります。サポートされるコマンドの一覧については、 <a href="#">プロファイル (322 ページ)</a> を参照してください。
ステップ 2	<b>end</b>  例 : <pre>switch(config-mm-profile)# end switch#</pre>	メンテナンス モード プロファイルを終了します。
ステップ 3	<b>show maintenance profile maintenance-mode</b>  例 : <pre>switch# show maintenance profile maintenance-mode</pre>	メンテナンス モード プロファイルの詳細を表示します。

### 例

次に、メンテナンス モード プロファイルを作成する例を示します。

```
switch# configure maintenance profile maintenance-mode
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config-mm-profile)# router bgp 100
switch(config-mm-profile-router)# shutdown
switch(config-mm-profile)# router eigrp 10
switch(config-mm-profile-router)# shutdown
switch(config-mm-profile-router)# address-family ipv6 unicast
switch(config-mm-profile-router-af)# shutdown
switch(config-mm-profile)# system interface shutdown
switch(config-mm-profile)# end
Exit maintenance profile mode.
switch# show maintenance profile maintenance-mode
[Maintenance Mode]
router bgp 100
  shutdown
router eigrp 10
```

```
shutdown
address-family ipv6 unicast
shutdown
system interface shutdown
```

## 通常モード プロファイルの設定

グレースフル削除またはグレースフル挿入時に適用できる設定コマンドを使用して、通常モードプロファイルを作成できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure maintenance profile normal-mode</b> 例： <pre>switch# configure maintenance profile normal-mode Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z. switch(config-mm-profile)#</pre>	通常モードプロファイルのコンフィギュレーションセッションを開始します。  設定しているプロトコルに応じて、プロトコルを起動する適切なコマンドを入力する必要があります。サポートされるコマンドの一覧については、 <a href="#">プロファイル (322 ページ)</a> を参照してください。
ステップ 2	<b>end</b> 例： <pre>switch(config-mm-profile)# end switch#</pre>	通常モードプロファイルを終了します。
ステップ 3	<b>show maintenance profile normal-mode</b> 例： <pre>switch# show maintenance profile normal-mode</pre>	通常モードプロファイルの詳細を表示します。

### 例

次に、メンテナンス モード プロファイルを作成する例を示します。

```
switch# configure maintenance profile normal-mode
switch(config-mm-profile)# no system interface shutdown
switch(config-mm-profile)# router eigrp 10
switch(config-mm-profile-router)# no shutdown
switch(config-mm-profile-router)# address-family ipv6 unicast
switch(config-mm-profile-router-af)# no shutdown
switch(config-mm-profile)# router bgp 100
switch(config-mm-profile-router)# no shutdown
switch(config-mm-profile-router)# end
Exit maintenance profile mode.
switch# show maintenance profile normal-mode
[Normal Mode]
```

```
no system interface shutdown
router eigrp 10
  no shutdown
  address-family ipv6 unicast
    no shutdown
router bgp 100
  no shutdown
```

## スナップショットの作成

選択した機能の実行状態のスナップショットを作成できます。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p><b>snapshot create <i>snapshot-name description</i></b></p> <p>例 :</p> <pre>switch# snapshot create snap_before_maintenance Taken before maintenance Executing 'show interface'... Done Executing 'show ip route summary vrf all'... Done Executing 'show ipv6 route summary vrf all'... Done Executing 'show bgp sessions vrf all'... Done Executing 'show ip eigrp topology summary'... Done Executing 'show ipv6 eigrp topology summary'... Done Feature 'vpc' not enabled, skipping... Executing 'show ip ospf vrf all'... Done Feature 'ospfv3' not enabled, skipping... Feature 'isis' not enabled, skipping... Feature 'rip' not enabled, skipping... Snapshot 'snap_before_maintenance' created</pre>	<p>選択した機能の実行状態または運用データをキャプチャし、データを永続ストレージメディアに保存します。</p> <p>最大 64 文字の英数字のスナップショット名と最大 254 文字の英数字の説明を入力できます。</p> <p>すべてのスナップショットまたは特定のスナップショットを削除するには、<b>snapshot delete {all   <i>snapshot-name</i>}</b> コマンドを使用します。</p>
ステップ 2	<p><b>show snapshots</b></p> <p>例 :</p> <pre>switch# show snapshots Snapshot Name          Time           Description ----- snap_before_maintenance  Wed Aug 19 13:53:28 2015  Taken before maintenance</pre>	<p>スイッチ上に存在するスナップショットを表示します。</p>
ステップ 3	<p><b>show snapshots compare <i>snapshot-name-1 snapshot-name-2</i> [summary   ipv4routes   ipv6routes]</b></p>	<p>2つのスナップショットの比較を表示します。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
	<p>例 :</p> <pre>switch# show snapshots compare snap_before_maintenance snap_after_maintenance</pre>	<p><b>summary</b> オプションは、2つのスナップショット間の全体的な変更を確認するのに十分な情報のみ表示します。</p> <p><b>ipv4routes</b> および <b>ipv6routes</b> オプションは、2つのスナップショット間の IPv4 および IPv6 ルートの変更を表示します。</p>

例

次に、2つのスナップショット間の変更の概要の例を示します。

```
switch# show snapshots compare snapshot1 snapshot2 summary
feature                               snapshot1  snapshot2  changed
basic summary
  # of interfaces                      16         12         *
  # of vlans                            10         4          *
  # of ipv4 routes                      33         3          *
  .....

interfaces
  # of eth interfaces                   3          0          *
  # of eth interfaces up                 2          0          *
  # of eth interfaces down               1          0          *
  # of eth interfaces other              0          0          *

  # of vlan interfaces                  3          1          *
  # of vlan interfaces up                3          1          *
  # of vlan interfaces down              0          0          *
  # of vlan interfaces other             0          1          *
  .....
```

次に、2つのスナップショット間の IPv4 ルートの変更の例を示します。

```
switch# show snapshots compare snapshot1 snapshot2 ipv4routes
metric                               snapshot1  snapshot2  changed
# of routes                           33         3          *
# of adjacencies                       10         4          *

Prefix                                Changed Attribute
-----                                -
23.0.0.0/8                            not in snapshot2
10.10.10.1/32                          not in snapshot2
21.1.2.3/8                             adjacency index has changed from 29 (snapshot1) to 38 (snapshot2)
.....

There were 28 attribute changes detected
```

# スナップショットへの show コマンドの追加

スナップショットでキャプチャされる追加の **show** コマンドを指定できます。それらの **show** コマンドは、ユーザ指定のスナップショット セクションで定義されます。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p><b>snapshot section add section</b>  <i>"show-command" row-id element-key1</i>  <i>[element-key2]</i></p> <p>例 :</p> <pre>switch# snapshot section add myshow "show ip interface brief" ROW_intf intf-name</pre>	<p>ユーザ指定のセクションをスナップショットに追加します。<i>section</i> は、<b>show</b> コマンドの出力に名前を付けるために使用されます。任意の単語を使用して、セクションに名前を付けることができます。</p> <p><b>show</b> コマンドは、引用符で囲む必要があります。<b>show</b> 以外のコマンドは拒否されます。</p> <p><i>row-id</i> 引数では、<b>show</b> コマンドの XML 出力の各行エントリのタグを指定します。<i>element-key1</i> および <i>element-key2</i> 引数では、行エントリ間を区別するために使用されるタグを指定します。ほとんどの場合、行エントリ間を区別するために指定する必要があるのは <i>element-key1</i> 引数だけです。</p> <p>(注) スナップショットからユーザ指定のセクションを削除するには、<b>snapshot section delete section</b> コマンドを使用します。</p>
ステップ 2	<p><b>show snapshots sections</b></p> <p>例 :</p> <pre>switch# show snapshots sections</pre>	<p>ユーザ指定のスナップショットセクションを表示します。</p>
ステップ 3	<p><b>show snapshots compare snapshot-name-1</b>  <i>snapshot-name-2</i> [<b>summary</b>   <b>ipv4routes</b>   <b>ipv6routes</b>]</p> <p>例 :</p> <pre>switch# show snapshots compare snap1 snap2</pre>	<p>2つのスナップショットの比較を表示します。</p> <p><b>summary</b> オプションは、2つのスナップショット間の全体的な変更を確認するのに十分な情報のみ表示します。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		<b>ipv4routes</b> および <b>ipv6routes</b> オプションは、2つのスナップショット間のIPv4およびIPv6ルートの変更を表示します。

例

次に、**show ip interface brief** コマンドを myshow スナップショット セクションに追加する例を示します。この例では、2つのスナップショット (snap1 および snap2) が比較され、両方のスナップショットにユーザ指定のセクションが表示されます。

```

switch# snapshot section add myshow "show ip interface brief" ROW_intf intf-name
switch# show snapshots sections
user-specified snapshot sections
-----
[myshow]
  cmd: show ip interface brief
  row: ROW_intf
  key1: intf-name
  key2: -

[sect2]
  cmd: show ip ospf vrf all
  row: ROW_ctx
  key1: instance_number
  key2: cname

switch# show snapshots compare snap1 snap2
=====
Feature                Tag                snap1                snap2
=====

[bgp]
-----

[interface]
-----

[interface:mgmt0]
  vdc_lvl_in_pkts      692310              **692317**
  vdc_lvl_in_mcast    575281              **575287**
  vdc_lvl_in_bcast     77209               **77210**
  vdc_lvl_in_bytes    63293252            **63293714**
  vdc_lvl_out_pkts     41197               **41198**
  vdc_lvl_out_ucast    33966               **33967**
  vdc_lvl_out_bytes   6419714             **6419788**
-----

[ospf]
-----

[myshow]
-----

[interface:Ethernet1/1]
  state                up                  **down**

```

```
.....
                                admin_state          up          **down**
```

## グレースフル削除のトリガー

デバッグ操作やアップグレード操作を実行するために、スイッチのグレースフル削除をトリガーして、スイッチを取り出し、ネットワークからそのスイッチを分離できます。

### 始める前に

作成するメンテナンスモードプロファイルをシステムに使用させる場合は、[メンテナンスモードプロファイルの設定 \(324 ページ\)](#) を参照してください。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>system mode maintenance</b> <b>[dont-generate-profile   timeout value   shutdown   on-reload reset-reason reason]</b> 例 : <pre>switch(config)# system mode maintenance Following configuration will be applied:  router bgp 65502   isolate router ospf p1   isolate router ospfv3 p1   isolate  Do you want to continue (y/n)? [no] <b>y</b>  Generating a snapshot before going into maintenance mode  Starting to apply commands...  Applying : router bgp 65502 Applying : isolate Applying : router ospf p1 Applying : isolate Applying : router ospfv3 p1 Applying : isolate</pre>	すべての有効なプロトコルをメンテナンスモードにします ( <b>isolate</b> コマンドを使用)。 次のオプションを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>dont-generate-profile</b> : 有効なプロトコルの動的な検索が回避され、メンテナンスモードプロファイルに設定されているコマンドが実行されます。作成したメンテナンスモードプロファイルをシステムに使用させる場合は、このオプションを使用します。</li> <li>• <b>timeout value</b> : 指定した分数の間、スイッチをメンテナンスモードのままにします。範囲は5～65535です。設定した時間が経過すると、スイッチは自動的に通常モードに戻ります。 <b>no system mode maintenance timeout</b> コマンドは、タイマーを無効にします。</li> </ul>



	コマンドまたはアクション	目的
	Maintenance mode operation successful.	<p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>shutdown</b> : すべてのプロトコルおよび管理インターフェイスを除くインターフェイスをシャットダウンします (<b>shutdown</b> コマンドを使用)。このオプションを指定すると中断が発生しますが、デフォルト (<b>isolate</b> コマンドを使用) の場合、中断は発生しません。</li> <li>• <b>on-reload reset-reason reason</b> : 指定されているシステムクラッシュが発生した場合、スイッチは自動的にメンテナンスモードで起動します。 <b>no system mode maintenance on-reload reset-reason</b> コマンドを使用すると、システムクラッシュ時にスイッチがメンテナンスモードで起動するのを回避できます。 メンテナンスモードのリセット理由は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>HW_ERROR</b> : ハードウェアエラー</li> <li>• <b>SVC_FAILURE</b> : 重大なサービス障害</li> <li>• <b>KERN_FAILURE</b> : カーネルパニック</li> <li>• <b>WDOG_TIMEOUT</b> : ウォッチドッグタイムアウト</li> <li>• <b>FATAL_ERROR</b> : 致命的なエラー</li> <li>• <b>LC_FAILURE</b> : ラインカード障害</li> <li>• <b>MATCH_ANY</b> : 上記のいずれかの理由</li> </ul> </li> </ul> <p>続行を促すプロンプトが表示されます。続行する場合は <b>y</b>、プロセスを終了する場合は <b>n</b> を入力します。</p>
ステップ 3	(任意) <b>show system mode</b>	現在のシステムモードを表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
	<p>例 :</p> <pre>switch(config)# show system mode System Mode: Maintenance</pre>	<p>スイッチはメンテナンス モードになっています。スイッチに対する目的のデバッグ操作やアップグレード操作を実行できます。</p>
ステップ 4	<p>(任意) <b>copy running-config startup-config</b></p> <p>例 :</p> <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	<p>実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。このコマンドは、再起動後にメンテナンス モードを維持する場合に必要です。</p>

**例**

次に、スイッチのすべてのプロトコルおよびインターフェイスをシャットダウンする例を示します。

```
switch(config)# system mode maintenance shutdown
```

Following configuration will be applied:

```
router bgp 65502
shutdown
router ospf p1
shutdown
router ospfv3 p1
shutdown
system interface shutdown
```

Do you want to continue (y/n)? [no] **y**

Generating a snapshot before going into maintenance mode

Starting to apply commands...

```
Applying : router bgp 65502
Applying : shutdown
Applying : router ospf p1
Applying : shutdown
Applying : router ospfv3 p1
Applying : shutdown
```

Maintenance mode operation successful.

次に、致命的なエラーが発生した場合に、スイッチを自動的にメンテナンスモードで起動する例を示します。

```
switch(config)# system mode maintenance on-reload reset-reason fatal_error
```

# グレースフル挿入のトリガー

デバッグ操作やアップグレード操作の実行が終了したら、グレースフル挿入をトリガーして、すべてのプロトコルを復元できます。

## 始める前に

作成する通常モードプロファイルをシステムに使用させる場合は、[メンテナンスモードプロファイルの設定 \(324 ページ\)](#) を参照してください。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<b>no system mode maintenance [dont-generate-profile]</b> 例 : <pre>switch(config)# no system mode maintenance dont-generate-profile Following configuration will be applied:  router bgp 65502 no isolate router ospf p1 no isolate router ospfv3 p1 no isolate  Do you want to continue (y/n)? [no] <b>y</b>  Starting to apply commands...  Applying : router bgp 65502 Applying : no isolate Applying : router ospf p1 Applying : no isolate Applying : router ospfv3 p1 Applying : no isolate  Maintenance mode operation successful.  Generating Current Snapshot</pre>	すべての有効なプロトコルを通常モードにします ( <b>no isolate</b> コマンドを使用)。  <b>dont-generate-profile</b> オプションを指定すると、有効なプロトコルの動的な検索が回避され、通常モードプロファイルに設定されているコマンドが実行されます。作成した通常モードプロファイルをシステムに使用させる場合は、このオプションを使用します。  続行を促すプロンプトが表示されます。続行する場合は <b>y</b> 、プロセスを終了する場合は <b>n</b> を入力します。
ステップ 3	(任意) <b>show system mode</b> 例 : <pre>switch(config)# show system mode System Mode: Normal</pre>	現在のシステムモードを表示します。スイッチは通常モードになっていて、完全に機能しています。

## メンテナンス モードの強化

リリース 7.0(3)I5(1) 以降、メンテナンス モードの次の機能拡張が Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチに追加されました。

- システム メンテナンス シャットダウン モードで次のメッセージが追加されます。

NOTE: The command system interface shutdown will shutdown all interfaces excluding mgmt 0.

- CLI コマンドを入力すると、**system mode maintenance** によって孤立ポートがチェックされ、アラートが送信されます。
- 隔離モードで vPC が設定されると、次のメッセージが追加されます。

NOTE: If you have vPC orphan interfaces, please ensure vpc orphan-port suspend is configured under them, before proceeding further.

- カスタム プロファイル設定：新しい CLI コマンド、**system mode maintenance always-use-custom-profile** がカスタム プロファイル設定に追加されます。新しい CLI コマンド、**system mode maintenance non-interactive** は Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチのみの `#ifdef` 下に追加されます。

(メンテナンスまたは通常モードで) カスタムプロファイルを作成すると、次のメッセージが表示されます。

Please use the command **system mode maintenance always-use-custom-profile** if you want to always use the custom profile.

- `after_maintenance` スナップショットが取得される前に遅延が追加されました。**no system mode maintenance** コマンドは、通常モードのすべての設定が適用され、モードが通常モードに変更され、`after_maintenance` スナップショットを取得するためのタイマーが開始されると終了します。タイマーの期限が切れると、`after_maintenance` スナップショットがバックグラウンドで取得され、スナップショットが完了すると新しい警告 Syslog、`MODE_SNAPSHOT_DONE` が送信されます。

CLI コマンド **no system mode maintenance** の最終出力は、`after_maintenance` スナップショットが生成されるタイミングを示します。

The `after_maintenance` snapshot will be generated in `<delay>` seconds. After that time, please use `show snapshots compare before_maintenance after_maintenance` to check the health of the system. The timer delay for the `after_maintenance` snapshot is defaulted to 120 seconds but it can be changed by a new configuration command.

`after_maintenance snapshot` のタイマー遅延を変更する新しい設定コマンドは、**system mode maintenance snapshot-delay <seconds>** です。この設定は、デフォルト設定の 120 秒を 0 ~ 65535 の任意の値に上書きします。これは ASCII 設定で表示されます。

現在のスナップショット遅延の値を表示する新しい `show` コマンド、**show maintenance snapshot-delay** も追加されています。この新しい `show` コマンドでは、XML 出力がサポートされています。

- システムがメンテナンスモードであるときに表示される CLI インジケータが追加されました（例：switch(m-mode)#）。
- CLI リロードまたはシステムリセットによってデバイスがメンテナンスモードから通常モードおよびその逆に移行するときの SNMP トラップのサポートが追加されました。**snmp-server enable traps mmode cseMaintModeChangeNotify** トラップは、メンテナンスモードのトラップ通知の変更を有効にするために追加されました。**snmp-server enable traps mmode cseNormalModeChangeNotify** は、通常モードへのトラップ通知の変更を有効にするために追加されました。デフォルトでは両方のトラップが無効になっています。

## GIR 設定の確認

GIR の設定を表示するには、次のいずれかの作業を行います。

コマンド	目的
<b>show interface brief</b>	インターフェイスの要約情報を表示します。
<b>show maintenance on-reload reset-reasons</b>	スイッチがメンテナンスモードで起動されることになる、リセット理由を表示します。メンテナンスモードのリセット理由の説明については、 <a href="#">グレースフル削除のトリガー（330 ページ）</a> を参照してください。
<b>show maintenance profile [maintenance-mode   normal-mode]</b>	メンテナンスモードまたは通常モードのプロファイルの詳細を表示します。
<b>show maintenance timeout</b>	メンテナンスモードのタイムアウト期間を表示します。この期間後、スイッチは自動的に通常モードに戻ります。
<b>show {running-config   startup-config} mmode [all]</b>	実行コンフィギュレーションまたはスタートアップコンフィギュレーションのメンテナンスモードのセクションを表示します。 <b>all</b> オプションには、デフォルト値が含まれます。
<b>show snapshots</b>	スイッチ上に存在するスナップショットを表示します。

コマンド	目的
<p><b>show snapshots compare</b> <i>snapshot-name-1</i> <i>snapshot-name-2</i> [<b>summary</b>   <b>ipv4routes</b>   <b>ipv6routes</b>]</p>	<p>2つのスナップショットの比較を表示します。</p> <p><b>summary</b> オプションは、2つのスナップショット間の全体的な変更を確認するのに十分な情報のみ表示します。</p> <p><b>ipv4routes</b> および <b>ipv6routes</b> オプションは、2つのスナップショット間の IPv4 および IPv6 ルートの変更を表示します。</p>
<p><b>show snapshots dump</b> <i>snapshot-name</i></p>	<p>スナップショットの取得時に生成された各ファイルの内容を表示します。</p>
<p><b>show snapshots sections</b></p>	<p>ユーザ指定のスナップショットセクションを表示します。</p>
<p><b>show system mode</b></p>	<p>現在のシステム モードを表示します。</p>



## 第 24 章

# ソフトウェア メンテナンス アップグレード (SMU) の実行

この章では、Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチでソフトウェア メンテナンス アップグレード (SMU) を実行する方法について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [SMU について \(337 ページ\)](#)
- [SMU の前提条件 \(338 ページ\)](#)
- [SMU の注意事項と制約事項 \(339 ページ\)](#)
- [Cisco NX-OS のソフトウェア メンテナンス アップグレードの実行 \(339 ページ\)](#)

## SMU について

ソフトウェア メンテナンス アップグレード (SMU) は、特定の障害の修正を含むパッケージ ファイルです。SMU は、直近の問題に対処するために作成され、新しい機能は含まれていません。通常、SMU がデバイスの動作に大きな影響を及ぼすことはありません。SMU のバージョンは、アップグレードするパッケージのメジャー、マイナー、およびメンテナンスバージョンに同期されます。

SMU の影響は次のタイプによって異なります。

- プロセスの再起動 SMU : アクティベーション時にプロセスまたはプロセスのグループの再起動を引き起こします。
- リロード SMU : スーパーバイザおよびラインカードの平行リロードを引き起こします。

SMU は、メンテナンス リリースの代わりになるものではありません。直近の問題に対する迅速な解決策を提供します。SMU で修正された障害は、メンテナンス リリースにすべて統合されます。

デバイスを新しい機能やメンテナンス リリースにアップグレードする詳細については、『*Cisco Nexus 3000 Series NX-OS Software Upgrade and Downgrade Guide*』を参照してください。



(注) SMU をアクティブにすると、以前の SMU、または SMU が適用されるパッケージが自動的に非アクティブ化されることはありません。



(注) Cisco NX-OS リリース 7.0(3)I2(1) 以降、SMU パッケージファイルの拡張子は .rpm です。以前のファイルの拡張子は .bin です。

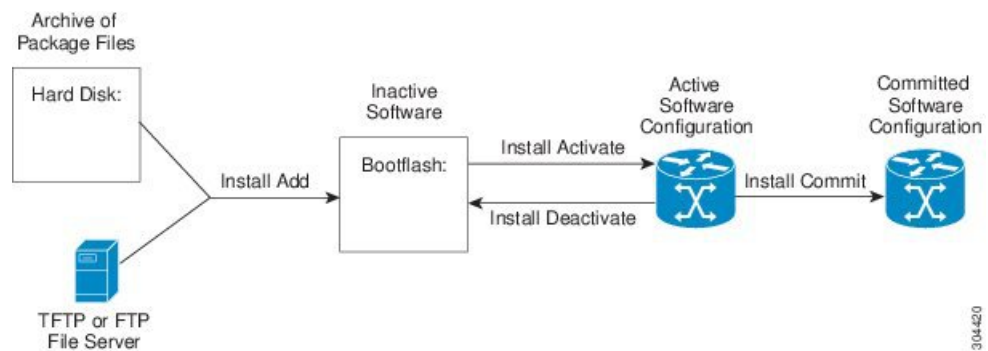
## パッケージ管理

デバイスでの SMU パッケージの追加およびアクティブ化の一般的な手順は次のとおりです。

1. パッケージファイルをローカルストレージデバイスまたはファイルサーバにコピーします。
2. **install add** コマンドを使用してデバイス上でパッケージを追加します。
3. **install activate** コマンドを使用して、デバイス上でパッケージをアクティブ化します。
4. **install commit** コマンドを使用して、現在のパッケージのセットをコミットします。
5. (任意) 必要に応じて、パッケージを非アクティブ化して削除します。

次の図は、パッケージの管理プロセスの主要な手順について説明します。

図 3: SMU パッケージを追加、アクティブ化およびコミットするプロセス



## SMU の前提条件

アクティブ化または非アクティブ化するパッケージでは、これらの前提条件が満たされている必要があります。

- 適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザグループに属している必要があります。ユーザグループの割り当てが原因でコマンドを使用できないと考えられる場合、AAA 管理者に連絡してください。



- すべてのラインカードが取り付けられ、正常に動作していることを確認します。たとえば、ラインカードのブート中、ラインカードのアップグレード中または交換中、または自動スイッチオーバーアクティビティが予想される場合は、パッケージのアクティブ化や非アクティブ化はできません。

## SMU の注意事項と制約事項

SMU に関する注意事項および制約事項は次のとおりです。

- パッケージによっては、他のパッケージのアクティブ化または非アクティブ化が必要です。SMU に相互に依存関係がある場合は、前の SMU をまずアクティブにしないとそれらをアクティブ化できません。
- アクティブ化するパッケージは、現在のアクティブなソフトウェアのセットと互換性がある必要があります。
- 1 つのコマンドで複数の SMU をアクティブにできません。
- パッケージの互換性が確認できた場合に限り、アクティブ化が実行されます。競合がある場合は、エラーメッセージが表示されます。
- ソフトウェアパッケージをアクティブ化する間、その他の要求はすべての影響のあるノードで実行できません。これと同様のメッセージが表示されると、パッケージのアクティブ化は完了します。  

```
Install operation 1 completed successfully at Thu Jan 9 01:19:24 2014
```
- 各 CLI インストール要求には要求 ID が割り当てられます。これは後でイベントを確認するのに使用できます。
- ソフトウェアメンテナンスアップグレードを実行後、デバイスを新しい Cisco Nexus 3000 ソフトウェアリリースにアップグレードする場合、新しいイメージで以前の Cisco Nexus 3000 リリースと SMU パッケージファイルの両方が上書きされます。

## Cisco NX-OS のソフトウェアメンテナンスアップグレードの実行

### パッケージインストールの準備

SMU パッケージのインストールの準備に関する情報を収集するには、複数の **show** コマンドを使用する必要があります。

#### 始める前に

ソフトウェアの変更が必要かどうかを確認します。

使用中のシステムで新しいパッケージがサポートされていることを確認する。ソフトウェアパッケージによっては、他のパッケージまたはパッケージバージョンをアクティブにする必要があり、特定のラインカードのみをサポートするパッケージもあります。

そのリリースに関連する重要な情報についてリリースノートを確認し、そのパッケージとデバイス設定の互換性の有無を判断する。

システムの動作が安定していて、ソフトウェアの変更に対応できることを確認する。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>show install active</b> 例： switch# show install active	デバイス上のアクティブなソフトウェアを表示します。デバイスに追加する必要があるソフトウェアを決定するため、またインストール操作完了後にアクティブなソフトウェアのレポートと比較するために、このコマンドを使用します。
ステップ 2	<b>show module</b> 例： switch# show module	すべてのモジュールが安定状態であることを確認します。
ステップ 3	<b>show clock</b> 例： switch# show clock	システムクロックが正しいことを確認します。ソフトウェア操作は、デバイスクロックの時刻に基づいて証明書を使用します。

### 例

次に、システム全体のアクティブなパッケージを表示する例を示します。この情報を使用して、ソフトウェアの変更が必要かどうかを判断します。

```
switch# show install active
Active Packages:
Active Packages on Module #3:

Active Packages on Module #6:

Active Packages on Module #7:
Active Packages on Module #22:

Active Packages on Module #30:
```

次に、現在のシステムクロックの設定を表示する例を示します。

```
switch# show clock
02:14:51.474 PST Wed Jan 04 2014
```

## ローカルストレージデバイスまたはネットワークサーバへのパッケージファイルのコピー

デバイスがアクセスできるローカルストレージデバイスまたはネットワークファイルサーバに SMU パッケージファイルをコピーする必要があります。この作業が完了したら、パッケージをデバイスに追加しアクティブにできます。

デバイスにパッケージファイルを保存する必要がある場合は、ハードディスクにファイルを保存することを推奨します。ブートデバイスは、パッケージを追加しアクティブするローカルディスクです。デフォルトのブートデバイスは `bootflash:` です。



**ヒント** ローカルストレージデバイスにパッケージファイルをコピーする前に、`dir` コマンドを使用して、必要なパッケージファイルがデバイスに存在するかどうかを確認します。

SMU パッケージファイルがリモート TFTP、FTP、または SFTP サーバにある場合、ローカルストレージデバイスにファイルをコピーできます。ファイルがローカルストレージデバイスに置かれた後、パッケージをそのストレージデバイスからデバイスに追加しアクティブにできます。次のサーバプロトコルがサポートされます。

- **TFTP** : ネットワークを介して、あるコンピュータから別のコンピュータへファイルを転送できるようにします。通常は、クライアント認証 (たとえば、ユーザ名およびパスワード) を使用しません。これは FTP の簡易版です。



(注) パッケージファイルによっては、大きさが 32 MB を超える場合もありますが、一部のベンダーにより提供される TFTP サービスではこの大きさのファイルがサポートされていない場合があります。32 MB を超えるファイルをサポートする TFTP サーバにアクセスできない場合は、FTP を使用してファイルをダウンロードします。

- **ファイル転送プロトコル** : FTP は TCP/IP プロトコルスタックの一部であり、ユーザ名とパスワードが必要です。
- **SSH ファイル転送プロトコル** : SFTP は、セキュリティパッケージの SSHv2 機能の一部で、セキュアなファイル転送を提供します。

SMU パッケージファイルをネットワークファイルサーバまたはローカルストレージデバイスに転送した後に、ファイルを追加しアクティブ化することができます。

## パッケージの追加とアクティブ化

ローカルストレージデバイスまたはリモート TFTP、FTP、SFTP サーバに保存されている SMU パッケージファイルをデバイスに追加できます。



- (注) アクティブ化する SMU パッケージは、現在アクティブで動作可能なソフトウェアと互換性がなければなりません。アクティブ化が試行されると、システムは自動互換性チェックを実行し、パッケージがデバイス上でアクティブなその他のソフトウェアと互換性があることを確認します。競合がある場合は、エラーメッセージが表示されます。アクティブ化が実行されるのは、すべての互換性が確認できた場合だけです。



- (注) この手順では、Cisco NX-OS CLI コマンドを使用して、RPM パッケージファイルを追加して有効化します。YUM コマンドを使用する場合は、『[Cisco Nexus 3000 Series NX-OS Programmability Guide](#)』の「Installing RPMs from Bash」の手順に従ってください。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>install add filename [activate]</b>  例 : <pre>switch# install add bootflash: nxos.CSCab00001_TOR-1.0.0-7.0.3.I2.2a.lib32_n9000.rpm</pre>	ローカルストレージデバイスまたはネットワーク サーバからパッケージソフトウェア ファイルを解凍してブートフラッシュおよびデバイスにインストールされているすべてのアクティブスーパーバイザおよびスタンバイスーパーバイザに追加します。  <i>filename</i> 引数は、次の形式をとることができます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>bootflash:</b><i>filename</i></li> <li>• <b>ftp://</b><i>hostname-or-ipaddress/directory-path/filename</i></li> <li>• <b>ftp://</b><i>username:password@hostname-or-ipaddress/directory-path/filename</i></li> <li>• <b>sttp://</b><i>hostname-or-ipaddress/directory-path/filename</i></li> </ul>
ステップ 2	(任意) <b>show install inactive</b>  例 : <pre>switch# show install inactive</pre>	デバイス上の非アクティブなパッケージを表示します。前述の手順で追加されたパッケージが表示に出ることを確認します。
ステップ 3	必須: <b>install activate filename [test]</b>  例 : <pre>switch# install activate nxos.CSCab00001_TOR-1.0.0-7.0.3.I2.2a.lib32_n9000.rpm</pre> 例 :	デバイスに追加されたパッケージをアクティブにします。SMU パッケージは、アクティブにされるまで無効のままです。(install add activate コマンドを使用して、パッケージが前にアクティブにされた場合は、この手順を省略します。)

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>switch# install activate nxos.CSCab00001_TCR-1.0.0-7.0.3.I2.2a.lib32_n9000.rpm Install operation 1 completed successfully at Wed Mar 16 00:42:12 2016</pre> <p>例 :</p> <pre>switch# install activate nxos.CSCab00001_TCR-1.0.0-7.0.3.I2.2a.lib32_n9000.rpm Install operation 2 !!WARNING!! This patch will get activated only after a reload of the switch. at Wed Mar 16 00:42:12 2016</pre>	(注) パッケージ名を部分的に入力してから <b>?</b> を押すと、アクティブ化に使用できるすべての候補が表示されます。候補が 1 つしかない場合に <b>Tab</b> キーを押すと、パッケージ名の残りの部分が自動入力されます。
ステップ 4	すべてのパッケージがアクティブ化されるまで手順 3 を繰り返します。	必要に応じて他のパッケージもアクティブ化します。
ステップ 5	(任意) <b>show install active</b>  例 : <pre>switch# show install active</pre>	すべてのアクティブなパッケージを表示します。このコマンドを使用して、正しいパッケージがアクティブであるかどうかを判断します。

## アクティブなパッケージセットのコミット

SMU パッケージがデバイス上でアクティブになると、それは現在の実行コンフィギュレーションの一部になります。パッケージのアクティブ化をシステム全体のリロード間で持続させるには、デバイス上でパッケージをコミットする必要があります。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>install commit filename</b>  例 : <pre>switch# install commit nxos.CSCab00001_TCR-1.0.0-7.0.3.I2.2a.lib32_n9000.rpm</pre>	現在のパッケージのセットをコミットして、デバイスが再起動したときにこれらのパッケージが使用されるようにします。
ステップ 2	(任意) <b>show install committed</b>  例 : <pre>switch# show install committed</pre>	コミットされたパッケージを表示します。

## パッケージの非アクティブ化と削除

パッケージを非アクティブ化すると、そのデバイスではアクティブではなくなりますが、パッケージファイルはブートディスクに残ります。パッケージファイルは、後で再アクティブ化できます。また、ディスクから削除もできます。



- (注) この手順では、Cisco NX-OS CLI コマンドを使用して、RPM パッケージファイルを非アクティブ化して削除します。YUM コマンドを使用する場合は、『[Cisco Nexus 3000 Series NX-OS Programmability Guide](#)』の「Erasing an RPM」の手順に従ってください。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p><b>install deactivate filename</b></p> <p>例 :</p> <pre>switch# install deactivate nxos.CSCab000001_TOR-1.0.0-7.0.3.I2.2a.lib32_n9000.rpm</pre>	<p>デバイスに追加されたパッケージを非アクティブ化し、ラインカードのパッケージ機能をオフにします。</p> <p>(注) パッケージ名を部分的に入力してから ? を押すと、非アクティブ化に使用できるすべての候補が表示されます。候補が 1 つしかない場合に <b>Tab</b> キーを押すと、パッケージ名の残りの部分が自動入力されます。</p>
ステップ 2	<p>(任意) <b>show install inactive</b></p> <p>例 :</p> <pre>switch# show install inactive</pre>	<p>デバイス上の非アクティブなパッケージを表示します。</p>
ステップ 3	<p>(任意) <b>install commit</b></p> <p>例 :</p> <pre>switch# install commit</pre>	<p>現在のパッケージのセットをコミットして、デバイスが再起動したときにこれらのパッケージが使用されるようにします。</p> <p>(注) パッケージを削除できるのは、非アクティブ化操作がコミットされた場合だけです。</p>
ステップ 4	<p>(任意) <b>install remove {filename   inactive}</b></p> <p>例 :</p> <pre>switch# install remove nxos.CSCab000001_TOR-1.0.0-7.0.3.I2.2a.lib32_n9000.rpm Proceed with removing nxos.CSCab000001_TOR-1.0.0-7.0.3.I2.2a.lib32_n9000.rpm? (y/n)? [n] y</pre> <p>例 :</p> <pre>switch# install remove inactive Proceed with removing? (y/n)? [n] y</pre>	<p>非アクティブなパッケージを削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>削除できるのは非アクティブなパッケージだけです。</li> <li>パッケージは、デバイスのすべてのラインカードから非アクティブにされた場合にのみ削除できます。</li> <li>パッケージの非アクティブ化はコミットする必要があります。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>ストレージデバイスから特定の非アクティブなパッケージを削除するには、<b>install remove</b> コマンドに <i>filename</i> 引数を指定して使用します。</li> <li>システムのすべてのノードから非アクティブなパッケージをすべて削除するには、<b>install remove</b> コマンドと <b>inactive</b> キーワードを使用します。</li> </ul>

## 機能 RPM のダウングレード

インストールされている機能 RPM を基本機能 RPM にダウングレードするには、この手順を実行します。



- (注) この手順では、Cisco NX-OS CLI コマンドを使用して、機能 RPM をダウングレードします。YUM コマンドを使用する場合は、『[Cisco Nexus 3000 Series NX-OS Programmability Guide](#)』の「Downgrading an RPM」の手順に従ってください。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	(任意) <b>show install packages</b> 例 : <pre>switch# show install packages ntp.lib32_n9000    1.0.1-7.0.3.I2.2e                 installed</pre>	デバイス上の機能 RPM パッケージを表示します。
ステップ 2	必須: <b>run bash</b> 例 : <pre>switch# run bash bash-4.2\$</pre>	Bash をロードします。
ステップ 3	必須: <b>ls *feature*</b> 例 : <pre>bash-4.2\$ ls *ntp* ntp-1.0.0-7.0.3.I2.2e.lib32_n9000.rpm</pre>	指定された機能の RPM を一覧表示します。
ステップ 4	必須: <b>cp filename /bootflash</b> 例 :	基本機能 RPM をブートフラッシュにコピーします。

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>bash-4.2\$ cp ntp-1.0.0-7.0.3.I2.2e.lib32_n9000.rpm /bootflash</pre>	
ステップ 5	<p>必須: <b>exit</b></p> <p>例 :</p> <pre>bash-4.2\$ exit</pre>	Bash を終了します。
ステップ 6	<p>必須: <b>install add bootflash:filename activate downgrade</b></p> <p>例 :</p> <pre>switch# install add bootflash:ntp-1.0.0-7.0.3.I2.2e.lib32_n9000.rpm activate downgrade Adding the patch (/ntp-1.0.0-7.0.3.I2.2e.lib32_n9000.rpm) [#####          ] 60% Adding the patch (/ntp-1.0.0-7.0.3.I2.2e.lib32_n9000.rpm) [#####          ] 100% Install operation 11 completed successfully at Thu Sep  8 15:35:35 2015  Activating the patch (/ntp-1.0.0-7.0.3.I2.2e.lib32_n9000.rpm) This install operation requires system reload. Do you wish to continue (y/n)? : [n] y [ 217.975959] [1473348971] writing reset reason 132, System reset due to reload patch(es) activation [ 217.991166] [1473348971]\ufffd\uuffd CISCO SWITCH Ver7.51 Device detected on 0:6:0 after 0 msec  Device detected on 0:1:1 after 0 msec  Device detected on 0:1:0 after 0 msec  MCFrequency 1333Mhz Relocated to memory</pre>	<p>機能 RPM をダウングレードします。</p> <p>(注) デバイスのリロードを要求されたら、<b>Y</b>を入力します。リロードは、NTP および SNMP 機能RPMをダウングレードする場合にのみ必要です。</p>
ステップ 7	<p>(任意) <b>show install packages   i feature</b></p> <p>例 :</p> <pre>switch# show install packages   i ntp ntp.lib32_n9000 1.0.0-7.0.3.I2.2e installed</pre>	デバイス上の基本機能 RPM を表示します。



## インストール ログ情報の表示

インストールログは、インストール動作の履歴についての情報を提供します。インストール動作が実行されるたびに、その動作に対して番号が割り当てられます。

- **show install log** コマンドを使用して、インストール動作の成功および失敗の両方について情報を表示します。
- 引数を指定しない **show install log** コマンドを使用して、すべてのインストール動作のサマリーを表示します。ある動作に固有の情報を表示するには、*request-id* 引数を指定します。ファイルの変更、リロードできなかったノード、その他プロセスに影響する操作など、特定の操作の詳細を表示するには、**detail** キーワードを使用します。

次に、すべてのインストール要求の情報を表示する例を示します。

```
switch# show install log
Wed Mar 16 01:26:09 2016
Install operation 1 by user 'admin' at Wed Mar 16 01:19:19 2016
Install add bootflash: nxos.CSCab00001_TOR-1.0.0-7.0.3.I2.2a.lib32_n9000.rpm
Install operation 1 completed successfully at Wed Mar 16 01:19:24 2016
-----
Install operation 2 by user 'admin' at Wed Mar 16 01:19:29 2016
Install activate nxos.CSCab00001_TOR-1.0.0-7.0.3.I2.2a.lib32_n9000.rpm
Install operation 2 completed successfully at Wed Mar 16 01:19:45 2016
-----
Install operation 3 by user 'admin' at Wed Mar 16 01:20:05 2016
Install commit nxos.CSCab00001_TOR-1.0.0-7.0.3.I2.2a.lib32_n9000.rpm
Install operation 3 completed successfully at Wed Mar 16 01:20:08 2016
-----
Install operation 4 by user 'admin' at Wed Mar 16 01:20:21 2016
Install deactivate nxos.CSCab00001_TOR-1.0.0-7.0.3.I2.2a.lib32_n9000.rpm
Install operation 4 completed successfully at Wed Mar 16 01:20:36 2016
-----
Install operation 5 by user 'admin' at Wed Mar 16 01:20:43 2016
Install commit nxos.CSCab00001_TOR-1.0.0-7.0.3.I2.2a.lib32_n9000.rpm
Install operation 5 completed successfully at Wed Mar 16 01:20:46 2016
-----
Install operation 6 by user 'admin' at Wed Mar 16 01:20:55 2016
Install remove nxos.CSCab00001_TOR-1.0.0-7.0.3.I2.2a.lib32_n9000.rpm
Install operation 6 completed successfully at Wed Mar 16 01:20:57 2016
```





## 第 25 章

# コンフィギュレーションの置換の実行

この章は、次の項で構成されています。

- [コンフィギュレーションの置換とコミットタイムアウトについて \(349 ページ\)](#)
- [概要 \(350 ページ\)](#)
- [コンフィギュレーションの置換に関する注意事項と制限事項 \(352 ページ\)](#)
- [コンフィギュレーションの置換の推奨ワークフロー \(353 ページ\)](#)
- [コンフィギュレーションの置換の実行 \(354 ページ\)](#)
- [コンフィギュレーションの置換の確認 \(355 ページ\)](#)
- [コンフィギュレーションの置換の例 \(356 ページ\)](#)

## コンフィギュレーションの置換とコミットタイムアウトについて

コンフィギュレーションの置換機能を使用すると、デバイスをリロードすることなく Cisco Nexus スイッチの実行コンフィギュレーションをユーザ指定のコンフィギュレーションに置換できます。コンフィギュレーション自体でリロードが必要な場合にのみ、デバイスのリロードが必要になることがあります。ユーザ指定のコンフィギュレーションは、Cisco NX-OS デバイスで受信した実行コンフィギュレーションです。 **copy file: to running** と異なり、コンフィギュレーションの置換機能はマージ操作ではありません。この機能では、実行コンフィギュレーション全体が、ユーザによって提供される新しいコンフィギュレーションに置換されます。コンフィギュレーションの置換に障害がある場合は、元のコンフィギュレーションがスイッチで復元されます。

コミットタイムアウト機能を使用すると、コンフィギュレーションの置換操作の実行に成功した後に以前のコンフィギュレーションにロールバックすることができます。コミットタイマーの期限が切れると、ロールバック操作は自動的に開始されます。



- (注)
- コンフィギュレーションの置換機能は特定の顧客設定プロファイルに対してテストされていますが、この機能はすべてのコンフィギュレーション コマンドをサポートしていません。
  - Cisco NX-OS デバイスで受信済みの有効な実行コンフィギュレーションを提供する必要があります。部分コンフィギュレーションにすることはできません。

## 概要

コンフィギュレーションの置換機能では、次の操作手順によって現在のロールバック インフラストラクチャを活用します。

- コンフィギュレーションの置換では、Cisco Nexus スイッチの現在の実行コンフィギュレーションとユーザ指定のコンフィギュレーションとの間の違いをインテリジェントに計算し、2ファイルの差異のパッチファイルを生成します。コンフィギュレーション コマンドのセットが含まれているこのパッチ ファイルは表示できます。
- コンフィギュレーションの置換では、実行中のコマンドと同様にパッチ ファイルのコンフィギュレーション コマンドが適用されます。



- (注) コンフィギュレーションの置換機能はアトミックであるため、コンフィギュレーションの適用中にエラーがある場合は、その時点で中断し、スイッチを元の実行コンフィギュレーションに復元します。

- コンフィギュレーションは、次の状況下で以前の実行コンフィギュレーションにロールバックまたは復元されます。
  - パッチ ファイルが適用された後、コンフィギュレーションに不一致がある場合。
  - コミット タイムアウトを使用してコンフィギュレーション操作を実行し、コミット タイマーが期限切れになった場合。
- **show config-replace log exec** コマンドを使用すると、エラーが発生したコンフィギュレーションそのものを表示できます。
- スイッチを元のコンフィギュレーションに復元するときにエラーが発生しても復元操作は中断されません。復元操作は、残りのコンフィギュレーションを続行します。復元操作中にエラーが発生したコマンドを一覧表示するには、**show config-replace log exec** コマンドを使用します。

- タイマーの期限が切れる前に **configure replace commit** コマンドを入力した場合、コミットタイマーは停止し、コンフィギュレーションの置換機能によって適用されているユーザ指定のコンフィギュレーションでスイッチが稼働します。
- コミットタイマーの期限が切れると、以前のコンフィギュレーションへのロールバックは自動的に開始されます。

コンフィギュレーションの置換と実行コンフィギュレーションへのファイルのコピーとの違いは、次のとおりです。

コンフィギュレーションの置換	ファイルのコピー
<b>configure replace &lt;target-url&gt;</b> コマンドでは、現在の実行コンフィギュレーションにのみ含まれ、置換ファイルには存在しないコマンドは削除されます。また、現在の実行コンフィギュレーションに追加する必要があるコマンドも追加されます。	<b>copy &lt;source-url&gt; running-config</b> コマンドはマージ動作であり、ソースファイルと現在の実行コンフィギュレーションの両方のコマンドがすべて保持されます。このコマンドでは、現在の実行コンフィギュレーションにのみ含まれ、ソースファイルには存在しないコマンドが削除されることはありません。
<b>configure replace &lt;target-url&gt;</b> コマンドの交換ファイルには、完全な Cisco NX-OS コンフィギュレーションファイルを使用する必要があります。	<b>copy &lt;source-url&gt; running-config</b> コマンドのコピー元ファイルとして、部分コンフィギュレーションファイルを使用できます。

## コンフィギュレーションの置換の利点

コンフィギュレーションの置換の利点は次のとおりです。

- スイッチをリロードしたり、CLIで実行コンフィギュレーションファイルに加えた変更を手動で元に戻したりすることなく、現在の実行コンフィギュレーションファイルをユーザ指定のコンフィギュレーションファイルと置換できます。その結果、システムのダウンタイムが減少します。
- 保存済みの Cisco NX-OS コンフィギュレーションの状態に戻すことができます。
- 追加や削除が必要なコマンドだけが影響を受ける場合、デバイスに完全なコンフィギュレーションファイルを適用することができるため、コンフィギュレーションの変更が簡素化されます。その他のサービスおよび変更されていないコンフィギュレーションには影響しません。
- コミットタイムアウト機能を設定すると、コンフィギュレーションの置換操作が成功したときでも以前のコンフィギュレーションにロールバックすることができます。

# コンフィギュレーションの置換に関する注意事項と制限事項

コンフィギュレーションの置換機能には、コンフィギュレーションに関する次のガイドラインと制限事項があります。

- コンフィギュレーションの置換、チェックポイント、ロールバック操作、または実行コンフィギュレーションからスタートアップコンフィギュレーションへのコピーを同時に実行できるのは、1 ユーザだけです。複数の Telnet/SSH または NX-API セッション経由の操作などのパラレル操作はサポートされていません。複数のコンフィギュレーションの置換またはロールバック要求はシリアル化され、たとえば、最初の要求の完了後にのみ、2 番目の要求の処理が開始されます。
- コミットタイマーの実行中に別のコンフィギュレーションの置換操作を開始することはできません。 **configure replace commit** コマンドを使用してタイマーを停止するか、またはコミットタイマーの期限が切れるまで待機してから別のコンフィギュレーションの置換操作を開始する必要があります。
- コミットタイムアウト機能は、コミットタイムアウトを使用してコンフィギュレーションの置換操作を実行する場合にのみ開始されます。タイマー値の範囲は 30 ~ 3600 秒です。
- ユーザ指定のコンフィギュレーションファイルは、Cisco NX-OS デバイスから取得 (copy run file) された有効な show running-configuration の出力である必要があります。これは部分コンフィギュレーションにすることはできず、user admin などの必須コマンドが含まれている必要があります。
- ソフトウェアバージョン違いで生成されたコンフィギュレーションファイルでコンフィギュレーションの置換操作を実行することは、操作が失敗する可能性があるため推奨されません。ソフトウェアバージョンの変更があるたびに新しいコンフィギュレーションファイルを再生成する必要があります。
- コンフィギュレーションの置換操作が進行中の場合、他のセッションからはコンフィギュレーションを変更しないことを推奨します。操作が失敗する可能性があります。
- コンフィギュレーションの置換機能については、次の点に注意してください。
  - FEX ラインカードがオフラインの場合、コンフィギュレーションの置換機能は動作しません。
  - コンフィギュレーションの置換機能は、リロードを必要とする機能をサポートしていません。このような機能の 1 例は、system vlan reserve です。
  - -R ラインカード搭載の Cisco Nexus 9500 プラットフォーム スイッチでは、コンフィギュレーションの置換機能はサポートされません。
  - スイッチインターフェイスで継承されるポートプロファイルでは、コンフィギュレーションの置換機能はサポートされません。

- コンフィギュレーションの置換機能は、`configure terminal` モード コマンドでのみサポートされます。`configure profile`、`configure jobs`、およびその他のモードはサポートされていません。
  - ブレークアウト インターフェイス コンフィギュレーションでは、コンフィギュレーションの置換機能はサポートされていません。
  - 実行コンフィギュレーションに `feature-set mpls` または `mpls static range` コマンドが含まれていて、MPLS なしでコンフィギュレーションに移動しようとしたり、ラベルの範囲を変更する場合、コンフィギュレーションの置換機能が失敗することがあります。
  - コンフィギュレーションの置換機能は、自動設定をサポートしていません。
- コンフィギュレーションの置換機能が適用されるラインカードがオフラインである場合、コンフィギュレーションの置換操作は失敗します。
  - ユーザ コンフィギュレーションからのメンテナンス モードへの移行はサポートされていません。
  - メンテナンス モードから `configure replace` コマンドを使用すると、次の警告でユーザの確認が求められます。
 

```
Warning: System is in maintenance mode. Please ensure user config won't inadvertently
revert back config in maintenance mode profile.
Do you wish to proceed anyway? (y/n) [n]
```
  - `<non-interactive>` オプションを使用してメンテナンス モードから `configure replace` コマンドを使用することはサポートされています。デフォルトでは、`yes` のユーザ確認を受けてから進行します。
  - コンフィギュレーションを適用するために Cisco NX-OS デバイスをリロードする必要がある場合、これらのコンフィギュレーションをリロードしてからコンフィギュレーションの置換操作を行う必要があります。
  - ユーザ指定のコンフィギュレーションファイルでのコマンドの順序は、Cisco Nexus スイッチの実行コンフィギュレーションでの順序と同じにする必要があります。

## コンフィギュレーションの置換の推奨ワークフロー

コンフィギュレーションの置換の推奨されるワークフローを次に示します。

1. Cisco Nexus シリーズ スイッチで最初にコンフィギュレーションを適用してコンフィギュレーション ファイルを生成してから、コンフィギュレーション ファイルとして `show running-configuration` 出力を使用します。このファイルは、必要に応じてコンフィギュレーションを変更できるファイルにする必要があります。この生成または更新されたコンフィギュレーション ファイルを使用してコンフィギュレーションの置換を実行します。



- (注) ソフトウェアバージョンの変更があるたびにコンフィギュレーションファイルを再生成する必要があります。ソフトウェアバージョン違いで生成されたコンフィギュレーションファイルでコンフィギュレーションの置換操作を実行することは推奨されません。
2. **configure replace <file> show-patch** コマンドを実行してパッチファイルを表示し、確認します。この手順は任意です。
  3. コミットタイムアウト機能を使用するか、またはスキップしてコンフィギュレーションの置換ファイルを実行します。要件に基づいて、次の手順のいずれかを実行できます。
    - コンフィギュレーションの置換で実行されるコマンドをコンソールに表示するには、**configure replace <file> verbose** を実行します。
    - コミット時間を設定するには、**configure replace [bootflash/scp/sftp] <user-configuration-file> verbose commit-timeouttime** コマンドを実行します。
  4. **configure replace commit** コマンドを実行し、コミットタイマーを停止します。この手順は、コミットタイムアウト機能でコンフィギュレーションの置換操作を実行している場合に必要です。
  5. コンフィギュレーションのセマンティック検証を含むプレチェックをコンフィギュレーションの置換で実行し、エラーがある場合、コンフィギュレーションの置換操作は失敗します。失敗したコンフィギュレーションの詳細を表示するには、**show config-replace log verify** コマンドを使用します。パッチファイルを適用すると、コンフィギュレーションの置換によって、実行コンフィギュレーションをユーザコンフィギュレーションファイルと比較する検証プロセスがトリガーされます。不一致がある場合、スイッチは元のコンフィギュレーションに復元されます。不一致のコンフィギュレーションを表示するには、**show config-replace log verify** コマンドを使用します。

## コンフィギュレーションの置換の実行

コンフィギュレーションの置換を実行するには、次の操作を行います。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure replace { &lt;uri_local&gt;   &lt;uri_remote&gt; } [verbose   show-patch]</b>	コンフィギュレーションの置換を実行します。コンフィギュレーションの置換の進行中にセッションを通じてコンフィギュレーションを変更すると、コンフィギュレーションの置換操作は失敗します。1つのコンフィギュレーション要求がすでに進行中であるときにコンフィ



	コマンドまたはアクション	目的
		ギューレーションの置換要求を送信すると、要求はシリアル化されます。
ステップ 2	<b>configure replace [bootflash/scp/sftp] &lt;user-configuration-file&gt; show-patch</b>	実行コンフィギュレーションとユーザ指定のコンフィギュレーションの違いを表示します。
ステップ 3	<b>configure replace [bootflash/scp/sftp] &lt;user-configuration-file&gt; verbose</b>	スイッチのコンフィギュレーションを、ユーザが提供する新しいユーザコンフィギュレーションに置換します。コンフィギュレーションの置換は常にアトミックです。
ステップ 4	(任意) <b>configure replace bootflash/scp/sftp] &lt;user-configuration-file&gt; verbose commit-timeout time</b>	コミット時間を秒単位で設定します。タイマーは、コンフィギュレーションの置換操作が正常に完了した後開始されます。
ステップ 5	(任意) <b>configure replace [commit</b>	<p>コミット タイマーを停止し、コンフィギュレーションの置換設定を続行します。</p> <p>(注) この手順は、コミットタイムアウト機能を設定している場合にのみ適用されます。</p> <p>(注) 以前のコンフィギュレーションにロールバックするには、コミット タイマーの期限が切れるまで待機する必要があります。タイマーの期限が切れると、スイッチは自動的に以前のコンフィギュレーションにロールバックされます。</p>
ステップ 6	(任意) <b>configure replacenon-interactive</b>	メンテナンス モードでは、ユーザプロンプトはありません。デフォルトでは、 <b>yes</b> のユーザ確認を受けてからロールバックが進行します。

## コンフィギュレーションの置換の確認

コンフィギュレーションの置換とそのステータスをチェックして確認するには、表に記載されているコマンドを使用します。

表 35: コンフィギュレーションの置換の確認

コマンド	目的
<b>configure replace</b> [bootflash/scp/sftp]<user-configuration-file> <b>show-patch</b>	実行コンフィギュレーションとユーザ指定のコンフィギュレーションの違いを表示します。
<b>show config-replace log exec</b>	実行したすべてのコンフィギュレーションと失敗したコンフィギュレーションのログを表示します。エラーの場合、そのコンフィギュレーションに対してエラーメッセージが表示されます。
<b>show config-replace log verify</b>	失敗したコンフィギュレーションをエラーメッセージとともに表示します。成功したコンフィギュレーションは表示されません。
<b>show config-replace status</b>	コンフィギュレーションの置換操作のステータス（進行中、成功、失敗など）を表示します。コミットタイムアウト機能を設定している場合、コミットとタイマーのステータスに加え、コミットタイムアウトの残り時間も表示されます。

## コンフィギュレーションの置換の例

以下のコンフィギュレーションの置換の設定例を参照してください。

- **configure replace bootflash:** <file> **show-patch** CLI コマンドを使用して、実行コンフィギュレーションとユーザ指定のコンフィギュレーションの違いを表示します。

```
switch(config)# configure replace bootflash:<file> show-patch
Collecting Running-Config
Converting to checkpoint file
#Generating Rollback Patch
!!
no role name abc
```

- **configure replace bootflash:** <file> **verbose** CLI コマンドを使用して、スイッチの実行コンフィギュレーション全体をユーザコンフィギュレーションに置換します。

```
switch(config)# configure replace bootflash:<file> verbose
Collecting Running-Config
Generating Rollback patch for switch profile
Rollback Patch is Empty
Note: Applying config parallely may fail Rollback verification
Collecting Running-Config
#Generating Rollback Patch
Executing Rollback Patch
=====
config t
```

```

no role name abc
=====
Generating Running-config for verification
Generating Patch for verification

Rollback completed successfully.

Sample Example with adding of BGP configurations.
switch(config)# sh run | section bgp
switch(config)# sh file bootflash:file | section bgp
feature bgp
router bgp 1
    address-family ipv4 unicast
    neighbor 1.1.1.1
switch(config)#
switch(config)# configure replace bootflash:file verbose
Collecting Running-Config
Generating Rollback patch for switch profile
Rollback Patch is Empty
Note: Applying config parallely may fail Rollback verification
Collecting Running-Config
#Generating Rollback Patch
Executing Rollback Patch
=====
config t
feature bgp
router bgp 1
address-family ipv4 unicast
neighbor 1.1.1.1
=====
Generating Running-config for verification
Generating Patch for verification

Rollback completed successfully.

switch(config)# sh run | section bgp
feature bgp
router bgp 1
    address-family ipv4 unicast
    neighbor 1.1.1.1

Sample Example with ACL
switch(config)# configure replace bootflash:run_1.txt
Collecting Running-Config
Generating Rollback patch for switch profile
Rollback Patch is Empty
Note: Applying config parallely may fail Rollback verification
Collecting Running-Config
#Generating Rollback Patch
Executing Rollback Patch
=====
config t
no ip access-list nexus-50-new-xyz
ip access-list nexus-50-new-xyz-jkl-abc
10 remark Newark
20 permit ip 17.31.5.0/28 any
30 permit ip 17.34.146.193/32 any
40 permit ip 17.128.199.0/27 any
50 permit ip 17.150.128.0/22 any
=====
Generating Running-config for verification
Generating Patch for verification

Rollback completed successfully.

```

```
switch(config)#

switch(config)# show run aclmgr | sec nexus-50-new-xyz-jkl-abc
ip access-list nexus-50-new-xyz-jkl-abc
 10 remark Newark
 20 permit ip 17.31.5.0/28 any
 30 permit ip 17.34.146.193/32 any
 40 permit ip 17.128.199.0/27 any
 50 permit ip 17.150.128.0/22 any
```

- **show config-replace log exec** CLI コマンドを使用して、実行したコンフィギュレーションと、存在する場合はエラーをすべて確認します。

```
switch(config)# show config-replace log exec
Operation           : Rollback to Checkpoint File
Checkpoint file name : .replace_tmp_28081
Scheme              : tmp
Rollback done By    : admin
Rollback mode       : atomic
Verbose             : enabled
Start Time          : Wed, 06:39:34 25 Jan 2017
```

```
-----
time: Wed, 06:39:47 25 Jan 2017
Status: SUCCESS
End Time           : Wed, 06:39:47 25 Jan 2017
Rollback Status    : Success
```

```
Executing Patch:
-----
switch#config t
switch#no role name abc
```

- **show config-replace log verify** CLI コマンドを使用して、存在する場合は失敗したコンフィギュレーションを確認します。

```
switch(config)# show config-replace log verify
Operation           : Rollback to Checkpoint File
Checkpoint file name : .replace_tmp_28081
Scheme              : tmp
Rollback done By    : admin
Rollback mode       : atomic
Verbose             : enabled
Start Time          : Wed, 06:39:34 25 Jan 2017
End Time            : Wed, 06:39:47 25 Jan 2017
Status              : Success
```

```
Verification patch contains the following commands:
-----
!!
! No changes
-----
```

```
time: Wed, 06:39:47 25 Jan 2017
Status: SUCCESS
```

- **show config-replace status** CLI コマンドを使用して、コンフィギュレーションの置換のステータスを確認します。

```
switch(config)# show config-replace status
Last operation : Rollback to file
```

```
Details:
Rollback type: atomic replace_tmp_28081
Start Time: Wed Jan 25 06:39:28 2017
End Time: Wed Jan 25 06:39:47 2017
Operation Status: Success
switch(config)#
```





## 第 26 章

# ロールバックの設定

この章は、次の項で構成されています。

- [ロールバックについて \(361 ページ\)](#)
- [ロールバックの注意事項と制約事項 \(361 ページ\)](#)
- [チェックポイントの作成 \(362 ページ\)](#)
- [ロールバックの実装 \(363 ページ\)](#)
- [ロールバック コンフィギュレーションの確認 \(364 ページ\)](#)

## ロールバックについて

ロールバック機能を使用すると、Cisco NX-OS のコンフィギュレーションのスナップショットまたはユーザチェックポイントを使用して、スイッチをリロードしなくても、いつでもそのコンフィギュレーションをスイッチに再適用できます。権限のある管理者であれば、チェックポイントで設定されている機能について専門的な知識がなくても、ロールバック機能を使用して、そのチェックポイント コンフィギュレーションを適用できます。

いつでも、現在の実行コンフィギュレーションのチェックポイント コピーを作成できます。Cisco NX-OS はこのチェックポイントを ASCII ファイルとして保存するので、将来、そのファイルを使用して、実行コンフィギュレーションをチェックポイントコンフィギュレーションにロールバックできます。複数のチェックポイントを作成すると、実行コンフィギュレーションのさまざまなバージョンを保存できます。

実行コンフィギュレーションをロールバックするとき、atomic ロールバックを発生させることができます。atomic ロールバックでは、エラーが発生しなかった場合に限り、ロールバックを実行します。

## ロールバックの注意事項と制約事項

ロールバックに関する設定時の注意事項および制約事項は、次のとおりです。

- 作成できるチェックポイント コピーの最大数は 10 です。
- あるスイッチのチェックポイント ファイルを別のスイッチに適用することはできません。

- チェックポイント ファイル名の長さは、最大 75 文字です。
- チェックポイントのファイル名の先頭を `system` にすることはできません。
- チェックポイントのファイル名の先頭を `auto` にすることができます。
- チェックポイントのファイル名を、`summary` または `summary` の略語にすることができます。
- チェックポイント、ロールバック、または実行コンフィギュレーションからスタートアップ コンフィギュレーションへのコピーを同時に実行できるのは、1 ユーザだけです。
- `write erase` および `reload` コマンドを入力すると、チェックポイントが削除されます。`clear checkpoint database` コマンドを使用すると、すべてのチェックポイント ファイルを削除できます。
- ブートフラッシュでチェックポイントを作成した場合、ロールバックの実行前は実行システム コンフィギュレーションとの違いは実行できず、「変更なし」と報告されます。
- チェックポイントはスイッチに対してローカルです。
- `checkpoint` および `checkpoint checkpoint_name` コマンドを使用して作成されたチェックポイントは、すべてのスイッチの 1 つのスイッチオーバーに対して存在します。
- ブートフラッシュ時のファイルへのロールバックは、`checkpoint checkpoint_name` コマンドを使用して作成されたファイルでのみサポートされます。他の ASCII タイプのファイルではサポートされません。
- チェックポイントの名前は一意にする必要があります。以前に保存したチェックポイントと同じ名前を上書きすることはできません。
- ロールバックは自動設定のコンテキストではサポートされません。チェックポイントは自動設定を保存しません。したがって、ロールバックを実行した後、対応する自動設定は存在しないことになります。
- Cisco NX-OS コマンドは Cisco IOS コマンドと異なる場合があります。

## チェックポイントの作成

1 台のスイッチで作成できるコンフィギュレーションの最大チェックポイント数は 10 です。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<pre>switch# checkpoint { [cp-name] [ description descr]   file file-name</pre> <p>例 :</p> <pre>switch# checkpoint stable</pre>	ユーザ チェックポイント名またはファイルのいずれかに対して、実行中のコンフィギュレーションのチェックポイントを作成します。チェックポイント名には最大 80 文字の任意の英数字を使用でき



	コマンドまたはアクション	目的
		<p>ますが、スペースを含めることはできません。チェックポイント名を指定しなかった場合、Cisco NX-OS はチェックポイント名を <code>user-checkpoint-&lt;number&gt;</code> に設定します。ここで <code>number</code> は 1 ~ 10 の値です。</p> <p><code>description</code> には、スペースも含めて最大 80 文字の英数字を指定できます。</p>
ステップ 2	<p>(任意) <code>switch# no checkpoint cp-name</code></p> <p>例 :</p> <pre>switch# no checkpoint stable</pre>	<p><b>checkpoint</b> コマンドの <b>no</b> 形式を使用すると、チェックポイント名を削除できます。</p> <p><b>delete</b> コマンドを使用して、チェックポイントファイルを削除できます。</p>
ステップ 3	<p>(任意) <code>switch# show checkpoint cp-name</code></p> <p>例 :</p> <p>[ all ]</p> <pre>switch# show checkpoint stable</pre>	<p>チェックポイント名の内容を表示します。</p>

## ロールバックの実装

チェックポイント名またはファイルにロールバックを実装できます。ロールバックを実装する前に、現在のコンフィギュレーションまたは保存されているコンフィギュレーションを参照しているソースと宛先のチェックポイント間の差異を表示できます。



(注) `atomic` ロールバック中に設定を変更すると、ロールバックは失敗します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p><b>show diff rollback-patch</b> { <b>checkpoint</b> <i>src-cp-name</i>   <b>running-config</b>   <b>startup-config</b>   <b>file</b> <i>source-file</i> } { <b>checkpoint</b> <i>dest-cp-name</i>   <b>running-config</b>   <b>startup-config</b>   <b>file</b> <i>dest-file</i> }</p> <p>例 :</p>	<p>ソースと宛先のチェックポイント間の差異を表示します。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
	switch# show diff rollback-patch checkpoint stable running-config	
ステップ 2	<b>rollback running-config { checkpoint cp-name   file cp-file} atomic</b>  例： switch# rollback running-config checkpoint stable	エラーが発生しなければ、指定された チェックポイント名またはファイルへの atomic ロールバックを作成します。

## 例

チェックポイント ファイルを作成し、次に、ユーザ チェックポイント名への atomic  
ロールバックを実装する例を以下に示します。

```
switch# checkpoint stable
switch# rollback running-config checkpoint stable atomic
```

## ロールバック コンフィギュレーションの確認

ロールバックの設定を確認するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<b>show checkpoint name [ all]</b>	チェックポイント名の内容を表示します。
<b>show checkpoint all [user   system]</b>	現在のスイッチ内のすべてのチェックポイントの内容を表示します。表示されるチェックポイントを、ユーザまたはシステムで生成されるチェックポイントに限定できます。
<b>show checkpoint summary [user   system]</b>	現在のスイッチ内のすべてのチェックポイントのリストを表示します。表示されるチェックポイントを、ユーザまたはシステムで生成されるチェックポイントに限定できます。
<b>show diff rollback-patch { checkpoint src-cp-name   running-config   startup-config   file source-file} { checkpoint dest-cp-name   running-config   startup-config   file dest-file}</b>	ソースと宛先のチェックポイント間の差異を表示します。
<b>show rollback log [exec   verify]</b>	ロールバック ログの内容を表示します。



---

(注) すべてのチェックポイント ファイルを削除するには、**clear checkpoint database** コマンドを使用します。

---

